

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目: 歴史と政治) 小林 道彦	1学期	1	2	10
		1年			
	家族を問う 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人間と文化 (読替科目: 異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	11
		1年			
	ことばの科学 休講	1学期	1	2	
		1年			
	国際学入門 (読替科目: 国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	12
		1年			
	教養としての平和学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	可能性としての歴史 (読替科目: 可能性としての歴史) 小林 道彦	2学期	2	2	15
		2年			
	家族の再生 閉講	2学期	2	2	
	2年				
文化と政治 休講	2学期	2	2		
	2年				
言語と認知 (読替科目: 言語と認知) 漆原 朗子 他	1学期	2	2	16	
	2年				
共生社会論 (読替科目: 共生社会論) 伊野 憲治	2学期	2	2	17	
	2年				
戦争と平和 (読替科目: 戦争論) 戸蒔 仁司	2学期	2	2	19	
	2年				
生活世界の哲学 (読替科目: 生活世界の哲学) 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 (読替科目: 共同体と身体) 伊原木 大祐	2学期	2	2	18	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目: メンタル・ヘルスI) 寺田 千栄子	1学期	1	2	120
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII (読替科目：メンタル・ヘルスII) 坂本 毅啓	2学期	1	2	121
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 高西 敏正	1学期	1	2	122
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 徳永 政夫	1学期	1	2	123
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 加倉井 美智子	1学期	1	2	124
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 高西 敏正	2学期	1	2	125
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 徳永 政夫	2学期	1	2	126
		1年			
	フィジカル・ヘルスII (読替科目：フィジカル・ヘルスII) 加倉井 美智子	2学期	1	2	127
		1年			
	自己管理論 (読替科目：自己管理論) 山本 浩二	2学期	1	2	128
		1年			
	キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 眞鍋 和博	1学期	1	2	145
		1年			
	キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 永田 公彦	1学期	1	2	146
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 石川 敬之	1学期	1	2	147	
	1年				
キャリア・デザイン (読替科目：キャリア・デザイン) 見館 好隆	1学期	1	2	148	
	1年				
コミュニケーションと思考法 (読替科目：コミュニケーション実践) 眞鍋 和博	2学期	1	2	149	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 (読替科目：プロフェッショナルの仕事I) 見館 好隆	1学期	2	2	150	
	2年				
大学論・学問論 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	法律の読み方 (読替科目: 法律の読み方) 小野 憲昭	2学期	1	2	95
		1年			
	社会調査 (読替科目: 社会調査) 稲月 正	2学期	1	2	96
		1年			
	統計を読む・統計をつくる 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (ソフトボール)) 黒田 次郎	1学期	1	1	129
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (サッカー)) 山崎 将幸	1学期	1	1	130
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (テニス)) 黒田 次郎	1学期	1	1	131
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	132
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	133
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (バドミントン)) 山本 浩二	1学期	1	1	134
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) (読替科目: フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ)) 加倉井 美智子	1学期	1	1	135
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 山崎 将幸	2学期	1	1	136	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 黒田 次郎	2学期	1	1	137	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)) 黒田 次郎	2学期	1	1	138	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	139	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 美山 泰教	2学期	1	1	140	
	1年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 山崎 将幸	2学期	1	1	141
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	142
		1年			
フィジカル・エクササイズII (サッカー) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	143	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目: フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	144	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 徳永 政夫 他	1学期	1	2	20
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 日高 京子	1学期	1	2	21
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 小林 道彦	1学期	1	2	22
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	23
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 稲月 正	1学期	1	2	24
		1年			
	教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 廣川 祐司	1学期	1	2	25
		1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (防衛セミナー)) 戸蔭 仁司	1学期	1	2	26
	1年				
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 伊原木 大祐	1学期	1	2	27	
	1年				
教養基礎演習I (読替科目: 教養基礎演習I) 石川 敬之	1学期	1	2	28	
	1年				
教養基礎演習I (発達障がいセミナー) (読替科目: 教養基礎演習I (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	1	2	29	
	1年				
教養基礎演習II (読替科目: 教養基礎演習II) 徳永 政夫 他	2学期	1	2	30	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 眞鍋 和博 他	2学期	1	2	31
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 日高 京子	2学期	1	2	32
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 小林 道彦	2学期	1	2	33
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 神原 ゆうこ	2学期	1	2	34
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 稲月 正	2学期	1	2	35
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 廣川 祐司	2学期	1	2	36
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (防衛セミナー) (読替科目：教養基礎演習Ⅱ (防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	1	2	37
		1年			
	教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 伊原木 大祐	2学期	1	2	38
		1年			
教養基礎演習Ⅱ (読替科目：教養基礎演習Ⅱ) 石川 敬之	2学期	1	2	39	
	1年				
教養基礎演習Ⅱ (発達障がいセミナー) (読替科目：教養基礎演習Ⅱ (発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	1	2	40	
	1年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 徳永 政夫 他	1学期	2	2	41	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 伊原木 大祐	1学期	2	2	42	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 稲月 正	1学期	2	2	43	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 神原 ゆうこ	1学期	2	2	44	
	2年				
教養演習AⅠ (読替科目：教養演習AⅠ) 小林 道彦	1学期	2	2	44	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AⅠ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習AⅠ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	2	2	45
		2年			
	教養演習AⅠ (読替科目:教養演習AⅠ) 日高 京子	1学期	2	2	46
		2年			
	教養演習AⅠ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習AⅠ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	2	2	47
		2年			
	教養演習AⅠ (読替科目:教養演習AⅠ) 石川 敬之	1学期	2	2	48
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 徳永 政夫 他	2学期	2	2	49
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 日高 京子	2学期	2	2	50
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 二宮 正人	2学期	2	2	51
		2年			
	教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 小林 道彦	2学期	2	2	52
		2年			
	教養演習AⅡ 神原 ゆうこ	2学期	2	2	53
		2年			
	教養演習AⅡ(防衛セミナー) (読替科目:教養演習AⅡ(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	2	2	53
		2年			
教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 稲月 正	2学期	2	2	54	
	2年				
教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 石川 敬之	2学期	2	2	55	
	2年				
教養演習AⅡ(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習AⅡ(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	2	2	56	
	2年				
教養演習AⅡ (読替科目:教養演習AⅡ) 伊原木 大祐	2学期	2	2	57	
	2年				
教養演習BⅠ (読替科目:教養演習BⅠ) 徳永 政夫 他	1学期	3	2	58	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BI (読替科目: 教養演習BI) 日高 京子	1学期	3	2	59
	3年				
	教養演習BI (読替科目: 教養演習BI) 小林 道彦	1学期	3	2	60
	3年				
	教養演習BI (読替科目: 教養演習BI) 神原 ゆうこ	1学期	3	2	61
	3年				
	教養演習BI(防衛セミナー) (読替科目: 教養演習BI(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	62
	3年				
	教養演習BI (読替科目: 教養演習BI) 稲月 正	1学期	3	2	63
	3年				
	教養演習BI (読替科目: 教養演習BI) 石川 敬之	1学期	3	2	64
	3年				
	教養演習BI(発達障がいセミナー) (読替科目: 教養演習BI(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	1学期	3	2	65
	3年				
	教養演習BI (読替科目: 教養演習BI) 伊原木 大祐	1学期	3	2	66
	3年				
教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 徳永 政夫 他	2学期	3	2	67	
3年					
教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 日高 京子	2学期	3	2	68	
3年					
教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 小林 道彦	2学期	3	2	69	
3年					
教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 神原 ゆうこ	2学期	3	2		
3年					
教養演習BII(防衛セミナー) (読替科目: 教養演習BII(防衛セミナー)) 戸蒔 仁司	集中	3	2	70	
3年					
教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 稲月 正	2学期	3	2	71	
3年					
教養演習BII (読替科目: 教養演習BII) 伊原木 大祐	2学期	3	2	72	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BII(発達障がいセミナー) (読替科目:教養演習BII(発達障がいセミナー)) 伊野 憲治	2学期	3	2	73
		3年			
	教養演習BII (読替科目:教養演習BII) 石川 敬之	2学期	3	2	74
		3年			
	教養演習BII (読替科目:教養演習BII) 二宮 正人	2学期	3	2	75
		3年			
プロジェクト演習I (読替科目:プロジェクト演習I) 見館 好隆	1学期	2	2	152	
	2年				
プロジェクト演習II (読替科目:プロジェクト演習II) 見館 好隆	2学期	3	2	153	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	76
		1年			
	動物のみかた (読替科目:動物のみかた) 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	77
		1年			
	地球の生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	78
		1年			
	自然史へのいざない (読替科目:自然史へのいざない) 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子	2学期	1	2	79
		1年			
	くらしと化学 (読替科目:くらしと化学) 秋貞 英雄	1学期	1	2	80
		1年			
現代人のこころ (読替科目:現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	81	
	1年				
数のたのしみ 閉講	集中	1	2		
	1年				
私たちと宗教 (読替科目:私たちと宗教) 関 一敏	1学期	1	2	83	
	1年				
思想と現代 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	84	
	1年				
ものがたりと人間 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文化と表象 (読替科目：文化と表象) 真鍋 昌賢	2学期	1	2	85
		1年			
	言語とコミュニケーション (読替科目：言語とコミュニケーション) 漆原 朗子 他	2学期	1	2	86
		1年			
	芸術と人間 (読替科目：芸術と人間) 真武 真喜子	2学期	1	2	87
		1年			
	文学を読む 休講	2学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 (読替科目：現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	88
		1年			
	民主主義とは何か (読替科目：民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	89
		1年			
	人権論 (読替科目：人権論) 柳井 美枝	集中	1	2	91
		1年			
	ジェンダー論 (読替科目：ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	92
	1年				
障がい学 (読替科目：障がい学) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	93	
	1年				
共生の作法 (読替科目：共生の作法) 今泉 恵子 他	1学期	1	2	94	
	1年				
北九州学 (読替科目：環境都市としての北九州) 日高 京子 他	2学期	1	2	82	
	1年				
市民活動論 (読替科目：市民活動論) 西田 心平	2学期	1	2	97	
	1年				
企業と社会 (読替科目：企業と社会) 西村 香織	1学期	1	2	98	
	1年				
つながりの人間学 (読替科目：サービスラーニング入門I) 石川 敬之	1学期	1	2	151	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と倫理 (読替科目：現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	99
	1年				
	現代社会の諸問題 (読替科目：現代社会と新聞ジャーナリズム) 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	100
	1年				
	現代の国際情勢 (読替科目：現代の国際情勢) 尹 明憲 他	1学期	1	2	101
	1年				
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	1
	1年				
	国際紛争と国連 (読替科目：国際紛争と国連) 二宮 正人	1学期	1	2	105
	1年				
	民族・エスニシティ問題 (読替科目：エスニシティと多文化社会) 北 美幸 他	1学期	1	2	107
	1年				
	開発と統治 (読替科目：開発と統治) 三宅 博之 他	2学期	1	2	102
	1年				
	グローバル化する経済 (読替科目：グローバル化する経済) 田中 淳平 他	1学期	1	2	103
	1年				
テロリズム論 (読替科目：テロリズム論) 戸蒔 仁司	2学期	1	2	104	
1年					
国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 中野 博文 他	2学期	1	2	106	
1年					
歴史の読み方I (読替科目：歴史の読み方I) 八百 啓介	1学期	1	2	108	
1年					
歴史の読み方II (読替科目：歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	109	
1年					
そのとき世界は (読替科目：そのとき世界は) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	110	
1年					
戦後の日本経済 (読替科目：戦後の日本経済) 土井 徹平	2学期	1	2	111	
1年					
都市と農村の生活文化史 閉講	1学期	1	2		
1年					

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	もの与人間の歴史 (読替科目：もの与人間の歴史) 中野 博文 他	1学期	1	2	112
		1年			
	人物と時代の歴史 (読替科目：人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	113
		1年			
	教養特講I 休講	2学期	1	2	
		1年			
	教養特講II (セクシュアル・ライツ) (読替科目：教養特講II (セクシュアル・ライツ)) 河嶋 静代	2学期	1	2	154
		1年			
	教養特講II (ホスピタリティ論) (読替科目：教養特講II (ホスピタリティ論)) 西澤 健次	2学期	1	2	155
		1年			
	教養特講III (まなびと講座 A) (読替科目：教養特講III (まなびと講座 A)) 眞鍋 和博	1学期	1	2	156
		1年			
教養特講IV (まなびと講座 B) (読替科目：教養特講IV (まなびと講座 B)) 眞鍋 和博	2学期	1	2	157	
	1年				
■教職関連科目	日本史 (読替科目：日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	114
		1年			
	西洋史 (読替科目：西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	116
		1年			
	東洋史 (読替科目：東洋史) 植松 慎悟	2学期	1	2	115
		1年			
	社会学 (読替科目：社会学的思考) 稲月 正	1学期	1	2	90
		1年			
	人文地理学 (読替科目：人文地理学) 外护保 大介	2学期	1	2	117
		1年			
	土地地理学 (読替科目：土地地理学) 野井 英明	1学期	1	2	118
		1年			
地誌学 (読替科目：地誌学) 外护保 大介	1学期	1	2	119	
	1年				
倫理学 清水 満	2学期	1	2	2	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目：情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	14
		1年			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 佐々木 実	1学期	1	2	158
		法律 1 - 1 . 再履			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 中尾 泰士	1学期	1	2	159
		法律 1 - 2 . 再履			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 浅羽 修丈	1学期	1	2	160
		法律 1 - 3 . 再履			
	データ処理 (読替科目：データ処理) 中尾 泰士	1学期	1	2	161
		法律 1 - 4 . 再履			
	データ処理 未定	2学期	1	2	
		1学期未修得者再履			
	情報表現 (読替科目：情報表現) 中尾 泰士	2学期	2	2	162
		2年			
情報表現 (読替科目：情報表現) 棚次 奎介	2学期	2	2	163	
	2年				
情報表現 休講	1学期	2	2		
	2年				
情報表現 (読替科目：情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	164	
	2年				
プログラミング基礎 閉講	2学期	2	2		
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (律政群 1-G) (読替科目：英語I (律政群 1-G)) 酒井 秀子	1学期	1	1	165
		律政群 1 - G			
	英語I (律政群 1-I) (読替科目：英語I (律政群 1-I)) 木梨 安子	1学期	1	1	166
		律政群 1 - I			
	英語II (律政群 1-G) (読替科目：英語II (律政群 1-G)) 酒井 秀子	2学期	1	1	167
		律政群 1 - G			
	英語II (律政群 1-I) (読替科目：英語II (律政群 1-I)) 木梨 安子	2学期	1	1	168
		律政群 1 - I			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語III (律政群 1-G) (読替科目 : 英語III (律政群 1-G)) デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	169
		律政群 1 - G			
	英語III (律政群 1-I) (読替科目 : 英語III (律政群 1-I)) 伊藤 晃	1学期	1	1	170
		律政群 1 - I			
	英語IV (律政群 1-G) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-G)) デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	171
		律政群 1 - G			
	英語IV (律政群 1-I) (読替科目 : 英語IV (律政群 1-I)) 伊藤 晃	2学期	1	1	172
		律政群 1 - I			
	英語V (律政群 2-G) (読替科目 : 英語V (律政群 2-G)) 木梨 安子	1学期	2	1	173
		律政群 2 - G			
	英語V (律政群 2-I) (読替科目 : 英語V (律政群 2-I)) 大塚 由美子	1学期	2	1	174
		律政群 2 - I			
	英語VI (律政群 2-G) (読替科目 : 英語VI (律政群 2-G)) 木梨 安子	2学期	2	1	175
		律政群 2 - G			
	英語VI (律政群 2-I) (読替科目 : 英語VI (律政群 2-I)) 大塚 由美子	2学期	2	1	176
		律政群 2 - I			
	英語VII (律政群 2-G) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-G)) マーニー・セイディ	1学期	2	1	177
	律政群 2 - G				
英語VII (律政群 2-I) (読替科目 : 英語VII (律政群 2-I)) 薬師寺 元子	1学期	2	1	178	
	律政群 2 - I				
英語VIII (律政群 2-G) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-G)) マーニー・セイディ	2学期	2	1	179	
	律政群 2 - G				
英語VIII (律政群 2-I) (読替科目 : 英語VIII (律政群 2-I)) 薬師寺 元子	2学期	2	1	180	
	律政群 2 - I				
英語IX (済営律政 3年) (読替科目 : 英語IX (済営律政 3年)) 伊藤 晃	1学期	3	1	181	
	済営律政 3年				
英語X (済営律政 3年) (読替科目 : 英語X (済営律政 3年)) 杉山 智子	2学期	3	1	182	
	済営律政 3年				
英語XI (済営律政 3年) (読替科目 : 英語XI (済営律政 3年)) ダニー・ミン	1学期	3	1	183	
	済営律政 3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語XII (済営律政 3 年) (読替科目 : 英語XII (済営律政 3 年)) ダニー・ミン	2学期	3	1	184
	済営律政 3 年				
■第二外国語	中国語I (読替科目 : 中国語I) 有働 彰子	1学期	1	1	185
	済営人律政群 1 年				
	中国語II (読替科目 : 中国語II) 有働 彰子	2学期	1	1	186
	済営人律政群 1 年				
	中国語III (読替科目 : 中国語III) 王 占華	1学期	1	1	187
	人済営律政群 1 年				
	中国語IV (読替科目 : 中国語IV) 王 占華	2学期	1	1	188
	人済営律政群 1 年				
	中国語V (読替科目 : 中国語V) 有働 彰子	1学期	2	1	189
	英済営人律政群 2 年				
	中国語VI (読替科目 : 中国語VI) 有働 彰子	2学期	2	1	190
	英済営人律政群 2 年				
	中国語VII (読替科目 : 中国語VII) 張 岩紅	1学期	2	1	191
	英済営人律政群 2 年				
	中国語VIII (読替科目 : 中国語VIII) 張 岩紅	2学期	2	1	192
	英済営人律政群 2 年				
朝鮮語I (読替科目 : 朝鮮語I) 金 貞淑	1学期	1	1	193	
済営律政群 1 年					
朝鮮語II (読替科目 : 朝鮮語II) 金 貞淑	2学期	1	1	194	
済営律政群 1 年					
朝鮮語III (読替科目 : 朝鮮語III) チャン ユンヒャン	1学期	1	1	195	
済営律政群 1 年					
朝鮮語IV (読替科目 : 朝鮮語IV) チャン ユンヒャン	2学期	1	1	196	
済営律政群 1 年					
朝鮮語V (読替科目 : 朝鮮語V) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	197	
済営比人律政群 2 年					
朝鮮語VI (読替科目 : 朝鮮語VI) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	198	
済営比人律政群 2 年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語VII (読替科目：朝鮮語VII) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	199
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII (読替科目：朝鮮語VIII) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	200
		済営比人律政群 2年			
	ロシア語I (読替科目：ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	1	1	201
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語II (読替科目：ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	1	1	202
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語III (読替科目：ロシア語III) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	203
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語IV (読替科目：ロシア語IV) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	204
		英中国済営比人律政 1年			
	ロシア語V (読替科目：ロシア語V) 芳之内 雄二	1学期	2	1	205
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VI (読替科目：ロシア語VI) 芳之内 雄二	2学期	2	1	206
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VII (読替科目：ロシア語VII) ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	207
		英中国済営比人律政 2年			
	ロシア語VIII (読替科目：ロシア語VIII) ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	208
		英中国済営比人律政 2年			
ドイツ語I (読替科目：ドイツ語I) 古賀 正之	1学期	1	1	209	
	済営人律政 1年				
ドイツ語II (読替科目：ドイツ語II) 古賀 正之	2学期	1	1	210	
	済営人律政 1年				
ドイツ語III (読替科目：ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	1	1	211	
	済営人律政 1年				
ドイツ語IV (読替科目：ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	1	1	212	
	済営人律政 1年				
ドイツ語V (読替科目：ドイツ語V) 山下 哲雄	1学期	2	1	213	
	英中国済営比人律政 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語VI (読替科目:ドイツ語VI) 山下 哲雄	2学期	2	1	214
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VII (読替科目:ドイツ語VII) 山下 哲雄	1学期	2	1	215
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語VIII (読替科目:ドイツ語VIII) 山下 哲雄	2学期	2	1	216
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語I (読替科目:フランス語I) 山下 広一	1学期	1	1	217
		済営人律政1年			
	フランス語II (読替科目:フランス語II) 山下 広一	2学期	1	1	218
		済営人律政1年			
	フランス語III (読替科目:フランス語III) 中川 裕二	1学期	1	1	219
		済営人律政1年			
	フランス語IV (読替科目:フランス語IV) 中川 裕二	2学期	1	1	220
		済営人律政1年			
	フランス語V (読替科目:フランス語V) 坂田 由紀	1学期	2	1	221
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VI (読替科目:フランス語VI) 坂田 由紀	2学期	2	1	222
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VII (読替科目:フランス語VII) ドゥラボード・ブランシュ	1学期	2	1	223
		英中国済営比人律政2年			
フランス語VIII (読替科目:フランス語VIII) ドゥラボード・ブランシュ	2学期	2	1	224	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語I (読替科目:スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	1	1	225	
	中国済営人律政1年				
スペイン語II (読替科目:スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	1	1	226	
	中国済営人律政1年				
スペイン語III (読替科目:スペイン語III) 辻 博子	1学期	1	1	227	
	中国済営人律政1年				
スペイン語IV (読替科目:スペイン語IV) 辻 博子	2学期	1	1	228	
	中国済営人律政1年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語V (読替科目: スペイン語V) 青木 文夫	1学期	2	1	229
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VI (読替科目: スペイン語VI) 青木 文夫	2学期	2	1	230
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VII (読替科目: スペイン語VII) 辻 博子	1学期	2	1	231
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VIII (読替科目: スペイン語VIII) 辻 博子	2学期	2	1	232
		英中国済営比人律政2年			
■留学生特別科目	日本事情(人文)A (読替科目: 日本事情(人文)A) 清水 順子	1学期	1	2	233
		留学生1年			
	日本事情(人文)B (読替科目: 日本事情(人文)B) 則松 智子	2学期	1	2	234
		留学生1年			
	日本事情(社会)A (読替科目: 日本事情(社会)A) 小林 浩明	1学期	1	2	235
		留学生1年			
	日本事情(社会)B (読替科目: 日本事情(社会)B) 小林 浩明	2学期	1	2	236
		留学生1年			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 今泉 恵子	1学期	1	2	242
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 大杉 一之	1学期	1	2	243
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 小野 憲昭	1学期	1	2	244
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 小池 順一	1学期	1	2	245
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 近藤 卓也	1学期	1	2	246
		1年			
法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 重松 博之	1学期	1	2	247	
	1年				
法学基礎演習I (読替科目: 法学基礎演習I) 清水 裕一郎	1学期	1	2	248	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 高橋 衛	1学期	1	2	249
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 津田 小百合	1学期	1	2	250
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 中村 英樹	1学期	1	2	251
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 二宮 正人	1学期	1	2	252
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 朴 元奎	1学期	1	2	253
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 福本 忍	1学期	1	2	254
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 水野 陽一	1学期	1	2	255
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 山口 亮介	1学期	1	2	256
		1年			
	法学基礎演習I (読替科目：法学基礎演習I) 土井 和重	1学期	1	2	257
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 今泉 恵子	2学期	1	2	258
		1年			
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 大杉 一之	2学期	1	2	259	
	1年				
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 小野 憲昭	2学期	1	2	260	
	1年				
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 小池 順一	2学期	1	2	261	
	1年				
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 近藤 卓也	2学期	1	2	262	
	1年				
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 重松 博之	2学期	1	2	263	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 清水 裕一郎	2学期	1	2	264
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 高橋 衛	2学期	1	2	265
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 津田 小百合	2学期	1	2	266
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 中村 英樹	2学期	1	2	267
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 二宮 正人	2学期	1	2	268
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 朴 元奎	2学期	1	2	269
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 福本 忍	2学期	1	2	270
		1年			
	法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 水野 陽一	2学期	1	2	271
		1年			
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 山口 亮介	2学期	1	2	272	
	1年				
法学基礎演習II (読替科目：法学基礎演習II) 土井 和重	2学期	1	2	273	
	1年				
外国文献研究I (読替科目：外国文献研究I) 津田 小百合	1学期	2	2	274	
	2年				
外国文献研究I (読替科目：外国文献研究I) 矢澤 久純	1学期	2	2	275	
	2年				
外国文献研究II (読替科目：外国文献研究II) 高橋 衛	2学期	2	2	276	
	2年				
外国文献研究II (読替科目：外国文献研究II) 水野 陽一	2学期	2	2	277	
	2年				
法哲学専門演習I (読替科目：法哲学専門演習I) 重松 博之	1学期	3	2	278	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	法哲学専門演習II (読替科目:法哲学専門演習II) 重松 博之	2学期	3	2	279
		3年			
	法制史専門演習I (読替科目:法制史専門演習I) 山口 亮介	1学期	3	2	282
		3年			
	法制史専門演習II (読替科目:法制史専門演習II) 山口 亮介	2学期	3	2	283
		3年			
	憲法専門演習I (読替科目:憲法専門演習I) 中村 英樹	1学期	3	2	286
		3年			
	憲法専門演習II (読替科目:憲法専門演習II) 中村 英樹	2学期	3	2	287
		3年			
	行政法専門演習I (読替科目:行政法専門演習I) 近藤 卓也	1学期	3	2	292
		3年			
	行政法専門演習I (読替科目:行政法専門演習I) 福重 さと子	2学期	3	2	293
		3年			
	行政法専門演習II (読替科目:行政法専門演習II) 近藤 卓也	2学期	3	2	294
		3年			
	行政法専門演習II (読替科目:行政法専門演習II) 福重 さと子	2学期	3	2	295
		3年			
	刑法専門演習I (読替科目:刑法専門演習I) 土井 和重	1学期	3	2	298
		3年			
刑法専門演習I (読替科目:刑法専門演習I) 大杉 一之	1学期	3	2	299	
	3年				
刑法専門演習II (読替科目:刑法専門演習II) 土井 和重	2学期	3	2	300	
	3年				
刑法専門演習II (読替科目:刑法専門演習II) 大杉 一之	2学期	3	2	301	
	3年				
刑事訴訟法専門演習I (読替科目:刑事訴訟法専門演習I) 水野 陽一	1学期	3	2	306	
	3年				
刑事訴訟法専門演習II (読替科目:刑事訴訟法専門演習II) 水野 陽一	2学期	3	2	307	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	刑事学専門演習I (読替科目: 刑事学専門演習I) 朴 元奎	1学期	3	2	310
		3年			
	刑事学専門演習II (読替科目: 刑事学専門演習II) 朴 元奎	2学期	3	2	311
		3年			
	社会保障法専門演習I (読替科目: 社会保障法専門演習I) 津田 小百合	1学期	3	2	314
		3年			
	社会保障法専門演習II (読替科目: 社会保障法専門演習II) 津田 小百合	2学期	3	2	315
		3年			
	労働法専門演習I 休講		3	2	
		3年			
	労働法専門演習II 休講		3	2	
		3年			
	国際法専門演習I (読替科目: 国際法専門演習I) 二宮 正人	1学期	3	2	320
		3年			
	国際法専門演習II (読替科目: 国際法専門演習II) 二宮 正人	2学期	3	2	321
		3年			
	民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 小野 憲昭	1学期	3	2	324
		3年			
	民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 福本 忍	1学期	3	2	325
		3年			
民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 矢澤 久純	1学期	3	2	326	
	3年				
民法専門演習I (読替科目: 民法専門演習I) 清水 裕一郎	1学期	3	2	327	
	3年				
民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 小野 憲昭	2学期	3	2	328	
	3年				
民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 福本 忍	2学期	3	2	329	
	3年				
民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 矢澤 久純	1学期	3	2	330	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習II (読替科目: 民法専門演習II) 清水 裕一郎	2学期	3	2	331
		3年			
	民事訴訟法専門演習I (読替科目: 民事訴訟法専門演習I) 小池 順一	1学期	3	2	340
		3年			
	民事訴訟法専門演習II (読替科目: 民事訴訟法専門演習II) 小池 順一	2学期	3	2	341
		3年			
	企業法専門演習I (読替科目: 企業法専門演習I) 今泉 恵子	1学期	3	2	344
		3年			
	企業法専門演習I (読替科目: 企業法専門演習I) 高橋 衛	1学期	3	2	345
		3年			
	企業法専門演習II (読替科目: 企業法専門演習II) 今泉 恵子	2学期	3	2	346
		3年			
	企業法専門演習II (読替科目: 企業法専門演習II) 高橋 衛	2学期	3	2	347
		3年			
	個別研究指導I (読替科目: 法哲学専門演習III) 重松 博之	1学期	4	2	280
		4年			
個別研究指導I (読替科目: 法制史専門演習III) 山口 亮介	1学期	4	2	284	
	4年				
個別研究指導I (読替科目: 憲法専門演習III) 植木 淳	1学期	4	2	288	
	4年				
個別研究指導I (読替科目: 憲法専門演習III) 中村 英樹	1学期	4	2	289	
	4年				
個別研究指導I (読替科目: 行政法専門演習III) 近藤 卓也	1学期	4	2	296	
	4年				
個別研究指導I (読替科目: 刑法専門演習III) 土井 和重	1学期	4	2	302	
	4年				
個別研究指導I (読替科目: 刑法専門演習III) 大杉 一之	1学期	4	2	303	
	4年				
個別研究指導I (読替科目: 刑事訴訟法専門演習III) 水野 陽一	1学期	4	2	308	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I (読替科目：刑事学専門演習III) 朴 元奎	1学期	4	2	312
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：社会保障法専門演習III) 津田 小百合	1学期	4	2	316
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：労働法専門演習III) 石田 信平	1学期	4	2	318
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：国際法専門演習III) 二宮 正人	1学期	4	2	322
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：民法専門演習III) 小野 憲昭	1学期	4	2	332
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：民法専門演習III) 福本 忍	1学期	4	2	333
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：民法専門演習III) 矢澤 久純	1学期	4	2	334
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：民事訴訟法専門演習III) 小池 順一	1学期	4	2	342
		4年			
個別研究指導I (読替科目：企業法専門演習III) 今泉 恵子	1学期	4	2	348	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：企業法専門演習III) 高橋 衛	1学期	4	2	349	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：民法専門演習III) 清水 裕一郎	1学期	4	2	335	
	4年				
個別研究指導II (読替科目：法哲学専門演習IV) 重松 博之	2学期	4	2	281	
	4年				
個別研究指導II (読替科目：法制史専門演習IV) 山口 亮介	2学期	4	2	285	
	4年				
個別研究指導II (読替科目：憲法専門演習IV) 植木 淳	2学期	4	2	290	
	4年				
個別研究指導II (読替科目：憲法専門演習IV) 中村 英樹	2学期	4	2	291	
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導II (読替科目: 行政法専門演習IV) 近藤 卓也	2学期	4	2	297
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 刑法専門演習IV) 土井 和重	2学期	4	2	304
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 刑法専門演習IV) 大杉 一之	2学期	4	2	305
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 刑事訴訟法専門演習IV) 水野 陽一	2学期	4	2	309
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 刑事学専門演習IV) 朴 元奎	2学期	4	2	313
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 社会保障法専門演習IV) 津田 小百合	2学期	4	2	317
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 労働法専門演習IV) 石田 信平	1学期	4	2	319
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 国際法専門演習IV) 二宮 正人	2学期	4	2	323
		4年			
個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 小野 憲昭	2学期	4	2	336	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 福本 忍	2学期	4	2	337	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 矢澤 久純	1学期	4	2	338	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 民事訴訟法専門演習IV) 小池 順一	2学期	4	2	343	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 企業法専門演習IV) 今泉 恵子	2学期	4	2	350	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 企業法専門演習IV) 高橋 衛	2学期	4	2	351	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 民法専門演習IV) 清水 裕一郎	2学期	4	2	339	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 (読替科目：法学総論) 山口 亮介	1学期	1	2	237
	1年				
	現代法曹論I (読替科目：現代法曹論I) 川上 修	2学期	1	2	238
	1年				
	現代法曹論II (読替科目：現代法曹論II) 天久 泰	1学期	2	2	239
	2年				
	法律実務論I (読替科目：法律実務論I) 本多 寿之	1学期	3	2	240
	3年				
	法律実務論II (読替科目：法律実務論II) 細川 眞二	2学期	3	2	241
	3年				
■理論法学科目	法思想史 (読替科目：法思想史) 重松 博之	1学期	2	2	352
	2年				
	外国法 (読替科目：外国法) 森谷 克之	1学期	2	2	353
	2年				
	日本法制史 (読替科目：日本法制史) 山口 亮介	2学期(ペア)	2	4	354
	2年				
	法社会学 (読替科目：法社会学) 林田 幸広	2学期	2	2	355
	2年				
	法哲学 (読替科目：法哲学) 重松 博之	1学期	3	2	356
	3年				
比較法文化論 (読替科目：比較法文化論) 篠森 大輔	集中	3	2	357	
3年					
紛争処理論 (読替科目：紛争処理論) 林田 幸広	2学期	3	2	358	
3年					
■公法科目	日本国憲法原論 (読替科目：日本国憲法原論) 植木 淳	1学期	1	2	359
	1年				
	憲法人権論 (読替科目：憲法人権論) 中村 英樹	2学期	1	2	360
1年					
憲法機構論 (読替科目：憲法機構論) 中村 英樹	1学期	2	2	361	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■公法科目	憲法訴訟論 (読替科目：憲法訴訟論) 植木 淳	2学期	2	2	362
	2年				
	行政法総論 (読替科目：行政法総論) 近藤 卓也	1学期(ペア)	2	4	363
	2年				
	行政争訟法 (読替科目：行政争訟法) 福重 さと子	2学期	2	2	364
	2年				
	国家補償法 (読替科目：国家補償法) 福重 さと子	2学期	3	2	365
3年					
地方自治法 (読替科目：地方自治法) 岡本 博志	1学期(ペア)	3	4	366	
3年					
情報公開・個人情報保護法 (読替科目：情報公開・個人情報保護法) 岡本 博志	2学期	3	2	367	
3年					
■刑事法科目	刑法犯罪論 (読替科目：刑法犯罪論) 大杉 一之	2学期(ペア)	1	4	368
	1年				
	刑法犯罪各論I (読替科目：刑法犯罪各論I) 土井 和重	1学期	2	2	369
	2年				
	刑法犯罪各論II (読替科目：刑法犯罪各論II) 土井 和重	2学期	2	2	370
	2年				
	刑事訴訟法総論 (読替科目：刑事訴訟法総論) 水野 陽一	2学期	2	2	371
	2年				
	刑事訴訟法各論 (読替科目：刑事訴訟法各論) 水野 陽一	1学期	3	2	372
	3年				
犯罪学 (読替科目：犯罪学) 朴 元奎	1学期(ペア)	3	4	373	
3年					
刑事司法政策I (読替科目：刑事司法政策I) 朴 元奎	1学期	3	2	374	
3年					
刑事司法政策II (読替科目：刑事司法政策II) 朴 元奎	2学期	3	2	375	
3年					
■社会法科目	社会法総論 (読替科目：社会法総論) 柴田 滋	2学期	1	2	376
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■社会法科目	社会サービス法 (読替科目:社会サービス法) 津田 小百合	2学期	2	2	377
	2年				
	所得保障法 (読替科目:所得保障法) 津田 小百合	2学期	2	2	378
	2年				
	雇用関係法 (読替科目:雇用関係法) 石田 信平	1学期	2	2	379
	2年				
	労使関係法 (読替科目:労使関係法) 石田 信平	1学期	2	2	380
	2年				
	独占禁止法 (読替科目:独占禁止法) 高場 俊光	1学期	3	2	381
	3年				
	知的財産法 (読替科目:知的財産法) 木村 友久	1学期	3	2	382
	3年				
環境法 (読替科目:環境法) 下村 英嗣	集中	3	2	383	
3年					
社会法の現代的展開 (読替科目:社会法の現代的展開) 柴田 滋	2学期	3	2	384	
3年					
■国際関係法科目	国際法I (読替科目:国際法I) 二宮 正人	1学期	2	2	385
	2年				
	国際法II (読替科目:国際法II) 二宮 正人	2学期	2	2	386
	2年				
	国際私法 (読替科目:国際私法) 中林 啓一	集中	3	2	387
	3年				
国際取引法 (読替科目:国際取引法) 大隈 一武	集中	3	2	388	
3年					
■民事法科目	現代国際関係法 (読替科目:現代国際関係法) 川本 充	集中	3	2	389
	3年				
■民事法科目	民法総則 (読替科目:民法総則) 矢澤 久純	1学期(ペア)	1	4	390
	1年				
■民事法科目	物権法 (読替科目:物権法) 清水 裕一郎	2学期	1	2	391
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■民事法科目	家族法 (読替科目:親族法) 小野 憲昭	1学期	2	2	394
	2年				
	債権総論 (読替科目:債権総論) 矢澤 久純	1学期(ペア)	2	4	392
	2年				
	債権各論 (読替科目:債権各論) 福本 忍	2学期(ペア)	2	4	393
	2年				
	民事訴訟法総論 (読替科目:民事訴訟法総論) 小池 順一	1学期	2	2	395
	2年				
民事訴訟法各論 (読替科目:民事訴訟法各論) 小池 順一	2学期	2	2	396	
2年					
倒産処理法 (読替科目:倒産処理法) 小池 順一	1学期	3	2	397	
3年					
民事執行法 (読替科目:民事執行法) 堀野 出	2学期	3	2	398	
3年					
消費者法 休講		3	2	399	
3年					
■商事法科目	会社法I (読替科目:会社法I) 高橋 衛	1学期	2	2	400
	2年				
	会社法II (読替科目:会社法II) 高橋 衛	2学期	2	2	401
	2年				
	企業活動と法 (読替科目:企業活動と法) 今泉 恵子	2学期	2	2	399
	2年				
	企業取引法I (読替科目:企業取引法I) 今泉 恵子	2学期	2	2	402
	2年				
企業取引法II (読替科目:企業取引法II) 前越 俊之	2学期	3	2	403	
3年					
証券市場と法 (読替科目:証券市場と法) 前越 俊之	2学期	3	2	404	
3年					
企業法の現代的展開 (読替科目:企業法の現代的展開) 木村 友久	2学期	3	2	405	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	政策構想論 (読替科目: 政策構想論) 大澤 津	1学期	1	2	411
		1年			
	公共政策論 (読替科目: 公共政策論) 植原 真二	1学期	2	2	416
		2年			
	政策過程論 (読替科目: 政策過程論) 申 東愛	1学期	2	2	418
		2年			
	政策評価論 (読替科目: 政策評価論) 植原 真二 他	2学期	2	2	423
		2年			
	地方自治論 (読替科目: 地方自治論) 森 裕亮	1学期	2	2	420
		2年			
	福祉国家論 (読替科目: 福祉国家論) 狭間 直樹	2学期	1	2	413
		1年			
	政治学 (読替科目: 政治学) 出水 薫	1学期	1	2	406
		1年			
	政治過程論 (読替科目: 政治過程論) 秦 正樹	2学期	1	2	412
		1年			
	西洋政治史 (読替科目: 西洋政治史) 西 貴倫	1学期	1	2	414
		1年			
	現代政治思想 (読替科目: 現代政治思想) 大澤 津	1学期	2	2	419
		2年			
政治文化論 (読替科目: 政治文化論) 大澤 津	2学期	2	2	432	
	2年				
政党政治論 (読替科目: 政党政治論) 中井 遼	2学期	2	2	424	
	2年				
都市環境論 (読替科目: 都市環境論) 三宅 博之	1学期	1	2	407	
	1年				
政策理論特講 (読替科目: 政策理論特講) 松田 憲忠	集中	2	2	417	
	2年				
行政組織論 (読替科目: 行政組織論) 壬生 裕子	集中	2	2	435	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	比較政策論 (読替科目：比較政策論) 坂本 隆幸	1学期	2	2	437
		2年			
	都市政策論 (読替科目：都市政策論) 田代 洋久	2学期	2	2	425
		2年			
	福祉政策論 (読替科目：福祉政策論) 狭間 直樹	1学期	2	2	426
		2年			
	環境政策論 (読替科目：環境政策論) 申 東愛	2学期	2	2	427
		2年			
	自治体政策研究 (読替科目：自治体政策研究) 楢原 真二	2学期	2	2	430
		2年			
	都市経済論 (読替科目：都市経済論) 田代 洋久	1学期	1	2	415
		1年			
	都市経営論 (読替科目：都市経営論) 田代 洋久	2学期	2	2	421
		2年			
	地方行政改革論 (読替科目：地方行政改革論) 森 裕亮	2学期	2	2	433
		2年			
	日本政治論 (読替科目：日本政治論) 秦 正樹	2学期	1	2	408
		1年			
	日本行政論 (読替科目：行政学) 森 裕亮	2学期	1	2	409
		1年			
公共経営論 (読替科目：公共経営論) 狭間 直樹	2学期	2	2	431	
	2年				
NPO論 (読替科目：NPO論) 楢原 真二 他	1学期	1	2	410	
	1年				
途上国開発論 (読替科目：途上国開発論) 三宅 博之	1学期	2	2	422	
	2年				
地域統合論 (読替科目：地域統合論) 未定(五月女後任)	2学期	2	2	429	
	2年				
アジア地域社会論 (読替科目：アジア地域社会論) 三宅 博之	2学期	2	2	428	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	応用政策特講 (読替科目：応用政策特講) 中道 壽一	集中	2	2	434
	2年				
	対外政策論 (読替科目：対外政策論) 坂本 隆幸	2学期	2	2	436
	2年				
	国際機構論I (読替科目：国際機構論I) 山本 直	1学期	3	2	438
	3年				
	国際機構論II (読替科目：国際機構論II) 山本 直	2学期	3	2	439
	3年				
	国際人権論 (読替科目：国際人権論) 山本 直	2学期	3	2	442
	3年				
	国際協力論I (読替科目：国際協力論I) 大平 剛	1学期	3	2	440
	3年				
	国際協力論II (読替科目：国際協力論II) 大平 剛	2学期	3	2	441
	3年				
	国際紛争論 (読替科目：国際紛争論) 川上 耕平	1学期	3	2	443
	3年				
障害者福祉論I (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度) 小賀 久	1学期	3	2	444	
3年					
障害者福祉論II 小賀 久	2学期	3	2	3	
3年					
老人福祉論I (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度1) 石塚 優	1学期	3	2	445	
3年					
老人福祉論II (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度2) 石塚 優	2学期	3	2	446	
3年					
■関連科目B	ビジネス英語研究 (読替科目：ビジネス英語研究) 松田 智	2学期	3	2	471
	3年				
	世界経済論I 尹 明憲	2学期	3	2	4
	3年				
世界経済論II 尹 明憲	2学期	3	2	5	
3年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■関連科目B	ミクロ経済学I		1	2		
	休講	1年				
	ミクロ経済学II		2	2		
	休講	2年				
	マクロ経済学I		1	2		
	休講	1年				
	マクロ経済学II		2	2		
	休講	2年				
	産業組織論I (読替科目：産業組織論I)	後藤 宇生	1学期	2	2	465
			2年			
	産業組織論II (読替科目：産業組織論II)	後藤 宇生	2学期	2	2	466
			2年			
	経済地理学I (読替科目：経済地理学I)	杉浦 勝章	1学期	2	2	450
			2年			
	経済地理学II (読替科目：経済地理学II)	杉浦 勝章	2学期	2	2	451
			2年			
	国際経済論I (読替科目：国際経済論I)	末永 勝昭	1学期	2	2	448
			2年			
	国際経済論II (読替科目：国際経済論II)	末永 勝昭	2学期	2	2	449
			2年			
公共経済学 (読替科目：公共経済学)	牛房 義明	1学期	3	2	447	
		3年				
財政学I	休講		3	2		
		3年				
財政学II	休講		3	2		
		3年				
金融論I (読替科目：金融論I)	後藤 尚久	1学期	2	2	452	
		2年				
金融論II (読替科目：金融論II)	後藤 尚久	2学期	2	2	453	
		2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	国際貿易論I (読替科目: 国際貿易論I) 水戸 康夫	1学期	3	2	461
		3年			
	国際貿易論II (読替科目: 国際貿易論II) 水戸 康夫	2学期	3	2	462
		3年			
	都市財政I (読替科目: 地方財政論) 難波 利光	1学期	3	2	469
		3年			
	都市財政II 難波 利光	2学期	3	2	6
		3年			
	国際金融論I (読替科目: 国際金融論I) 前田 淳	1学期	3	2	463
		3年			
	国際金融論II (読替科目: 国際金融論II) 前田 淳	2学期	3	2	464
		3年			
	経営戦略 (読替科目: 経営戦略論) 浦野 恭平	2学期	2	2	457
		2年			
	経営組織論 (読替科目: 経営組織論) 山下 剛	1学期	2	2	454
		2年			
	人事管理論 (読替科目: 人的資源管理論) 福井 直人	1学期	2	2	470
		2年			
	企業ファイナンスI (読替科目: 企業ファイナンスI) 松本 守	1学期	2	2	455
		2年			
企業ファイナンスII (読替科目: 企業ファイナンスII) 松本 守	2学期	2	2	456	
	2年				
財務会計論I (読替科目: 財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	458	
	2年				
財務会計論II (読替科目: 財務会計論II) 西澤 健次	2学期	2	2	459	
	2年				
証券市場論 (読替科目: 証券市場論) 野方 大輔	1学期	3	2	467	
	3年				
中小企業論 (読替科目: 中小企業論) 別府 俊行	1学期	3	2	468	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	コーポレートガバナンス 内田 交瞳	2学期	3	2	7
		3年			
	会計監査論 (読替科目：会計監査論) 任 章	2学期	3	2	460
		3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論) 黒田 耕司	1学期	1	2	472
		1年			
	教育原理 (読替科目：教育原理) 見玉 弥生	2学期	1	2	473
		1年			
	発達心理学 (読替科目：発達心理学) 税田 慶昭	1学期	2	2	474
		2年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	8
		3年			
	社会科教育法 A (読替科目：社会科教育法 A) 下地 貴樹	1学期	2	2	475
		2年			
	社会科教育法 B (読替科目：社会科教育法 B) 吉村 義則	2学期	2	2	476
		2年			
	公民科教育法 A 休講	1学期	2	2	
		2年			
	公民科教育法 B 休講	2学期	2	2	
		2年			
	道徳教育の研究 (読替科目：道徳教育指導論) 黒田 耕司	2学期	2	2	477
		2年			
	特別活動の研究 (読替科目：特別活動論) 楠 凡之	1学期	2	2	478
		2年			
	教育方法学 (読替科目：教育方法学) 黒田 耕司	1学期	2	2	479
		2年			
	教育工学 (読替科目：教育工学) 大塚 一徳	2学期	2	2	488
		2年			
	教育実習 1 (読替科目：教育実習 1) 黒田 耕司 他	2学期	3	2	482
		3年			

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習2 (読替科目:教育実習2) 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	483
	4年				
	教育実習3 (読替科目:教育実習3) 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	484
	4年				
	教育相談 (読替科目:教育相談) 楠 凡之	1学期	2	2	481
	2年				
	生徒・進路指導論 (読替科目:生徒・進路指導論) 楠 凡之	2学期	2	2	480
	2年				
	社会科教育法C 休講	2学期	2	2	
	2年				
社会科教育法D 休講	2学期	2	2		
2年					
教職実践演習(中・高) 休講	2学期	4	2		
4年					
■選択科目	教育心理学 (読替科目:教育心理学) 下地 貴樹	2学期	2	2	485
	2年				
	教育法規 休講	2学期	3	2	
	3年				
障害児の心理と指導 休講	2学期	2	2		
2年					
教育社会学 (読替科目:教育社会学) 作田 誠一郎	集中	2	2	486	
2年					
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目:人権教育論) 弓野 勝族	1学期	2	2	487
	2年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 (読替科目：歴史と政治) 小林 道彦	2学期	1	2	489
		1年			
	人間と文化 (読替科目：異文化理解の基礎) 神原 ゆうこ	1学期	1	2	490
		1年			
	ことばの科学 (読替科目：ことばの科学) 漆原 朗子	1学期	1	2	491
		1年			
国際学入門 (読替科目：国際学入門) 伊野 憲治	1学期	1	2	492	
	1年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI (読替科目：メンタル・ヘルスI) 寺田 千栄子	1学期	1	2	507
		1年			
	メンタル・ヘルスII (読替科目：メンタル・ヘルスII) 坂本 毅啓	2学期	1	2	508
		1年			
	フィジカル・ヘルスI (読替科目：フィジカル・ヘルスI) 山本 浩二	1学期	1	2	509
		1年			
フィジカル・ヘルスII 休講	2学期	1	2		
	1年				
社会調査 休講	2学期	1	2		
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 休講	1学期	1	1		
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	510	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (読替科目：教養基礎演習I) 二宮 正人	1学期	1	2	495
		1年			
■テーマ科目	地球の生いたち 休講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ) 森永 今日子	1学期	1	2	496
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	思想と現代	1学期	1	2	
	休講	1年			
	文学を読む	2学期	1	2	
	休講	1年			
	現代正義論 (読替科目：現代正義論)	2学期	1	2	497
	重松 博之	1年			
	民主主義とは何か	1学期	1	2	
	休講	1年			
	人権論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	ジェンダー論	1学期	1	2	
	休講	1年			
	障がい学 (読替科目：障がい学)	2学期	1	2	498
	伊野 憲治 他	1年			
	市民活動論 (読替科目：市民活動論)	2学期	1	2	499
	西田 心平	1年			
	企業と社会	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代社会と倫理 (読替科目：現代社会と倫理)	1学期	1	2	500
	伊原木 大祐	1年			
現代の国際情勢	1学期	1	2		
休講	1年				
国際社会論	1学期	1	2	9	
稲月 正	1年				
国際紛争と国連	2学期	1	2		
休講	1年				
開発と統治	2学期	1	2		
休講	1年				
グローバル化する経済 (読替科目：グローバル化する経済)	1学期	1	2	501	
田中 淳平 他	1年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際社会と日本 (読替科目: 国際社会と日本) 阿部 容子 他	2学期	1	2	502
		1年			
	歴史の読み方I (読替科目: 歴史の読み方I) 小林 道彦	1学期	1	2	503
		1年			
	歴史の読み方II (読替科目: 歴史の読み方II) 小林 道彦	1学期	1	2	504
		1年			
そのとき世界は (読替科目: そのとき世界は) 伊野 憲治 他	2学期	1	2	505	
	1年				
人物と時代の歴史 (読替科目: 人物と時代の歴史) 山崎 勇治 他	1学期	1	2	506	
	1年				
■教職関連科目	日本史 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	東洋史 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	社会学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	人文地理学 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	土地地理学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	地誌学 閉講	1学期	1	2	
		1年			
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング (読替科目: 情報社会への招待) 中尾 泰士	2学期	1	2	494
		1年			
	データ処理 (読替科目: データ処理) 中尾 泰士	2学期	1	2	511
		1学期未修得者再履			
	情報表現 (読替科目: 情報表現) 浅羽 修丈	2学期	2	2	512
	2年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論		1	2	
	休講	1年			
■公法科目	日本国憲法原論 (読替科目：日本国憲法原論) 植木 淳	1学期	1	2	513
	休講	1年			
	憲法人権論		1	2	
	休講	1年			
行政法総論		2	4		
休講	2年				
■社会法科目	社会法総論		1	2	
	休講	1年			
■国際関係法科目	国際法I		2	2	
	休講	2年			
	国際法II		2	2	
	休講	2年			
■商事法科目	会社法I		2	2	
	休講	2年			
	会社法II		2	2	
	休講	2年			
■関連科目A	公共政策論 (読替科目：公共政策論) 橋原 真二	1学期	2	2	515
	休講	2年			
	地方自治論		2	2	
	休講	2年			
	都市環境論 (読替科目：都市環境論) 三宅 博之	1学期	1	2	514
	休講	1年			
	福祉政策論		2	2	
	休講	2年			
NPO論		1	2		
休講	1年				
障害者福祉論I (読替科目：障害者に対する支援と障害者自立支援制度) 高崎 陽子	1学期	3	2	516	
休講	3年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■関連科目A	障害者福祉論II 休講		3	2	
		3年			
	老人福祉論I (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度1) 石塚 優	1学期	3	2	517
		3年			
	老人福祉論II (読替科目：高齢者に対する支援と介護保険制度2) 石塚 優	2学期	3	2	518
		3年			
■関連科目B	ミクロ経済学I (読替科目：ミクロ経済学I) 朱 乙文	2学期	1	2	519
		1年			
	ミクロ経済学II (読替科目：ミクロ経済学II) 朱 乙文	1学期	2	2	520
		2年			
	マクロ経済学I (読替科目：マクロ経済学I) 田中 淳平	2学期	1	2	521
		1年			
	マクロ経済学II (読替科目：マクロ経済学II) 田中 淳平	1学期	2	2	522
		2年			
	産業組織論I 休講		2	2	
		2年			
	産業組織論II 休講		2	2	
		2年			
	経済地理学I 休講		2	2	
		2年			
	経済地理学II 休講		2	2	
		2年			
	国際経済論I 休講		2	2	
		2年			
国際経済論II 休講		2	2		
	2年				
公共経済学 休講		3	2		
	3年				
財政学I (読替科目：財政学I) 前林 紀孝	1学期	3	2	527	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目B	財政学II (読替科目: 財政学II) 前林 紀孝	2学期	3	2	528
		3年			
	金融論I 休講		2	2	
		2年			
	金融論II 休講		2	2	
		2年			
	国際貿易論I (読替科目: 国際貿易論I) 山口 実	1学期	3	2	525
		3年			
	国際貿易論II (読替科目: 国際貿易論II) 山口 実	2学期	3	2	526
		3年			
	国際金融論I 休講		3	2	
		3年			
	国際金融論II 休講		3	2	
		3年			
	経営戦略 (読替科目: 経営戦略論) 山下 剛	2学期	2	2	523
		2年			
	経営組織論 休講		2	2	
		2年			
	人事管理論 休講		2	2	
		2年			
企業ファイナンスI 休講		2	2		
	2年				
企業ファイナンスII 休講		2	2		
	2年				
財務会計論I (読替科目: 財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	524	
	2年				
証券市場論 休講		3	2		
	3年				
中小企業論 休講		3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	コーポレートガバナンス		3	2	
	休講	3年			
	会計監査論		3	2	
	休講	3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 (読替科目：教職論) 黒田 耕司	1学期	1	2	529
		1年			
	教育原理 (読替科目：教育原理) 見玉 弥生	2学期	1	2	530
		1年			
	発達心理学 (読替科目：発達心理学) 税田 慶昭	1学期	2	2	531
		2年			
	教育制度 休講	1学期	3	2	
		3年			
	社会科教育法A 休講	1学期	2	2	
		2年			
	社会科教育法B 休講	2学期	2	2	
		2年			
	公民科教育法A (読替科目：公民科教育法A) 下地 貴樹	1学期	2	2	534
		2年			
	公民科教育法B (読替科目：公民科教育法B) 吉村 義則	2学期	2	2	535
		2年			
	道徳教育の研究 (読替科目：道徳教育指導論) 黒田 耕司	2学期	2	2	536
		2年			
	特別活動の研究 (読替科目：特別活動論) 楠 凡之	1学期	2	2	537
	2年				
教育方法学 (読替科目：教育方法学) 黒田 耕司	1学期	2	2	538	
	2年				
教育工学 休講	2学期	2	2		
	2年				
教育実習1 (読替科目：教育実習1) 黒田 耕司	2学期	3	2	541	
	3年				

法学部 法律学科 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習2 (読替科目:教育実習2) 恒吉 紀寿	1学期	4	2	542
		4年			
	教育実習3 (読替科目:教育実習3) 恒吉 紀寿	1学期	4	2	543
		4年			
	教育相談 (読替科目:教育相談) 楠 凡之	1学期	2	2	540
		2年			
	生徒・進路指導論 (読替科目:生徒・進路指導論) 楠 凡之	2学期	2	2	539
	2年				
■選択科目	社会科教育法C (読替科目:社会科教育法C) 下地 貴樹	1学期	2	2	532
		2年			
	社会科教育法D (読替科目:社会科教育法D) 下地 貴樹	2学期	2	2	533
		2年			
	教職実践演習(中・高) (読替科目:教職実践演習(中・高)) 楠 凡之 他	2学期	4	2	544
		4年			
	教育心理学 休講	2学期	2	2	
	2年				
教育法規 休講	2学期	3	2		
	3年				
障害児の心理と指導 (読替科目:障害児の心理と指導) 税田 慶昭	2学期	2	2	545	
	2年				
教育社会学 休講	1学期	2	2		
	2年				
■教科または教職に関する科目	人権教育論 (読替科目:人権教育論) 弓野 勝族	1学期	2	2	546
		2年			

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) 国際的な人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それにともなって、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。排外主義の高まりの中、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生メカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成メカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・15% 期末試験・・・85%
(総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が確立することを意図している。

教科書 /Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、参考文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション 倫理学とは何か。
- 第2回 古代ギリシャの倫理(1) ソクラテスとプラトンの倫理思想 【徳と国家】
- 第3回 古代ギリシャの倫理(2) アリストテレスの倫理思想 【賢慮と公共性】
- 第4回 キリスト教の倫理(1) イエスとパウロの倫理思想 【普遍化と信仰義認】
- 第5回 キリスト教の倫理(2) アウグスティヌスと聖フランチェスコの倫理思想 【信と知】
- 第6回 キリスト教の倫理(3) ルターの倫理思想 【召命と信仰義認】
- 第7回 近代の倫理思想(1) マキアヴェリの倫理思想 【共和政とヴィルトゥ】
- 第8回 近代の倫理思想(2) ホッブズの倫理思想 【リヴァイアタンと市民】
- 第9回 近代の倫理思想(3) スピノザの倫理思想 【オランダの自由】
- 第10回 近代の倫理思想(4) カントの倫理思想 【定言命法と人格主義】
- 第11回 近代の倫理思想(5) フィヒテの倫理思想 【自覚と相互承認】
- 第12回 近代の倫理思想(6) ヘーゲルの倫理思想 【理性の神話】
- 第13回 近代の倫理思想(7) マルクスの倫理思想 【疎外と物象化】
- 第14回 現代の倫理思想(1) フランクフルト学とハーバマスの倫理思想 【討議とコミュニケーション理性】
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習状況(リアクション・ペーパーを含む) 40パーセント
講義で紹介した参考文献のどれかを読んで書く期末レポート 60パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で配布した資料を読み、自分なりの整理をしておく。適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問して下さい。

キーワード /Keywords

障害者福祉論II 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する。

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の注意と講義の総論
- 2回 障害概念と障害者①【ICF】
- 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害、精神障害、内部障害等】
- 4回 障害福祉の国際的動向
- 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション・インテグレーション、インクルージョン】
- 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
- 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
- 8回 障害者福祉の法制度【国内】
- 9回 障害者福祉の法制度【国外】
- 10回 障がいのある人と虐待①【虐待調査から見る現状】
- 11回 障がいのある人と虐待②【虐待と親密圏】
- 12回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ①
- 13回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ②
- 14回 北欧の障害者の地域生活支援から学ぶ③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界経済論I【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

経済問題は、私たちの日常生活にも、地域にも国にも、また国際社会にも大きな影響を及ぼしています。経済を理解することで国際関係分野と地域研究分野でより深い理解を得ることができます。
この授業では、経済の仕組みを理解するうえで最低限必要な経済学の知識と見方・考え方を身に付けることをめざします。この授業では、テキストにしたがって日常の経済取引を扱う「市場」に関する項目(ミクロ経済)から始めて、国全体の経済を扱う項目(マクロ経済)へと進めていきます。説明では複雑な数式は使わず、できるだけ具体的な事例を出しながら説明していきます。また、随時経済に関する時事トピックを取り上げて解説します。

教科書 /Textbooks

中谷武・中村保編著「1からの経済学」、碩学舎、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重「はじめての経済学」(上・下)、日本経済新聞出版社、2004年 (○)
岩田規久男「経済学への招待」、新生社、2007年
宮崎勇・田谷禎三「世界経済図説 第三版」、岩波新書、2012年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：経済学とわたしたち
- 第2回 分業の利益
- 第3回 価格メカニズム
- 第4回 市場の効率性
- 第5回 市場の失敗
- 第6回 市場の限界
- 第7回 労働市場(またはミクロ経済学についての中間テスト)
- 第8回 GDPとは何か
- 第9回 何がGDPを決めるか
- 第10回 消費需要と投資需要
- 第11回 貨幣と金融
- 第12回 政府の役割
- 第13回 外国貿易と為替レート
- 第14回 経済成長と国民生活
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

テストまたはレポート(2回) ... 70%、平常点および課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から身近な雇用・就職状況だけでなく、貿易や為替レートなどの状況にも関心を向けて、新聞や雑誌の経済記事に目を通しておくと、授業が理解しやすくなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市場 GDP 財政 貿易

世界経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業は、現実の世界経済の動きを理解するための基本的な知識と考え方を身につけることを目的とする。この授業では、直接投資と多国籍企業、発展途上国の貧困や地球環境問題など、世界が抱えている諸問題を経済の視点から考察していく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩本武和・奥和義・小倉明浩・金早雪・星野郁『第3版 グローバルエコノミー』有斐閣
東京経済大学国際経済グループ『私たちの国際経済 見つめてみよう、考えよう、世界のこと 第3版』有斐閣
石田修・板木雅彦・櫻井公人・中本悟編『現代世界経済をとらえる Ver.5』東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の流れ、世界経済の概観
- 2回 国際貿易(1)： 国際貿易の意義と現状、国際貿易の基本原則
- 3回 国際貿易(2)： 貿易政策、WTO
- 4回 国際収支と外国為替(1)： 国際収支の内訳、
- 5回 国際収支と外国為替(2)： 国際収支とマクロバランス、外国為替のしくみ、
- 6回 国際収支と外国為替(3)： 為替レートの決まり方
- 7回 直接投資と多国籍企業(1)： 直接投資・多国籍企業とは何か
- 8回 直接投資と多国籍企業(2)： 多国籍企業の行動様式、影響
- 9回 世界の中の貧困と格差(1)： 発展途上国の現状と貧困認識
- 10回 世界の中の貧困と格差(2)： 開発援助アプローチの変遷
- 11回 地球環境問題(1)： 「持続可能な開発」概念、温暖化問題
- 12回 地球環境問題(2)： 地球温暖化への国際的取組み
- 13回 人口と食糧
- 14回 資源とエネルギー
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況及び小テスト...30% 期末試験またはレポート...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

普段から新聞やニュースに触れて経済も含めた世界の動向についての情報を仕入れておくことが望ましいです。事前学習としては、経済関係の用語をあらかじめ自分で確認しておくこと。事後学習としては、経済学では論理的なつながりが重要になるので、論理的なつながりを確認しながら復習することが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞やニュースを見ると、世界情勢は特に経済の面で激動していることが分かります。この授業をきっかけにして世界経済に関心を持ち、世界経済について正しく理解した上で自分の意見を持てるようになればいいと思います。

キーワード /Keywords

国際貿易、国際収支、直接投資・多国籍企業、南北問題、開発援助、地球環境問題、

都市財政II 【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市の財政問題として福祉と労働をテーマに考える。都市は、人口増大と共に高齢化社会により福祉的経費の増大が予想されている。また、都市での貧困問題は、世界的に問題になっている。それに伴う労働の課題は、社会保障に関する政府による保障と大きな関わりがある。

講義では、社会保障と地域経済、地方財政の話を始め、就労形態の違いによる労働のあり方について基礎的な理論を学ぶ、具体的には、公的年金、介護保険、地域医療、生活保護、児童福祉、障がい者について学ぶ。これらを学ぶことで、都市で生活する住民の生活実態を直視しながら都市財政の課題について考える。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆『福祉行財政論』中央法規 2002年
齊藤慎・山本栄一・一圓光彌編著『福祉財政論』有斐閣ブックス 2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 都市財政と地域
- 第3講 都市財政と社会保障
- 第4講 都市財政と労働市場
- 第5講 都市財政と生活状況
- 第6講 都市財政と課税制度
- 第7講 中間試験
- 第8講 都市生活者の公的年金財政
- 第9講 都市の介護保険財政
- 第10講 都市の医療保険財政
- 第11講 都市生活者の生活保護財政
- 第12講 都市の児童福祉財政
- 第13講 都市の障がい者財政
- 第14講 都市の労働保険財政
- 第15講 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験50%、期末試験50%
試験は、配布プリント、手書きのノート持込可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コーポレートガバナンス【昼】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

コーポレートガバナンスとは、企業にあるべき行動をとらせるための仕組みのことである。制度上、株式会社は株主価値を最大化することが求められるため、狭義のコーポレートガバナンスは、企業に株主価値最大化行動を取らせるための仕組みということになる。1990年代の後半以降、日本企業は株主価値に配慮したコーポレートガバナンス改革を行ってきたが、2014年に機関投資家の行動規範を示したスチュワードシップコードが策定され、2015年に上場企業のコーポレートガバナンスの規範を示したコーポレートガバナンス・コードが策定されたように、さらなるコーポレートガバナンス改革への要請が高まってきている。本講義では、コーポレートガバナンスの主要な手段、すなわち取締役会、経営者報酬スキーム、株主構成（大株主）、敵対的企業買収、負債（銀行モニタリング）について、それぞれの長所と短所を解説し、さらに日本のコーポレート・ガバナンスの特徴及び歴史的な変化を解説する。最後に時間があれば、諸外国のコーポレート・ガバナンスの特徴と広義のコーポレート・ガバナンス、すなわち企業は株主を含めた幅広いステークホルダーの利害を考慮した経営を行うべきとする考え方（ステークホルダー・アプローチ）を説明する。

教科書 /Textbooks

教科書は用いない。毎回、講義資料（パワーポイント）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション：コーポレート・ガバナンスとは？
2. 株式会社の経営監督機構(1): 取締役会
3. 株式会社の経営監督機構(2): さまざまな経営監督機構
4. 経営者報酬: 業績連動型報酬と株式ベース報酬
5. 大株主によるガバナンス(1): 大株主とエージェンシー問題
6. 大株主によるガバナンス(2): 機関投資家の役割と大株主の問題点
7. 中間試験
8. 敵対的企業買収
9. 負債による規律づけ(1): フリーキャッシュフロー問題と過大投資の抑制、経営支配権の効率的移転
10. 負債による規律づけ(2): 銀行によるモニタリング、金融支援と過小投資の抑制
11. 日本のコーポレート・ガバナンス(1): 第二次世界大戦前～高度経済成長期
12. 日本のコーポレート・ガバナンス(2): 安定成長期～バブル経済期
13. 日本のコーポレート・ガバナンス(3): バブル経済崩壊後～現在
14. 諸外国のコーポレート・ガバナンスとステークホルダー・アプローチ
15. 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験50%、期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義資料を事前に学習支援フォルダに掲載するので、参照し、内容について調べてくること。
講義後、復習を十分に行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

取締役会、経営監督機構、経営者報酬、機関投資家、持株会社、敵対的企業買収、銀行、株式持ち合い、メインバンク、企業集団

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要
義務教育、中等教育、教員に関する制度等、教育制度に関わる基礎的な知識を習得し、現代の教育制度における課題について学ぶ。

- 目標**
- ①教育制度についての基礎的な知識を習得する。
 - ②教育制度における課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則 教育制度とは、教育関係法規、
- 2回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、学校教育における中立性
- 3回 学校制度の基本的事項(2) 義務教育,中等教育
- 4回 教員に関する制度(1) 教員免許法制
- 5回 教員に関する制度(2) 公務員としての教師、教員の指導力と研修
- 6回 教育行政の仕組み 中央教育行政、地方教育行政、教育委員会と学校
- 7回 生涯学習の制度 学校教育と社会教育の連携、高等教育
- 8回 教育制度改革の動向 学校選択制、学校評価
- 9回 教育課程の意義と編成(1) 学習指導要領、教科書・教材
- 10回 教育課程の意義と編成(2) 学校の教育課程編成
- 11回 学校における教育課程編成
- 12回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 13回 教育課程の開発・評価
- 14回 今日の課題と教育課程
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

国際社会論【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
					○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業では、(1) 国際社会学の基礎概念、(2) グローバルな人口移動の様相、(3) 国民国家内部での移民の統合と多文化共生社会の形成について理解することを目指す。
 グローバル化の進展により国境を越えた人の移動は増加している。それとともに、世界各地で移民排斥も生じている。日本も例外ではない。そうした中で、定住外国人の権利保障、社会参加、多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきている。
 授業では、グローバル化と社会的排除に関する国際社会学の基礎概念について紹介した後、国際人口移動について概説する。その上で、日系ブラジル人社会、在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係の事例をもとに、移民の社会的排除と社会的統合のプロセスについて実証的に考察していきたい。これらを通して、グローバル化が地域(ローカル)に及ぼす影響を、生活の場から考える視点を身につける。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『よくわかる国際社会学』、樽本英樹著、ミネルヴァ書房
 - 『多民族社会・日本』、渡戸一郎・井沢泰樹編著、明石書店
 - 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『外国人へのまなざしと政治意識』、田辺俊介編著、勁草書房
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 国際社会学とは
- 第2回 国民国家・人種・ネーション・エスニシティ
- 第3回 エスニシティ活性化の理論
- 第4回 グローバル化の進展と国境を越えた人口の移動
- 第5回 移民の社会的排除と統合(1)【ヨーロッパの事例】
- 第6回 移民の社会的排除と統合(2)【移民と階級、教育、政治】
- 第7回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(1)【移民の理論】
- 第8回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(2)【移住システムと移民コミュニティ】
- 第9回 日系ブラジル人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会問題発生のメカニズム】
- 第10回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(1)【在日朝鮮人とは】
- 第11回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(2)【多文化コミュニティ形成の条件】
- 第12回 在日朝鮮人社会と日本人社会との民族関係(3)【社会移動】
- 第13回 排外主義と排外意識 - 排外意識形成のメカニズム
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(1) - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 統合と多文化共生社会の形成に向けて(2) - 移民と市民権

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(課題)・・・15% 期末試験・・・85%
 (総合的に判断する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容を反復するとともに、移民や排外主義に関する新聞・雑誌などの記事に目を通し、グローバル化が地域に及ぼす影響について考えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通してグローバル化の進展を生活の場からとらえ、分析する視角を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

国際社会学、グローバル化、社会的排除、排外主義、排外意識、統合、多文化共生、ネーション、エスニシティ、労働移民、難民、高度技能移民、ディアスポラ、NGO、在日韓国・朝鮮人、日系ブラジル人

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』（ミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特になし。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など 40%、期末テスト 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
【必要な授業外学習について】
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 6回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 7回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（4）【全体主義と思考能力・前半】
- 10回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力・後半】
- 11回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 12回 古代世界の公共空間（1）【ホメロス】
- 13回 古代世界の公共空間（2）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（3）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（4）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...40% 学期末試験...60%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。
e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「15年戦争」史
- 3回 「中国革命」と日本の対応【山東出兵】【張作霖】
- 4回 満州事変【石原莞爾】【満蒙領有論】【関東軍】
- 5回 第一次上海事変と政党内閣の崩壊【朝鮮独立問題】【「満州国」】
- 6回 2・26事件と日中戦争への道【高橋是清】
- 7回 日中戦争【第二次上海事変】【ドイツ】【近衛文麿】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【ナチス・ドイツ】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【対米宣戦】【「最終的解決」】
- 10回 第二次世界大戦と三国同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】
- 12回 太平洋戦争1【真珠湾攻撃】【ミッドウェイ海戦】【東条英機】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】【サイパン島陥落】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。メモはこまめにとるように心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

可能性としての歴史【昼】

キーワード /Keywords

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師
杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			言語と認知
			LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 眼はどのように動いているか、それをどう測定するか (中溝)
- 第3回 文を読むとき、眼はどのように動いているのか (中溝)
- 第4回 言語活動時、脳のどこが働いているか (中溝)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか (言語習得) (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか (失語症・失文法) (漆原)
- 第7回 脳と心のなりたち (脳のはたらきを支配する遺伝子) (日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか (言語と遺伝子) (日高)
- 第9回 特別講義 (外部講師) : 2015年度実績 オノマトペ (大阪大学准教授 秋田 喜美氏)
- 第10回 概念と言葉 (概念におけるプロトタイプ効果など) (ストラック)
- 第11回 隠喩とは何か (隠喩論) (ストラック)
- 第12回 詩とほのめかし (アイコン性、phonaesthemesなど) (ストラック)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの (文法形式と意味の類像性) (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら (ことばと思考・言語相対論) (杉山)
- 第15回 まとめ : 担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員のレポートを提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
- 集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
- 事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
- 事後学習：担当教員ごとのレポートの提出

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共同体と身体との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	共同体と身体について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共同体と身体に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共同体と身体
			PHR210F

授業の概要 /Course Description

人間が自分（たち）の体について抱いている観念は、歴史や社会を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを社会哲学的な観点から考察する。継続的な受講により、共同体と身体との関係、さらには生活世界と自己との関係が総合的に理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業時にそのつど指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャの身体観 1【プラトン】
- 3回 古代ギリシャの身体観 2【ソポクレス】
- 4回 古代ギリシャの身体観 3【通時的概観】
- 5回 近代哲学における心身二元論の成立
- 6回 身体の変容と限界 1【夢と現実のあいだ】
- 7回 身体の変容と限界 2【変身する身体】
- 8回 身体の変容と限界 3【排除される身体】
- 9回 身体・家族・社会 1【精神分析的アプローチ】
- 10回 身体・家族・社会 2【脳科学的アプローチ】
- 11回 身体・家族・社会 3【シユレーパー症例】
- 12回 身体・家族・社会 4【差別される身体】
- 13回 身体の社会的統制 1【政治と規律】
- 14回 身体の社会的統制 2【統制される身体】
- 15回 身体の社会的統制 3【処罰される身体】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...100%

(不定期に授業内容に関わる作業をもらい、期末テストの評価点に反映させる場合がある。そのため、休めば休むほど点数が減っていく可能性があるので注意してほしい。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

共同体と身体 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。「生活世界の哲学」の単位を取得している場合は、本講義についていくことが比較的容易なはずである。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

心身二元論 身体像 精神病理 規律と監視

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。1年次ビジョン科目「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「日本の防衛」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「防衛セミナー」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

戦争論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
		教養基礎演習 I	GES101F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入れ、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 グループディスカッション(1)
- 2回 グループディスカッション(2)
- 3回 グループディスカッション(3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 野外活動とは？
- 9回 キャンプ実習についての講義(1) 安全性と有効性
- 10回 キャンプ実習についての講義(2) 野外炊飯
- 11回 キャンプ実習についての講義(3) テント設営
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習は別途実習費(約4000円)がかかりますので注意してください。
キャンプ実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【食物に含まれる分子と代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子でダイエットは可能か】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校である程度生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目（「生命と環境」や「人間と生命」）も合わせて受講するとより理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジュメ」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジュメを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジュメの内容...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジュメを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジュメを作成すること。
小林担当の「教養基礎演習II」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生・3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：

本演習では、1年生を対象に大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的な目標は、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。テキストは現代社会をあつかったテーマで、近年話題となった文庫を選ぶことが多いです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、自分で関連する文献をさらに探し、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者同士の議論を経て、より完成度の高いレポートの作成を目指します。

教科書 /Textbooks

岡本亮輔 2015 『聖地巡礼：世界遺産からアニメの舞台まで』中公新書（780円＋税）

本年度は現代社会の宗教性をテーマにした文庫を取り上げます。宗教と観光に興味があると、一層興味深く読むことができます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか（編）2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会（編）2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
 - ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業は必ず出席してください。
 - ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- 【授業外学習について】
- ・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集など、妥協せずに課題に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。
- ・ レポートの書き方を基礎から学びたい2年生以上の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 社会的なもの見方・考え方
- (2) 文献資料の調べ方
- (3) 質的調査の考え方とやり方
- (4) レポート・論文の書き方

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

『知的複眼思考法』、刈谷剛彦、講談社+α文庫、2002

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術 - 市民のための調査入門』、宮内泰介、岩波アクティブ新書、2004
『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応義塾大学出版会
その他、講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の紹介
- 第2回 創造的読書で思考力を鍛える - 『知的複眼思考法』(1)
- 第3回 考えるための作文技法 - 『知的複眼思考法』(2)
- 第4回 問いの立て方と展開の仕方 - 『知的複眼思考法』(3)
- 第5回 複眼思考を身につける - 『知的複眼思考法』(4)
- 第6回 自分の「問い」をたてる
- 第7回 情報を集める(1) - 図書館の利用
- 第8回 情報を集める(2) - Webサイトの利用
- 第9回 情報をまとめる(1) - ブレーンストーミング
- 第10回 情報をまとめる(2) - KJ法
- 第11回 自らの問いと方法を明確にする
- 第12回 質的調査の考え方
- 第13回 フィールドワーク
- 第14回 アクティブ・インタビュー
- 第15回 調査倫理について

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 40% レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告者は、レジユメを準備すること。

レジユメには、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を含めること(レジユメの作成方法については授業中に説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅰ
			GES101F

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力（対話・議論）、④知的好奇心の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子（2010）『水と緑と土 - 伝統を捨てた社会の行方-』中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：学習方法・レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：40%
最終レポート：60%

（※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。）

教養基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジユメを精読してのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジユメ・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途教養基礎演習「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
本年度は思想上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期はフロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教—進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

教養基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回時に受講者数調整を実施することがある。なお、本基礎演習に履修登録済みの2年生以上であっても、初回授業の欠席者は登録を抹消される可能性がある。人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることになりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、講義で概要を理解したうえで、文献、資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：発達障がいの世界1 (発達障がいとは)
- 第3回：発達障がいの世界2 (自閉症理解の歴史)
- 第4回：発達障がいの世界3 (支援法の基礎)
- 第5回：発達障がいの世界4 (応用行動分析的アプローチ)
- 第6回：発達障がいの世界5 (TEACCHプログラムのアプローチ)
- 第7回：発達障がいの世界6 (構造化)
- 第8回：発達障がいの世界7 (コミュニケーション指導法)
- 第9回：発達障がいの世界8 (行動問題への対応)
- 第10回：資料輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50%
議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自分自身を理解すること(1)
- 3回 自分自身を理解すること(2)
- 4回 自分自身を人に理解させること(1)
- 5回 自分自身を人に理解させること(2)
- 6回 人を理解すること(1)
- 7回 人を理解すること(2)
- 8回 スキー実習についての講義(1)(場所の選定)
- 9回 スキー実習についての講義(2)(スキーの安全性)
- 10回 スキー実習についての講義(3)(スキー技術)
- 11回 スキー実習についての講義(4)(スキー実習について)
- 12回 スキー実習の実施(1)
- 13回 スキー実習の実施(2)
- 14回 スキー実習の実施(3)
- 15回 スキー実習の実施(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(スキー実習への参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加ができない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たコミュニケーション能力やスキルを活用し、授業や実習で実践すること
スキー実習は別途実習費が必要です。
スキー実習は、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけではなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)【コミュニケーションを実践する】
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)【ホスピタリティを実践する】
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(1)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(2)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(3)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(4)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(5)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定回にスーツを着用しての受講となります。

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修（ホスピタリティ/サービス実践等）を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞とは何か】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療とその未来】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいは1学期までに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命と環境」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本政治外交史に関するゼミ・レポートを書いてもらう(400字×10枚以上)。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』(平凡社新書、2001年、700円)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。
なお、ゼミ・レポート未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習が始まる前に大学図書館を見学しておいて下さい。
授業開始前までに報告用レジユメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジユメや報告の改善に取り組むこと。
小林担当の「教養基礎演習I」とセットで履修することを希望します。
この演習は2年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習Ⅱ
			GES102F

授業の概要 /Course Description

社会的な視点と方法（特に質的調査）によって論文・レポートを書くことをめざす。
具体的には、以下のことについて学習・習得する。

- (1) 「質的調査」（インタビュー）の技法を身につける
 - ・ 質的調査と量的調査の違いを理解する。
 - ・ インタビューをするためには、どのようなことが必要なかを学ぶ。
 - ・ 調査倫理について理解する。
- (2) インタビュー（聞き取り調査）を通して自分の関心のあるテーマ・問いについてレポートを作成する。
 - ・ 自分が関心を持つできごと（社会現象）を設定し、「問い」をたてる。
 - ・ どのような方法で、その「問い」に「答え」が導き出せるか、考える。
 - ・ 資料やインタビューを通してレポートを作成する。

インタビュー調査実習（市内）を行う可能性がある。
演習形式で行うため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

教科書 /Textbooks

なし（適宜、資料を配付する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 谷富夫・芦田徹郎編著, 2009, 『よくわかる質的社会調査 技法編』, ミネルヴァ書房
- 谷富夫編, 2008, 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』, 世界思想社

教養基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「問い」をたてる
- 第3回 論証戦略を立てる(方法を考える)
- 第4回 情報を集める - 北九大図書館
- 第5回 情報を集める - CiNii、国立国会図書館(NDL-OPAC)、政府統計の総合窓口(e-Stat)、電子政府の総合窓口(e-Gov)
- 第6回 質的社会調査の考え方
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 インタビュー
- 第9回 ライフヒストリー分析
- 第10回 調査の企画
- 第11回 データの作成から論文の執筆まで
- 第12回 質的調査の応用
- 第13回 質的調査と調査倫理
- 第14回 インタビュー調査
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題(レポート)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

演習形式を基本とするので、報告者はレジユメを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分でデータをつくり、分析する楽しさを感じてください。

キーワード /Keywords

質的調査、インタビュー、調査倫理

教養基礎演習II 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

なぜ「生物多様性」を保つことが必要なのか、環境分野における基礎知識を充足させるとともに、「さとやま」が良好な地域資源として活用していくための社会づくり（社会制度の分析）について勉強する。
「さとやま」をキーワードとし、地域環境に関する課題をグループでディスカッションすることで、他者からの学びを行うとともに、地域社会が抱える根本的な課題を発見し、自立的に解決策を見つけ出すための考え方や思考方法を習得できるようにする。

教科書 /Textbooks

鷲谷いづみ（2011）『さとやま - 生物多様性と生態系模様 -』岩波書店（岩波ジュニア新書） ¥840 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回：文系における環境問題と生物多様性の視点について
- 第3回：テキストの輪読①
- 第4回：テキストの輪読②
- 第5回：テキストの輪読③
- 第6回：テキストの輪読④
- 第7回：テキストの輪読⑤
- 第8回：テキストの輪読⑥
- 第9回：テキストの輪読⑦
- 第10回：テキストの輪読⑧
- 第11回：テキストの輪読⑨
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会 + まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度（積極的発言、レジュメ作成の出来、態度） 50%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本授業は、履修者同士で教え合うスタイルである。
したがって、受け身の授業ではなく、学生が学生に教えるという「教育的視点」を持てるものが履修すること。
そのため、予め当該担当章の内容については、しっかりと精読した上で、自分の考えを確立したうえで、授業に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「生物多様性やさとやま」をキーワードとして、授業を進めていくが、生物学の知識は必要としない。
さとやまを保全・活用していくための社会制度や社会の仕組みについて、議論を行うのが中心である。

キーワード /Keywords

生物多様性、さとやま、農山漁村、過疎高齢化、持続可能な地域づくり

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

教養基礎演習Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等へ行き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、研修関連事項をよく復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

日本における高校教育までの段階では、欧米の学生であれば常識として知っている事柄（とくに人文的な教養）に触れる機会が著しく少ないため、海外の文献を読む際に理解が不十分になるケースが見受けられる。その面をサポートし、これから大学生として学んでゆくにあたって最低限必要と思われる基礎的な能力を身につけることが、本演習の目的である。
本年度は思想上の古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期はフロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17(1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

教養基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(予習・議論・発言の積極性)...50% 課題(レポート作成)...50%
(2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、同担当者による教養基礎演習Iの続きである。参加予定者には、1学期に読了している「幻想の未来」を読み直しておくことが求められる。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます(形式・内容については12月下旬に提示する予定)。この授業は2年生以上の先輩も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 II
			GES102F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについて、資料、文献を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜配布、指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜配布、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習Iの復習。
- 第3回：教養基礎演習Iの復習。
- 第4回：教養基礎演習Iの復習。
- 第5回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第6回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第7回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第8回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第9回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第10回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第11回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第12回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第13回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第14回：資料を輪読し、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養基礎演習II (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

伊野担当の教養基礎演習I (発達障がいセミナー) を履修済みであることが望ましい。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。
また、キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていききたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み(キャンプ実習の参加を義務付け) ... 80% レポート ... 20%
キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A1【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たリーダーシップスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教—進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習 A1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回時に受講者数調整を実施することがある。なお、本演習に履修登録済みの2年生以上であっても、初回授業の欠席者は登録を抹消される可能性がある。人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

AI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法(レジユメの作り方)
- (5) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野巨・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。「教養演習AI」「教養演習AII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

言語問題と多文化との共生について考える：

本演習では、多文化の共生に興味がある学生を対象とします。本年度は言語的な少数派との共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします（受講者の人数によっては、関心に応じて変更する場合があります）。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学び、自分で立てた問いに取り組むのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
(候補：松原好次ほか『言語と貧困』、杉野俊子ほか『言語と格差』など)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 本の読み方について（講義）
- 第3回 議論のしかたについて（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

教養演習 AI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業で受講者の関心を確認したうえで、読む文献を調整します。したがって履修を希望する場合は、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
- ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。

【授業外学習について】

輪読の準備や、レポートの準備だけでも最低限の時間が必要です。関連する文献にも積極的に目を通し、妥協せず取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「現代社会と文化」「政治のなかの文化」（または「異文化理解の基礎」）を履修済み、または履修中の学生は、理解が深まると思います。受講してなくても、このようなテーマに興味がある学生を歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、言語問題

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

小林担当の「教養演習 AII」とセットで履修することを希望します。

この演習は1年生、3年生との合同演習です。

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

また、本授業を履修した者を対象に、授業終了後の夏季休業期間中に3回の学外研修（バス）予定しており、それについては、別科目扱いとなるため、別途、教養演習A「II」のシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【食物に含まれる分子と代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子でダイエットは可能か】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」、「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいに関し、当事者の書いた文献資料を輪読しながら理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示、配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養基礎演習の復習。
- 第3回：教養基礎演習の復習。
- 第4回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第5回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第6回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第7回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第8回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第9回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第10回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第11回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第12回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第13回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第14回：資料の輪読、ディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
議論への参加度50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

伊野担当教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIを履修済みであることが望ましい。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々との協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習 AI 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 演習 /Class Format 演習 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力を身につけることに主眼をおく。さらに、身体活動を通して、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つける術について考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム (1)
- 3回 コミュニケーションゲーム (2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施 (1)
- 13回 スキー実習の実施 (2)
- 14回 スキー実習の実施 (3)
- 15回 スキー実習の実施 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得た企画力や実践力を、授業や実習で活用すること
スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習II(担当：徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞とは何か】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療とその未来】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 A II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①社会科教育法AまたはC，もしくは公民科教育法Aを受講していること、②社会科教育法BまたはD，もしくは公民科教育法Bを受講中であること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×20枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習運営方針に関する話し合い。
- 2～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに報告用レジューメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジューメや報告の改善に取り組むこと。毎週こつこつと原稿を作っておいて下さい。
小林担当の「教養演習 A I」とセットで履修することを希望します。
A Iを履修できない場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、3年生との合同演習です。
受講希望者が合計で11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

教養演習AⅠの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーⅠ(教養基礎演習Ⅰ、あるいは、教養演習AⅠ、教養演習BⅠ)を受講した者に限られる。「Ⅰ」を受講しないで、「Ⅱ」だけ受講することはできない。詳細は、「Ⅰ」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬～9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする（90分授業に換算し、15回分の時間）。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修（3時間）

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学（7時間30分）
バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）+現地での研修（5時間）

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学（5時間）
現地での研修（5時間）

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学（7時間30分）
バス内での講義・ビデオ鑑賞（2時間30分）+現地での研修（5時間）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class 2年 /2 Year クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習AI」「教養演習AII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

AII（2学期）では、まず、教養演習AIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。
 また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

AIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。
 なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習AII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート(論文)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
「教養演習AI」「教養演習AII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Class Format クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習 A II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

自閉症スペクトラムをはじめとする発達障がいについてあつかった映画、ドラマ、ドキュメンタリーなどとりあげ、それを素材として議論しながら、また、ボランティア活動などを通じて、発達障がいについての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：教養演習 A I 復習。
- 第3回：教養演習 A I 復習。
- 第4回：視聴およびディスカッション。
- 第5回：視聴およびディスカッション。
- 第6回：視聴およびディスカッション。
- 第7回：視聴およびディスカッション。
- 第8回：視聴およびディスカッション。
- 第9回：視聴およびディスカッション。
- 第10回：視聴およびディスカッション。
- 第11回：視聴およびディスカッション。
- 第12回：視聴およびディスカッション。
- 第13回：視聴およびディスカッション。
- 第14回：視聴およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションでの発言内容 50 %
ディスカッションへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 AII (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

途中、授業に代わりボランティア活動に参加する場合があるかもしれない。
受講者が多数の場合は、受講者調整を行う。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者調整する場合は、伊野担当の教養基礎演習 (発達障がいセミナー) I、IIおよび教養演習 (発達障がいセミナー) AII履修済みの学生を優先する。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、同担当者による 1 学期教養演習の続きである。参加予定者には、1 学期に読了している「幻想の未来」を読み直しておくことが求められる。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については12月下旬に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

本演習では、身体活動を通して、初めてあった人や知らない人同士でどうしたら自然に打ち解け、お互いに楽しみを共有できるかについて主眼をおく。そこで、学内での実習や学外での実習（キャンプ実習や地域の中高齢者を対象とした運動プログラム）を通して、教示の仕方や振る舞い方などでどのように楽しみを共有できるかについて考えていきたい。また、社会人に必要なマナーや振る舞いについても考えていく。キャンプ実習（教養基礎演習I）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リーダーとリーダーシップ
- 3回 安全性と有効性
- 4回 野外活動とは
- 5回 キャンプ実習の計画(1) リーダーとしての関わり
- 6回 キャンプ実習の計画(2) 安全性と有効性
- 7回 キャンプ実習の計画(3) プログラム作成
- 8回 キャンプ実習の計画(4) 野外炊飯
- 9回 キャンプ実習の計画(5) テント設営
- 10回 キャンプ実習の計画(6) グループゲーム
- 11回 キャンプ実習の計画(7) ネイチャーゲーム
- 12回 キャンプ実習の実施(1)
- 13回 キャンプ実習の実施(2)
- 14回 キャンプ実習の実施(3)
- 15回 キャンプ実習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（キャンプ実習の参加を義務付け） ... 80% レポート ... 20%
 キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得たリーダーシップスキルを活用し、授業や実習で実践すること
キャンプ実習については、別途参加費がかかります。(約4000円)。
キャンプ実習は、教養基礎演習I(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における研究の進歩は急速であり、難しそうに見える多くの用語はカタカナ用語（主として英語）である。そこで、本演習では「語源で学ぶ生命科学」を主たるテーマとし、カタカナ用語の由来とその意味を学ぶことによって、生命科学の基礎知識を身につけるとともに、これをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【食物に含まれる分子と代謝】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【遺伝子でダイエットは可能か】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第1回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

文献読解能力を訓練し、レジюме（梗概）の作り方、報告の仕方などを実地に学んでいく。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたい。

毎回、全受講者から「レジюме」（梗概）を提出してもらい、次週までに添削して返却します。「レジюме」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。この演習の目的は、レジюмеを作成することを通じて、専門的な文献を読む基礎になる読解力、内容を要約してまとめる力、プレゼンテーション能力などを涵養することにあります。受講者数にもよりますが、毎回1～5名程度の受講生に報告してもらいます。したがって、受講者が少ない場合には毎回報告してもらうことになります。意欲的な学生は大歓迎です。15回の演習で、一冊完読します。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告・レジюмеの内容...50%
無断欠席やレジюмеの未提出は、それぞれたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、テキストの該当ページを読んで、レジюмеを作成すること。授業終了後には演習での議論を踏まえて、次週のレジюмеを作成すること。

小林担当の「教養演習 AI・ AII」「教養演習 BII」とセットで履修することを希望します。

AI・ AIIを履修できなかった場合、事前に相談して下さい。

この演習は1年生、2年生との合同演習です。

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

言語問題と多文化との共生について考える：

本演習では、多文化の共生に興味がある学生を対象とします。本年度は言語的な少数派との共生に関する最近の文献を選び、購読し、報告、議論を行うことで、自身の問題関心を深めることを目的とします（受講者の人数によっては、関心に応じて変更する場合があります）。したがって、演習参加者には、輪読のテキストを批判的に読み、意見を述べるのが求められます。もちろん、専門用語については講義を適宜行うので、安心してください。ですが、知識を蓄えることが演習の目的ではありません。自分で知識を獲得する方法を学び、自分で立てた問いに取り組むのが演習です。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に合わせて、民族問題や多文化の共生に関する問題についての文献を1冊程度読む。第1回目の演習では、受講者に興味関心や受講動機を尋ねたうえで、テキストを決定するので、心の準備をしておくこと。
（候補：松原好次ほか『言語と貧困』、杉野俊子ほか『言語と格差』など）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：本演習の目的説明、テキスト決定
- 第2回 本の読み方について（講義）
- 第3回 議論のしかたについて（議論）
- 第4回 テキスト輪読と議論
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポートの書き方、問題関心の深め方について（講義）
- 第10回 テキスト輪読と議論
- 第11回 テキスト輪読と議論
- 第12回 テキスト輪読と議論
- 第13回 テキスト輪読と議論
- 第14回 レポート構想報告
- 第15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中の報告を含む授業態度50%、期末レポート50%、
- ・ 報告の無断欠席は厳しく減点します。

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業で受講者の関心を確認したうえで、読む文献を調整します。したがって履修を希望する場合は、第1回の授業に必ず出席してください。やむを得ない事情があるならば、メールで連絡をください。
 - ・ 単にテキストを読んで満足するだけでなく、各自でなんらかの研究関心を持ってください。学期末のレポートでは興味あるテーマについて論じることを求めます。
- 【授業外学習について】
輪読の準備や、レポートの準備だけでも最低限の時間が必要です。関連する文献にも積極的に目を通し、妥協せず取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「現代社会と文化」「政治のなかの文化」（または「異文化理解の基礎」）を履修済み、または履修中の学生は、理解が深まると思います。受講してなくても、このようなテーマに興味がある学生を歓迎します。

キーワード /Keywords

現代社会、文化、民族、言語問題

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ（少人数・対話型）として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っている能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

なお、本授業の履修者を対象に、3回の学外研修（夏季休業期間中にバスで陸海空自衛隊の見学を行う）を行う。これは、別科目の教養演習B「II」として実施するので、別途、そちらのシラバスを参照してください。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（戸蒔）
- 2回～14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文(レポート)を書くことをめざす。それゆえ「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

BI(1学期)では、まず、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略(実証方法の道筋)の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 論文(レポート)の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。

報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする(それを越える場合、受講者数調整をかけることがある)。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会
 - 『よくわかる質的社会調査-技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房
 - 『実証研究の手引き-調査と実験の進め方・まとめ方』、古谷野亘・長田久雄著、ワールドプランニング
- その他、適宜、紹介する。

教養演習BI【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「テーマ」について考える
- 第3回 「問い」を立てる
- 第4回 論証戦略を考える(方法を検討する)
- 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
- 第6回 情報を収集する2 - CiNii, 国立国会図書館 (NDL-OPAC)、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口 (e-Stat)、電子政府の総合窓口 (e-Gov)
- 第7回 論文検討会1
- 第8回 文献レビュー(テキスト批評)1
- 第9回 文献レビュー(テキスト批評)2
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評)3
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評)4
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評)5
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評)6
- 第14回 文献レビュー(テキスト批評)7
- 第15回 論文検討会2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% 課題...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論等を記したレジюмеを準備すること。「教養演習BI」「教養演習BII」の通年受講(1・2学期受講)が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BI【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習BI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習BI
			GES301F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：自閉症スペクトラムの理解（自閉症スペクトラム障害とは）。
- 第3回：自閉症スペクトラムの理解（原因と障害特性）。
- 第4回：自閉症スペクトラムの理解（療育・教育・支援方法の変遷）。
- 第5回：支援法の基礎（構造化）。
- 第6回：支援法の基礎（コミュニケーション）。
- 第7回：支援法の基礎（行動問題）。
- 第8回：支援の実践およびディスカッション。
- 第9回：支援の実践およびディスカッション。
- 第10回：支援の実践およびディスカッション。
- 第11回：支援の実践およびディスカッション。
- 第12回：支援の実践およびディスカッション。
- 第13回：支援の実践およびディスカッション。
- 第14回：支援の実践およびディスカッション。
- 第15回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50%
議論への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BI(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)I、IIおよび教養演習(発達障がいセミナー)AI、AII履修済みの学生を優先する。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。1学期は、フロイトの素晴らしい宗教論「幻想の未来」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- テリー・イーグルトン『宗教とは何か』（大橋洋一・小林久美子訳）青土社
- ダニエル・C・デネット『解明される宗教—進化論的アプローチ』（阿部文彦訳）青土社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスI (演習でのルール、成績評価法の説明)
- 2回 ガイダンスII (対象となるテキスト、著者の紹介)
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習BI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参加者全員ができるだけ多くの発言機会を得られるよう、授業初回時に受講者数調整を実施することがある。なお、本演習に履修登録済みの3年生・4年生であっても、初回授業の欠席者は登録を抹消される可能性がある。人数調整に際しては、〈友人と一緒に参加するのではなく、たった一人で参加する意欲のある者〉をとくに尊重したい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については7月初頭に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター, 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

本演習では、学内や学外での実習（スキー実習や地域の健康増進プログラムなど）を通して、自分自身を理解する能力、そして人に自分を理解させる能力はもちろんのこと社会人として必要なマナー（振る舞いなど）を身につけることに主眼をおく。さらに、初めてあった人や普段話したことがない人の良いところを見つけるためにはどうしたらよいかを見つけるスキルについて考えていく。
また、スキー実習（教養基礎演習II）のリーダーとして、他人と協調することや、新たな自己発見、自己開示能力についても養っていきたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションゲーム (1)
- 3回 コミュニケーションゲーム (2)
- 4回 地域における健康ニーズ
- 5回 健康と体力
- 6回 地域住民に必要な体力とは
- 7回 健康増進プログラムの計画 (2) 安全性と有効性
- 8回 健康増進プログラムの計画 (3) プログラム作成
- 9回 スキー実習の計画 (1) 野外活動の意義
- 10回 スキー実習の計画 (2) 安全性と有効性
- 11回 スキー実習の計画 (3) プログラム作成
- 12回 スキー実習の実施 (1)
- 13回 スキー実習の実施 (2)
- 14回 スキー実習の実施 (3)
- 15回 スキー実習の実施 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み（スキー実習への参加を義務） ... 80% レポート ... 20%
スキー実習に参加できない学生については単位認定ができませんので注意してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業で得た企画力や実践力を、授業や実習で活用すること
スキー実習については、別途参加費がかかります。
スキー実習は、教養基礎演習Ⅱ(担当:徳永、高西)と同時期に実施します。なお、天候等により実習を実施できない場合は、学内での講義に振り替えます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

生命科学は生物を対象とした基礎研究にとどまらず、医療・食・健康・環境など社会のさまざまな場面に浸透している。しかしながら、この分野における進歩は急速であり、一般には知られていないが、意味が正確に理解されていない用語も多い。本演習では「ニュースの中の生命科学」を主たるテーマとし、新聞記事などから対象となるトピック・用語を探し出し、生物学的な背景や用語の意味を学ぶと同時に、それをわかりやすく説明するプレゼン力を身につける。また簡単な実験を行うことによって、科学的なものの見方や考え方を身につける。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学入門 東京大学生命科学教科書編集委員会 2940円 羊土社 (2011年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 基本的事項の確認 (1) 【細胞とは何か】
- 3回 基本的事項の確認 (2) 【再生医療とその未来】
- 4回 基本的事項の確認・テーマの決定
- 5回 グループによるプレゼンテーションの準備 (1)
- 6回 グループによるプレゼンテーションの準備 (2)
- 7回 グループによるプレゼンテーション
- 8回～9回 DNAに関する実験 (学期内のいずれかの土曜日午後実施)
- 10回 個人によるプレゼンテーションの準備
- 11回 個人によるプレゼンテーション (1)
- 12回 個人によるプレゼンテーション (2)
- 13回 関連映画鑑賞
- 14回 質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 10%、発表 60%、期末レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習 B II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校あるいはこれまでに生物を学んでいることが望ましい。
- ・ 希望者が多い場合は受講者数の調整を行うので、第 1 回目には必ず出席すること。
- ・ 授業外においてもプレゼンテーションに向けて準備を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物に関連したテーマを自分で選び、自分で調べ、発表する演習です。自分のレベルに合わせて楽しみましょう。
さらに学びたい者は関連科目「生命科学と社会」「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

教養演習B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

ゼミ論文をかいてもらう（400字×30枚以上）。受講者数にもよるが、毎回学生諸君に自分の研究テーマについて報告してもらい、それについての議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』（平凡社新書、2001年）700円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習運営方針に関する話し合い。
第2回～14回 各自の研究報告（同時並行的に論文執筆）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 課題...50%
無断欠席はたった一回でも「D」評価となりますので注意して下さい。なお、ゼミ論文未提出は「D」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに報告用レジューメを作成しておくこと。授業終了後には演習での討論を踏まえて、レジューメや報告の改善に取り組むこと。毎週、こつこつと原稿を書いておいて下さい。
小林担当の「教養演習AI・AII」「教養演習BI」とセットで履修することを希望します。
以上の科目を履修できなかった場合には、事前に相談して下さい。
この演習は1年生、2年生との合同演習です。受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習B II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

教養演習B Iの受講者を対象に、講義で学んだ防衛問題の知識を補完するため、バスで学外の自衛隊基地等に赴き、施設見学、訓練見学、講話の聴講を行う。内容は、以下の通り。

- ①この科目を受講できるのは、防衛セミナーI(教養基礎演習I、あるいは、教養演習AI、教養演習BI)を受講した者に限られる。「I」を受講しないで、「II」だけ受講することはできない。詳細は、「I」で説明するので、希望者は必ず初回授業に出席すること。
- ②研修は、夏季休業期間中(8月中下旬~9月上旬)にかけて、3回実施する。3回の日程は、現在未定であり、別途指示する。陸上自衛隊駐屯地、航空自衛隊基地、海上自衛隊基地まで、大学からチャーターしたバスで移動し、そこで研修を行い、大学で解散する。よって、交通費等はかからない。ただし、昼食は、隊員食堂で体験喫食を行うことを予定しており、その分の費用は集金する(500円程度+αのみかかります)。
- ③バスの定員の関係から、受講者は50名を最大とする。希望者が50名を超える場合、抽選を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

防衛白書

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は、「I」の初回授業時のガイダンスで説明する。

計3回の学外研修時間の総計は、23時間以上とする(90分授業に換算し、15回分の時間)。詳細は、計画確定時に説明する。目安としては、以下のような行程となる。

例

学内事前研修(3時間)

第1回研修 海上自衛隊・佐世保基地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

第2回研修 航空自衛隊・築城基地見学(5時間)
現地での研修(5時間)

第3回研修 陸上自衛隊・健軍駐屯地見学(7時間30分)
バス内での講義・ビデオ鑑賞(2時間30分)+現地での研修(5時間)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%+レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

かならず、「I」の初回授業に出席すること。

「I」を履修後、研修が始まるまでの期間に、「I」の研修関連事項をよく復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この演習では、1年を通して、各自が自分の関心に従って、社会学的な視点・方法によってレポート（論文）を書くことをめざす。したがって、「教養演習BI」「教養演習BII」の通年（1学期・2学期）受講が望ましい。

BII（2学期）では、まず、教養演習BIで各自がたてた「問い」について「論文執筆計画書」を書く。さらに、その「計画書」中の「文献リスト」をもとに、各回2名ずつ、関連文献について内容報告（テキスト批評）をしてもらい、議論を行う。なお、1～2ヶ月に1度くらいの割合で、論文について進捗状況の報告会を行う。

また、必要に応じて、量的方法（アンケート調査など）、質的方法（インタビューなど）についても説明する。

BIと同様、報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかける）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「論文執筆計画書」の報告
- 第2回 文献レビュー（テキスト批評）1
- 第3回 文献レビュー（テキスト批評）2
- 第4回 文献レビュー（テキスト批評）3
- 第5回 文献レビュー（テキスト批評）4
- 第6回 論文検討会3
- 第7回 調査法の検討1
- 第8回 調査法の検討2
- 第9回 文献レビュー（テキスト批評）5
- 第10回 文献レビュー（テキスト批評）6
- 第11回 論文検討会4
- 第12回 文献レビュー（テキスト批評）7
- 第13回 文献レビュー（テキスト批評）8
- 第14回 レポート報告会
- 第15回 まとめ

教養演習BII【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% レポート・論文...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点整理、(4)議論を記したレジюмеを準備すること。
「教養演習BI」「教養演習BII」の通年(1学期・2学期)受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

すべての「大学生」として欠かすことのできない人文的教養の育成を目的として、古典的な基本文献を一冊セレクトし、それを全員で読み進めていく。2学期は、フロイトによる挑発的な文化論「文化への不満」を読む。この演習を通して、人生全般に対する甘い幻想を捨て去り、多少ともシニカルで批判的な大人の思考力を身につけることができるようになれば、それで目的を達成したことになる。

教科書 /Textbooks

フロイト『幻想の未来 / 文化への不満』（中山元訳）光文社古典新訳文庫、2007年、760円。
（※翻訳は他にも数種あるが、本演習ではこのテキストを使用するので、必ず各自で用意しておくこと。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小此木啓吾『フロイト』講談社
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社
- 『フロイト著作集3』人文書院
- 『フロイト全集17 (1919-22年)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 1学期の復習と内容確認
- 3回 読解と議論I
- 4回 読解と議論II
- 5回 読解と議論III
- 6回 読解と議論IV
- 7回 読解と議論V
- 8回 読解と議論VI
- 9回 読解と議論VII
- 10回 読解と議論VIII
- 11回 読解と議論IX
- 12回 読解と議論X
- 13回 補助学習I
- 14回 補助学習II
- 15回 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（予習・議論・発言の積極性）...50% 課題（レポート作成）...50%
（2回以上無断欠席をした場合は、参加の意志がないものとみなし、自動的に不合格判定となる。また、たとえ全15回出席していたとしても、レポートを提出しなかった者に単位は認めない。）

教養演習 B II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習は、同担当者による 1 学期教養演習の続きである。参加予定者には、1 学期に読了している「幻想の未来」を読み直しておくことが求められる。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、テキストの該当する頁を読んで予習をしておくこと。授業の後は、読了した頁の復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習では、発言と議論を通じたコミュニケーション意欲が求められると同時に、指定のテーマに沿ったレポートが最後に課せられます（形式・内容については12月下旬に提示する予定）。この授業は他学年の学生も参加する合同演習です。継続的に出席できない方は、他の参加者に迷惑をかけることとなりますので、ご遠慮ください。

キーワード /Keywords

教養演習 B II (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

発達障がい、特に自閉症スペクトラム当事者の支援に将来的に関わっていく学生に対し、個別に支援方法を指導する。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回：オリエンテーション。
- 第 2 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 3 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 4 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 5 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 6 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 7 回：支援法に関する文献輪読。
- 第 8 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 9 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 10 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 11 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 12 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 13 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 14 回：支援の実践およびディスカッション。
- 第 15 回：まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

支援法の理解度 50 %
報告内容 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教養演習BⅡ(発達障がいセミナー)【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業に代えてボランティア活動等に参加する場合があるかもしれない。
受講者調整を科す。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者調整の場合、伊野担当教養基礎演習(発達障がいセミナー)Ⅰ、Ⅱおよび教養演習(発達障がいセミナー)AⅠ、AⅡ、BⅠ履修済みの学生を優先する。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する。

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目的とします。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動を実施し、かつその報告、振り返りを行うことで、書物などだけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本基礎演習は、地域共生教育センターでの実習となります。センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、そのミーティングや資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでもらうことを期待します。

教養演習BⅡ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
また、地域での活動も多くありますので、授業時間以外にも多くのタスクが存在します。
ただ、忙しくて大変である半面、仲間とともにセンターで活動することは、教室で学ぶこと以上の知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421lab.)に来て、学生スタッフから話を聞いてみてください。
また、421lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中学校教諭一種免許状（社会）や高等学校教諭一種免許状（公民）の取得を目指し、4年次に教育実習に行きたいと考えている学生のために、開講します。
教育実習において、実習生は、実習先の学校で少なくとも数度の授業を担当することになります。塾などで実践経験を積み、自信满满で教育実習に臨む実習生もいるでしょうが、おそらく実習生の多くは、模擬授業を経験する十分な機会にも恵まれないまま、不安な気持ちを抱えながら、教育実習に臨むことになっているのではないのでしょうか。このクラスは、そのような不安を少しでも軽減するために、学習指導要領に対する理解を深めるとともに、模擬授業の実践と相互観察を通じ、受講生のティーチングスキルの向上を図ることを目的としています。
なおこのクラスでは、高等学校における「現代社会」の授業を題材にして、授業を展開していくこととします。

教科書 /Textbooks

高等学校学習指導要領 解説（公民編）
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2010/09/07/1282000_4_1.pdf

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書は、初回の授業時に、紹介します。
また授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く① pp.6-19
- 第3回 高等学校学習指導要領 解説（公民編：現代社会）を読み解く② pp.20-22, 59-61, 62-63
- 第4回 学習指導案の作成①【単元】【目標】【指導計画】【指導上の立場】
- 第5回 学習指導案の作成②【本時案の位置づけ・目標】【導入・展開・まとめ】【学習内容・学習活動】
- 第6回 学習指導案の発表と相互検討
- 第7回 模擬授業における相互観察のポイント【授業構成】【説明】【発問・指示】【板書】【レジュメ】
- 第8回 模擬授業と相互観察①：範囲「人権、国家主権、領土に関する国際法の意義」
- 第9回 模擬授業と相互観察②：範囲「人種・民族問題」
- 第10回 模擬授業と相互観察③：範囲「核兵器と軍縮問題」
- 第11回 模擬授業と相互観察④：範囲「我が国の安全保障と防衛および国際貢献」
- 第12回 模擬授業と相互観察⑤：範囲「南北問題など国際社会における貧困や格差」
- 第13回 模擬授業と相互観察⑥：範囲「国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割」
- 第14回 模擬授業と相互観察⑦：範囲「男女が共同して社会に参画することの重要性」
- 第15回 まとめ

教養演習 B II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、課題・模擬授業などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）によって総合的に評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学習指導案の作成や模擬授業の準備等、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。

受講申請にあたってはこの点に注意してください。

①教育実習 1 を受講中であること、②社会科教育法ないしは公民科教育法をセットで受講していること、を受講の条件とします。

なお最大でも10人程度を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教員を目指す人、自分の夢に向かって、自分の力を磨いてください。

キーワード /Keywords

【公民】【現代社会】【学習指導要領】【教材研究】【学習指導案】【模擬授業】【相互観察】

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅と自然
- 第10講 山村暮らしと故郷
- 第11講 山と森の自然観
- 第12講 竹の産業史
- 第13講 竹の文化
- 第14講 木の文化
- 第15講 第9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。
授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地球史を学ぶことを通じて地球と人間とのあるべき関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地球と人間について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地球と人間に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			地球の生いたち	GOL001F

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、まず最初に現在の地球の構成としくみについて講義する。さらに、水の惑星地球の起源とその後の変遷史、特に地球生命の変遷史について、古い時代から順番に概説していく。授業の最後には、人類の起源と進化、人間圏の成立と地球環境問題等について概説し、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』（日本放送協会）、1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』（岩波書店）、861円
田近英一著「地球環境46億年の大変動史」（化学同人）、1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目：生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目：生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目：地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目：地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目：先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目：生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目：生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目：顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目：繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目：顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目：繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目：顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目：人間圏の成立と地球環境問題【人類と地球環境】
- 15回目：まとめと演習

地球の生いたち【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：90%，ミニレポート：10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球のしくみと地球史を学ぶ事を通して、地球と人間とのあるべき関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球のしくみ，地球史，生命と地球の共進化

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 北九州市立自然史・歴史博物館、基盤教育センター 日高京子

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然史へのいざない
			BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地であり、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している博物館を、まずみなさんに知ってもらうことがこの授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的に行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができます。よりグローバルな視点から自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各学芸員が担当する講義のテーマは下記の通りです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員名）。

- 1回 ガイダンス
- 2回 自然史博物館見学（1）ー博物館を楽しもう
- 3回 植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋） 【食物連鎖】【共生】
- 4回 アンモナイトの古生物学（御前） 【化石】【進化】【古生態】
- 5回 鳥類の絶滅危惧と生物多様性の保全（武石） 【絶滅危惧】【多様性の保全】
- 6回 石の音が聞こえる（森） 【岩石の模様・構造】【大地のダイナミクス】
- 7回 化石記録が物語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田） 【化石の有用性】【生命史】
- 8回 骨から知る脊椎動物進化（大橋） 【系統進化】【形態と機能】【恐竜】
- 9回 化石が語る魚類の進化（藪本） 【魚類化石】
- 10回 深海生物ーその形と適応的意義（下村） 【深海】
- 11回 昆虫の多様性と進化（菱島） 【分類】【学名】
- 12回 二次的自然と哺乳類（馬場） 【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- 13回 タイトル未定 【進化のしくみ】
- 14回 自然史博物館見学（2）ー課題研究
- 15回 まとめ

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ：<http://www.kmnh.jp/>
講義タイトルおよび順序は変更になることがあります。

自然史へのいざない【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 学芸員による講義のうち、7回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 2回の博物館見学は原則必須とする。
- ・ 授業への参加（授業中の課題または小テスト含む）40%、期末レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 1回目の博物館見学は10月9日（日）、2回目は12月～1月に各自で自由見学。
- ・ 博物館までの交通費および入館料は自己負担とする。
- ・ 授業開始前に各回のキーワードについて自分で調べておくこと。
- ・ 授業後は配布資料に沿って復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 秋貞 英雄 / Akisada Hideo / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	基礎的な化学知識と身近な問題との関わりを理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	基礎的な化学知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な化学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		くらしと化学	
		CHM001F	

授業の概要 /Course Description

化学物質とその物性は自然を豊かにし、生活を豊かにし、未来社会を展望するのに必要です。また、現代社会は、科学技術の社会生活分野への適用を科学・技術者の判断に任せられないほど、多様化複雑化しています。地球環境汚染など否定的現象やエセ科学を利用した詐欺的商法もあります。それゆえ、市民は其中で、身近な問題での科学・技術情報への一定の興味とその開放を必要としています。同時に、得られた情報を正しく理解するための、基礎的な化学知識を理解することが必要とされます。そのために、基礎的な化学知識を学習します。その知識を基に、化学と身近な問題の関わりを認識し、化学への興味、関心を深め、それによる生活や環境に対する分析・理解能力を高めることがこの授業のねらいです。

物質（原子・分子）の構造や物性に関する基礎知識、重要な物性である物質三態（気・液・固）や物性と分子構造が自然現象とどう関わるかを学習します。物質の三態で説明できないコロイドという現象も説明します。さらに化学物質（無機物、有機物）と身近な現象や材料との関わりを、生活に必要な生物物質（糖、脂質、タンパク質、核酸など）とそれらを含む食品、薬とその作用、環境問題はそれに影響する物質、放射能および地球温暖化に関連した事項に絞って解説をします。

教科書 /Textbooks

「あなたと化学」 - くらしを支える化学15講一
著者：齋藤勝裕 著
出版社：裳華房
定価2160円（本体2000円＋税8%） / 2015年9月発行
ISBN 978-4-7853-3505-2 C3043

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「逆説・化学物質 - あなたの常識に挑戦する」 John Emsley著、渡辺正訳（丸善）2200円、ISBN 978-4-621-04227-4
「ゼロからはじめる化学」 立屋敷 哲著(丸善) ¥2200+税 ISBN978-4-621-08016-0 演習用として
○「沈黙の春」 R. Carson著、青木 梁一訳（新潮社）
○「奪われし未来」 T. Colbon, D. Dumanoski, P. Myers著、長尾 力著（翔泳社）

くらしと化学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 1章 原子と分子が全てをつくる - 原子の構造と化学結合 -
- 2) 2章 私たちは空気で囲まれている - 気体の状態と性質 -
PV=nRTから言えること、気体の種類
- 3) 3章 地球は水の惑星 - 水の特性と物質の状態 -
液体・固体とは、水は特殊な物質
- 4) 3章補足 プリント(+14章一部) 界面とコロイド・ゲル(分子とマクロ物質の境界領域で)。
- 5) 5章 元素の80%は金属元素 - 金属の多彩な性質 -
補足: 無機化合物、ガラス、コンクリート
- 6) 4章、12章: 酸・塩基、酸化・還元 - 電池
- 7) 4章、12章: 4章 炭が燃えると熱くなる - 化学反応とエネルギー変化 -
12章 電気ってなんだろう? - 発光と化学エネルギー -
- 8) 6章 有機物は炭素でできている - 有機化学超入門 -
化学構造と物性、有機化合物の分類
- 9) 11章 プラスチックってなんだろう? - 高分子の化学 -
- 10) 7章 生命体をつくるもの - 生体分子の世界 -
糖、脂質、タンパク質、核酸
- 11) 9章、10章: 9章 私たちの食べているもの - 食品の化学 -
10章 毒と薬は同じもの? - 医薬品と毒物の化学 -
- 12) 8章 シャボン玉のふしぎ - 分子膜のはたらき -
- 13) 13章 原子力と電力の関係って? - 原子力と放射線の化学 -
- 14) 15章 環境は化学で成り立っている - 化学からみた地球環境 -
- 15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容の基礎的な理解を確認する簡単レポート(演習、質問など)20%、期末試験80%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校の理科、化学の教科書があると望ましい(手引き代わり)。教科書外の内容も講義する。補足資料(プリント)を必ず受け取る(翌週も配る)。ノートはきちんととること。やむを得ない欠席時はノート模写をしておくが良い。教科書は事前事後どちらでもよいが目を通して置く。ただ事前の方が、授業への興味が持ちやすい。事後学習としては、ノートの整理、重要事項の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞、雑誌、放送機関、インターネット等の科学情報に関心を持ち、質問するような姿勢が好ましい。質問には即答できないときは後日に答えるようにします。

キーワード /Keywords

基礎化学、生活の化学、環境の化学、気体、液体、固体、コロイド、表面、酸、塩基、電池、化学反応

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられています。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、グループワーク等を通じて体験し、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。必要に応じてハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス、グループ分け
2. 自己紹介、聴くスキル
3. 集団討議 (グループワーク)
4. 集団の心理
5. 伝えるスキル1「メンタルモデル・わかりやすい説明」
6. 伝えるスキル2「アサーション、S-BAR」
7. 集団討議 (グループワーク)
8. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成
10. レポート・ポスター作成
11. レポート・ポスター作成
12. ポスターツアー1
13. ポスターツアー2
14. ポスターツアー3
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点 (減算式)】
※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作り上げるものです。詳細は講義中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目です。
課題レポートおよびポスター作成のために、グループごとに時間外での調べ学習や打ち合わせなどの時間外学習が必須となります。

以下のルールに反した場合、平常点を減算とします。単純な欠席は平常点の減算対象となりません。

1. 私語，内職，意図的な睡眠 → 5点マイナス
2. グループワークやレポート作成に参加しない → 40点マイナス
3. グループミニレポートを提出しない場合，あるいは白紙であった場合 → グループ全員5点マイナス

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は、学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し、その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方/スケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

キーワード /Keywords

認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	ENW001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 2014年 900円+税
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～ (法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然・生態系 (外部講師)
- 4回 北九州における環境政策 (外部講師)
- 5回 環境ビジネスとエコタウン事業 (マネジメント研究科・松永)
- 6・7回 施設見学～環境ミュージアム等
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス (外部講師)
- 9回 環境問題と市民の関わり (外部講師)
- 10回 北九州の環境経済 (経済学部・牛房)
- 11回 環境首都検定に向けて (外部講師)
- 12回 小テスト (日高)
- 13回 環境問題と企業の取り組み (外部講師)
- 14回 環境問題に関するシンポジウム (外部講師)
- 15回 学生による環境問題への取り組み (421Lab・村江)

成績評価の方法 /Assessment Method

10回の講義のうち、8回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
環境首都検定の成績 (30%)、小テスト (30%)、見学レポート (20%)、授業への参加・授業中の課題など (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境都市としての北九州 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ エコタウンは平日にしか見学できないため、9月30日(金)午後を実施する。自由参加だが事前に申込が必要なので掲示物に注意すること。
 - ・ 環境ミュージアム見学は11月27日(日)午後の予定。原則必須。
 - ・ 環境首都検定は北九州市が実施するもので12月11日(日)の予定。原則必須。
 - ・ 授業前、授業後に関連箇所を参考書にてチェックすること。
- * スケジュールは変更の可能性もある。授業スケジュールについては第1回目ガイダンス時に配布する予定。
* 環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を作るため、環境について一緒に勉強しましょう。
本講義は副専攻「環境ESD」のコア科目です。

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	宗教全般および日本の宗教に関する基本的知識を身につけ、総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	宗教全般および日本の宗教について総合的に分析し、自立的に理解を深めることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	宗教全般および日本の宗教に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			私たちと宗教
			PHR006F

授業の概要 /Course Description

日本の宗教事情を念頭におきながら、世界の代表的な諸宗教について講義する。毎回、前半はスライド（パワーポイント）で総覧し、後半はこれに対応するテキストを読みこむ形式ですすめる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回、テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。ただし、高校時代に用いた「世界史年表」と「世界史地図」はおおいに役立つので、手元においておきたい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) はじめに 宗教の種類
- 2) 日本の神々
- 3) 世界の神々
- 4) 日本の宗教 神道
- 5) 中国の宗教 儒教と道教
- 6) インドの宗教 ヒンドゥー教
- 7) 仏教(1) 初期仏教から中国仏教まで
- 8) 仏教(2) 日本の仏教
- 9) ユダヤ教(1) 律法と預言
- 10) ユダヤ教(2) 流浪と迫害
- 11) キリスト教(1) イエスとパウロ
- 12) キリスト教(2) 宗教改革以後
- 13) イスラム(1) 預言者ムハンマド
- 14) イスラム(2) イスラムと近代
- 15) おわりに 現代社会と宗教

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- とくに予備知識は必要ないが、おしまいまでついてゆくには熱意が必要である。
なお次の点に注意のこと。
- 1) 講義前には、講義に集中するための心の準備をしっかりとすること。
 - 2) 講義後には、配付資料を熟読し、ポイントをつかむよう努めること。

私たちと宗教 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語はひかえる。

キーワード /Keywords

世界の宗教 行為とコトバ 人生観 死生観 宗教・法・国家

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の人間と思想との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の思想について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の思想に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			思想と現代
			PHR004F

授業の概要 /Course Description

サブタイトルを「教養としてのユダヤ思想」と題し、主に19世紀末から20世紀にかけて登場したエポックメイキングなユダヤ文化と思想との関わりを紹介する。まずは「ユダヤ人」という存在に対する、フェアで中立的な考え方を身に付けてもらうべく、その来歴と特徴について詳しく解説した後、心理療法・文学・倫理・映画などのジャンルで革新的な業績を残した現代ユダヤ人について、若干の作品分析を通しながらユダヤ性の広がりや豊かさを確認する。以上の考察をヒントにしつつ、最終的には現代の人間と思想との関係について複眼的な思索を可能にすることが、本授業の狙いである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 沼野充義編『ユダヤ学のすべて』、新書館、2009年。
 - 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』、講談社現代新書、2002年。
- その他の基本文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 ユダヤ人の原点【概説】
- 3回 ユダヤ人の歴史(1)【民族の起源】
- 4回 ユダヤ人の歴史(2)【古代から中世へ】
- 5回 ユダヤ人の歴史(3)【中世から近代へ】
- 6回 ユダヤ人の歴史(4)【近代から現代へ】
- 7回 中間総括(確認テストの実施)
- 8回 精神分析の思想(1)【概説】
- 9回 精神分析の思想(2)【一神教の精神】
- 10回 文学の思想(1)【カフカ】
- 11回 文学の思想(2)【アウシュヴィッツ以後】
- 12回 心理療法の思想【フロイト】
- 13回 倫理の思想【ユダヤ】
- 14回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・前半】
- 15回 映画の思想【ハリウッドとユダヤ人・後半】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 40% 期末テスト... 60%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めない。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。本授業には一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と表象の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象について課題を発見し、分析・解決することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	表象についての課題に向かい合い、その課題を解決するための学びを継続する態度を身につけている。
	コミュニケーション力		
			文化と表象
			MCC001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明をおこなう。その後イメージとしての〈日本〉について歴史的視点から多様な素材を用いて言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 【表象の歴史的追尾】 イメージとしての〈日本〉①【風刺画】
- 4回 イメージとしての〈日本〉②【オリエンタリズム】
- 5回 イメージとしての〈日本〉③【演劇】
- 6回 イメージとしての〈日本〉④【映画】
- 7回 イメージとしての〈日本〉⑤【CM】
- 8回 イメージとしての〈日本〉⑥【オリンピック】
- 9回 イメージとしての〈日本〉⑦まとめ
- 10回 【特別講義】
- 11回 【表象分析事始め】 映画を事例として①【活字から映像へ】
- 12回 映画を事例として②【原作とテーマ設定】
- 13回 映画を事例として③【作り手の複数性】
- 14回 映画を事例として④まとめ
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（課題・コメントカードなど） ... 25% 期末レポート ... 75%
平常点は課題、コメントカードなどによって評価される。小テストをおこなう場合あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められる。それゆえに、緊張感をもった態度で受講してほしい。授業時間外では、授業で取り上げたトピックについての情報収集をまめにおこない、それを授業時間内でのコメントカード執筆に活かしてほしい。単位取得のためには、期末レポートにおいて十分な準備が要求されるので、受講においては積極的な姿勢が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師
 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語とコミュニケーションに関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語とコミュニケーションに関する課題を発見し、言語学・心理学・コミュニケーション論などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語とコミュニケーションに関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語とコミュニケーション	LIN001F

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなのでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのにはなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序：「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第5回 機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第6回 外部講師による特別講義(予定)
- 第7回 語用論(山崎)
- 第8回 ことばと文化(山崎)
- 第9回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第10回 会話の規則(平野)
- 第11回 日本語の方言(平野)
- 第12回 ことばのバリエーション(平野)
- 第13回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第14回 グローバル化とコミュニケーション(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

言語とコミュニケーション 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。
集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
事前学習：担当教員またはコーディネーターが指示する文献の講読
事後学習：それぞれの教員のレポートの提出

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Mataka / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認する。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、表現の原動力となるものを考察し、現代社会との関係、影響力を探っていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」 著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「20世紀末・日本の美術—それぞれの作家の視点から」 編著・中村ケンゴ アートダイバー 2015

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者
2. ポルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. 寺山修司 劇的想像力について
4. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
5. フランク・ステラ ミニマル/マキシマル
6. 高松次郎 不在を追いかけて
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. ウォールター・デ・マリア わたしに電話をください
9. アネット・メッサジエ 聖と俗のメッセンジャー
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 藤本由紀夫 環境と音とアート
12. 奈良美智 コドモの領分
13. 山口啓介 原発に抗する
14. ヤノベケンジ 失われた遊園地
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(2回)・・・ 50%
- 日常の授業への取り組み・・・ 10%
- レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業外学習

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前に、当該回にあつてはテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、極めて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたいと思います。

本講義では、まず、民主主義の基礎的知識として、民主主義を歴史的に考察してみます。次に、民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、民主主義の理論として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1989年の「東欧革命」、1968年の「青年の反乱」、1938年の日独青少年の交歓事業を取りあげ、民主化と反民主化について考察します。制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較し、民主主義の制度化について考察すると同時に、議会制民主主義の諸問題や首相公選制などについても考察します。そして、こうした3つのレベルでの民主主義の考察を通じて、民主主義の「新しい可能性」について検討してみましょう。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンス他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「授業計画・内容」としては、下記の通りです。
- 第1回 はじめに・・・グローバル化と民主主義
 - 第2回 「デモス」と「クラティア」について
 - 第3回 二つの民主主義伝統について
 - 第4回 近代市民革命と自由民主主義について
 - 第5回 現代民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
 - 第6回 現代民主主義の理論の比較・・・参加民主主義論、共生の民主主義論
 - 第7回 現代民主主義の理論の比較・・・熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
 - 第8回 まとめのグループ討論、グループ発表
 - 第9回 民主主義の運動（組織）について・・・1989年の東欧革命、1968年の「青年の反乱」の日独比較
 - 第10回 民主主義の運動（組織）について・・・1938年の日独青少年交歓事業について
 - 第11回 民主主義の制度について・・・議院内閣制と大統領制の比較
 - 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
 - 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
 - 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
 - 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート（任意）	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。毎回、講義のレジュメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらおうという、「まとめ」を行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方や概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。

授業では、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバー、E.フロムなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。

また、現代社会における論争的なトピックを社会的に考えていく。とりあげるトピックは、社会的排除と貧困、グローバル化と排外主義等を予定している。（授業進捗の関係で、取り上げるトピックは1つになることもある。）

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1 【集合意識と行為】
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2 【社会規範と自殺 - 自己本位的自殺】
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - デュルケム3 【社会規範と自殺 - アノミー的自殺】
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー1 【理解社会学】
- 第8回 社会と個人をつなぐ5 - ウェーバー2 【信仰と社会 - プロテスタンティズムと資本主義】
- 第9回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【社会的性格とファシズム】
- 第10回 社会と個人をつなぐ6 - フロム1 【デモクラシーと大衆社会】
- 第11回 現代社会の解説1 - 貧困と社会的排除1 【生活困窮状況とそのメカニズム】
- 第12回 現代社会の解説2 - 貧困と社会的排除2 【支援のあり方】
- 第13回 現代社会の解説3 - グローバル化の進展と排外主義1 【排外主義の様相】
- 第14回 現代社会の解説4 - グローバル化の進展と排外主義2 【排外主義のメカニズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

社会学的思考 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、グローバル化、排外主義

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
 - 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
 - 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
 - 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
 - 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
 - 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
 - 7 「在日外国人と人権課題」：在日外国人の現状と人権課題を解説する。
 - 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
 - 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の現状を解説する。
 - 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
 - 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
 - 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
 - 13 「平和と人権」：戦争・平和についての解説。
 - 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
 - 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのが、共に考える。
- ※5～14については、状況により授業回数が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業に対して取り組む姿勢とミニテスト（またはレポート）により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業に反映させることが望ましい。
私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」
「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2015）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1)授業開始前までに当日予定の章を予め読んでおくこと。
- (2)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (3)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学 SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する(特に提出する必要はない)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 今泉 恵子 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科, 高橋 衛 / 法律学科
 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科, 中村 英樹 / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生という観念と法との関係や共生における法の役割を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における共生の問題について、法の観点を踏まえ、総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における共生に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			共生の作法
			LAW001F

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。
 そのため、私たちは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、そして、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えていく必要がある。
 すなわち、私たちの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など、様々な関係の中で成り立っていることを、改めて認識しなければならない。
 そのうえで、「他者との共存（共生）」は我々の生活には不可欠であり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）があることを知る事が重要である。
 そこで、本講義では、以下の各回の個別テーマを素材にしながら、今現在、上記の意味での他者との関係がどのようになっているのか、どのようなルールが設けられているのかを知り、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えていくことにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

共生の作法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 法と道徳について
- 第3回 生命の「自己決定」権？
- 第4回 行政活動と法治主義
- 第5回 犯罪とは何か
- 第6回 刑事裁判とはなんだろう？
- 第7回 性差別と暴力～セクシャル・ハラスメントとドメスティック・バイオレンス
- 第8回 家族とは何か
- 第9回 物とは何か
- 第10回 企業形態と法
- 第11回 民事訴訟とは何か
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう
- 第13回 雇用とは何か（雇用関係の成立，雇用関係の展開，雇用関係の終了）
- 第14回 国際社会と日本
- 第15回 日本人の法・権利意識と歴史的基層

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポートによる（100%，④に注意）。
- ① 受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群のなかから，テーマを1つ選び，レポートを1本作成して提出すること。
 - ② レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは3000字以上とする。
 - ③ レポートには，所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。
 - ④ 授業態度が著しく悪いと判断される受講者は，レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義全体のキーワードだけでなく、各回のテーマに「直接」に関連すると思われるキーワードをいくつか、受講者が自ら想定した上で、それらについて「事前に」新聞・雑誌・本などで情報を収集して、予習しておくこと、各回の理解がいつそう深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。
全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。
各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

【現代社会】 【共生】 【作法】 【ルール】

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方 LAW002F

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどういう仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 憲法の役割と基本原則を知る① 【最高法規】 【個人の尊厳】 【基本的人権】 【国民主権】
- 3回 憲法の役割と基本原則を知る② 【平和主義】 【権力分立】 【違憲法令審査制】 【個人と国家】
- 4回 民法の役割と基本原則を知る① 【私的自治】 【所有権の絶対】 【過失責任】 【家族法の特質】
- 5回 民法の役割と基本原則を知る② 【公共の福祉】 【信義誠実の原則】 【権利濫用】 【取引の安全】
- 6回 刑法の役割と基本原則を知る① 【罪刑法定主義】 【犯罪の要件】 【刑罰】
- 7回 刑法の役割と基本原則を知る② 【刑事手続】 【裁判員制度】 【刑事責任と民事責任】
- 8回 法の特性と構造、機能を知る① 【社会規範】 【法規範の特性】 【社会統制】 【活動促進】
- 9回 法の特性と構造、機能を知る② 【紛争解決】 【行為規範】 【裁判規範】 【法源】
- 10回 法の適用と解釈の仕方を知る 【裁判所】 【裁判の役割】 【法解釈の方法】 【文理解釈】 【類推解釈】
- 11回 判例の読み方を知る 【判例集】 【判例の調べ方】 【事実の概要】 【判旨】 【参照条文】
- 12回 判例を読む① 【判例部分の抽出】 【判例研究の意義】 【判例研究の仕方】
- 13回 判例を読む② 【判例評価の方法】 【判例と学説】 【特別受益】 【生命保険金】
- 14回 法律の視点から社会を読む 【相続】 【親子関係】 【婚姻】 【離婚】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法律の読み方 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義に臨む際は、事前にレジюмеや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や資料、参考文献を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。
六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'16』信山社（1,000円）をお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解するため、社会調査の知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル	●	社会的事象に関する量的・質的調査の基本的な考え方を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会的な課題の発見、データに基づく解説、解決策の提示を可能とするための方法を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会における課題を自ら発見し、解決策を提示するための調査方法を継続して考える。
	コミュニケーション力		
			社会調査
			SOC003F

授業の概要 /Course Description

社会調査（量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。
社会調査の目的は、さまざまな社会現象の中から、社会にとって「意味がある」と思われる現象を見つけ出し、「どうなっているのか」「なぜそうなるのか」を、データに基づいて解釈することにある。この授業では、(1) 意味のある「問い」をたてること、(2) その「問い」への「答え」を導くための手順（論証戦略）をたてること、(3) 論証戦略に基づいて適切な調査票を作成すること、(4) データを統計的に処理すること、(5) データを解釈すること、について学ぶ。
なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行うことがある。

教科書 /Textbooks

使用しない。（適宜、資料・プリントを配布する。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004
- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディング(1)【質問文の作成】
- 第6回 ワーディング(2)【選択肢の作成】
- 第7回 調査票の構成
- 第8回 サンプリングの考え方
- 第9回 サンプリングの方法
- 第10回 実査の準備
- 第11回 データファイルの作成(実習)1【入力フォームの作成】
- 第12回 データファイルの作成(実習)2【SPSSファイルの作成とデータクリーニング】
- 第13回 データファイルの作成(実習)3【度数分布表の作成】
- 第14回 分布と統計量、クロス集計、相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 30% 日常の授業への取り組み... 10% レポート... 60%
(総合的に判断する。)

社会調査【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各单元ごとに課題を出すので提出すること。自主的な学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業を通して「実証研究の考え方」を学んで欲しいと思います。

キーワード /Keywords

量的調査、質的調査、解釈、論証戦略、記述、説明、基本仮説、作業仮説、ワーディング、ランダムサンプリング、SPSS、度数分布、クロス表、相関係数

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 西村 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてなくてはならない存在となっています。私たちの生活も、企業なしに考えることは困難です。顧客（消費者）として、企業で働く従業員として、地域住民として、投資家として、私たちは深く企業と関わって生きています。ですから、現代社会を生きる私たちにとって、「企業とは何か」あるいは「社会と企業とはどのようにつながっていくのか」と問いかけることは、大変重要な意味をもっていると言えます。

(1) 授業内容の概要

本授業では、企業について関心をもつことができるように、企業をさまざまな視点からとらえて、基本的な知識を身につけながら、社会と企業とについて考えていきたいと思います。

(2) 以下の6つの視点から企業をとらえることによって、社会と企業について考えていきます。

- ①財・サービスの提供機関としての企業、 ②「株式会社」としての企業、 ③「大企業」としての企業、
- ④「組織」としての企業、 ⑤「家」としての企業、 ⑥「社会的器官」としての企業

(3) 以下の内容を到達目標としています。

- ・企業についての基本的な知識を習得することができる。
- ・新聞やテレビ等の社会と企業に関する記事やニュースに、興味や関心をもてるようになる。
- ・現代社会および自分の進路についても、考えていくきっかけをもてるようになる。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第3版』有斐閣アルマ 2014年 ¥2,000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『ひとりで学べる経営学』文真堂 2009年 ¥1,900 ○
- ・三戸公『会社ってなんだ - 日本人が一生すごす「家」』文真堂 1991年 ○

企業と社会【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 現代社会と企業、現代企業をみる視点について
- 2回目 「財・サービスの提供機関」としての企業(1) 経済的発展と生活の変化、大企業の実態について
- 3回目 「財・サービスの提供機関」としての企業(2) 企業の戦略について
- 4回目 「財・サービスの提供機関」としての企業(3) 企業の広告活動と国際化について
- 5回目 「株式会社」としての企業 企業形態の種類、株式会社の機能と構造について
- 6回目 「大企業」としての企業(1) 大企業の出現と支配構造について
- 7回目 「大企業」としての企業(2) 大企業の性格と機能について
(バーリ、チャンドラー、ドラッカーの大企業論を中心として)
- 8回目 「大企業」としての企業(3) 大企業のコーポレート・ガバナンスについて
(日本とアメリカにおける背景と特徴)
- 9回目 「大企業」としての企業(4) 会社は誰のものかについて
- 10回目 現代企業の組織と管理(1) 現代企業組織の基本構造、企業組織の諸形態について
- 11回目 現代企業の組織と管理(2) 組織設計の原理、管理の展開について
- 12回目 家としての日本企業(1) 日本型人事システムの特徴について
- 13回目 家としての日本企業(2) 日本的経営のとらえ方について
- 14回目 「社会的器官」としての企業(1) 企業の社会的責任と社会的貢献について
- 15回目 「社会的器官」としての企業(2) これからの企業像について

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、プリントやミッツペーパー等の提出物(30%)、日常の授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。(なお、3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象となりません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 授業の前に教科書をよく読んでおくこと。授業の後には、次の授業までに、教科書、講義で扱ったプリントや参考資料を用いて、ノートを整理しておくこと。
- (2) 欠席・遅刻・途中退席はしないようにすること。(やむを得ない事情や体調がすぐれない場合を除く)
- (3) 授業の進行を妨げるような行為(私語、携帯電話の使用等)は慎むこと。
- (なお、教育効果の向上や授業環境の適正化のために、座席指定を行う場合があります。)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが企業をどのように捉え、どのように成長させたいと考えているのか。それは、これからの社会を決定づけるほどの大きな意味をもっています。社会と企業について、企業の基本から真面目に学びたい人に受講してほしいと考えています。

キーワード /Keywords

企業形態 大企業 経営者支配 組織 管理 日本的経営 社会的器官

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別と区別】
- 10回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 11回 現代における差別の問題（4）【ナチズム】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【食糧問題】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

【事前・事後学習の内容】参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	新聞を通して人間、社会、マスメディアの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	新聞を通して人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	新聞をはじめとするマスメディアを通して現代社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
		現代社会と新聞ジャーナリズム	
		SOC001F	

授業の概要 /Course Description

多メディア時代の今、「新聞」について学ぶ。インターネットやSNSが爆発的に普及する中で、新聞の役割は変質している、との声も聞かれる。しかし、実際、テレビにせよ、ネットにせよ、その情報の出所は新聞であることが多い。さらに、ネットの情報は真偽不明で断片的、一面的であり、信頼性に欠けていることが多々ある。しかも、24時間、洪水のように情報が飛び交う中で、内容が整理され、信頼性のある情報を発信する新聞の存在感が注目を集めている。

新聞の特性は①事実を客観的に伝える②背景や問題点を深く掘り下げる③権力者などの不正を追及する④社会が抱える課題の解決策を提供する、などであり、普通の生活者が社会との関係を「考える」、明日の生き方を「選択する」際に役立つとされる。

講義では、新聞社のデスクや記者などが、取材や報道体験を通して、新聞の役割や新聞コンテンツの活用法を話し、ビジネスの可能性なども展望する。一連の講義を通じ、現代人に欠かせない能力である「メディアリテラシー」（メディアを読み解く力）を身につけるのが授業の目標である。

なお、この講義は西日本新聞社の提供講座である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しないが、新聞が必要となる課題を出す予定なので、必要に応じて各自で新聞を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、新聞ジャーナリズムの第一線で活躍している記者、カメラマン、デスク、編集委員らが交代で講師を務める。ただし、講師の都合により変更することがある。

- 【第1回】オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状 (編集企画委員長)
- 【第2回】九州経済をどう見るか / 経済記者の視点 (経済部長)
- 【第3回】子どもに明日を / 貧困の実相を追う (社会部記者)
- 【第4回】国政の現場から / ブロック紙の永田町取材 (社会部デスク)
- 【第5回】ニュースの価値付け / 見出しはこう決まる (編集センターデスク)
- 【第6回】デジタル時代の新聞/電子メディアへの挑戦 (メディアラボ部員)
- 【第7回】地域文化を見つめて / 文化部記者の仕事とは (文化部デスク)
- 【第8回】アジアと九州を考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 【第9回】スポーツ報道の世界 / 運動記者が伝えるもの (運動部デスク)
- 【第10回】新聞をデザインする / ビジュアルな紙面とは (デザイン部デスク)
- 【第11回】報道写真の力 / カメラマンの心得とは (写真部記者)
- 【第12回】分かりやすさの追求 / こども向け紙面 (もの知りタイムズ編集長)
- 【第13回】戦後70年を超えて / 国の安全保障を考える (報道センター記者)
- 【第14回】働く現場とは / (生活特報部デスク)
- 【第15回】北九州の現場から / どんな課題と向き合っているか (北九州本社記者)

現代社会と新聞ジャーナリズム 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)・・・100%

ただし、出席回数が一定回数以下の受講生はレポートの出来にかかわらず、成績を不可(D)とする。詳細は第1回目の講義で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日々の新聞を通して、現代社会や地域が直面する課題を発見し、自分なりの考察によって課題解決のために努力する姿勢を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義と考察を通して、「メディアリテラシー」(メディアを読み解く力)ならびに現代社会を解説する力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

メディアリテラシー、新聞、ジャーナリズム、現代社会

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, アーノルド・ウエイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解く。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメと資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 尹明憲 オリエンテーション
- 第2回 アダム・ヘイルズ 演劇とインターナショナルリズム 【美学】【ファンタジー】【イデオロギー】
【協力】
- 第3回 アーノルド・ウエイン The Role of Public Spaces in New York City 【urban space】【parks】
【recreation】【enjoyment】【renovation】
- 第4回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(1) 中国ファクター
- 第5回 大平 変容するアジア情勢と日本の国際協力(2) 日本の安全保障戦略
- 第6回 下野 グローバル化の中の中国(1) 経済大国への道
- 第7回 下野 グローバル化の中の中国(2) 政治大国への道
- 第8回 篠崎 東南アジア:「周縁」で形成される文明の新しいかたち(1) 【華人、中華世界】
- 第9回 篠崎 東南アジア:「周縁」で形成される文明の新しいかたち(2) 【ムスリム、イスラム世界】
- 第10回 白石 中国の持続的発展の可能性:経済成長・SNA・投資
- 第11回 松田 総合商社と海外プロジェクト
- 第12回 山本 ヨーロッパの危機(1) 【地域主義】【民主主義】
- 第13回 山本 ヨーロッパの危機(2) 【ユーロ】【難民】
- 第14回 尹 東アジアの経済事情(1) 【地域的特徴】【経済関係】
- 第15回 尹 東アジアの経済事情(2) 【経済統合】【地方間交流】

都合により変更もあり得る。変更がある場合には、初回授業で指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(8回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員および招聘講師が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席してください。
授業の最後に小テストを受けてもらいます。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	海外及び国内地域社会のガバナンス（協治）について総合的理解が可能となる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国内外のガバナンス（協治）の在り方を通しての課題を発見でき、その課題を解決するための方策が学習できる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	大学卒業後、地域社会で生活するにあたって積極的に社会作りに関わり、生涯学習としてその実践活動に携わることが可能となる。
	コミュニケーション力		

開発と統治

IRL002F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（協治）」の意味を世界各国(ミャンマー、韓国、米国と日本が対象国)や日本の地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、開発とは何か、そこにおけるガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度、資料を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
第2回	民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
第3回	民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
第4回	理論と現実～ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
第5回	理論と現実～開発の陰でのガバナンスの変化		担当：伊野
第6回	韓国セウォル号沈没事件に見る韓国のガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第7回	セウォル号 問題の解決はどのようになされたのか？ 危機管理とガバナンス		担当：ソンミンホ・三宅
第8回	韓国版水俣病の発現の実態		担当：ソンミンホ・三宅
第9回	健康被害を出さないための取組みはどこまで実施されているか？		担当：ソンミンホ・三宅
第10回	韓国の民主化とガバナンスの形成過程	【韓国】	担当：申
第11回	米国におけるガバナンスと環境～オバマ政権に焦点をあてて	【米国】	担当：申
第12回	エネルギー問題を通してのガバナンス形成	【エネルギー問題】	担当：申
第13回	北九州市のフードバンク運動や食品ロス削減運動に見るガバナンス	【食品ロス削減運動】	担当：三宅
第14回	日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
第15回	まとめ～ガバナンスに関するグループ・ワーク	【グループワーク】	担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20 % 試験...50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

開発と統治【昼】

履修上の注意 /Remarks

各授業に際して、日頃から世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報を得ていること。また、時々、小課題を出すので、授業で習ったこと以外に日頃からの情報を書き込み、提出すること。試験の結果が良くても、出席をあまりしなかった受講生はD判定になる可能性が大きいと思ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。担当教員は様々な国々を知り尽くしています。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 米国 地域社会 子ども会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定【FTA】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 多国籍企業の所有戦略【所有形態】【経営支配】
- 9回 多国籍企業の経営現地化【グローバル型】【人事現地化】
- 10回 輸入品の流通構造と企業戦略【SCM】【商品調達】
- 11回 地域産業と内なる国際化の実情【外国人労働者】
- 12回 人と情報のボーダレス化【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワークング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機(1)【バブル】【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

グローバル化する経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際紛争に対する国連の役割を考察することにより、人間と国際社会の関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際紛争と国連に関する諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際紛争と国連に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			国際紛争と国連
			IRL005F

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類（Phase化）の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界（改訂版）』（三修社・2007）
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連情報へのアクセス方法 【ODS】【UNBISnet】【UN Journal】
- 第3回 国連を知る①【国連 1945-1980's】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第4回 国連を知る②【国連 1990's-】【冷戦後の国連】
- 第5回 紛争を知る 【難民】【発生国】【受入国】
- 第6回 国際紛争を見る分析軸 【DisputeとConflict】【国際紛争の定義】【紛争のPhase】
- 第7回 国連による平和の創出①：紛争処理のメカニズム 【国連憲章第6章】【総会】【安全保障理事会】
- 第8回 国連による平和の創出②：平和創造 【事務総長による周旋】【The Team】
- 第9回 国連による平和の維持①：国連平和維持活動（PKO）の創設と展開 【6章半の活動】【PKO原則】
- 第10回 国連による平和の維持②：国連平和維持活動（PKO）の深化 【多機能化】【キャップストーン報告】
- 第11回 国連による平和の強制①：決定プロセス 【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第12回 国連による平和の強制②：実施上の課題 【経済制裁】【多国籍軍】【地域的機関】
- 第13回 国連による持続的平和の定着 【平和構築】【平和構築委員会】
- 第14回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国 【財政的貢献】【人的貢献】
- 第15回 まとめ

国際紛争と国連【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第8回～第15回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
前半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、前半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 3回 日清・日露戦争 【日英同盟】【日露交渉】
- 4回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【韓国併合】
- 5回 日本の朝鮮統治、大陸経営と国際関係 【三・一運動】【五・四運動】
- 6回 国際情勢の緊迫 【満州事変】【日中戦争】
- 7回 第二次世界大戦開戦から日本の敗戦へ【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 8回 冷戦のはじまり 【日本占領】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 9回 帝国支配の解体 【脱植民地化】【日米安全保障条約】
- 10回 革命の時代 【中国革命】【中ソ同盟】【朝鮮戦争】
- 11回 ヴェトナム戦争と戦後秩序の変容 【高度経済成長】【ヴェトナム戦争】【ニクソン政権】
- 12回 デタントから新冷戦へ 【デタント戦略】【米中接近】【石油危機】
- 13回 冷戦の終結 【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 21世紀の世界 【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。
授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

エスニシティと多文化社会【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	エスニシティと多文化主義・多文化社会に関する考察をもとに、世界が直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	多様化する社会における課題を発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		エスニシティと多文化社会	
		IRL001F	

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは新しい政治現象であると思われるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて考察する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと多文化主義【国民国家】
- 2回 連合王国イギリス【連合王国】【スコットランド】【ウェールズ】
- 3回 連合王国の終焉？【権限委譲】【自治】【独立】
- 4回 イギリスにおける文化摩擦【オルダム暴動】【ブリクストン暴動】
- 5回 イギリスにおける多文化主義【スカーマン報告】【イスラム嫌い】
- 6回 英仏のエスニシティ問題【同化主義】【スカーフ問題】
- 7回 英仏の国民統合【共和国原理】【ライシテ】
- 8回 前半のまとめ
- 9回 アメリカ合衆国におけるエスニシティと社会
- 10回 同化・統合の諸概念【るつぼ】【サラダ・ボウル】
- 11回 黒人史と公民権運動【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 12回 マイノリティをめぐる政策【アフターマティブ・アクション】【バッキ判決】
- 13回 自らを知る：日系アメリカ人【強制収容】【第二次世界大戦】
- 14回 今日のエスニシティ状況【ヒスパニック】【不法移民】
- 15回 後半のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(中間50%、期末50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

エスニシティと多文化社会 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		歴史の読み方 I	
		HIS004F	

授業の概要 /Course Description

ここでは私たちの身のまわりの歴史に関する知識や常識や見過ごしがちな細かな事柄に注目して歴史を見直すことを目的としています。

以上の理由から、この授業の内容は高校教科書より高い「歴史学入門」レベルとなっていますのでご了承ください。

- この授業は高校までの授業のような知識の習得を目的としたものではなく、考えることやものの見方を学ぶことを目的としています。したがって教科書のような通史を学ぶものではありません。
- この授業は一つの歴史的事実のさまざまな側面やさまざまな解釈から歴史の多様性の面白さを学ぶことを目的としているため、教科書のように事実の一つに限られてはいません。
- この授業では「日本」という国民国家が成立する以前の前近代の日本列島と東アジアの社会を学ぶため、今日の国家的枠組みとはことなる視点を必要とします。

注意：

この授業で使用する『ラスト・サムライ』『もののけ姫』の映像には一部残虐な暴力シーンが含まれているので、あらかじめご了承ください。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『想像の共同体』（NTT出版）
- 小熊英二『単一民族神話の起源』（新曜社）
- 新渡戸稲造『武士道』（岩波文庫）
- ルース・ベネディクト『菊と刀』（社会思想社）
- 野口実『武家の棟梁の条件』（中公新書）
- 佐伯真一『戦場の精神史』（NHKブックス）
- 勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』（講談社）
- イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』（岩波書店）
- 網野善彦『日本社会の歴史（上）～（下）』（岩波新書）
- 門脇禎二『吉備の古代史』（NHKブックス）
- 鳥越信『桃太郎の運命』（ミネルヴァ書房）

歴史の読み方I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス①授業の進め方
- 2回 前近代東アジアの伝統世界
- 3回 日本の近代と国民国家の問題点
- 4回 『ラスト・サムライ』の誤解
- 5回 新渡戸稲造の『武士道』
- 6回 武士道の成立・・・『葉隠』と山鹿素行
- 7回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
- 8回 『平家物語』を読む②言葉戦としての「川中島」
- 9回 県名を読む①国郡制と幕藩制
- 10回 県名を読む②県名と県庁所在地
- 11回 県名を読む③戊辰戦争を「見直す」
- 12回 「国語」とは何か
- 13回 網野善彦と日本史の多様性
- 14回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート・・・50%、筆記試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では極力手を動かしてノートを取ることによって一次記憶を二次記憶に定着させるようにしています。皆さんはこれから就活や職場で人の話をメモを取る機会がたくさん出てきますのでノートを取るスキルに習熟する必要があります。従って安易なレジュメや学習支援フォルダは利用しません。

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方II
			HIS005 F

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史の読み方II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め教科書の該当箇所に目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、1930年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の日本（小林先生担当）。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と日本（小林先生担当）。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1980年代の日本（小林先生担当）
- 第10回：1980年代のミャンマー
- 第11回：民主化運動。
- 第12回：現代の日本（小林先生担当）
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。
事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

そのとき世界は【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
		戦後の日本経済	ECN002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんは、“Japan as No 1”と言われた時代、つまり、世界の国々が見習うべき世界No 1の経済大国と、日本が海外から称賛された時代があったことをご存知でしょうか。「バブル」以降に生まれた皆さんにとって、これは実感を抱けない言葉かもしれません。しかし私たちは、この時代の「遺産」を引き継ぎ、この時代に形作られた社会的・経済的基盤のうえで現在を生きています。そしてそのことが、現代に生きる私たちの価値観や行動様式を規定しているのです。したがって、“Japan as No 1”と言われた時代（あるいはそれ以降の変化）を知ることは、私たち自身や私たちが生きる現代を理解することでもあります。このことをふまえて本講義では、主に1950年代から60年代に見られた「高度経済成長」と、その結果としての日本社会・文化の変化についてお話しします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義
- 第2回 生活意識と経済生活
- 第3回 将来像の「理想」と「現実」
- 第4回 「男は仕事、女は家事・育児」の大衆化
- 第5回 文化の担い手としての「団塊の世代」
- 第6回 戦後の人口問題と「経済成長」
- 第7回 「高度経済成長」の目的
- 第8回 「高度経済成長」の要因 - 「人口ボーナス」 -
- 第9回 「高度経済成長」と人口流動
- 第10回 「高度経済成長」と北九州経済
- 第11回 「豊かさ」の象徴
- 第12回 テレビを通じた“モデル”の輸入
- 第13回 「理想的」な家族像の形成
- 第14回 「勤勉性」の背景 - 何が日本人を「勤勉」にしたのか -
- 第15回 「幸せ」の「理想」とそのルーツ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

戦後の日本経済【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	もの与人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	もの与人間との関係性について総合的に分析し、そこに内在する課題があれば、それについて自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	もの与人間との関係に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			もの与人間の歴史
			HIS003 F

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車と原子力発電所をとりあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり？【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 デザイン、広告、クレジット【情報化社会】【大量消費システム】
- 第12回 自動車の社会的費用【宇沢弘文】、【社会的費用】
- 第13回 原発事故を考える【原子力産業】、【地域振興】
- 第14回 原子力発電所と社会【NPT】、【反原発運動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

もの与人間の歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業前にあらかじめ指定された資料で学習を行い、授業後は復習をすること。
近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、社会学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車と原子力発電所から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (既戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドール・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだイギリス経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』(1869年)を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言える。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)

口述講義 (山崎)

人物と時代の歴史【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)
○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)
○中村彰彦『保科正之』(中公新書)
『歴代アメリカ大統領』(ブティック社)
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国ー産業革命からサッチャー改革までー』(ミネルヴァ書房、2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。
(新村)
- 第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】
第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】
第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】
- (山崎)
- 第8回 イギリスとはどんな国か
第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー
第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎
第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのかー雇われ外国人たちを中心に
第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か
第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』
第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』
第15回 総まとめレポート提出の要件、提出締切日などの説明ー

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」や「日本人」について理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』（講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年）
- 大石直正ほか編『周縁から見た中世日本』（講談社、2001年 / 講談社学術文庫、2009年）
- 小熊英二『「日本人」の境界』（新曜社、1998年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本史を学ぶこととは
- 第2回 「鎖国」と「開国」
- 第3回 蝦夷地とアイヌ
- 第4回 近代化とアイヌ社会
- 第5回 琉球の形成と環シナ海世界
- 第6回 琉球と近世・近代のアジア
- 第7回 対馬から見た日朝関係
- 第8回 近世における日朝関係と対馬
- 第9回 台湾をめぐる同化と異化
- 第10回 韓国併合と「日本人」
- 第11回 満洲国と「民族協和」
- 第12回 南洋群島と委任統治
- 第13回 「大日本帝国」の解体と樺太
- 第14回 「外国」になった沖縄
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(持ち込み不可の論述問題)... 90%
ミニツツペーパー... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席確認を行う。出席回数が2 / 3未滿の受講生については試験を受ける資格を付与しない。
授業開始前までに指示したキーワードについて調べておくこと。
また、授業終了後に理解できなかった語句を辞書などで確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 中国の歴史と日本 -秦漢帝国と「漢委奴国王」金印-
 - 3回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 4回 後漢前期(2) -明帝-
 - 5回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 6回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 7回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 8回 後漢分裂と「三世紀の危機」
 - 9回 『三国志』の虚実
 - 10回 魏の曹操
 - 11回 呉の孫権
 - 12回 蜀の劉備
 - 13回 三国鼎立と邪馬台国
 - 14回 魏晋革命と三国統一
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習が必要な場合は、授業中に参考文献を指定するので、事前に読んでおくこと。復習は適宜ノートを見直し、配布したプリントを参照すること。
本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第3回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第4回 農業立地と農村の変化(1) 農業立地論
- 第5回 農業立地と農村の変化(2) 日本農村の構造的変化
- 第6回 都市構造と都市システム(1) 中心地理論
- 第7回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造
- 第8回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外
- 第9回 都市構造と都市システム(4) 都市システム
- 第10回 商業立地と流通システム(1) チェーンストアの配送
- 第11回 商業立地と流通システム(2) 大型店と商店街
- 第12回 製造業の立地と集積(1) 工業立地論
- 第13回 製造業の立地と集積(2) 空間分業
- 第14回 製造業の立地と集積(3) 産業集積の理論
- 第15回 製造業の立地と集積(4) 産業集積の実態

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学とされています。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必ず必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を高めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習も行って、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。

人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。

地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。

課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「日本列島地図の旅 付・地図の読み方入門」(大沼一雄著 東洋選書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

土地地理学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
教職関連科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考書や配布する資料などを読んでおくにより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に關係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1): ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2): ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) フランス・イタリア地誌
- 第7回 欧米地誌(6) ベネルクス地誌
- 第8回 欧米地誌(7) アメリカ合衆国地誌
- 第9回 日本地誌(1) 日本の自然・人文環境
- 第10回 日本地誌(2) 近世城下町の変容: 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(3) 干拓地域の変容、県庁所在地の変容: 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(4) 軍事都市の変容: 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(5) 鉱業地域の変容: 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(6) 港湾都市の変容: 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(7) 工業都市の変容: 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description
本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks
なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じ紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
 - 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
 - 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
 - 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
 - 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
 - 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
 - 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
 - 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
 - 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
 - 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
 - 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
 - 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
 - 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
 - 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

【事前・事後学習】

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルスII	PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜、紹介をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院
他、適宜紹介をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%
定期試験.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。授業終了後には、提出課題への取り組み、学んだ内容に関する実践的復習などを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks
授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス
 - 2回 健康体力の理解
 - 3回 身体のケアについて メンタル面
 - 4回 身体のケアについて フィジカル面
 - 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
 - 6回 用具を使って身体を整える
 - 7回 セルフマッサージで身体を整える
 - 8回 テーピングによる簡単な予防
 - 9回 トレーニングによって身体を整える
 - 10回 ウェイトトレーニングの注意点
 - 11回 体脂肪を減らすトレーニング
 - 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
 - 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
 - 14回 腰痛と運動
 - 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
 この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks
 授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 オリエンテーション
 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
 4回 (講義)ストレッチの理論
 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスII	HSS002F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
 - 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
 - 4回 (講義)ストレッチの理論
 - 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
 - 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
 - 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
 - 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
 - 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 - 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
 - 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
 - 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
 - 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
 - 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
 - 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、
【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション
- 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 体の健康【運動生理学】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- ストレスと健康【心理学】：ストレスに負けない身体・精神について学ぶ
- 地域スポーツ【社会学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のための薬について学ぶ
- 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 喫煙・飲酒・薬物【関係専門職】：煙草やお酒、薬物の正しい知識を学ぶ
- 思春期と健康【関係専門職】：思春期の健康について学び、今後の人生設計を描いていく
- 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 自己管理論まとめ：ポイントの復習などで総合的に理解を深める
- 小試験（選択，記述）

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回のミニレポート・・・70% 小試験・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①1回目のオリエンテーションで「自己管理論」のプログラムを配布する。
 - ②外部講師による講義のため、授業開始後15分には入室を禁止する。私語厳禁。
 - ③毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
 - ④最終回では、小試験をするため必ず出席すること。
 - ⑤4分の3以上の出席を必要とする。
- 授業前に予めどのような専門職の方が話をするのか把握し、授業終了後には配布された資料をもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合により、授業計画の順番が変更することがあります。また、「履修上の注意」にも記載していますが、外部講師による講義が主となるため、通常の大学講義とは異なる点が多くあります。その点に関しては、第一回のオリエンテーションでプリントを配布し、説明しますので、第一回目から必ず出席してください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール (スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング (ウインドミル)
- 4回 バッティング (トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、生涯の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 ストローク練習(1) <スマッシュ>
- 4回 ストローク練習(2) <ドロップ、ハイクリアー>
- 5回 ストローク練習(3) <ドライブ、ヘアピン>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
 - 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
 - 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
 - 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
 - 6回 サーブカット練習
 - 7回 アタック練習(1) <サイド>
 - 8回 アタック練習(2) <センター>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 チーム練習
 - 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
 - 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
 - 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
 - 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 将幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフense)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフense)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
運動のできる服装とシューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 導入実技
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
 - 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
 - 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 10回 戦術の説明
 - 11回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 12回 ダブルスの陣形の解説
 - 13回 ダブルスゲームの実践
 - 14回 ダブルスゲームのまとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
 - 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
 - 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
 - 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
 - 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
 - 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
 - 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
 - 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
 - 9回 サッカーの戦術の応用習得
 - 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
 - 11回 審判法の習得と試しのゲーム
 - 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
 - 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
 - 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

キャリア・デザイン【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間になりたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学士力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10カ条を守ってください。

①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、みなさんが持つことが想定される、将来の進路に対する不安や迷いを解消し、有意義な大学生活を営むために何をすればいいのかを学ぶことです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。労働政策研究・研修機構の調査（2013年）によると、若年者を採用する時に重視する資質として、「働くことへの熱意」（73.6%）、「積極性、チャレンジ精神、行動力」（62.0%）、「チームワーク」（52.5%）、「コミュニケーション能力」（51.7%）の順で高くなっており、特に「働くことへの熱意」「積極性、チャレンジ精神、行動力」「コミュニケーション能力」の割合が大きく増加しています。よってこれらの資質を就職活動を行うまでに高めておく必要があります。

もちろん、大学生の本分は学習であり、今から就職活動の準備をする必要はありません。しかし、これらの力は、一朝一夕で身につくものではありません。ではどうすればいいのか？ それは大学生活全体、つまり、学習および課外活動、そして日常生活において、社会が求める資質を獲得することを意識して過ごすことが大切になるのです。その方法（キャリアをデザインする方法）を本授業で学びます。

自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動とは、以下の4つです。

1. いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける
2. 長いスパンで考えて、今しかできないことをする
3. 外へ出て視野を広げる
4. 失敗を恐れず挑戦して、振り返る

以上を理解するために、本授業は全てグループワークを通して実践をします。よって講義はほとんどありません。また、たくさんの先輩や社会人のゲストが登場します。目標となるかもしれない先輩や社会人（ロールモデル）との対話を通して、理解を深めてほしいからです。

まとめると、授業で実際に行動してみること、そしてロールモデルとの対話を通して、自らのキャリアをデザインするために必要な4つの行動を理解し、他の授業や課外活動、そして日常生活において実践して頂くことが目標です。最終授業では、以上の4つの行動を実践し、将来の見通しを具体的にし、叶えるために、どんな学生生活を過ごせばいいのかをプランしていただきます。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料を学習支援フォルダにアップしますので、印刷して持参してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
キャロル S.ドゥエック 『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール 『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー・H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
○中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取一昭・大川恒 『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
○金井寿宏 『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
J.D.クランボルト、A.S.レヴィン 『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※獲得目標の4つの行動：【1】いつでも、どこでも、どんな人でも打ち解ける、【2】長いスパンで考えて、今しかできないことをする、【3】外へ出て視野を広げる、【4】失敗を恐れず挑戦して、振り返る

- 1回 全体ガイダンス【1】【2】【3】【4】
- 2回 一皮むける経験【1】【4】
- 3回 地域活動に挑戦する(先輩登壇)【1】【2】【3】【4】
- 4回 傾聴【1】
- 5回 アサーション・トレーニング【1】
- 6回 アイデンティティ【1】【2】
- 7回 働くということ(社会人登壇)【1】【2】【3】【4】
- 8回 ダイアログとワールドカフェ【1】
- 9回 未来の仕事を創り出すゲーミフィケーション【1】【2】
- 10回 就職活動を知る(内定者登壇)【1】【2】【3】【4】
- 11回 企業団体研究【1】【3】
- 12回 計画された偶発性【1】【2】【3】【4】
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)【1】【2】【3】【4】
- 15回 本授業の統括【1】【2】【3】【4】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業でのグループワークの相互評価および小テスト：72%
課題レポート(2回)：12%
最終レポート(相互評価)：16%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【基本事項】
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※真鍋先生の「キャリアデザイン」(木曜・金曜)もほとんど同じ内容です。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは真鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

【事前学習・事後学習】
授業開始前に予め学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートを印刷し、事前学習をしておくこと。
授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを行うこと。
2つのインタビュー課題をレポートにまとめて期日までに提出すること。

【履修者調整について】
※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます(グループを固定する回もあり)。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分の将来を切り拓いていくためのコミュニケーション能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。	
			コミュニケーション実践	CAR111F

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。

この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。

コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。

講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

コミュニケーション実践【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール、カリキュラム説明、評価方法、持参物など】
- 2回 コミュニケーション上手になるために
【名札作成、自己紹介、コミュニケーションとは、自分の価値観・固定観念の気づき、ミスコミュニケーションの原因など】
- 3回 聴くことの重要性
【「きく」の種類と重要性、聴く技術を磨く、あいづち、興味、関心を与える態度、安心を与える距離と位置と姿勢など】
- 4回 話す・伝えるテクニック
【効果的な表現力、伝えるときの態度、声を出す、目線・アイコンタクト、発声法、ジェスチャー、身振り・手振りなど】
- 5回 マナーおもてなしの心
【挨拶、言葉、笑顔、態度、身だしなみ、ホスピタリティマインドなど】
- 6回 美しい敬語をマスターする
【正しい日本語で話す、二セ丁寧語、若者言葉とはなど】
- 7回 障害をお持ちの方へのコミュニケーション
【高齢者、視覚状態体験、肢体不自由な方、杖をお持ちの方への歩行など】
- 8回 プレゼンテーションを磨く
【プレゼンテーションとは、効果的な伝え方、姿勢、目線、声、表現方法、構成方法 (PREP法) など】
- 9回 質問応対力 (面接)
【面接力強化の為に必要な力、評価の高い応え方、授業で実践した表現復習など】
- 10回 グループディスカッション①
【ワンワード、ウィッシュポエム、ワールドカフェなど】
- 11回 グループディスカッション②
【グループディスカッションとは、ディスカッションの流れ、評価基準など】
- 12回 ディベート
【ディベートとは、目的、流れなど】
- 13回 授業の振り返り
【授業の振り返り、コミュニケーションとは、みなさんへのメッセージなど】
- 14回 発表
【1人プレゼンテーション】
- 15回 まとめ
【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に準備することはありません。
講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。
また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思っております。
授業開始前までに予め前回授業の内容を振り返っておいてください。授業終了後には学修したスキルについて自主練習を行い、授業の内容を反復してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。プレゼンテーションの流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です。

<2015年度> 株式会社ムーンスター / 社団法人日本放送協会 (NHK) / 株式会社ホテルオークラ福岡 / 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) / 九州旅客鉄道株式会社 (JR九州) / 旭化成ホームズ株式会社 / 株式会社福岡銀行 / 株式会社タカギ / ソニーリージョナルセールス株式会社 / 株式会社阪急交通社 / 株式会社博報堂プロダクツ / 日本航空株式会社 (JAL) / 株式会社ニトリ / 北九州市

<2014年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / 株式会社ジェイアイエヌ / 株式会社東急ハンズ / ハウステンボス株式会社 / 株式会社朝日新聞社 / 株式会社日本アクセス / 東京海上日動火災保険株式会社 / 株式会社JTB九州 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 伊藤忠工ネクス株式会社 / 株式会社山口フィナンシャルグループ (山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行) / 株式会社再春館製薬所 / 全日本空輸株式会社

<2013年度> 株式会社クロスカンパニー / 北九州市 / フリーアナウンサー長崎真友子氏 / TOTO株式会社 / 株式会社再春館製薬所 / ショーワグループ株式会社 / アイ・ケイ・ケイ株式会社 / 株式会社スターフライヤー / コストコ ホールセール ジャパン株式会社 / 株式会社ベネッセコーポレーション / 株式会社ジェイアイエヌ / 山崎製パン株式会社 / RKB毎日放送株式会社 / ハウステンボス株式会社

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習とレポート...91% 最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習・事後学習】

授業開始前に指定するフォームを用いて、期日までに登壇企業団体の事前学習を提出すること。また、学習支援フォルダを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して持参すること。

授業終了後に指定するフォームを用いて、期日までに授業の振り返りを提出すること。

※履修者が教室のキャパシティを超えた場合、履修者調整を行います。その際、第1回の授業を欠席した学生の履修申請を取り消しますので、必ず第1回は出席するようにしてください。

※1年次に「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時の事前レポート+講義中の課題」(60点) + 「実践報告レポート」(40点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本科目は、サービスラーニングへの実際の参加を前提をしています。したがって、サービスラーニングを受けて入れてくれる団体を自ら探し、受け入れの了解を得、その後、実際にそこで活動してもらいます。また、サービスラーニングは参加者の積極性や自発性を必要とします。そのため、第一回の授業の際に、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどに関する「事前レポート」（1500字程度）を課し、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。受講者に対しては、こうした課題に対して積極的にコミットし、自発性を持って講義に望むことを求めます。さらに本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は、第2学期開講の「サービスラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習 I	CAR280F

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2016年1月現在の対象プロジェクト：オープンキャンパスプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロジェクト演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っ決めてスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	プロジェクト活動を通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	初対面の人でもすぐに打ち解ける力を身につけるために、多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとるスキルを獲得する。
		プロジェクト演習II CAR281F	

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。オープンキャンパスのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2016年1月現在の対象プロジェクト：JOBプロジェクト、キャリアーナ

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 目標設定と実施計画策定
- 第2～14回 プロジェクトに取り組めます。
- 第15回 リフレクション・最終レポート作成

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

※時期にもよりますが、毎週ないし月に数回、全体でのミーティングや、リーダーのみのミーティングを設定し、その都度、情報共有と課題に対する議論、そして次回ミーティングまでの課題を洗い出して、メンバーで話し合っただめたスケジュール(ガントチャートなど)に基づき、主体的に活動を行ってください。
※履修対象者は原則2年次です。
※掲示板にて公示されるプロジェクトのみが対象となります。掲示板を確認してから履修登録してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクトは必ず最後までやり遂げてください。よって期間中は他の課外活動との両立は難しく、また途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいますので、中途半端な気持ちで参加しないでください。なお、応募者が多いプロジェクトは参加の審査があります。

キーワード /Keywords

課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習、地域活動

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

性と人権は深く結び付いている。セクシュアル・ライツはあらゆる人間が生まれながらにして有する自由、尊厳、平等にもとづく普遍的権利である。21世紀に切り拓かれる人権の領域である。
 本授業では性に関する多様なテーマについて取り上げながら、広く性と人権について考察していく。セクシュアル・ライツについて学ぶことで、自分や人を大切にできる意識や感性を醸成し、性的自己決定能力を向上させていくことがねらいである。
 具体的には、セクシュアル・ハラスメントやデートDVの予防など、相互尊重のコミュニケーションやソーシャルスキルの習得できるように、ロールプレイなど一部体験学習を織り交ぜながら授業を進めていく。
 本学教員と外部講師とによるオムニバス形式での授業を行う。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に配布するプリントに記載

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、セクシュアル・ライツとは 【ジェンダー】 【セクシュアリティ】
- 2回 ジェンダーチェック 【ジェンダー・バイアス】
- 3回 性の多様性とセクシュアル・マイノリティ 【性自認】 【性的指向】 【性の二元化】
- 4回 トランスジェンダー 【性同一性障害】 【性別違和】
- 5回 性的自立とリアリティ・ヘルス / ライツ 【性的自己決定】 【母体保護法】 【人工中絶と優生思想】
- 6回 障害者と性 【ADL・QOL】 【性のケアと看護】
- 7回 セクシュアル・ハラスメント【パワー・ハラスメント】 【アカデミック・ハラスメント】 【ホスピタル・ハラスメント】 【実習ハラスメント】
- 8回 デートDVの予防 【自尊感情】 【アサーション・トレーニング】
- 9回 性暴力とトラウマ 【PTSD】 【少年の性被害】 【強姦神話】
- 10回 トラウマの影響（「漂流少女」の事例を通して） 【二次被害】 【性依存】 【危機介入】
- 11回 性暴力裁判に見る二重基準（売春婦と主婦のケースから） 【フェミニスト・カウンセリング】
- 12回 メディアと性表現、性の商品化 【風俗営業法】 【児童買春・児童ポルノ禁止法】
- 13回 日本における公娼制度と売春の歴史 【からゆきさん】 【売春防止法】 【婦人保護施設】
- 14回 世界の売買春をめぐる動向 【セックスワーク】 【売春の合法化】 【性的自己決定】
- 15回 これまでの振り返り

教養特講II (セクシュアル・ ライツ) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 40%、課題 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに、シラバスに記載するキーワードについて調べておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

本年度は、前半の講義を、主に会計学の視点からホスピタリティを検討する。最初の講義2、3回は「会計とは何か、会計にはどのような報告書があるか」などの説明を交えて、徐々に、会計・経営の視点から「ホスピタリティとは何か」を考える講義にする予定である。ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行していて、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった<関係性>を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の会計・経営・社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。前半の「ホスピタリティと会計」の講義を西澤健次が担当し、後半の「ホスピタリティと経営・実務等」については、外部講師の西澤律子が担当する。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティと会計・経営のつながりを考える。
2. ホスピタリティという言葉の多義性について考える。
3. 今後、企業経営において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. 会計学・経営学・ホスピタリティ論に関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. 会計とホスピタリティの関係について、問題意識を持つこと。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計(仮題)』国元書房
講義の際、レジユメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「財務会計講義」桜井久勝著(中央経済社)
- 「財務会計・入門」桜井久勝:須田一幸著(有斐閣)
- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」服部勝人著(丸善株式会社)
- 「ホスピタリティ原論」山本哲士著(文化科学高等研究院出版局)
- 「真実の瞬間」ヤン・カールソン著(ダイヤモンド社)

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【会計とホスピタリティ】【授業の進め方】【学習目標】
- 2回 会計とは何か 【貸借対照表】【損益計算書】【その他の企業情報】
- 3回 企業会計とホスピタリティ 【日本の経済状況の変遷】【会計公準】
- 4回 ホスピタリティとサービスの語源と概念比較【ホスピタリティ】 【サービス】
- 5回 ホスピタリティとおもてなし 【主語の論理】【述語の論理】
- 6回 企業不正と従業員満足度【ES】
- 7回 従業員満足度と従業員教育【顧客満足度】
- 8回 企業不正とホスピタリティと会計 【偽装問題】【トレーサビリティ】
- 9回 ホスピタリティと会計 【資本循環】【商品の会計】【資本の会計】
- 10回 中間のまとめ
- 11回 ホスピタリティとビジネス1 【プロ意識】【身だしなみ】【人間関係】【電話やメール】
- 12回 ホスピタリティとビジネス2 【顧客心理】【クレーム対応】【CS】
- 13回 ホスピタリティ産業の現状 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 14回 ホスピタリティと企業1【職場環境】【内部顧客】【メンタルヘルス】【企業の社会的責任】
- 15回 ホスピタリティと企業2【企業の社会貢献】【ホスピタリティの意義と可能性】 【暗黙知と形式知】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の取り組み 【①授業中に行う練習問題の取り組み ②中間のまとめ問題の提出】 20%

期末試験の成績 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回目には、シバスを持参のこと。

この科目は本年度限りである。講義担当者が会計学の研究者であり、会計におけるホスピタリティを実験的に行うものであることを了解の上、履修して下さい。経営・会計とホスピタリティの関係を哲学的に理解することを目的にしています。遅刻・途中退室・私語は慎んで下さい。

「事前学習・事後学習」

事前に、教科書を読んでくること、事後に、授業を通して関心を持った事柄についてさらに勉強・研究すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養特講Ⅲ (まなびと講座 A) 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		教養特講Ⅲ	
		SPL003 F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための能力や知識を獲得することを目的とします。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いです。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当します。また、各大学からの受講生と一緒に学びます。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1日目 ～多様な価値観を感じる～【自分】
 - 第2日目 ～地球は小さく偉い～【グローバル】
 - 第3日目 ～みんなが住みやすい社会～【ローカル】
 - 第4日目 ～「食べる」から自分を考える～【自分】
 - 第5日目 ～微力だけど無力ではない私たちが考える「素敵な未来に向けての第一歩」～【アクション】
- ※各日程ともに10:30～16:00(休憩含む)で開講されます

【2015年度実績】

- 第1日目 提供；北九州市立大学 テーマ；ESD理解
- 第2日目 提供；九州女子大学 テーマ；グローバルな視点で地球を学ぶ、1つしかない地球
- 第3日目 提供；九州栄養福祉大学 テーマ；ローカルな視点で社会を学ぶ、みんなが住みやすいまち
- 第4日目 提供；西南学院大学 テーマ；食から自分を考える、豊かに楽しく食べること
- 第5日目 提供；北九州まなびとESDステーション テーマ；微力だけど無力でない私たちが考える未来

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

教養特講III (まなびと講座 A) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションやフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

教養特講Ⅳ (まなびと講座B) 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講Ⅳ
			SPL004F

授業の概要 /Course Description

本授業では、ESD（持続可能な発展のための教育）に必要な、様々な分野の領域を横断的に学習することによって、持続可能な社会を構築するための知識や能力を育成することを目的とする。
 また、地域活動に必要な素養を身につけることも一つの狙いである。
 この講義は、大学間連携共同教育推進事業の一環で開設した「北九州まなびとESDステーション」で6大学の単位互換講座として開講され、北九州市内の各大学の様々な分野の教員も担当する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ ESDとテーマ①
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ ESDとテーマ②
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ ESDとテーマ③
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 学びの成果共有ワークショップ

※講義の詳細が決定次第お知らせします。

【2015年度実績】

- 1日目（第1回～第3回）
 - ・ ESDとは何か？（オリエンテーション）、学びに対する目標設定等 - 九州工業大学提供
- 2日目（第4回～第6回）
 - ・ 国際理解 - 北九州市立大学提供
- 3日目（第7回～第9回）
 - ・ 誰もが住みやすい社会のデザイン - 西日本工業大学提供
- 4日目（第10回～第12回）
 - ・ 生物多様性から生命を学ぶ - 九州共立大学提供
- 5日目（第13回～第15回）
 - ・ 微力だけど無力ではない。私たちが考える素敵な未来 - 北九州市立大学提供

教養特講Ⅳ (まなびと講座 B) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業への貢献度：60%
- ・ 授業における成果物：40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 本授業は、「北九州まなびとESDステーション(小倉北区の魚町商店街内)」等にて開講されます。
- ・ 基本的に土曜日や日曜日の10:30～16:00(休憩含む)で開講されます。
- ・ 横断的学習を行うに当たり、グループディスカッションや屋外活動およびフィールドワークなどが課されることもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

持続可能な社会を構築するためには、特定の分野のみの知識の習得だけでは限界があります。環境・福祉・生活・次世代教育(子供)・生活学・国際理解等、様々な学問分野を横断的に学習する必要があります。本授業はESDに必要な素養を身につけるための基礎講座と位置づけられます。詳細は別途告知します。

キーワード /Keywords

ESD、大学間連携事業、地域活動、横断的学習

データ処理【昼】

担当者名 佐々木 実 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 法律1 - 1 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む） ... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 法律1 - 2 . 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 法律1 - 3 . 再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 法律1 - 4 . 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 棚次 奎介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

情報表現【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集 vol. 6』 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集 vo. 5』 国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vo. 4』 国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vo. 3』 国際コミュニケーション協会
『TOEICテスト新公式問題集 vo. 2』 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 リスニング問題(part 1~4)の概要
- 3回 リーディング問題(part 5~7)の概要
- 4回 part 1 (写真問題)、part5 (短文穴埋め問題) の学習
- 5回 part 2 (応答問題)、part 5の学習
- 6回 part 3 (会話問題)、part 5の学習
- 7回 part 4 (説明文問題)、part 5の学習
- 8回 リスニングの復習
- 9回 part 5 (短文穴埋め問題) の総復習
- 10回 part 6 (長文穴埋め問題) の学習
- 11回 part 7 (読解問題) の学習：1文①
- 12回 part 7 (読解問題) の学習：1文②
- 13回 part 7 (読解問題) の学習：2文
- 14回 復習
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 50% 日常の授業への取り組み (小テスト・課題を含む) 40% 単語テスト 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布し説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、単語テスト (100語) を行いますので、テキストで必ず学習して授業に臨んでください。
復習はテスト形式で実施しますので、授業後もテキストで進んだ範囲を学習しておいてください。不明な点がありましたら、授業前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、国際語としての英語の「聴く・読む」力（受信力）を測る TOEIC テストの受験を踏まえ、英語表現を支える基本ルールを習得し、その知識に基づいた英語の基礎力を固めることを第一の目的とする。

学習の流れは、基本的に①グラマー②リーディング③リスニングの順に行う。また、授業の初回では、個人の目標スコアを設定し、それに向けた学習対策を提出してもらう。明確な目標スコアを設定することは学習への動機づけにつながる。また、各自がそれぞれの日常スケジュールに合わせた学習対策を作成することによって、英語学習に取り組むイメージを実際の日常的な学習行為として頭に思い描くことができる。目標を設定し、それに向けて日頃から学習を積み重ねることで英語力は着実に上がっていくということを念頭に置き、より具体的な学習方略をたててもらいたい。

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、予習は言うまでもないが、復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の授業のテキストの学習に取り組んでもらいたい。プリントで配布される TOEIC 問題に関しては、本番のテストを受ける気持ちで解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨んでもらいたい。こうした本番のテストを念頭に入れた学習の積み重ねは、各学期間において受験を義務としている TOEIC テストの本番で、日頃の学習成果を遺憾なく発揮するための大きな『支え』となる。

1 学期のクラス目標スコアは、これまでの当該クラスの取得スコアを考慮し、990 点中の 400 ~ 450 点とする。

教科書 /Textbooks

竹前文夫 他著 「大学英語セミナー - <文のしくみ編>」 南雲堂 ¥1900
※ TOEIC 問題に関しては、プリントで随時配布し、特定のテキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト(必ず出席のこと)
- 第2回 Unit 1 文型と文の要素
- 第3回 Unit 1 文型と文の要素
- 第4回 Unit 2 動詞の特性
- 第5回 Unit 2 動詞の特性
- 第6回 Unit 2 動詞の特性
- 第7回 Unit 7 時制
- 第8回 Unit 7 時制
- 第9回 Unit 7 時制
- 第10回 Unit 7 時制
- 第11回 Unit 9 条件と仮定
- 第12回 比較表現
- 第13回 関係代名詞 (プリント配布)
- 第14回 関係副詞 (プリント配布)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60% + 小テスト30% + 授業への取り組み度10%

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題を使って、その出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を学習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力・リーディング力の養成を図る。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項及び語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図り、実用的な英語力を身につける。リスニング力・リーディング力の養成はTOEICテスト向けであるだけでなく、英語によるコミュニケーション能力の涵養を見据えて行うものとする。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト新公式問題集 vol. 6」 国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「TOEIC 新公式問題集 vol. 5」 国際コミュニケーション協会
 「TOEIC新公式問題集 vol. 4」 国際コミュニケーション協会
 「TOEIC新公式問題集 vol. 3」 国際コミュニケーション協会
 「TOEIC新公式問題集 vol. 2」 国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 part 1、part 5の学習
- 3回 part 2、part 5の学習
- 4回 part 3、part 5の学習
- 5回 part 4、part 5の学習
- 6回 リスニングの復習
- 7回 p art 5の復習
- 8回 part 6の学習
- 9回 part 7、part 1の学習
- 10回 part 7、part 2の学習
- 11回 part 7、part 3の学習
- 12回 part 7、part 4の学習
- 13回 part 7の復習
- 14回 リーディングの復習
- 15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み状況（小テスト、課題を含む）...40% 単語テスト...10%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (律政群 1-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回単語テスト (100語) を行いますので、授業前にテキストで学習しておいてください。
復習はテスト形式で実施しますので、授業後テキストで進んだ範囲をよく学習しておいてください。なお、不明な点は授業前後いつでも質問を受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、国際語としての英語の「聴く・読む」力（受信力）を測る TOEIC テストの受験を踏まえ、英語表現を支える基本ルールを身につけ、その知識に基づく英語の基礎力を養成することを第一の目的とする。

学習の流れは、基本的に①グラマー②リーディング③リスニングの順に行う。また、授業の初回では、個人の目標スコアを設定し、それに向けた学習対策を提出してもらう。明確な目標スコアを設定することは学習への動機づけにつながる。また、各自がそれぞれの日常スケジュールに合わせた学習対策を作成することによって、英語学習に取り組むイメージを実際の日常的な学習行為として頭に思い描くことができる。目標を設定し、それに向けて日頃から学習を積み重ねることで英語力は着実に上がっていくということを念頭に置き、より具体的な学習方略をたててもらいたい。

授業を受ける上での各自の日頃の取り組みにおいては、予習は言うまでもないが、復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の授業の指定ユニットに目を通しておくこと。プリントで配布される TOEIC 問題に関しては、本番のテストを受ける気持ちで解くようにし、わからない箇所はチェックして授業に臨んでもらいたい。こうした本番のテストを念頭に入れた学習の積み重ねは、各学期間において受験を義務としている TOEIC テストで、日頃の学習成果を遺憾なく発揮するための大きな『支え』となる。

1学期のクラス目標スコアは、これまでの当該クラスの取得スコアを考慮し、990点中の350点とする。

教科書 /Textbooks

竹前 文夫 他著 『大学英語セミナー <文のしくみ編>』 南雲堂 ￥1900
※ TOEIC 問題に関しては、適時プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト(必ず出席のこと)
- 第2回 Unit 1 文型と文の要素
- 第3回 Unit 1 文型と文の要素
- 第4回 Unit 2 動詞の特性
- 第5回 Unit 2 動詞の特性
- 第6回 Unit 2 動詞の特性
- 第7回 Unit 7 時制
- 第8回 Unit 7 時制
- 第9回 Unit 7 時制
- 第10回 Unit 7 時制
- 第11回 Unit 9 条件と仮定
- 第12回 比較表現
- 第13回 関係代名詞 (プリント配布)
- 第14回 関係副詞 (プリント配布)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験50% + 小テスト40% + 授業への取り組み度10%
原則として欠席2回まで。遅刻2回につき欠席1回とする。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Communication and Discussion

教科書 /Textbooks

American Headway 2 (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Talking about people
- 第 3 回: Occupations
- 第 4 回: Points of view
- 第 5 回: Understanding the News
- 第 6 回: Retelling News stories
- 第 7 回: Entertainment I
- 第 8 回: Consolidation I
- 第 9 回: Lifestyles
- 第 10 回: Future Plans
- 第 11 回: Generation Gap
- 第 12 回: Cultural Differences I
- 第 13 回: Cultural Differences II
- 第 14 回: Multicultural London
- 第 15 回: Consolidation II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

As directed by teacher
必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy discussing in English

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

New Steps to Success in the TOEIC Test Listening WORKBOOK 1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～5回 Part I Picture Questions Part II Question-Response
6回～10回 Part III Short Conversations
11回～15回 Part IV Short Talks

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 日常の授業への取り組み...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

音声教材を繰り返し聞くこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Communication and Discussion

教科書 /Textbooks

American Headway 2 (Oxford University Press)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Talking about people
- 第 3 回: Occupations
- 第 4 回: Points of view
- 第 5 回: Understanding the News
- 第 6 回: Retelling News stories
- 第 7 回: Entertainment I
- 第 8 回: Consolidation I
- 第 9 回: Lifestyles
- 第 10 回: Future Plans
- 第 11 回: Generation Gap
- 第 12 回: Cultural Differences I
- 第 13 回: Cultural Differences II
- 第 14 回: Multicultural London
- 第 15 回: Consolidation II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

New Steps to Success in the TOEIC Listening WORKBOOK 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～5回 Part I Picture Questions Part II Question-Response
6回～10回 Part III Short Conversations
11回～15回 Part IV Short Talks

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 日常の授業への取り組み...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

音声教材を繰り返し聞くこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ● 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	● 英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、英語運用力のうち特に「聴く・読む」力を、TOEIC テストの問題に取りくむ学習を通して向上させることにある。TOEICでは、リスニング100、リーディング100の計200題という多くの問題が出題される。その問題には、コミュニケーションの手段としての国際英語の習得において必要不可欠な「文法・語法・語彙・表現・発音」等の各項目の習熟度を総合的に測る内容が網羅されている。従って、TOEICテスト用に作成された問題に多く取り組むことは、英語運用力を身につける上で必要なスキルを効率よく習得し、その意識的な学習過程を通じて、無意識にはたらく英語運用力を向上させることができる。また、TOEICテストの取得スコアは、日頃の学習で身につけた習熟度を的確に示すスケール数値である。

授業では、TOEICテスト受験用のテキストと英語力の土台となる基本文法のプリント（毎回の授業で配布）を用いて、TOEIC用問題と基本文法学習の2本立てで授業を行っていく。学習の流れは、基本的に①グラマー②リスニング③リーディングの順に行う。また、授業の初回では、個人の目標スコアを設定し、それに向けた学習対策を提出してもらう。明確な目標スコアを設定することは学習への動機づけにつながる。また、各自がそれぞれの日常スケジュールに合わせた学習対策を作成することによって、英語学習に取り組むイメージを日常的な学習行為として頭に思い描くことができる。日々の学習の積み重ねによって、着実に英語力は向上するということを念頭に置いて、より具体的な学習方略をたててもらいたい。

授業を受ける上での自己学習においては、予習は言うまでもないが、とくに復習に力を入れてもらいたい。前回の授業で学習した範囲をマスターした上で、次の指定範囲のTOEIC問題を、本番のテストに臨む気持ちで解き、わからない箇所はチェックして授業に臨むこと。こうした日頃の取り組みは、TOEICテストの本番で日頃の学習成果を遺憾なく発揮できる支えとなる。1学期のクラス目標スコアは、これまでの当該クラスの取得スコアを考慮し、990点中の350～400点とする。

教科書 /Textbooks

Miles Craven 他著 『TOEICテスト 実践と徹底解説』 成美堂 ¥2600
文法学習については配布プリントを使用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 TOEIC学習方略&文法力確認テスト
- 第2回 文型&動詞 / TOEIC part 1/5問題
- 第3回 文型&動詞 / TOEIC part 2/6問題
- 第4回 時制 / TOEIC part3/7問題
- 第5回 時制 / TOEIC part4問題
- 第6回 時制 / TOEIC 各パート問題
- 第7回 準動詞 / ”
- 第8回 準動詞 / ”
- 第9回 準動詞 / ”
- 第10回 助動詞 / ”
- 第11回 助動詞 / ”
- 第12回 関係詞 / ”
- 第13回 関係詞 / ”
- 第14回 関係詞 / ”
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60% + 小テスト30% + 授業への取り組み度10%

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

テキストの各ユニット毎に用意されたTOEIC Part 1 から Part 7のパートの演習問題に取り組み、TOEICに対応した英語力の養成を図ります。映画『第三の男』を楽しみながらリスニングのコツを段階的に学ぶListening Tipsや、文法の基本事項を確認するための Reading Tips 等の演習を活用して、リスニング力とリーディング力の向上を目指します。各ユニットのエクササイズは毎回の宿題になります。

教科書 /Textbooks

Boost Your Skills for the TOEIC Test with The Third Man
中郷 慶 Beverley Curren 他著
英宝社 2016年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Unit 1 英語のリズム、5文型
- 3回 Unit 2 機能語の聞き取り、動詞の語法
- 4回 Unit 3 助動詞とあいまい母音、動詞の態
- 5回 Unit 4 連結、時制
- 6回 Unit 5 同化 (1)、仮定法
- 7回 Unit 6 同化 (2)、関係詞
- 8回 Review 1 復習 (1)
- 9回 Unit 7 母音の聞き取り (1)、前置詞
- 10回 Unit 8 母音の聞き取り (2)、冠詞
- 11回 Unit 9 子音の聞き取り (1)、助動詞
- 12回 Unit 10 子音の聞き取り (2)、形容詞・副詞
- 13回 Unit 11 人名の聞き取り、熟語
- 14回 Unit 12 地名や数字などの聞き取り、その他
- 15回 Review 2 復習 (2)、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・30% 期末試験・・・70%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各ユニットのPart 1 からPart 7 までの問題は毎回、宿題となりますので、必ず取り組みましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① テキスト付属のCDを活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ② 辞書を必ず持参すること。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

本授業では、1学期に引き続き、TOEIC問題を中心に学習を進める。尚、これまで2年間のTOEIC Testに向けた学習期間を踏まえ、今学期のTOEIC取得スコアに300点の下限を設定する。

教科書 /Textbooks

※1学期と同じテキストを引き続き使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較
- 第2回 比較
- 第3回 比較
- 第4回 仮定法
- 第5回 仮定法
- 第6回 仮定法
- 第7回 前置詞
- 第8回 前置詞
- 第9回 否定
- 第10回 否定
- 第11回 冠詞
- 第12回 冠詞
- 第13回 代名詞
- 第14回 代名詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験60% + 小テスト30% + 授業への取り組み度10%
原則として欠席は2回まで。遅刻2回につき欠席1回とみなす。

※「最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。」

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業外学習における事前学習および事後学習については、下記のことに注意をして取り組むこと。

(1)事前学習・・・前回の授業において指定した範囲のテキスト問題を解き、その問われている事項の確認をしておくこと。例えば文法をテーマとした出題であれば、文法の何を問うているのかなど。

(2)事後学習・・・授業で事前学習の範囲として指定した問題の解答・解説を確認し、押さえておかなければならないポイントを理解した上で、授業内容のおさらいとして翌授業で実施する小テストに備えた復習にあたること。

※上記の学習を通して、正確にそして速く、英文を文頭から読み・聴く力をつけるということを念頭において学習に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

毎日新聞のニュースサイト 英語版The Mainichi から、アメリカ中間選挙、イスラム過激派 IS、エボラ出血熱、危険ドラッグ、中国人観光客の爆買いなど、様々な内容の英文記事を読み、英語の運用能力を高めると同時に、現代社会を捉える知見を得ることを目的とします。各チャプターの演習問題はTOEIC対策問題として活用します。

教科書 /Textbooks

News Gallery 2016
Yoshisada Kinoshita/ Masako Eguchi/ Adam Hailes編著
開文社 2016年 ISBN978-4-87571-727-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明
Chapter 1 Scientists Akasaki, Amano, Nakashima win Nobel Prize in Physics
- 2回 Chapter 2 A name for Britain's princess: Charlotte Elizabeth Diana
- 3回 Chapter 3 Stem cell transplant gives hope to patients suffering from eye diseases
- 4回 Chapter 4 Renowned actor Ken Takakura dies at 83.
- 5回 Review (1)
- 6回 Chapter 5 Japan successfully launches Hayabusa 2 space probe
- 7回 Chapter 6 Scots reject independence in historic vote
- 8回 Chapter 9 Japan, other countries, should beef up measures to prevent Ebola spread
- 9回 Chapter 10 Chinese tourists flocking back to Japan in droves after downturn in 2012
- 10回 Review (2)
- 11回 Chapter 11 Republicans win control of U.S. Senate
- 12回 Chapter 12 'Dangerous drugs' toxicity like Russian roulette
- 13回 Chapter 13 Time capsule dating to 1795 included coins, newspapers
- 14回 Chapter 14 Arab allies pledge to fight Islamic State group
- 15回 まとめ

英語VI (律政群 2 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と小テスト・・・30% 期末試験・・・70%

尚、最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各チャプターの演習問題はTOEIC対策問題として、必ず取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ①ダウンロードした音声を活用し、必ず予習をして授業に臨むこと。
- ②辞書を必ず持参すること。

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skill using basic English for business and communication.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 SYLLABUS REVIEW / CATCHING UP WITH SCHOOL FRIENDS
- 2 回 ANSWERING PERSONAL QUESTIONS / EXPANDING INFORMATION
- 3 回 UNDERSTANDING NEW NAMES /CLEARIFYING INFORMATION
- 4 回 LESSON 1~3 EXPANSION ACTIVITY
- 5 回 OCCUPATIONS – JOBS IN THE GLOBAL COMMUNITY
- 6 回 DESCRIBING JOB RESPONSIBILITIES
- 7 回 DESCRIBING WORKPLACES
- 8 回 LESSON 5~7 EXPANSION ACTIVITY
- 9 回 DESCRIBING PERSONAL CHARACTERISTICS
- 1 0 回 TALKING ABOUT STRENGTHS AND WEAKNESSES
- 1 1 回 PREPARING FOR A JOB INTERVIEW
- 1 2 回 CONDUCTING A JOB INTERVIEW
- 1 3 回 LESSON 9~ 12 EXPANSION ACTIVITY
- 1 4 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION I
- 1 5 回 SPECIAL PROJECT PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese/English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト (10分) を実施。教科書及びその他の問題集より出題
- ② Grammar Points (3項目)、Warm-up (Check A 及び Check B)、Test Questions (Part 5、Part 6、Part 7) からなる練習をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② 「TOEIC」のReading問題及びGrammar問題のコツを掴むこと。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『Reading Breakthrough for the TOEIC Test』 著者：Joshua Cohen、三原 京、中村 善雄 他 ¥2,160
出版社：南雲堂 2015年 10月 発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.5,6 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 1 Fashion and Shopping [ファッションとショッピング]
- 3 回 Unit 2 Eating Out and Restaurants [外食とレストラン]
- 4 回 Unit 3 Entertainment and the Movies [娯楽と映画]
- 5 回 Unit 4 Housing and Family Life [住まいと家庭生活]
- 6 回 Unit 5 The Media and the Internet [メディアとインターネット]
- 7 回 Unit 6 Mini Test 1
- 8 回 Unit 7 Travel and Airports [旅行と空港]
- 9 回 Unit 8 Hotels and Leisure [ホテルとレジャー]
- 10 回 Unit 9 The Weather [天気]
- 11 回 Unit 10 The Environment and Recycling [環境とリサイクル]
- 13 回 Unit 11 Fitness and Health [フィットネスと健康]
- 12 回 Unit 12 Mini Test 2
- 14 回 Review 1
- 15 回 Review 2

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)

英語VII (律政群 2 - 1) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅷ
			ENG212F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for discussion and debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will then be applied to the discussion of socially relevant topics.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 HOW WAS YOUR SUMMER? – SIMPLE PAST TENSE, FOLLOW UP QUESTION & ANSWER PRACTICE
- 2 回 CRITICAL THINKING – LISTENING FOR KEY WORDS AND ANALYZING IDEAS
- 3 回 CRITICAL THINKING – AGREEING, DISAGREEING AND PROVIDING REASONS
- 4 回 CRITICAL THINKING – POINT/COUNTERPOINT PRACTICE
- 5 回 DEBATE TOPIC 1 – MATCHING PRO AND CON ARGUMENTS/NUANCED DISAGREEING
- 6 回 DEBATE TOPIC 1 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 1
- 7 回 DEBATE TOPIC 2 – MATCHING IDEAS AND PERSUADING
- 8 回 DEBATE TOPIC 2 – PRESENTATION OF DEBATE TOPIC 2
- 9 回 DEBATE TOPIC 3 – STARTING A DISCUSSION / ENDING A DISAGREEMENT
- 1 0 回 DEBATE TOPIC 3 – WRITING AN ORIGINAL DEBATE
- 1 1 回 DEBATE TOPIC 3 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 1
- 1 2 回 DEBATE TOPIC 4 – PRESENTATION OF ORIGINAL DEBATE 2
- 1 3 回 REVIEW
- 1 4 回 FINAL TEST PREPARATION I
- 1 5 回 FINAL TEST PREPARATION II

成績評価の方法 /Assessment Method

Class Participation 40% Presentations & Quizzes 30% Homework & Assignments 10 % Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Japanese / English Dictionary required

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語VIII	ENG212F

授業の概要 /Course Description

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト (10分) を実施。教科書及びその他の問題集より出題
- ② Grammar Points (3項目)、Warm-up (Check A 及び Check B)、Test Questions (Part 5、Part 6、Part 7) からなる練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② 「TOEIC」のReading問題及びGrammar問題のコツを掴むこと。また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力を養成する。

教科書 /Textbooks

『Reading Breakthrough for the TOEIC Test』 著者：Joshua Cohen、三原 京、中村 善雄 他 ¥2,160
出版社：南雲堂 2015年 10月 発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.5,6 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Unit 13 Business Trips and Commuting [ビジネス旅行と通勤]
- 3 回 Unit 14 Advertising and Sales [広告と販売]
- 4 回 Unit 15 Getting a Job and Promotions [就職と昇格]
- 5 回 Unit 16 Accounting and office Work [会計とオフィスワーク]
- 6 回 Unit 17 Personnel and Recruitment [人事と採用]
- 7 回 Unit 18 Mini Test 3
- 8 回 Unit 19 Customer Service and Shipping [カスタマーサービスと発送]
- 9 回 Unit 20 Trading and Ordering [貿易と注文]
- 10 回 Unit 21 Negotiations and Contracts [交渉と契約]
- 11 回 Unit 22 Presentations and Office Situations [プレゼンとオフィス状況]
- 13 回 Unit 23 Marketing and Office Supplies [マーケティングとオフィス用品]
- 12 回 Unit 24 Mini Test 4
- 14 回 Review 1
- 15 回 Review 2

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する)(20%)
- ③ 期末考査(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年次
単位 /Credits 1単位 1単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 済営律政 3年 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。
TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 2 (3rd Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Daily Life
- 2 回 Places
- 3 回 People
- 4 回 Travel
- 5 回 Business
- 6 回 Office
- 7 回 Technology
- 8 回 Personnel
- 9 回 Management
- 1 0 回 Purchasing
- 1 1 回 Finances
- 1 2 回 Media
- 1 3 回 Entertainment
- 1 4 回 Health
- 1 5 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 ... 90% 日常の授業への取り組み ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。
Reading Sectionの英文の意味を確認しておくこと。
リーディング教材の下調べをしておくこと。

英語IX (済営律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力のさらなる伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストを確認されたい。

その他、適宜、プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 リスニング プレテスト
- 2回 リスニング ユニット1、リーディング ユニット1
- 3回 リスニング ユニット2、リーディング ユニット2
- 4回 リスニング ユニット3、リーディング ユニット3
- 5回 リスニング ユニット4、リーディング ユニット4
- 6回 リスニング ユニット5、リーディング ユニット5
- 7回 リスニング ユニット6、リーディング ユニット6
- 8回 リスニング ユニット7、リーディング ユニット7
- 9回 リスニング ユニット8、リーディング ユニット8
- 10回 リスニング ユニット9、リーディング ユニット9
- 11回 リスニング ユニット10、リーディング ユニット10
- 12回 リスニング ユニット11、リーディング ユニット11
- 13回 リスニング ユニット12、リーディング ユニット12
- 14回 リスニング ポストテスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定された課題とリーディング教材の予習を行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Golden rules
- 3回 Exchanging basic information
- 4回 Majors, school years, and clubs
- 5回 Part-time jobs
- 6回 Daily routines
- 7回 Hardest/easiest days of the week
- 8回 Spending time
- 9回 Hometown attractions
- 10回 Hometown likes and dislikes
- 11回 Where to live in the future
- 12回 Travel experiences
- 13回 Future travel ideas and plans
- 14回 Planning a trip
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語XI (済営律政 3 年) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語ⅩⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

『Conversations in class, 3rd edition』 (2015) Talandis, G. and Vannieu, B., Alma Publishing (アルマ出版) ¥2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course and online resources
- 2回 Registering in the online course
- 3回 Talking about breaks
- 4回 Favorite free time activities
- 5回 Future hobbies
- 6回 Talking about music
- 7回 Talking about movies
- 8回 Talking about TV, reading, and games
- 9回 Recent meals
- 10回 Likes and dislikes
- 11回 Exotic foods and eating out
- 12回 Imaging life in five years
- 13回 Discussing life issues
- 14回 Dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (33%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

英語XII (済営律政 3 年) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済管人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 編）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 中国語概説・単母音と声調
2. 子音1と複母音1
3. 子音2と複母音2・基本挨拶
4. 鼻母音・音節と音便・教室用語
5. 発音の復習とまとめ
6. 「自己紹介」（判断文・疑問文1・人称代名詞）
7. 復習と実用練習
8. 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文2）
9. 復習と実用練習
10. 「両替」（願望表現・数字・場所）
11. 復習と実用練習
12. 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
13. 復習と実用練習
14. 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト(4割)、定期試験の成績(6割)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話文を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王占華 編）[コピー配布]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト(4割)、定期試験の成績(6割)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 張 岩紅 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 張 岩紅 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 英済営人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中日・日中電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関（会話）
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州（会話）
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡（会話）
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀（会話）
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎（会話）
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国（会話）
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道（会話）
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【バッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な文章が書けるようになること、また同程度の読解力ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

巖基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社（2010年3月）、2,200円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこで住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上がりますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
定期試験50% / 平常点50% (小テスト・課題・態度)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。
欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主としてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
田谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、小テスト、課題...50% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor	チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師											
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	済営律政群 1年			
対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description
日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks
金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)
李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字1【【おいくらですか】【買い物】】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形2【해오체】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形2【해오체】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오체」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해오체」のドリル、固有数字2【おいくらですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 会話テスト(韓国語でグループ発表)、民族遊び
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況、小テスト、課題...40% 会話テスト...20% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。期末試験前に会話テストがあるので、履修者は全員受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

楽しくできる韓国語初級II、李志暎外1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 第1課 動詞の現在連体形
- 3回 第1課 動詞の現在連体形
- 4回 第2課 動詞の過去連体形
- 5回 第2課 動詞の過去連体形
- 6回 第3課 動詞の未来連体形
- 7回 第3課 動詞の未来連体形
- 8回 第4課 形容詞の現在連体形
- 9回 第5課 接続語尾 -는데
- 10回 第5課 接続語尾 -는데
- 11回 第6課 ㄷ不規則活用
- 12回 第7課 ㄹ不規則活用
- 13回 第8課 ㄴ不規則活用
- 14回 第8課 ㄴ不規則活用
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語Ⅶと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざおよび漢字語を習得できるように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

「楽しくできる韓国語初級II」、李志暎外1、アスク出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利ほか(小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 第9課 ㄷ不規則活用
- 3回 第9課 ㄷ不規則活用
- 4回 第10課 ㅌ不規則活用
- 5回 第10課 ㅌ不規則活用
- 6回 第11課 話者の意思・約束
- 7回 第11課 話者の意思・約束
- 8回 第12課 状態の継続
- 9回 第12課 禁止命令
- 10回 第13課 推量表現
- 11回 第13課 推量表現
- 12回 第14課 前後の話法
- 13回 第16課 時間の経過
- 14回 第16課 意向伝達
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。朝鮮語VIIと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

ちよこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション、シラバス紹介
2. インタビューする
3. インタビューする
4. 自己紹介する
5. 自己紹介する
6. 自己紹介する
7. 決まりを言う
8. 決まりを言う
9. 約束をする
10. 約束をする
11. 約束をする
12. 道案内をする
13. 道案内をする
14. 道案内をする
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 50% 定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Ⅴと並行して進行するので、同時に受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

ちよこっとチャレンジ！韓国語、金順玉外2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか (小学館)
ISBN4-09-506141-3

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 感想を言う
- 3回 感想を言う
- 4回 買い物をする
- 5回 買い物をする
- 6回 買い物をする
- 7回 プレゼントをする
- 8回 プレゼントをする
- 9回 体の具合を言う
- 10回 体の具合を言う
- 11回 体の具合を言う
- 12回 勉強の仕方を話す
- 13回 勉強の仕方を話す
- 14回 勉強の仕方を話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト 40% 定期試験 40% 会話試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。
朝鮮語Vと並行して進行するので、同時に受講すること。
期末に韓国語発表会形式の会話テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前日或は当日に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること、授業終了後もその日に習ったことの復習をすること。2 - 3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備すること。
最初の2 - 3回の授業でアルファベットの文字や読みを学習するので、特にこの時期に欠席するのは好ましくない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前日或は当日に、数回前まで遡って習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること、授業終了後その日に習ったことの復習をすること。2 - 3回毎に1回の割合で和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備すること。
この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 / 単位 /Credits: 1単位 / 学期 /Semester: 1学期 / 授業形態 /Class Format: 講義 / クラス /Class: 英中国済営比人律 政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政 1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。
到達目標は、辞書を使って中級の読み物が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「百万人のロシア語」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 < СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ > 名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
- 2回 < МАМА И ФУТБОЛ > 多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
- 3回 < МАТЬ > 関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
- 4回 < САЛЮТ > 複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
- 5回 < ГИПНО'З > 不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
- 6回 < ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР > 願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
- 7回 < ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН > 動詞の格支配、複文、否定生格
- 8回 < ДОМ ОТДЫХА > 時の表現、動詞の体
- 9回 < БАБУШКА И ВОВКА > 動詞の格支配、不規則変化動詞
- 10回 < ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ > 複文、動詞の体
- 11回 < О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ > 年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
- 12回 < КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД > 不定法構文、無人称文
- 13回 < ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК > 個数詞+形容詞+名詞の語結合、所有形容詞
- 14回 < ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ > 「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
- 15回 まとめと復習：構文

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 50% 授業への参加度 ... 50 %
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語VI【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

会話テキスト「ロシアでの一ヶ月」の読み、訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。
到達目標は、ノーマルなスピードのやさしい会話が理解できるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布（「ロシアでの一ヶ月」）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

博友社「ロシア語辞典」、研究社「露和辞典」、岩波書店「ロシア語辞典」など数万語以上の見出し語を持つロシア語辞書が必要

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験50%、授業での発表50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。
この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅶ	RUS202 F

授業の概要 /Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り・会話」と「作文」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 2回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 3回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 4回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 5回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 6回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 7回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 8回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 9回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 10回 第7課① 【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
- 11回 第7課② 【気温】、【雨が降る】
- 12回 第7課③ 【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
- 13回 ビデオ学習① 【В ГОСТИНИЦЕ】
- 14回 ビデオ学習② 会話練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 英中国済営比人律 政 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第8課① 【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
- 2回 第8課② 【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
- 3回 第8課③ 【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
- 4回 ビデオ学習③ 【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
- 5回 ビデオ学習④ 会話練習【У ВРАЧА】
- 6回 ビデオ学習⑤ 作文【Я И СПОРТ】
- 7回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】
- 8回 第9課② 【買い物】、【値段】 1回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】
- 9回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】
- 10回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】
- 11回 第10課①【モスクワの町】
- 12回 第10課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、
【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
- 13回 第10課③【モスクワの町】、【単文と複文】
- 14回 第10課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 30% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。学生の到達目標は、基本単語を用いて口頭による日常的なコミュニケーションがとれるようになること。初歩的な文法を理解し、運用できるようになること。さらに、ドイツ語圏の社会と文化について簡単な説明ができるようになることです。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻/あいさつ(2)/時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う/アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物/メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie/命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語/建物など 文法：名詞の性/定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持つてる? 持つてない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物/値段 文法：名詞と冠詞の3格/複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%
日常の授業への取り組み 50%

ドイツ語I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識およびコミュニケーション力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒェン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

今回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
前回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

パートナー練習 役割練習 正確な発音と初級文法の習得 楽しく学習

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ドイツ語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他 (Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

ドイツ語VIII 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って進み、1学期は第11課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 アルファベを発音する、発音と綴り字
- 2回 挨拶をする
- 3回 名前、国籍、職業を言う
- 4回 主語人称代名詞、動詞 *etre* の直説法現在
- 5回 年齢を言う、家族を語る
- 6回 名詞の性と数、不定冠詞、動詞 *avoir* の直説法現在、否定文
- 7回 好きなものを言う、定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
- 8回 持ち物を言う、指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞の強勢形
- 9回 友達について話す、形容詞
- 10回 尋ねる、疑問代名詞、疑問副詞
- 11回 近い未来、近い過去のことを語る、前置詞と定冠詞の縮約、中性代名詞 *y*
- 12回 時間、天候を言う、疑問形容詞、非人称構文
- 13回 数量を表わす、部分冠詞、数量の表現、中性代名詞 *en*
- 14回 紹介する、補語人称代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）
事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。

教科書 /Textbooks

『新・東京一パリ, 初飛行』（藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET著 駿河台出版社 ¥2200+税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全21課、配列に従って2学期は第12課から第21課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 一日を語る
- 2回 代名動詞
- 3回 頼む、命令する
- 4回 命令法、命令、義務を表わす表現
- 5回 未来のことを語る、直説法単純未来
- 6回 過去のことを語るI、直説法複合過去
- 7回 過去のことを語るII、直説法半過去と大過去
- 8回 人や物について語る、関係代名詞、指示代名詞
- 9回 比較する、比較級と最上級
- 10回 受け身の形を使う、現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 仮定する、条件法現在
- 12回 条件法過去
- 13回 感情を表現する
- 14回 接続法現在と過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%

期末試験...80%

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語の検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること。
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてなによりもフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音展・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはCDを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ラ・フォーレ ーフランス語基礎文法ー 森 繁 著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フランス語の子音と母音
- 2回 あいさつ
- 3回 自己紹介
- 4回 年齢、趣味
- 5回 質問する(1)
- 6回 質問する(2)
- 7回 ものや人物の説明(1)
- 8回 ものや人物の説明(2)
- 9回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 10回 予定
- 11回 過去のことを言う(1)
- 12回 過去のことを言う(2)
- 13回 時間と天候
- 14回 依頼する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じく基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を1学期以上に正確に読み発音できるようにしてほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

ラ・フォーレ 一フランス語基礎文法一、森 繁 著、朝日出版社 刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 贈り物をする(1)
- 2回 贈り物をする(2)
- 3回 日常の行動(1)
- 4回 日常の行動(2)
- 5回 旅行する
- 6回 過去のことを言う(3)
- 7回 過去のことを言う(4)
- 8回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)
- 9回 未来の計画(1)
- 10回 未来の計画(2)
- 11回 未来の計画(3)
- 12回 街を歩く
- 13回 夢を語る
- 14回 感情を表現する
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義は復習を前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ基本文法を基に、現代フランス語圏事情を読み解く練習をします。フランス語および、フランス語圏の生活や習慣により深い知識を持つこととなります。

教科書 /Textbooks

『デクリプタージュ』（白水社 1900円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 基本文型 フランスの新学期
- 2回目 関係代名詞
- 3回目 フレンチレストランで
- 4回目 直説法半過去
- 5回目 フランス人のイメージ
- 6回目 中性代名詞 フランスの海外県
- 7回目 義務の表現 フランスの小学生
- 8回目 現在分詞とジェロンディフ
- 9回目 フランスのTGV
- 10回目 理由を表す接続詞 フランスのパカンス
- 11回目 比較表現 メール省略語
- 12回目 直接疑問、間接疑問 ヴェリブ制度
- 13回目 最上級 フランス語圏
- 14回目 代名動詞の4つの用法
- 15回目 条件法現在 フランス人とマンガ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点：30% 小テスト：20% 定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習として、lectureの単語を調べ、発音練習をしておくこと、また文法項目に目を通しておくこと。事後学習として、lectureの仏文をノートに写して、和訳を整理すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

学んだフランス語基本知識を基に、テーマに沿った作文練習を通して表現力を養います。

教科書 /Textbooks

『ブリュム・ア・ラ・マン !』 (駿河台出版社 1800円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 自分と家族を紹介する
- 2回目 和文仏訳 街を紹介する
- 3回目 自分の生まれた町を紹介する
- 4回目 上記の文を添削する
- 5回目 日本の行事を紹介する
- 6回目 手紙を書く
- 7回目 手紙の添削
- 8回目 レシピを書く
- 9回目 主語の扱い
- 10回目 和文仏訳 日本の観光案内文を書く
- 11回目 お気に入りの場所の案内文を書く
- 12回目 上記の文を添削する
- 13回目 接続詞について
- 14回目 和文仏訳 お土産を勧める
- 15回目 和文仏訳 日本の習慣について助言する

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表：20% 宿題作文：30% 定期試験：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習として、各課の文法復習問題をしておくこと。また和文仏訳を予め解いておくこと。事後学習として、添削された各自の作文を基に作文を書きなおし、発音練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours. この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - Présentation des étudiants 自己紹介
- 2 - Révisions des bases (1) 基本の復習 1
- 3 - Se repérer dans l'espace (1) 位置関係 1
- 4 - Se repérer dans l'espace (2) 位置関係 2
- 5 - Au restaurant (1) レストランにて 1
- 6 - Au restaurant (2) レストランにて 2
- 7 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 1
- 8 - Les transports et les voyages 交通機関と旅行 2
- 9 - Le corps et la santé (1) 身体と健康 1
- 10 - Le corps et la santé (2) 身体と健康 2
- 11 - Les vacances (1) バカンス 1
- 12 - Les vacances (2) バカンス 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

フランス語Ⅶ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習：教科書の文法のポイントを予習してくる。

事後学習：指定された単語、熟語表現を次回までに覚えてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor ドウラボード・ブランシュ / Blanche Delaborde / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年 / 2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212 F

授業の概要 /Course Description

Ce cours a pour objectif de développer les capacités de l'étudiant à parler en français dans des situations courantes. L'accent sera mis sur l'acquisition d'un vocabulaire varié et le développement d'une expression fluide. Nous aborderons non seulement les compétences linguistiques à développer, mais également les caractéristiques de la communication en France et de la société française. Nous utiliserons principalement comme support le manuel "En Scène II". Il sera demandé chaque semaine d'apprendre par cœur une petite liste de vocabulaire de base. Deux séances seront consacrées aux présentations faites en français par les étudiants à partir des phrases apprises durant le cours.

この授業の目標は、日常的なシーンでのフランス語会話力を培うことです。語彙を豊かにし、流暢に使えるようにすることに重点を置きます。フランス語の習得だけではなく、フランスでのコミュニケーションやフランス社会の特徴についても解説していきます。指定の教科書を主に使い授業を進めます。毎週、語彙の小テストを行います。最後の2回の授業では、学習した表現を使って簡単な発表をしてもらう予定です。授業はフランス語と日本語で行います。

教科書 /Textbooks

『EN SCENE II』 (高橋百代、Brigitte Moser Hori) 三修社 2900¥

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 - A la Poste (1) 郵便局にて 1
- 2 - A la Poste (2) 郵便局にて 2
- 3 - L'environnement (1) 生活と環境 1
- 4 - L'environnement (2) 生活と環境 2
- 5 - La vie quotidienne : la famille (1) 日常生活：家族 1
- 6 - La vie quotidienne : la famille (2) 日常生活：家族 2
- 7 - La vie quotidienne : le week-end (1) 日常生活：週末の過ごし方 1
- 8 - La vie quotidienne : le week-end (2) 日常生活：週末の過ごし方 2
- 9 - Rêves de futur (1) 将来の夢 1
- 10 - Rêves de futur (2) 将来の夢 2
- 11 - Les sentiments (1) 様々な感情 1
- 12 - Les sentiments (2) 様々な感情 2
- 13 - Exposés 発表
- 14 - Exposés 発表
- 15 - Récapitulatif まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

30% contrôles de vocabulaire 語彙の小テスト(8回)

30% exposé 発表

40% examen final 定期試験

ただし、大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験3級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前学習：教科書の文法のポイントを予習してくる。

事後学習：指定された単語、熟語表現を次回までに覚えてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語はヨーロッパの諸言語のなかでも、われわれ日本人には「やさしい」言語です。単語一つ一つは5つの母音字（ア・エ・イ・オ・ウ）と子音字の組み合わせなので、発音はいたって簡単です。この授業では、アルファベットから単語の発音・アクセントの法則から始めて、スペイン語の初歩的文法を中心に学びます。学んだ文法事項を応用して、平易な短文を読めるようにします。またスペインおよびスペイン語圏の国々・地域の事情についても適宜お話しします。

教科書 /Textbooks

『初級スペイン語文法』（2011年、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森ほか『スペイン語基礎文法』（ピアソンエデュケーション）
『スペイン語とつきあう本』（寿里、東洋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語の歴史について簡潔な説明、アルファベット
- 2回 5つの母音と子音について、正書法による発音とアクセント
- 3回 名詞と冠詞、性と数、簡単なあいさつ表現
- 4回 人称代名詞、一般動詞の活用（3つのタイプ）：直説法現在
- 5回 一般動詞の活用（1）と基本文例、肯定文、否定文
- 6回 一般動詞の活用（2）と基本文例、否定文、疑問文
- 7回 一般動詞の活用（3）と基本文例、目的語と前置詞a
- 8回 一般動詞の復習、形容詞
- 9回 ser動詞とestar動詞（1）
- 10回 ser動詞とestar動詞（2）およびhayについて
- 11回 不規則動詞活用（1）、指示詞
- 12回 不規則動詞活用（2）、所有詞と接続詞
- 13回 短文を読む（1）
- 14回 短文を読む（2）
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

第二外国語はそれなりの忍耐も必要です。毎回出席し、予習・復習をしましょう。辞書は必要不可欠です。授業中に質問の時間を設けています。わからないことがあれば、いつでも質問しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語の学習は新しい世界観につながります。

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅰの続編です。基本は直説法現在時制ですが、現在完了形・過去形も学び、一通りスペイン語文法の基礎を終了します。授業では平易な短い文章を読めるようにし、同時にスペインの歴史や文化、およびスペイン語圏の国々と地域にも触れて、進めたいと思います。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法』
短文のプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロボ、大森『スペイン語基礎文法』(ピアソンエデュケーション)
『スペイン語とつきあう本』(寿里、東洋書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅰの復習
- 2回 直説法現在一不規則動詞活用、人称代名詞目的格
- 3回 直接目的格と間接目的格
- 4回 前置詞、前置詞と人称代名詞、gustar型の動詞(1)
- 5回 gustar型の動詞(2)
- 6回 再帰動詞(1)とその文例
- 7回 再帰動詞(2)とその文例
- 8回 無人称表現、曜日・日付の表現
- 9回 命令法、不定詞
- 10回 過去分詞・現在分詞を使った表現
- 11回 直説法点過去(規則活用)
- 12回 受動文、現在完了
- 13回 直説法点過去(不規則型)
- 14回 特殊な動詞(知覚・使役・放任など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

辞書は必要不可欠です。初めての単語は必ず辞書で調べましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。受講人数にもよりますが、ペアで、あるいは3 - 4人のグループで会話練習を適宜行います。また、テキスト各課の最後にある発展的課題を行うことで、実生活で応用がきく会話方法を学んでいきます。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。

教科書 /Textbooks

ピラル・ラゴ、コンチャ・モレノ、落合佐枝、大森洋子 著 『発見!大好き!!スペイン語!!! 1 Nos gusta! 1』朝日出版社 2016

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、スペイン語の発音、「お名前は？」
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの位置、1 - 20までの数字、挨拶、「おはよう。」
- 3回 1課 名詞の性と数、定冠詞・不定冠詞、「いつもの新聞をください。」
- 4回 2課 主語とser動詞、名前・国籍・職業を言う、「私はセシリアです。」
- 5回 形容詞、「その女の子は背が高いです。」
- 6回 人物の説明、「テレサはペルー人で、陽気な人です。学生です。」
- 7回 3課 規則活用 -ar 動詞、前置詞、「私は病院で働いています。」
- 8回 規則活用 -er / -ir 動詞、「どこに住んでいますか？」
- 9回 曜日、1週間の予定、頻度表現、「アナは歌がうまい」
- 10回 4課 動詞hayとestar、「トイレはどこですか？」
- 11回 指示詞、場所を表す表現、自分の街を紹介する、「サラマンカには大学があります。」
- 12回 5課 動詞tenerとその表現、所有詞(前置形)、「兄弟は何人いますか？」
- 13回 状態を表す表現、estarとtener、数字20 - 100、「今日は疲れている。眠いんだ。」
- 14回 家族の紹介、日にちの表現、「誕生日はいつ？」
- 15回 前期まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、小テスト 10%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法事項を学びながら会話に有効な語彙や言い回しも覚えましょう。受講人数にもよりますがペアで、あるいは3 - 4人のグループで会話練習を適宜行います。また、テキスト各課の最後にある発展的課題を行うことで、実生活で応用が利くコミュニケーション表現も学びます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
ピラル・ラゴ、コンチャ・モレノ、落合佐枝、大森洋子 著 『発見!大好き!!スペイン語!!! 1 Nos gusta! 1』朝日出版社 2016

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 6課 不規則活用動詞1、「今度の日曜は何するの?」
- 2回 時間表現、「何時にその映画が始まるの?」
- 3回 大学祭のプログラムを作ろう、7課 動詞gustar、「三つ子は猫が好き」
- 4回 不規則活用動詞2、quererの表現、「映画に行かない?」
- 5回 好みに関するアンケート、8課 再帰動詞、「何時に起きるの?」
- 6回 再帰動詞(続き)、一日のスケジュール、「もう帰るよ。じゃあね!」
- 7回 生活習慣、9課 直接目的格人称代名詞、「お手伝いしましょうか?」
- 8回 数字100~、買い物表現、「その洋服合う?」
- 9回 9課までの復習、10課 間接目的格人称代名詞、「その本を貸してくれる?」
- 10回 依頼表現、申し出の表現、「窓を開けましょうか?」
- 11回 11課 不定詞を伴う表現、conocerとsaber、天候表現、「週末はどこに行く予定?」
- 12回 比較表現、旅行の予定、「Juanは私より背が高い」
- 13回 12課 過去の時制について
- 14回 スペイン語でDVDを見る
- 15回 後期まとめ

* テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、小テスト 10%、日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書などを使い新出単語を調べてくること。また授業前には動詞の活用、既出単語などを覚えてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、スペイン、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	
		SPN201 F	

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

プリント配布！

1年次のテキストが各クラスで異なるため、それまでの到達度に配慮したプリントを作成して配布します。(テキスト不要)ただし、ページが多いことやカラー部分があるので、北九大ポータル文書管理からダウンロードして各自プリントアウトして下さい。詳しい方法は最初の授業で指示しますが、ポータル→文書管理→学習支援→非常勤→青木文夫のところスペイン語Ⅴとしてのファイルをしています。ファイルはipadやノートパソコンにダウンロードして授業に持参しても構いません。ただし、スマホでの利用は禁止します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典：

和西辞典(宮城、コントレラス監修：白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編：河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著：昭和堂)

スペイン(増田監修：新潮社)

スペインの社会(寿里、原編：早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編：早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編：早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著：東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション)

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 1年の復習(代名詞を中心に)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)
- 3 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 4 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 5 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 6 不定過去、不完了過去、現在完了の活用と用法(規則形と不規則形をいっしょに)
- 7 進行形と複文・重文
- 8 進行形と複文・重文
- 9 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 10 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 11 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 12 未来・条件未来・過去完了と再帰動詞
- 13 視聴覚教材を使って
- 14 視聴覚教材を使って
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材(プリント配布)を視聴覚教材として随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

プリント配布！
1年次のテキストが各クラスで異なるため、スペイン語Vで配布したプリントの続きとして、それまでの到達度に配慮したプリントを作成して配布します。(テキスト不要)ただし、頁数が多いことやカラー部分があるので、北九大ポータル文書管理からダウンロードして各自プリントアウトして下さい。詳しい方法は最初の授業で指示しますが、ポータル→文書管理→学習支援→非常勤→青木文夫のところからスペイン語VIとしてのファイルを置いています。ファイルはipadやノートパソコンにダウンロードして授業に持参しても構いません。ただし、スマホでの利用は禁止します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントも文書管理に残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典(小学館)
新スペイン語(研究社)
現代スペイン語辞典(白水社)
プログレッシブスペイン語辞典(小学館)
パスポート初級スペイン語辞典(白水社)
他多数有。
白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典:
和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)
クラウン和西辞典(三省堂)
その他
図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
スペイン(増田監修:新潮社)
スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)
スペイン語基礎文法(ロボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 接続法現在の活用と命令形
- 2 接続法現在の活用と命令形
- 3 命令形の練習
- 4 命令形の練習
- 5 比較表現、感嘆表現
- 6 受け身文、無人称文
- 7 接続法の活用全般について
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法
- 10 接続法の用法
- 11 スペイン語版トトロを理解する
- 12 スペイン語版トトロを理解する
- 13 スペイン語版トトロを理解する
- 14 スペイン語版トトロを理解する
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）で平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記テキストとなるプリント以外の補助教材もポータルから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。プリントとDVDでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語のビデオを理解する、授業内容について(前年度の教科書持参)
- 2回 スペイン語Ⅲ・Ⅳの復習、自己紹介
- 3回 人についての表現
- 4回 一日の出来事
- 5回 日常の紹介(1)
- 6回 日常の紹介(2)
- 7回 買い物(1)
- 8回 買い物(2)
- 9回 自由な時間の過ごし方
- 10回 歌詞を理解する
- 11回 旅行
- 12回 休暇の過ごし方 どこへ?
- 13回 スペイン語圏について
- 14回 町の紹介
- 15回 まとめ、前期に使用した表現

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。
事前学習として、与えられた文章を辞書を使い訳してくる・インターネットで見られる映像を予習してくる。
事後学習としては、授業内で配布するスクリプトを使用し、映像の会話を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前期のスペイン語Ⅶをさらに発展させていきます。プリントとDVDでいろいろな場面に応じた会話表現を学んで行き、映像や音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行ったうえで、実際の場面に応じた会話をグループで行い、発表します。会話表現内で、前年度学んでいない文法項目については適宜解説します。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(テキスト購入不要)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは電子辞書、『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999などです。
詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期表現の復習、休暇中のこと
- 2回 さあ食べよう！
- 3回 今日のメニュー—El menu del dia
- 4回 何を食べる？
- 5回 何を作る？
- 6回 仕事の紹介
- 7回 この企業は？
- 8回 Misterio en Almagro
- 9回 都会と田舎
- 10回 過去の出来事、点過去と線過去
- 11回 小さかった時・・・
- 12回 その他の時制、法
- 13回 スペイン語のDVDを理解する(1)
- 14回 スペイン語のDVDを理解する(2)
- 15回 まとめ、スペイン語の表現、動詞の時制のまとめ

* 上記、理解度に応じ順番を多少前後することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

スペイン語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語I・II・III・IV・V・VIIの単位履修は必須ではありませんが、よく理解している必要があります。
事前学習として、与えられた文章を辞書を使い訳してくる・インターネットで見られる映像を予習してくる。
事後学習としては、授業内で配布するスクリプトを使用し、映像の会話を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。

具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。

授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 60% 自己評価 ... 20% ピア評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学期の途中、6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である(希望者のみ)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には授業内容を復習すること。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
伝統文化と和服(考え方・着こなし)は切り離せない。受講者数にもよるが、着付けも授業で練習する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの論文を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美 『あるようなないような』 中公文庫
河合隼雄 「『母性』と『父性』の間をゆれる」 『国語総合』 大修館書店
細川英雄 『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』 明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 レポートの作成(1)私にとって文化とは何か
- 10回 ピア・リーディング(1)クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 11回 レポートの作成(2)修正する
- 12回 ピア・リーディング(2)授業外学生からのコメントを読む
- 13回 レポートの作成(3)修正する
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% テスト...30% 授業への取り組み(発表や課題を含む)...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。
授業は課題の予習を前提として進めます。わからない日本語については、予習の段階で解決しておき、授業内では、内容に関する学習を主にを行います。また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、日本で生活している様々な人々の「生の声」を収録したディスカッション用素材集を学習リソースとして出発点し、さらに、新聞、テレビ、インターネット、書籍等へと学習リソースを広げていく。

教科書 /Textbooks

永田由利子(2009)『VOICES FROM JAPAN-ありのままの日本を知る・語る』くろしお出版
※テキストは出発点です。必要に応じて、適宜資料収集を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩男寿美子・萩原滋(1987)『留学生が見た日本-10年目の魅力と批判』サイマル出版会
- 楢原暁(1996)『アジア人留学生の壁』NHKブックス
- 佐藤喜彦(2008)『【中国からの留学生】ニッポン見たまま感じたまま』河出書房新社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業オリエンテーション
2. テーマ1人生、働くことについて(1)
3. テーマ1人生、働くことについて(2)
4. テーマ2若者と社会(1)
5. テーマ2若者と社会(2)
6. テーマ3教育について(1)
7. テーマ3教育について(2)
8. プロジェクトワークI(1)
9. プロジェクトワークI(2)
10. プロジェクトワークI発表会
11. テーマ選択(「家族」「結婚」「地域」と、「言葉」「文化」)
12. プロジェクトワークII(1)
13. プロジェクトワークII(2)
14. プロジェクトワークII(3)
15. プロジェクトワークII発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% プロジェクトワーク20%×2回 = 40% 課題...30%

評価の方法としては、「自己評価」「ピア評価」「教員評価」の3点から総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。授業では予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本で暮らす人々 日本社会 現代社会の課題 リテラシー 批判的思考力 協同学習

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、これから法学部において広く法学を学んでいく上での基礎となる知識や考え方を身に付けることを目的とする総論科目である。
 1. 社会生活を営む上で、わたしたちは常に様々な「法」に接している。本講義は「法」というものが一体どのような形で存在し、具体的に運用されているか、またそれらはわたしたちの生活においていかなる意味を持っているのかについて理解を深めることを目指す。
 2. こうした学習を通じ、社会に対して常に意識的に関心を寄せて「法」をはじめとした情報を読み解き、みずからの考えをもとに判断する素養を得ることを目指す。これにより、自学自習を行う上でのトレーニングを行うと同時に、高年次の専門科目・演習の受講に向けた基礎体力を養う。

教科書 /Textbooks

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門[第4版]』（有斐閣・2005年）
 山下友信・山口厚編『ポケット六法 平成28年版』（有斐閣・2015年）
 ※基本的に配布するレジュメに沿って講義を行い、適宜教科書・六法を参照する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

星野英一『法学入門』（有斐閣・2010年）(図書館蔵書：○)
 笹倉秀夫『法学講義』（東京大学出版会・2014年）(図書館蔵書：○)
 ※このほか、講義中に板書・レジュメ等で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 第1回 ガイダンス
 - ・ 第2回 法とは何か（1）【法の存在形式】
 - ・ 第3回 法とは何か（2）【法と道徳】【法と正義】
 - ・ 第4回 法とは何か（3）【法と強制】【法の機能】
 - ・ 第5回 裁判と法（1）【裁判制度と裁判手続】
 - ・ 第6回 裁判と法（2）【法の解釈】
 - ・ 第7回 裁判と法（3）【国民の司法参加】
 - ・ 第8回 国家と法（1）【憲法とは何か】【近代憲法の原理】
 - ・ 第9回 国家と法（2）【日本国憲法の基本構造】
 - ・ 第10回 刑事法【刑法の基本原則】【犯罪と法】
 - ・ 第11回 民事法（1）【財産と法】【契約の主体と客体】
 - ・ 第12回 民事法（2）【家族関係と法】
 - ・ 第13回 資源配分と法【社会法】【経済法】【環境法】
 - ・ 第14回 国際社会と法【国際法の諸原則】
 - ・ 第15回 講義のまとめ
- ※ 進度等の事情により、実施回・実施内容の調整を行う場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。
1. 平常の学習状況（進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある）（全体の30%）
 2. 講義全体の内容についての期末テスト（全体の70%）

法学総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】本シラバスや講義中に紹介した参考図書を読み解くとともに、新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に「法」やそれを巡る社会の問題につきチェックする習慣を身につけられたい。

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た「法の」イメージがどのように変化したかを整理していただきたい。

【諸注意】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 現代法 / 近代法 / 基礎法学 / 公法 / 社会法 / 民刑事法 / 手続法

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 川上 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論 I LAW200M

授業の概要 /Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）及び法律に携わる様々な職業（司法書士、裁判所書記官、家庭裁判所調査官など）の役割と現代的意義を理解することを目的とします。
講義の他に、法律実務家による講演を予定しています。法律実務家の生の声を聞くことで、各職業の内容だけでなく、やりがいや苦労についても知ることができます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 法曹三者についての基礎知識
- 2 回 「裁判官の業務と現代的意義(1)」 「司法権」
- 3 回 「裁判官の業務と現代的意義(2)」 「非訟、訴訟」
- 4 回 裁判官講師による講演
- 5 回 「検察官の業務と現代的意義(1)」 「公益の代表者」 「起訴独占主義」 「起訴便宜主義」
- 6 回 「検察官の業務と現代的意義(2)」 「捜査」 「公判」
- 7 回 検察官講師による講演
- 8 回 「弁護士の業務と現代的意義(1)」 「弁護士自治」
- 9 回 「弁護士の業務と現代的意義(2)」 「代理人」 「民事裁判」 「刑事弁護」
- 10 回 弁護士講師による講演
- 11 回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割
- 12 回 民事裁判手続きにおける法曹の役割
- 13 回 周辺他種業講師による講演 (司法書士を予定)
- 14 回 周辺他種業講師による講演 (裁判所書記官、家庭裁判所調査官を予定)
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講演後のレポート・・・ 70%
定期試験・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テーマとなっている職業の特徴を事前に調べておくこと。

現代法曹論I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外部講師の都合によって、スケジュールが変更になることがあるので、注意してください。

講演のときの遅刻、早退、私語は、講師に失礼となるので厳禁です。

第一線で活躍する法律実務家の生の声を聞くことができる貴重な機会になると思います。講演終了後に質疑応答の時間を設けますので、積極的に質問や意見をぶつけてみてください。

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor 天久 泰 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論II

LAW201M

授業の概要 /Course Description

「法曹」とは裁判官、検察官、弁護士の総称です。裁判員制度が7年前に始まり、市民と法曹との距離が一段と近くなりました。本講義では、刑事事件、少年事件、家事事件、労働事件、その他社会的な意義のある事件について、具体的なケースを通じて法曹に求められる技術、思考手順や実務の様子について学んでいただくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(全15回)

- 第1回 法曹制度概説(歴史、養成過程、活躍の場面など)
- 第2回 刑事法(1) - 刑事裁判とは何か(法曹三者の役割など)
- 第3回 刑事法(2) - 実際の弁護人の活動
- 第4回 刑事法(3) - 裁判員制度の意義
- 第5回 刑事法(4) - 少年事件の特殊性
- 第6回 民事法(1) - 民事事件の手続①(裁判前の手続を中心に)
- 第7回 民事法(2) - 民事事件の手続②(裁判手続を中心に)
- 第8回 民事法(3) - 離婚
- 第9回 民事法(4) - 相続
- 第10回 民事法(5) - 借金・負債の整理
- 第11回 労働事件
- 第12回 行政事件
- 第13回 その他の事件(1)
- 第14回 その他の事件(2)
- 第15回 法曹の役割についてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律実務論I【昼】

担当者名 /Instructor 本多 寿之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論 I

LAW390M

授業の概要 /Course Description

「街の身近な法律家」と呼ばれる司法書士の、主に不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きなどの実務、司法書士制度の歴史、背景や役割、隣接法律専門職との関係などについて解説します。

不動産登記手続きでは、不動産取引の実際と、司法書士が安全な不動産取引の実現のため法律家として担っている役割、日本の不動産登記制度の持つ機能や効果と、登記簿、登記申請などについて解説をします。

民事・家事裁判手続きでは、これらの裁判手続きの特徴、実際の裁判手続きがどのように進められるか、司法書士が市民の権利実現と紛争解決のために裁判手続きにおいて担っている役割などを解説します。

いずれも、民法などの実体法が社会生活でどのように適用され、そこで生じる権利が不動産登記法、民事訴訟法などの手続法によってどのように反映・実現されていくのか、これらの関係を司法書士の実務を通してより具体的なものとして理解していただきます。

司法書士制度では、現在に至るまでの制度の変遷を解説し、隣接法律専門職と比較しながら、司法書士の法律家全体の中での位置付けと役割を解説します。

司法書士試験を目指す学生においては、関係法令の概要について受講ができ、実務内容を知ることで法令が適用される場面の具体的なイメージが得られ、法令の理解に役立ちます。

また、司法書士試験を目指していない学生においても、法律専門職の実務を通して、社会生活における法令の果たす機能の例を知ることで、社会と法の関係の一面を見ることがができます。

2学期に開講予定の、商業登記・成年後見を中心とした「法律実務論II」を受講すると、司法書士の実務の全体を学ぶことができます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。
講義の進捗に応じ、講義レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 司法書士の実務の全体像
- 2回 日本の法律専門職と司法書士
- 3回 不動産取引の実際
- 4回 不動産取引における司法書士の役割
- 5回 不動産登記法I (総論・登記簿等)
- 6回 不動産登記法II (登記申請・所有権の登記)
- 7回 不動産登記法III (登記申請・抵当権その他の登記)
- 8回 不動産取引と不動産登記 (まとめ)
- 9回 民事・家事裁判手続きの種類と概要
- 10回 民事訴訟I (民事訴訟の仕組み)
- 11回 民事訴訟II (民事訴訟の実際・訴状の構成)
- 12回 家事調停手続き、その他の裁判手続き
- 13回 不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きと成年後見制度
- 14回 司法書士制度の歴史、背景と隣接法律専門職との関係
- 15回 まとめ

法律実務論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

提出課題・・・20%
学期末試験・・・70%
日常の授業への取り組み・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義で配布したレジюмеは、その後の講義で使用することがあるので、各自ファイリングして講義の際に必ず持参してください。
コンパクトなもので構いませんので民法が収録された六法を持参してください。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「民法」を既に受講していた場合、本講義の理解がより深いものになります。

キーワード /Keywords

司法書士 不動産 登記 民事裁判 家事裁判 国家試験 成年後見

法律実務論II 【昼】

担当者名 細川 眞二 / HOSOKAWA SHINJI / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論II

LAW391M

授業の概要 /Course Description

司法書士試験を目指す学生に対して、司法書士の業務を紹介しながら、試験科目の一つである商業登記法に対応した講義を行います。また、将来会社設立を考えている学生にも、会社法と会社の登記がどのように連動しているのかを理解していただきます。さらに、司法書士の新しい業務である成年後見人やADR（裁判外紛争解決手続）についても紹介します。

教科書 /Textbooks

商業登記法入門（有斐閣）神崎満治郎著
また、適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

成年後見教室（実務実践編・課題検討編）（成年後見センター・リーガルサポート編）日本加除出版 各¥2,500
ADR理論と実践（和田仁孝編）有斐閣 ¥2,200
調停への誘い（レビン小林久子）日本加除出版 ¥2,000

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商業登記法概論
- 2回 会社設立①（取締役会設置会社）
- 3回 会社設立②（一人会社）
- 4回 会社の機関
- 5回 役員変更
- 6回 新株発行
- 7回 組織再編
- 8回 会社合併
- 9回 会社分割
- 10回 その他の登記
- 11回 成年後見制度と司法書士
- 12回 任意後見・法定後見
- 13回 成年後見制度の課題
- 14回 ADR制度と司法書士
- 15回 メディエーション

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 小テスト・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法律実務論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「会社法」を既に授講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
民法の行為能力、後見、保佐、補助を理解していると本講義の理解が深まります。
法律実務論Iの不動産登記法を中心として司法書士講座を履修すると司法書士業務の全体が理解できます。
予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください（特に、下記のメッセージ欄も参照のこと）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実務で使う申請書、議事録、契約書などを多く配布するので、その整理や復習することが授業の理解をより高めますので注意してください。

キーワード /Keywords

会社設立 役員変更 新株発行 合併 会社分割 成年後見制度 後見人 保佐人 補助人 ADR 裁判外紛争解決手続 メディエーション
調停人

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本学基礎演習Iの目標は、これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状とその問題点を理解しようとする際に必要かつ有益な能力を身につけることです。

具体的には、

- (1) 日常・非日常を問わず、家庭内あるいは全世界において生じている実際の事件や紛争、そして、それらを解決するための法システムに含まれている法的な問題を発見する方法、
- (2) 問題を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、
- (3) 集めた資料を分析する方法、
- (4) ゼミ内で口頭発表する方法、
- (5) 論点について討論する方法などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』第3版（有斐閣・2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。
池田 眞朗 ほか著『判例学習のA to Z』（有斐閣・2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明
第2回 授業の受け方・講義ノートの取り方
第3回 各自、興味のある法律問題・事件について発表し、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する
パソコンを利用して情報を検索し、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ。
第4回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
第5回 文献の要約の仕方、
第6回 報告書（レジュメ）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方の事前学習をする。
レジュメの報告者の順番を決める。
第7回～
第15回 順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%
無断欠席はゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。特に、
- 1, 報告者にはレジユメの作成と参加者への配布が求められます。
 - 2, 原則として報告一週間前までにレジユメを配布できるように事前の準備作業を行きましょう。
 - 3, 報告者以外の受講者には、事前に報告予定者のレジユメを読み込みんでおき、質問事項を準備することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

テーマ「法に親しむ」

現代社会においては、さまざまな問題が絶え間なく発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのか。映画やドラマなどの映像資料を通じて、現代社会に生起するさまざまな問題を捉え、そこでの法的な解決策を考えていきましょう。映像資料を考えていくなかで、ノート・テイキングや資料収集、ディスカッションの方法といった法学を学ぶ基本的な技術を学び、また、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。

この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

教科書 /Textbooks

随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

①六法（2016年版・平成28年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）

②田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&リポート』（有斐閣・2015.02）。

③道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に（プレップシリーズ）』（東京：弘文堂・2010.04）。

④法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣・2012.03）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

弥永真生『法律学習マニュアル』3版（東京：有斐閣・2009.09）。

○末川博（編）『法学入門（有斐閣双書）』6版補訂版（東京：有斐閣・2014.03）。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※各回のテーマ、映像資料は、シラバス執筆時(2016/01)における予定です。諸般の事情により、テーマや映像資料を変更することもありますので、ご了承ください。

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明など)
+ 1分間スピーチ「自己紹介」
- 2回 (課題1)「実は身近な法律問題!?!」 ドラマ『.....』
+ 1分間スピーチ「隣の君が、今ハマっているもの」
- 3回 (課題1)グループ報告「法的問題を考えるととは? 事実と評価、法規範について」
+ 1分間スピーチ「私のお薦め」
- 4回 ノート・テイキングを学ぶ(1) + 文章要約の技法
テキストの分担要約
- 5回 ノート・テイキングを学ぶ(2)
グループ報告「ノート・テイキングの方法と実践」
- 6回 (課題2)「産むべきか、産まざるべきか。それが問題だ。」 ドラマ『.....』
- 7回 情報を収集する(1) 図書館講習会
- 8回 情報を収集する(2)
テキストの分担要約 + 講義「法情報検索の技法(リーガル・リサーチの基礎)」
- 9回 (課題2報告)妊娠中絶(墮胎)の合法性とリプロダクティブ・ヘルス
- 10回 クリティカル・リーディングを学ぶ(1)
テキストの分担要約
- 11回 クリティカル・リーディングを学ぶ(2)
グループ報告「クリティカル・リーディングの方法と実践」
- 12回 (課題3)「何時でも、どこでも、見られている。」 映画『.....』
サイバー犯罪と電子監視社会、プライバシーの保障。
- 13回 グループ研究「論点は何か?」
映像資料の具体的なシーンから、論点と主張を考える。
- 14回 グループ研究「レジユメの作成と比較検討」
設定した論点についての個人レポートを比較検討する。
- 15回 ピア・レビュー「レポート・レジユメの要素と構成」+モデル報告
優れたレポート・レジユメに共通する要素と構成を考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート等(30%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(50%)を総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

①概ね3~5名を単位(チーム)として、学習を進めていきます。

②「映像を見て考える」

法的問題に関する映像資料を視聴して、そこでの問題点について簡単に意見交換したのちに、各自の意見や考えをまとめた「コメント・ペーパー」を提出してください。

③「法的問題を考える」

各チームは、担当したテーマについて、関連する資料を収集、検討し、研究レポートを作成して、提出してください。提出されたレポートに基づいて、担当チームは研究報告を行い、その後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定しています。基礎演習IIも併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。

演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

民法の判例を検討しながら、民法の仕組みや基本概念、基本的な考え方を知るとともに、判例の読み方、判例研究の仕方を身につけることを目的としています。

教科書 /Textbooks

潮見佳男＝道垣内弘人編 別冊ジュリスト民法判例百選I総則・物権 [第7版] 有斐閣 2015年 2,268円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジユメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。報告判例の解説や基本文献を参照しながら、論点を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。
「民法総則」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。
法学基礎演習IIもあわせて履修するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得します。
次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方も学習します。
受講生との話し合いにより、テーマを選定し、そのテーマに関するレポートを基に議論することにより、法的思考方法を習得します。
テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他受講生の希望により決定します。
グループ学習を基本とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめの授業で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例、文献、法令の調べ方について
- 3回 以下、順次、個別テーマについてレポート提出
- 4回～14回 順次、個別テーマについてレポート提出
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な発言、参加を希望します。

キーワード /Keywords

レポート書き方

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、情報収集・分析・プレゼンテーション能力といった、これから法学を学ぶ者にとって必要な技能の習得を目的とします。講義前半では、リーガルリサーチの方法について学習し、講義後半では、主に公法（憲法、行政法）の重要判例を素材に、個別報告またはディベートを行っていただきます。また、裁判傍聴等の学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2回 リーガルリサーチ(1)【法令の調べ方】
第3回 リーガルリサーチ(2)【判例の調べ方】
第4回 リーガルリサーチ(3)【文献の調べ方】
第5～14回 個別報告またはディベート
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

個別報告またはディベートの担当者にはレジュメの作成が、それ以外の参加者には予習と積極的な発言が求められます。
欠席の場合には、必ず事前に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本演習の目的とする。
これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき、古典的名著である。また、それと同時に、J・ロールズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。
これまでおそらく教科書知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ、直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を喚起するような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがあるであろう。

教科書 /Textbooks

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫、1320円）
ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』（光文社古典新訳文庫、933円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ロック『全訳 統治論』（柏書房）
○浜林正夫『ロック』（研究社出版）○森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
○西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
○川合清隆『ルソーとジュネーヴ共和国』（名古屋大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに
第2回 ロック『統治二論』第1回（自然状態についてなど）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながらテキストを順に読み進める。以下同様）
第3回 ロック『統治二論』第2回（所有権についてなど）
第4回 ロック『統治二論』第3回（政治社会と統治の目的についてなど）
第5回 ロック『統治二論』第4回（父親の権力、政治権力、専制権力についてなど）
第6回 ロック『統治二論』第5回（統治の解体についてなど）
第7回 ロック『統治二論』第6回（『統治二論』前編についてなど）
第8回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第1回（社会契約についてなど）
第9回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第2回（一般意志についてなど）
第10回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第3回（政府一般についてなど）
第11回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第4回（政府の設立についてなど）
第12回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第5回（投票や公民宗教についてなど）
第13回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第6回（主権についてなど）
第14回 ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』第7回（法の制定についてなど）
第15回 まとめ

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫）は、2010年11月に文庫版として出版されました。それまでの岩波文庫版は、『市民政府論』の名で、『統治二論』の後編だけが訳出・刊行されていました。本演習では、後編を中心に扱いますが、前編についても第7回目に概観をする予定です。

キーワード /Keywords

社会契約 自然状態 統治 主権 一般意志

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、我が国の法体系、基本的な法律用語、判例や法律文献の探し方、文献の引用方法、討論の練習など、これから法学を学習するために必要な基本的な知識・技能を習得することに加え、民法の有名な判例とその判例評釈を受講者全員で読むことを通じて、判例や法律文献を読む力を養成することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』（有斐閣 平成27年） 本体2100円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 我が国の法体系
- 第3回 基本的な法律用語の確認
- 第4回 判例・法律文献の探し方（図書館ツアー）
- 第5回 文献の引用方法
- 第6回 討論の練習(1)【議題の設定】
- 第7回 討論の練習(2)【準備】
- 第8回 討論の練習(3)【討論とまとめ】
- 第9回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(1)【事実の概要】
- 第10回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(2)【判決理由】
- 第11回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(3)【判例評釈】
- 第12回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(1)【事実の概要】
- 第13回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(2)【判決理由】
- 第14回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(3)【判例評釈】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。
民法総則・法学総論・日本国憲法原論の講義科目を並行して受講していることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学を学習する上で必要な基本的な知識・技能を確実に身につけられるように，積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。報告やディベート等を通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることや、法学に必要な情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力を身につけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 法を学ぶ意義や法の役割を学ぶ。
- 4回～9回 ディベートをやってみよう
- 10回～14回 各担当者による報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。
予習・復習その他の授業外学習にも取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。といっても、この科目は「演習」科目であるから、教員からの指示に従うという「受け身」的姿勢ではなく、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につけることが必要とされる。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを求める。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じて適切なものを指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、前半で、法律学特有の言葉や言い回し、法の構造などについてレクチャーすると共に、大学での勉強に欠かせない図書館の使い方や文献検索の仕方などについて身につける。後半では、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的な適用・解釈の方法を学ぶ。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 法律基礎講座①～法律の構造
- 第3回 法律基礎講座②～法律用語～
- 第4回 法律基礎講座③～法律のヒエラルキー～
- 第5回 判例・文献の調べ方①～「判例」とは何か～図書館に足繁く通おう！～
- 第6回 判例・文献の調べ方②～図書館を活用しよう～
- 第7回 判例・文献の調べ方③～法令・文献等の引用表記～
- 第8回 判決文を読み込む①～判決書の構造～
- 第9回 判決文を読み込む②～事案・当事者の主張の把握～
- 第10回 判決文を読み込む③～グループ報告～
- 第11回 判決文を読み込む④～裁判所の判断～
- 第12回 判決文を読み込む⑤～グループ報告～
- 第13回・第14回 各グループによる事案報告会
- 第15回 まとめ

* 具体的な実施スケジュール・方法などは、ゼミ生の人数・関心などを考慮し、開講後に決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の演習への貢献度に応じて総合的に判断する。以下の記述は、あくまでおおよその目安として考えてほしい。
ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

単に出席しているだけでは何の能力も身に付きません。積極的に発言・参加してください。
何度が課題を出します。それまでの演習で学んだことをフルに活用してチャレンジしましょう。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合は、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、大学で学ぶために、さらには社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力を身につけることを目的とする。
そのために、まず演習前半では、各参加者に自分が現在関心を持っている社会的問題について「調べて、まとめた」レジュメをもとに報告してもらい、全員で「話す」＝議論をするというを行う。
演習後半では、法解釈の方法や判決の読み方等を解説した指定テキスト（下記「教科書」参照）を全員で講読し、大学で法学を学んでいくための基礎的知識・能力を身につけていく。
これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図る。

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法学入門書各種

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告順決定など）
- 第2回 レジュメの作り方、文献引用の作法など
- 第3～9回 各自が関心を持つ社会的問題に関する報告及び議論（各参加者の報告に基づく）
- 第10～13回 テキスト読解・法学的基礎能力の習得
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

※参加者の人数により変動する可能性あり

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

原則として、参加者全員に報告が課されるので、報告者には入念な準備が求められる。
また、後半は指定テキストを講読するので、全員必ず該当部分を読み込んでおくことが求められる。
演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習Ⅱ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「ちゃんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。また、社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。
基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，法律学の学習にあたって
- 第2回 北九州市立大学図書館・法学部資料室の使い方
- 第3回 GroupWork：調査テーマの設定
リサーチ①：文献等の探し方（OPAC，GeNii，法律文献総合INDEX他）
- 第4回 リサーチ②：官公庁情報の活用（e-Gov，国際機関Web他）
- 第5回 リサーチ③：マスコミ情報の活用（新聞記事検索，日本新聞協会他）
- 第6回 GroupWork：調査結果の発表
- 第7回 リサーチ④：法律の探し方（法令検索，D-1Law.com，国会会議録検索システム他）
- 第8回 法律の条文に親しむ：条文とその解釈
- 第9回 リサーチ⑤：判例の探し方：裁判所判例検索システムと判例検索ソフト（LEX/DB他）の利用
- 第10回 実際の判決文を読む①：判決文の構造を知る
- 第11回 実際の判決文を読む②：争点ごとに整理しながら読む【原告の主張】【被告の主張】
- 第12回 実際の判決文を読む③：争点ごとに整理しながら読む【裁判所の判断】
- 第13回 実際の判決文を読む④：判例研究のレジュメを作る
- 第14回 レジュメ検討ゼミ，レポートを書くにあたって
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

IとIIをセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学部法律学科へようこそ。あなたの夢は何ですか。

この一年間は、その実現にとって必要な基礎を固める大切な時期となります。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【法的分析等に関する基礎技術の習得】

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは、「社会科学方法論の基礎」です。社会科学方法論に関するミルズ、ウェーバー、マルクスなどの古典的な著作を通して社会科学的な物の見方、方法論について学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

加藤周一『学ぶこと思うこと』（岩波ブックレット、2003年）
C. W. ミルズ著（鈴木 広訳）『社会学的想像力』（紀ノ国屋、1967年）
マックス・ウェーバー著（富永祐治他訳）『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）
マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』（岩波文庫、1980年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○碧海純一『合理主義の復権【増補版】』233-303頁
○世良晃志郎『歴史学方法論の諸問題』3-20頁
○細谷昂『社会科学の視角』7-117頁

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～3回 知の技法について【コミュニケーション(読む・書く・話す)能力】【文献調査法】
4回～8回 社会学的想像力について【知識社会学】【イデオロギー】【知的職人論】
9回～11回 社会科学方法論について【社会科学的認識の客観性】【M.Weber】【没価値性(価値自由性)】
12回～15回 社会科学における理論と実践【K. Marx】【マルクス主義】【弁証法的唯物論】【K. Popper】【批判的合理主義】【間主観性】【反証可能性】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記のテーマ・キーワードに即して、テキスト・参考書として指定した社会科学方法論上の古典的名著を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年次の前期ではとくに大学生としての「教養」を深めることを目的に、これから法律学を学ぶ学生たちにとって必要不可欠な社会科学物的な物の見方やレポートの作法を習得し、そして論理的な思考力を高める機会になればと思っています。社会科学方法論に関する専門書を数多く読んでまいりますので、皆さんのチャレンジング精神に期待しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この演習では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識・思考・スキルなどを身につけることを目的とします。具体的には、大学における学問（法学）に対する臨み方から始まり、法律文献の調べ方、法学的な議論の仕方、パソコン（インターネット・データベース）を利用した（裁判例などの検索、判例の読み方（法的三段論法に基づく判決理由の構造解析）の基礎を学びます。なお、本演習は、3・4年次ゼミ（専門演習I～IV）などで、関心を持った法分野の研究をする際に、必須となるスキルを低学年次の段階で修得することを想定しています。

本演習では、上記の営みを通じて、「話す（ディスカッション）」、「（議論の相手方の話しをしっかりと理解しながら）聴く」、そして、「自身の法的判断を（レポートや判例評釈等のかたちで）書く・表現する」力を涵養します。しっかりと「学び」の基礎をこの演習で固めてください。

教科書 /Textbooks

- ①松本恒雄ほか（編）『日本法への招待 第3版』（有斐閣、2014年）；定価（2,900円＋税）
 - ②いしかわまりこほか（指宿信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第4版』（日本評論社、2012年）；定価（1,700円＋税）
 - ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、演習の中で適宜、紹介します。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容等は、あくまで「めやす」です。受講人数等により若干変更する場合があります。

- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、期末定期試験およびレポートについての説明。
- 第2回 議論の仕方を学び、実践する①：グループ討論（議論の素材は教員が用意します。）。
- 第3回 議論の仕方を学び、実践する②：グループ討論（紛争解決の種々のあり方を理解する。）
- 第4回 議論の仕方を学び、実践する③：グループ討論（身近な「もめごと＝紛争」の法的解決・まとめ）
- 第5回 リーガル・リサーチ①：図書館見学（予定）
- 第6回 リーガル・リサーチ②：法学文献の調べ方、判例の検索方法（インターネット・データベースの活用）などを学ぶ。
- 第7回 レジユメの作成方法、レポート（文献書評）の書き方を学ぶ。
- 第8回 判例とは何か？ 最高裁判決の読み方（法的三段論法に基づく判決理由の論理構造解析）の基礎を学ぶ。
- 第9回 グループ報告（※3グループを想定）教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）。
- 第10回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループA）および教員による補論。
- 第11回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）。
- 第12回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループB）および教員による補論。
- 第13回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）。
- 第14回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての研究報告・質疑応答（グループC）および教員による補論。
- 第15回 まとめ：特別ゲスト（弁護士）を招いての「特別ゼミ」を予定。

※8月初旬（予定）に各自、レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する【文献書評】です。対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説などジャンルを問いません（ただし、マンガおよび資格試験等問題集は不可。）。読書感想文でなく、あくまで【書評】を書いてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など.....50%
- ※レポート（文献書評）の内容.....30%
- ※期末定期試験の成績.....20%（※福本担当の基礎演習Iでは期末定期試験を実施するので必ず受験すること！）
- 【注意】レポート未提出者や期末定期試験未受験者には原則として単位を付与しません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習では、研究報告の準備以外に、事前準備（予習）および復習が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判決について、様々な視点から質問することができるように、種々の文献等を読んでくることなどが要求されます。また、グループで報告した判決につき、ゼミ生個人でも復習を兼ねて、疑問点などを整理したミニレポートを作成していただく予定です。決して「楽勝ゼミ」ではありませんので、ご注意ください。

なお、事前連絡（無理な場合は事後遅滞なき連絡）のない無断欠席・遅刻等に対しては、退ゼミ処分も含め厳しい態度で臨みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講ゼミ生には、受け身ではなく、能動的な学習姿勢を強く望みます。黙って座っているだけでは、平常点は0点だと思っておいください。「緊張感」をもってゼミには臨んでください。ですが、「緊張」はしなくても構いません。ゼミの雰囲気自体は至極アットホームです（これまでの経験上.....）。

キーワード /Keywords

法的思考、法的三段論法、リーガルリサーチ

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
図書館見学、資料収集の方法を学ぶ機会ももうける予定。また、刑務所見学等、施設見学を行う予定もある。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについて、予習、復習が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

1. 本演習は法学とは何を学ぶ学問であるかについて、テキストを輪読しながら裁判例や日本社会のあり方を素材として勉強していきます。
2. 報告に当たってテキストを精読しどのようにポイントを掴むか、関連する資料にアクセスするにはどうすればよいか。それらをどのようにレジュメ等で文書化するとともに、自己の見解を含めて説得的に参加者に伝えることができるか。また、報告に対して事実や用語の確認にとどまらず「何々はなぜそうなっているのか」・「そうなった理由(あるいは背景)は何々と思うがどうか」という「なぜ」や「こう考える」ということを含めた疑問や意見をどれだけ提起することができるか。本演習においては、こうした報告・質疑を行う上での方法・形式の学習及び実践のトレーニングを通じて、高年次の講義・演習の受講のみならず、自学を行う上での基礎体力を養うことを目指します。

教科書 /Textbooks

池田真朗・犬伏由子・野川忍『法の世界へ（第6版）』（有斐閣・2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

青木人志『「大岡裁き」の法意識：西洋法と日本人』（光文社・2005年）(図書館蔵書：○)

木村草太『キヨミズ先生の法学入門』（星海社・2012年）

※このほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当教員及び参加者の自己紹介ののち、ゼミの進行についての説明、テーマ選択、プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います
- 第2回 担当教員による報告の形式をとり、ゼミの進行・報告と議論の仕方等について確認を行います
- 第3回 図書館見学・図書検索システムの利用体験を行います
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 各参加者による報告・議論
- 第8回 各参加者による報告・議論
- 第9回 中間総括（プレ討論）
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(30%)
2. 演習における報告・司会進行(30%)
3. 期末レポート(40%)

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】報告担当者は事前にレジюмеを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえで演習に臨んでください。

【事後学習】演習での解説や参加者による報告内容及び議論をメモやノートの記述を基にまとめるとともに、演習で紹介した参考文献を読解してください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学 / 法学入門 / 情報収集 / ディスカッション

法学基礎演習I【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学の学習に必要な調査、分析、報告、議論を行うための基本的な能力を養うことを目指します。まず日本の法制度の特徴について基本的な情報提供を行い、続けて資料収集の方法を説明します。それを基に、主として日本の刑事司法制度に関する比較的身近なテーマ（裁判員制度、検察審査会制度など）を取り上げ、受講者に調査、報告を行ってもらい、全員で議論します。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の進め方に関する説明など）
- 第2回 法学の基礎知識の確認（日本の司法制度、法制度の担い手、実定法と基礎法など）
- 第3回 図書館・法学部資料室の使い方、文献検索の方法に関する説明
- 第4回 報告テーマに関する説明と受講者によるテーマ選択
- 第5回～第14回 受講者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括

※受講者の人数により、内容および進度を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習への参加態度ないし積極的貢献（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメの作成に加えて、口頭での報告の進め方についても工夫が求められます。
法学基礎演習IとIIは継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡して下さい。
予習・復習その他の授業外学習にも積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。まずは、社会で起こっている問題に関心を持ち、自由な議論の場を教員とともに作りましょう。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。

すなわち、受講生自身が一番興味のある法律問題を素材にして、裁判所の判例・下級審の裁判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学ぶこと）が、目標となります。

教科書 /Textbooks

池田 眞朗 ほか著『判例学習のAtoZ』（有斐閣・2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例（裁判例）につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定

第2回～第7回 教科書の輪読を通して、判例の意義・役割・読み方を学習する。

※以後、課外学習として、

- ①自ら興味を抱く裁判例を選択しておく。
- ②第9回以降の報告を準備していく。
- ③報告に必要な文献を収集・補充していく。

第2回 （判例を読む）判決文の形と判決の分析について

第3回 判例の機能と学び方（民事判例：基礎編）

第4回 判例の機能と学び方（民事判例：上級編）

第5回 判例の機能と学び方（刑事判例：基礎編）

第6回 判例の機能と学び方（刑事判例：上級編）

第7回 判例の機能と学び方（憲法判例の特殊性）

第8回 判例の機能と学び方（憲法判例：上級編）

第9回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度40%、レポート作成10%

無断欠席はゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。
報告者には、以下の点が求められます。
1, 報告概要(レジюме)を作成すること。
2, 事前に、参加者全員にコピーを配布すること。
3, 報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。
他方、それ以外の参加者には、最低限、レジюмеを事前に読了しておくことが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

テーマ「法に親しむ」

現代社会においては、さまざまな問題が絶え間なく発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのか。映画やドラマなどの映像資料を通じて、現代社会に生起するさまざまな問題を捉え、そこでの法的な解決策を考えていきましょう。映像資料を考えていくなかで、ノート・テイキングや資料収集、ディスカッションの方法といった法学を学ぶ基本的な技術を学び、また、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。

この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

教科書 /Textbooks

①六法（2016年版・平成28年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）

②田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』（有斐閣・2015.02）。

③道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に（プレップシリーズ）』（東京：弘文堂・2010.04）。

④法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣・2012.03）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

弥永真生『法律学習マニュアル』3版（東京：有斐閣・2009.09）。

○末川博（編）『法学入門（有斐閣双書）』6版補訂版（東京：有斐閣・2014.03）。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※各回のテーマ、映像資料は、シラバス執筆時(2016/01)における予定です。諸般の事情により、テーマや映像資料を変更することもありますので、ご了承ください。

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明など)
- 2回 (課題4)「法廷における正義」 映画『.....』
- 3回 グループ・ディスカッションを学ぶ(1)
(グループ報告)グループ・ディスカッションの意義と方法
- 4回 グループ・ディスカッションを学ぶ(2)
(課題4)グループ・ディスカッションの実践
- 5回 (課題5)「命のタイムリミット」 映画『.....』
- 6回 デイバートを学ぶ(1)
(グループ報告)デイバートの意義と方法
- 7回 デイバートを学ぶ(2)
(課題5)グループ・ディスカッション
- 8回 デイバートを学ぶ(3)
(課題5)デイバートの実践
- 9回 (課題6)「家族とは何か?」 映画『.....』
- 10回 デイバートを学ぶ(4)
(課題6)グループ・ディスカッション
- 11回 デイバートを学ぶ(5)
(課題6)デイバートの実践
- 12回 (課題7)「巨大な力に対抗するために」 映画『.....』
- 13回 デイバートを学ぶ(6)
(課題7)グループ・ディスカッション
- 14回 デイバートを学ぶ(7)
(課題7)デイバートの実践
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート等(30%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(50%)を総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

①概ね3~5名を単位(チーム)として、学習を進めていきます。

②「映像を見て考える」

法的問題に関する映像資料を視聴して、そこでの問題点について簡単に意見交換したのちに、各自の意見や考えをまとめた「コメント・ペーパー」を提出してください。

③「法的問題を考える」

各チームは、担当したテーマについて、関連する資料を収集、検討し、研究レポートを作成して、提出してください。提出されたレポートに基づいて、担当チームは研究報告を行い、その後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。

基礎演習IIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定しています。基礎演習Iも併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。

演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

「法学基礎演習I」と同様、民法の判例を検討しながら、民法の仕組みや基本概念、基本的な考え方を知るとともに、判例の読み方、判例研究の仕方をあわせて身につけることを目的としていますが、この「法学基礎演習II」では、「法学基礎演習I」で身につけた知識や技法を主体的に実践、応用、展開し、さらに一層深く掘り下げて問題点を分析検討できるようになっていただこうと思っています。

教科書 /Textbooks

潮見佳男＝道垣内弘人編 別冊ジュリスト民法判例百選I総則・物権 [第7版] 有斐閣 2015年 2,268円
その他必要に応じてレジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1) 【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2) 【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3) 【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4) 【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5) 【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジюме、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。報告判例の解説や基本書を参照しながら、論点を整理して参加してください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。
「民法総則」、「法学基礎演習I」を履修し、「法律の読み方」を並行して履修していると一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生との話し合いによりテーマを決定します。
原則として、グループで作業してもらいます。
そのテーマについて、文献、判例等を調査し、ディベートをします。
そのことにより、文献調査の実地的訓練、法的思考力、コミュニケーション力の養成を行います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、報告グループの決定、
- 2回 以下、順次個別報告
- 3回～14回 順次、個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的な準備、発言を期待します。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学基礎演習Iで学習した技能のさらなる向上を目的に、講義前半では、主に公法（憲法、行政法）の重要判例を素材にした個別報告またはディベートを行い、講義後半では、それぞれ関心のあるテーマについてレポートを執筆してもらいます。また、裁判傍聴等の学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～9回 個別報告またはディベート
第10～14回 レポートの執筆指導
第15回 まとめ
※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、日常の授業への取組み40%、レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

個別報告またはディベートの担当者にはレジュメの作成が、それ以外の参加者には予習と積極的な発言が求められます。
欠席の場合には、必ず事前に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。
法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、カントの「永遠平和のために」他をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホブズ、ロック、ルソー、カントの社会契約説の考え方の基本を学ぶことができる。その上で、さらに現代正義論に対する理論的示唆についても、検討したいと考えている。

教科書 /Textbooks

ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫、743円）
カント『永遠平和のために / 啓蒙とは何か 他3編』（光文社古典新訳文庫、700円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
カント『啓蒙とは何か 他四篇』（岩波文庫、713円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 ルソー『人間不平等起源論』第1回（献辞と序について）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、テキストを読み進める。以下同様。）
- 第3回 ルソー『人間不平等起源論』第2回(自然状態についてなど)
- 第4回 ルソー『人間不平等起源論』第3回（憐れみの情についてなど）
- 第5回 ルソー『人間不平等起源論』第4回（文明についてなど）
- 第6回 ルソー『人間不平等起源論』第5回（不平等についてなど）
- 第7回 ルソー『人間不平等起源論』第6回（原注についてなど）
- 第8回 ルソー『人間不平等起源論』第7回（ルソーについてのまとめ）
- 第9回 カント「啓蒙とは何か」
- 第10回 カント「世界市民という視点からみた普遍史の理念」
- 第11回 カント「人類の歴史の憶測的な起源」
- 第12回 カント「万物の終焉」
- 第13回 カント「永遠平和のために」前半部
- 第14回 カント「永遠平和のために」後半部
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジюмеやテキストをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然状態 自然法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、民法の有名な判例とその判例評釈を受講者全員で読むことを通して、判例や法律文献を読む力を養成することを目標とする。2学期は、民法の規定の合憲性が争われた判例を中心に読んでいく予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』（有斐閣 平成27年） 本体2100円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第4回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(2)【判決理由】
- 第5回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成7年7月5日大法廷決定(3)【判例評釈】
- 第6回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(1)【事実の概要】
- 第7回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(2)【判決理由】
- 第8回 非嫡出子の相続分規定の合憲性-最高裁平成25年9月4日大法廷決定(3)【判例評釈】
- 第9回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(1)【事実の概要】
- 第10回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(2)【判決理由】
- 第11回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(3)【判例評釈】
- 第12回 夫婦別氏を認めない規定の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(1)【事実の概要】
- 第13回 夫婦別氏を認めない規定の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(2)【判決理由】
- 第14回 夫婦別氏を認めない規定の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(3)【判例評釈】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。
民法総則・法学総論・日本国憲法原論の講義科目を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期に引き続き，積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 判例の分析
- 9回～14回 各自が選択したテーマについて個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。
予習・復習その他の授業外学習にも取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。原則として、津田が担当する法学基礎演習Iの受講者を対象とする。引き続き、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じ、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じ適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、図書館の使い方や文献の探し方などを一応身につけていることを前提に、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的適用・解釈の方法を学ぶ。取り上げる判例は、参加者の問題関心をも考慮したうえで決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例研究のための文献収集
- 第3回 データベース利用法
- 第4回 各グループによる判例研究
- 第5回 判例の選択及び後半報告グループ分け
- 第6回・第7回 報告グループ①による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第8回・第9回 報告グループ②による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第10回 中間反省会
- 第11回・第12回 報告グループ③による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第13回・第14回 報告グループ④による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況（出席、報告内容、議論に対する姿勢など）、学期末レポートの内容などをもとに総合的に評価する。下記の記載はあくまでおおよその目安である。

ゼミへの参加・受講態度・・・50% 課題等提出状況及び内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「演習」の成立は、皆さんの積極的な参加如何で決まると言っても過言ではありません。報告グループ以外の人も、毎回、何らかの発言を求めます。予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。
無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、「法学基礎演習I」で身につけた（はずの）「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力を、さらに向上させることを目的とする。
そのために、まず演習前半では、入門的内容の法学文献を全員で講読した上で、検討・議論を行う。
演習後半では、実際の判決文を読んで、その構造を理解する。また、再度各参加者が自分で決定したテーマに基づき報告を行い、それをもとに全員で検討・議論を行う。
これらを通じて、2年次以降の専門教育へのスムーズな導入を図る。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指導する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告順決定など）
- 第2～6回 法学文献の講読及び検討・議論
- 第7～9回 判例を読む
- 第10～14回 各自が関心を持つ社会的問題に関する報告及び議論（各参加者の報告に基づく）
- 第15回 全体のまとめ

※参加者の人数により変動する可能性あり

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

前半では、法学文献の講読を行うので、全員必ず課題文献を読み込んでおくことが求められる。
後半では、再度、参加者全員に報告が課されるので、報告者には入念な準備が求められる。
演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「ちゃんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。また、社会で生起するさまざまな問題への関心が高い学生の参加を希望する。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にしたディベートを通じ、受講者に対し、与えられたテーマを論理的に分析・討論していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』（有斐閣・2004）
松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 ディベートとは①：実践ビデオを見る
- 第3回 ディベートとは②：文献から紐解く、ディベート【テーマA】の発表とグループ分け
- 第4回 ディベート【テーマA】に関する基礎調査
- 第5回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第6回 立論シートの作成
- 第7回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第8回 Let's Debate! 【A】
- 第9回 総括，ディベート【テーマB】の発表とグループ分け
- 第10回 ディベート【テーマB】に関する基礎調査
- 第11回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第12回 立論シートの作成
- 第13回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第14回 Let's Debate! 【B】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。ゼミへの参加は、具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

IとIIをセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートを通じ、Iで培った力をさらに伸ばしていきましょう。

キーワード /Keywords

【国際問題の分析】 【ディベート】

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習テーマは「社会科学的思想とは何か」です。前期「法学基礎演習 I」で習得した社会科学方法論の理解を踏まえて、本演習では、アメリカの社会科学系の代表的な大学テキストであるKenneth R. Hoover and Todd Donovan, The Elements of Social Scientific Thinking, 10th ed. (2011)を輪読します。その目的は、英語文献を読むことで語学力の向上を図るとともに、社会調査研究方法論に関する基礎的知識を英語で再確認することにあります。

教科書 /Textbooks

Kenneth R. Hoover and Todd Donovan, The Elements of Social Scientific Thinking, 10th ed. Boston, MA: Wadsworth, 2011 (コピー配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E・バビー著『社会調査法(1)』培風館(2003年)
- E・バビー著『社会調査法(2)』培風館(2005年)
- 中道實著『社会調査方法論』恒星社厚生閣(1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 Hoover, Ch.1 【科学】 【客観性】 【知識】 【直感】
- 4回～6回 Hoover, Ch.2 【概念】 【変数】 【測定】 【仮説】 【科学的方法】
- 7回～9回 Hoover, Ch.3 【事実】 【真理】 【記述分析】 【相関分析】 【変数の操作化】
- 10回～12回 Hoover, Ch.4 【帰納】 【演繹】 【独立変数】 【従属変数】 【測定の尺度】 【回帰分析】
- 13回～15回 Hoover, Ch.5 【現実】 【観察研究】 【説明】 【科学的急進主義】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、報告者を決めて分担報告をしてもらいます。翻訳が目的ではなく、分担箇所は何が書いてあったのかを概略説明してもらうことを期待しています。そのためにも、授業開始前までにあらかじめ指定された箇所を読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

指定したテキストの英語はとても平易な文章です。高校時代までに培った英語力をブラッシュ・アップするとともに、これを機会にさらに英語スキルを高めてください。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅰの内容を受けて、より高度な法的思考（特に、最高裁判決を読む際の【法的三段論法】の錬磨・駆使）、法学文献の批判的な読み方、判例の読み方（判例（判決理由中において定立された規範）の抽出方法・その射程の測定・分析方法、および判例評釈執筆の手法）などを修得することがこの演習の目的です。

法学基礎演習Ⅰとは異なり、本演習では、報告の内容面（質の高さ）やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民法分野の）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修することとなる「専門演習Ⅰ～Ⅳ」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が参加されることを切望します。

教科書 /Textbooks

- ①陶久利彦『法的思考のすすめ（第2版）』（法律文化社、2011年）；定価（1,800円＋税）
 - ②潮見佳男＝道垣内弘人（編）『民法判例百選Ⅰ総則・物権[第7版]（別冊ジュリスト223号）』（有斐閣、2015年）；定価（2,100円＋税）
 - ③最新版（年度）の小型六法
- ※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介します。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容等はあくまで「めやす」です。受講人数等により若干変更する場合があります。

第1回 ガイダンス：報告グループ・報告順の決定。期末レポート（判例評釈）についての説明。

第2回 最高裁判決の読み方①（法的三段論法の錬磨）-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として-

第3回 最高裁判決の読み方②（最高裁がその判決理由の中で示した規範（判例）の「射程」の分析）-最大判 昭和41年4月27日 民集20巻4号870頁を素材として-

第4回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①1～17頁）〔グループA〕。

第5回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①17～47頁）〔グループB〕。

第6回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①48～90頁）〔グループC〕。

第7回 教科書①のグループ報告（輪読形式・教科書①91～140頁）〔グループD〕。

第8回 教員による民事判例研究報告（予定）。

第9回 判例研究報告（グループA・1回目・事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

※採り上げる判決は、教科書②掲載の「最高裁判決」とします。民法の基本書・体系書、判例評釈、調査官解説等を熟読し、質の高い判例研究報告を行ってください。また、報告担当でないグループも、報告グループの採り上げた判決について質問や意見を発表することができるように、準備を入念にしておいてください。

第10回 判例研究報告（グループA・2回目・規範の抽出・射程についての議論）。

第11回 判例研究報告（グループB・1回目・事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

第12回 判例研究報告（グループB・2回目・規範の抽出・射程についての議論）。

第13回 判例研究報告（グループC・1回目・事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。

第14回 判例研究報告（グループC・2回目・規範の抽出・射程についての議論）。

第15回 まとめ（実務家（弁護士）を招いての「最終回特別ゼミ」を予定。要件事実論入門を予定。）

※2017年2月初旬に、レポートを提出していただきます。内容は、グループで報告した最高裁判決についての【判例評釈】です。

成績評価の方法 /Assessment Method

※出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い.....40%

※判例研究報告の内容（レジユメの構成・報告の質・議論の内容など）.....30%

※レポート（判例評釈）の内容.....30%（レポート未提出者には、原則として単位を付与しません。）

【注意】正当な理由のない無断遅刻・無断欠席は、ゼミを放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本演習では、報告準備以外の事前学習（予習）や復習が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、より負担は大きくなります）。たとえば、報告担当でないグループも、報告グループが採り上げた判決について、様々な観点から質問・指摘などができるように、種々の判例評釈・文献等を熟読の上、ゼミに臨むことが求められます。また、報告グループは、報告後、ゼミ生個人レベルにおいて、報告で扱った最高裁判決の判決理由の読み方（判例の射程など）に関する独自の見解をミニレポートとして作成しなければなりません。よって、「法学基礎演習I」の負担でしんどいと思う受講生にとっては、過酷な演習になるものと思われます。覚悟を持ってゼミに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は「学問」をするところです。遊びに来るところではありません。真剣に学問に取り組んでくださいね.....と少しプレッシャーをかけてみました。

キーワード /Keywords

最高裁判決の読み方、法的三段論法、規範の射程、判決研究

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについての予習、復習が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学にとどまらず広く大学における学習の方法・作法について学ぶことを目的とします。
具体的には、まず演習前半に図書館や電子データベースの使い方の実践学習を行います。これを踏まえて、演習後半においては参加者をグループ分けし、幾つかのテーマのもとにディベートを行います。ディベートを行うにあたっては、議論の枠組みや論拠の提示の方法についての事前学習を行います。また参加者を3つのグループに分け、肯定側・否定側・判定のパートをそれぞれ回ごとに担当していただきます。それぞれのグループごとに立論の作成や質疑、反駁のための事前準備を行っていただきます。
以上を通じて、①情報の検索や収集、②情報の分析・評価、③議論の方法、④プレゼンテーションの作法などについて学んでいきます。

教科書 /Textbooks

田高寛貴・原田昌和・秋山靖浩『リーガル・リサーチ&リポート』(有斐閣・2015年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報検索の基礎知識(1)【図書館利用の基礎知識】
- 第3回 情報検索の基礎知識(2)【各種データベース利用の基礎知識】
- 第4回 情報検索の基礎知識(3)【法学関係情報利用の基礎知識】
- 第5回 レジューム作成・レポート作成の基礎知識
- 第6回 情報の評価・自分の考え方の提示に関する基礎知識
- 第7回 ディベートについての基礎学習(1)【議論の枠組み】
- 第8回 ディベートについての基礎学習(2)【論題提示】
- 第9回 ディベート第一回【第一論題】
- 第10回 ディベート第二回【第一論題】
- 第11回 第一論題のおさらい・第二論題の提示
- 第12回 ディベート第三回【第二論題】
- 第13回 ディベート第四回【第二論題】
- 第14回 第二論題のおさらい
- 第15回 演習の総括【高年次学習にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
1. 演習における議論・ディベートへの参加状況(40%)
2. 期末レポート(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学基礎演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】参考図書を読み解くとともに、平素より新聞・雑誌・各種ニュースなどによって普段から意識的に様々な情報に触れ、それらについて自分なりの考えを提示する訓練を行ってください。

【事後学習】ディベートの実践によって得た意見や考え方を踏まえ、立論や自らの考え方を整理して次回以降の実践に対応できるよう復習を行ってください

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートに際しては、グループごとに課外時間を含め事前の準備・学習をしていただきます。同輩とのコミュニケーションを積極的に行うことが望まれます。

キーワード /Keywords

情報収集 / ディベート / 情報分析・評価

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学基礎演習Iで取り上げた日本の刑事司法に関するテーマについて、さらに議論を深めます。特に関連する判例に注目して、法的な分析・立論の能力をトレーニングします。
裁判所の判決は、実社会のあらゆる場面において行動の基準となるものであり、その意味でしばしば生きた法だといわれます。同時に、例えば刑事裁判の場合、裁判の過程では検察官や弁護人からの多様な法的見解が示されることとなります。そこで、本演習では判例を実際に読み、その読み方を学ぶことによって、法的な議論のスタイルを体得することを目指します。受講者には、裁判の各当事者の主張と裁判所の判断について要点をまとめて報告してもらい、それらを議論の形で比較検討します。最終的には、基礎演習Iでの議論も踏まえて、一つのテーマについてレポートを作成してもらいます。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習の進め方の説明、判例の機能とその読み方に関する説明
第2回～第14回 受講者による報告と議論
第15回 レポートに対する講評

※受講者の人数により内容および進度は変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容 (30%)、レポート (30%)、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献 (40%) を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

法学基礎演習IとIIは継続して受講して下さい。
無断欠席は厳禁です。やむを得ずに欠席する場合は、予め連絡して下さい。
予習・復習その他の授業外学習にも積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習科目ですから、参加者のみなさんによる主体的な取り組みが期待されます。ここでは、自由な議論の空間が大前提です。講義科目で学び始めたことを、積極的に言葉にしてみましょう。

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究 I

LAW290M

授業の概要 /Course Description

外国法や外国の法制度を学ぶことを通じて、日本法および日本の法制度とその意義を再確認する。
本演習では、日本の社会保険制度に多大な影響を与えたドイツ社会保険法に関する文献を輪読する予定。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定する。
使用する文献はコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講読テーマに応じ、講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

開講時に受講者と相談の上決定する。
大まかには、以下のように考えている。

- 第1回 オリエンテーション ~受講生の問題関心に沿った文献の選定~
- 第2回~第8回 参加者全員によるドイツ語文献講読
- 第9回~第14回 日本の制度との比較検討
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(出席、報告内容、討論への参加度など)やレポート等を総合勘案して評価する。
日常の授業への取り組み...80% レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語の基本的な読解能力があるに越したことはないが、ドイツ語未履修であっても、ドイツ語に触れてみたい、ドイツ語の文章を読んでみたいという意欲溢れる学生の参加を期待している。
多くの受講生にとって普段あまり触れる機会のない語学なので、入念な予習・復習・その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究Ⅰ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ⅰ

LAW290M

授業の概要 /Course Description

ドイツ語で書かれた法学の専門文献を読むことで、法学の基礎知識を増やしていくことを目標とする。ドイツ語の文法の知識があることを当然の前提とした上で、毎週毎週、ドイツ語をきれいな日本語に訳すという予習をする必要があるため、覚悟して履修すること。個人差はあるだろうが、毎週、3～8時間ぐらいの予習が必要である。
ベック社が出している有名な六法のBGBがあり、その冒頭にヘルムート・ケーラー教授が「序論」を書いている。それを読む。
外国文献を読むことで、我が国の法状況を分析する力が増し、そして各自が訳してきた日本語文を口頭で発表することで、プレゼンテーション力及びコミュニケーション力が養われるであろう。

教科書 /Textbooks

上記のドイツ語文献は、コピーを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 簡単な説明
- 2回 上記文献の1頁目の購読
- 3回 上記文献の2頁目の購読
- 4回 上記文献の3頁目の購読
- 5回 上記文献の4頁目の購読
- 6回 上記文献の5頁目の購読
- 7回 上記文献の6頁目の購読
- 8回 上記文献の7頁目の購読
- 9回 上記文献の8頁目の購読
- 10回 上記文献の9頁目の購読
- 11回 上記文献の10頁目の購読
- 12回 上記文献の11頁目の購読
- 13回 上記文献の12頁目の購読
- 14回 上記文献の13頁目の購読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験.....100%の予定

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国文献研究I【昼】

履修上の注意 /Remarks

『独和大辞典 第2版』（小学館のものに限る。本体7500円。それ以外は不可。）と文法書（自分の好きなもので良い。）を購入の上、ドイツ語の文法の知識を完璧にしておく必要がある。これらは開講前に必ず購入すること。電子辞書は不可。
その理由は以下の通り：①上記文献は専門的学術文献の一つであり、法学上の専門用語が多数、載っている辞書である必要がある。この授業は、あくまでも法律学科の「専門科目」の一つなのであり、小説やエッセイ等を読むわけではない。②文法的説明が詳しく載っている辞書で、かつ上級者のみを対象としていない（中級者でも使える）辞書はこれだけである（上級者のみを対象としている辞書は他にもある。）。③例文を見ながら訳す必要があり、例文が多数載っている辞書でないと、テキストと同じ例文が辞書にないことになり、非上級者が正しく訳すことは困難となる。④ドイツ語は動詞・形容詞等の変化が多いため、ドイツ語文を見たときに、テキストに印刷されているままの形では辞書をひくことができず、自分の頭で辞書に載っている形に変えて辞書をひく必要があるが、上記辞書だと、そのための最低限の情報も載っている。⑤電子辞書だと一度に複数のページを見て訳す作業ができず（外国語を訳すときは、二つ以上の単語の意味や用法の組み合わせが重要となり、一度に複数のページを見比べて訳さないと、正しく訳せない。）、力がつかない。
1回目の授業のときにこれらを持参しない者は、「やる気が全くない人物である」証拠であるから、受講は絶対に認めない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上で述べた。

キーワード /Keywords

ドイツ法、ドイツ民法

外国文献研究II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究II

LAW291M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する英語文献を購読します。日本と諸外国の会社法制度の比較を通じて、会社法や株式会社制度に関する理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。必要な資料・テキストは適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、担当箇所の割当て
2回～15回 担当者による報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習は必須です（報告担当者以外の方も該当箇所を読み、議論に積極的に参加することが求められます）。
会社法I・IIを履修済であることが望ましい（会社法IIについては履修中も可）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究II

LAW291M

授業の概要 /Course Description

外国（ドイツ、アメリカ、ニュージーランド等）の刑事司法制度について、英語、ドイツ語のテキストを読みます。それぞれ担当を決めテキストを翻訳、報告をしてもらい、それをもとに議論することを予定しています。英語、ドイツ語自体を学ぶのではなく（文法や構文などを学びたい方は向きません。外国語の授業ではありません。）、外国語を用いて外国の法制度を学ぶ授業です。

教科書 /Textbooks

テキストをコピーしたプリントを配布します。使用テキストは、初回授業時に参加者のレベルに合わせて決定します。また、各自使いやすい英和辞典、独和辞典を用意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス&授業の進め方について
- 第2回：輪読文献の選定結果発表
- 第3回：警察の活動
- 第4回：捜索・差押え
- 第5回：逮捕
- 第6回：保釈
- 第7回：被疑者と被告人
- 第8回：弁護士
- 第9回：裁判所
- 第10回：罪状認否
- 第11回：刑事手続に関する専門用語
- 第12回：被告人の権利
- 第13回：公判手続
- 第14回：刑務所
- 第15回：まとめ

※以上のようにすすめていきます。内容は参加者の関心に応じて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（報告内容、議論参加への積極性など）(30%)、筆記試験(70%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

外国文献研究II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

理由の如何を問わず、3回以上欠席した場合は単位を付与しません。無断欠席については一回でアウトとします。報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。講義内容の復習も必須。単語、文章の解釈については繰り返し復習しないと身につけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ある程度の英語力、ドイツ語力は必要。刑事法の知識も求められます。専門の学術書の読解ですので、簡単に読めるものではありません。

キーワード /Keywords

刑事手続、刑事司法

法哲学専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥウオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥウオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥウオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー/アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）などである。

本年は、その延長上で、アクセル・ホネット『物象化 承認論からのアプローチ』（法政大学出版局）をテキストとして取り上げる。ヘーゲルの「承認」概念を「物象化」という観点から応用するホネットの試みを理解すると同時に、その現代正義論に対する影響についても検証する。

教科書 /Textbooks

アクセル・ホネット『物象化 承認論からのアプローチ』（法政大学出版局）、2500円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アクセル・ホネット『自由であることの苦しみ』（未来社）

法哲学専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 現代正義論の展開
- 第3回 批判理論
- 第4回 ルカーチによる物象化
- 第5回 ハイデガー
- 第6回 デューイ
- 第7回 承認の優位
- 第8回 承認の忘却
- 第9回 自己物象化
- 第10回 物象化の社会的起源
- 第11回 テキストの総括
- 第12回 ホネットの結論の検証
- 第13回 ヘーゲルの実践哲学
- 第14回 承認と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジユメをもとに内容を整理し、復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 物象化 承認 ホネット 批判理論

法哲学専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、2学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②
- 第5回 自由研究報告③
- 第6回 自由研究報告④
- 第7回 自由研究報告⑤
- 第8回 自由研究報告⑥
- 第9回 自由研究報告⑦
- 第10回 自由研究報告⑧
- 第11回 自由研究報告⑨
- 第12回 自由研究報告⑩
- 第13回 自由研究報告⑪
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

これまでの3年生向けのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー / アクセル・ホネット『再配分か承認か？』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）などである。

本年から始まる4年生ゼミでも、その延長上で、アクセル・ホネット『見えないこと 相互主体性理論の諸段階について』（法政大学出版局）をテキストとして取り上げる。ヘーゲルの「承認」概念を現代的に応用するホネットの試みを理解すると同時に、その現代正義論に対する影響についても検証する。

教科書 /Textbooks

アクセル・ホネット『みえないこと 相互主体性理論の諸段階について』（法政大学出版局）、2800円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

アクセル・ホネット『自由であることの苦しみ』（未来社）

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 現代正義論の展開
- 第3回 批判理論
- 第4回 承認論とは
- 第5回 「見えないこと」とは
- 第6回 相互主体性
- 第7回 ガダマー
- 第8回 ハイデガー
- 第9回 認識と承認
- 第10回 マクダウエル
- 第11回 対象関係論
- 第12回 『見えないこと』の全体考察
- 第13回 ホネットの結論の検証
- 第14回 承認と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジユメをもとに内容を整理し、復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 相互主体性 承認 ホネット

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論に関連する文献を講読したが、2学期の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①
(ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様)
- 第4回 自由研究報告②
- 第5回 自由研究報告③
- 第6回 自由研究報告④
- 第7回 自由研究報告⑤
- 第8回 自由研究報告⑥
- 第9回 自由研究報告⑦
- 第10回 自由研究報告⑧
- 第11回 自由研究報告⑨
- 第12回 自由研究報告⑩
- 第13回 自由研究報告⑪
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法制史専門演習I【昼】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

【演習の目的】

ある時代や地域において法やそれをめぐる諸制度がどのように成り立ち、またそれらの存立の背景にどのような考え方が存在したのか。東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると言えます。本演習は、日本の近代法形成期の諸法制の形成と展開の過程をテーマとして、現代のわれわれを取り巻く法制を多角的な視点から考察するきっかけを得ることを目的とします。

【演習の内容】

近世から近代（江戸時代から、西欧法の継受を行い近代法への大転換をむかえる明治時代）の移行期について、①近代法的な「権利」概念の形成、②「裁判所で裁判を行う」というシステムの形成に関する諸問題、③外国法の移入のあり方、その理解のあり方、のいずれか或いは幾つかをテーマとしてテキスト及び関連参考文献をもとに報告を行っていただき、参加者全員で当時の法や制度を社会や思想のあり方とも関連付けつつ、さらに現代の法制との対比を行いながら議論を行っていきます。。

（扱うテーマ(一例)）

条約改正、司法制度、大日本帝国憲法の制定、民法典の編纂、刑法・治安法制、訴訟法制、財産法制、土地法制、地方自治法制、教育法制、軍事・警察法制

教科書 /Textbooks

参加者に個別に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001年)
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)
川口由彦『日本近代法制史(第2版)』(新世社・2014年)
これらのほか、演習中に適宜紹介を行います。

法制史専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当教員及び参加者の自己紹介ののち、ゼミの進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
- 第2回 担当教員による報告の形式をとり、ゼミの進行・報告と議論の仕方等について確認を行います。
- 第3回 各参加者による報告・議論
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 中間総括(プレ討論)
- 第8回 各参加者による報告・議論
- 第9回 各参加者による報告・議論
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(30%)
2. 演習における報告・司会進行(30%)
3. 期末レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】

報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では「法制史専門演習I」に引き続き、近代法の形成と展開について学んでいきます（このため、「法制史専門演習I」のシラバスをあわせてご参照ください）。

参加者は担当するテーマについてつきテキストや関連する参考文献をもとに報告を行っていただき、報告後参加者全員で当時の法や制度を社会や思想のあり方との関連、また現代の法制との対比などの諸論点について議論を行っていきます。

教科書 /Textbooks

参加者に個別に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川口由彦『日本近代法制史』（新世社・1998年）（図書館蔵書：○）
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（山川出版社・2001年）（図書館蔵書：○）
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（青林書院・2010年）（図書館蔵書：○）
これらのほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当教員・各参加者の自己紹介ののち、ゼミの進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を実施
- 第2回 担当教員による報告の形式をとり、ゼミの進行・報告と議論の仕方等について確認
- 第3回 各参加者による報告・議論
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 中間総括（プレ討論）
- 第8回 各参加者による報告・議論
- 第9回 各参加者による報告・議論
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

法制史専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(30%)
2. 演習における報告・司会進行(30%)
3. 期末レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】

報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると考えられます。本科目は広く日本法の歴史的な形成と展開に関する分野につき、「法制史専門演習IおよびII」の学習を踏まえ、日本のみならず日本に影響を与えた西欧の法概念形成に即して、各参加者が関心をもつテーマを選択して論文の執筆に向けた指導を行うとともに各参加者を交えた議論を行っていきます。また論文の執筆だけでなく、情報検索やプレゼンテーションの方法についても学んでいきます。

教科書 /Textbooks

事前の演習参加選抜に合格した参加予定者に掲示板等を通じて個別に指示を行っています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。
なおテーマ撰択の一助として、以下を参照してください。
浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)(図書館蔵書:○)
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001)(図書館蔵書:○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 担当教員及び参加者の自己紹介ののち、進行についての説明、テーマ選択、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
- 第2回 各参加者の研究テーマ発表
- 第3回 各参加者による報告・議論
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 各参加者による報告・議論
- 第8回 中間状況報告会
- 第9回 各参加者による報告・議論
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

法制史専門演習Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(30%※)
2. 演習における報告(30%※)
3. 中間報告書(40%※)

※中間報告書は単位の認定にあたり必ず提出が必要です。論文の提出を確認の上、1・2の項目を総合的に勘案して成績判定を行います。中間報告書については演習中に指示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】

報告担当者は事前にレジュメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

法制史専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法制史に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法制史専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本科目は「法制史専門演習Ⅲ」に引き続き、法制史分野のテーマに関する論文の完成と情報検索・プレゼンテーション能力のさらなる向上を目指して指導を行っていきます。

教科書 /Textbooks

なし。各参加者の論文テーマに即し、必要なテキストを自ら選びとることも本演習の大きなテーマの一つです。もちろん、適宜教員の側からアドバイスを行っていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者の興味関心に応じ、適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 各参加者の研究テーマ確認、文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についてのおさらい
- 第2回 各参加者による報告・議論
- 第3回 各参加者による報告・議論
- 第4回 各参加者による報告・議論
- 第5回 各参加者による報告・議論
- 第6回 各参加者による報告・議論
- 第7回 各参加者による報告・議論
- 第8回 中間状況報告会
- 第9回 各参加者による報告・議論
- 第10回 各参加者による報告・議論
- 第11回 各参加者による報告・議論
- 第12回 各参加者による報告・議論
- 第13回 各参加者による報告・議論
- 第14回 各参加者による報告・議論
- 第15回 演習全体の総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。

1. 演習における議論への参加状況(20%※)
2. 演習における報告(20%※)
3. 最終提出論文(60%※)

※最終提出論文は単位の認定にあたり必ず提出が必要です。論文の提出を確認の上、1・2の項目を総合的に勘案して成績判定を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法制史専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して最終論文に備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

【その他】

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

憲法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
進行の形式は次のとおり。まず指定テキスト（下記「教科書」参照）を全員で分担講読する。各回の報告担当者がレジュメを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討・議論を行う形で進めていく。

教科書 /Textbooks

安西文雄・巻美矢紀・穴戸常寿編『憲法学読本（第2版）』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告テーマ・順序決定など）
- 第2回 （“肩慣らし”として）グループ・ディスカッション
- 第3～14回 テキストの分担講読（報告及び議論）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な準備が求められる。指定テキストは、憲法学の教科書の平均的構成に倣いながらも、最新の研究動向や社会状況にも目配せされた内容となっている。平易な叙述であるが、その内容を理解するためには、十分な読み込みが必要となる。
報告者以外の参加者も、議論に参加する準備として、毎回少なくとも指定テキストを十分に読み込んでおくことが求められる。
演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「大学であなたは何を学びましたか？」と尋ねられて、何も答えられないようでは情けないです。「自分が学び、考えたこと」を自信を持って答えられるようになるために、演習をしっかりと活用して下さい。

憲法専門演習I【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
「演習I」を受けて、「演習II」では、「演習III」「演習IV」で論文を執筆するための準備を行う。
具体的には、参加者がそれぞれ「論文のテーマ（問い）」、「そのテーマ（問い）をめぐる社会状況や憲法学における議論状況、関連する判例」、「自分の見解」をまとめたレジュメを作成して報告し、それに基づいて全員で検討・議論を行うという形で進めていく。
最終的に、論文の全体構成を練り上げることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告順決定など）
第2～14回 各自が決定したテーマに関する報告及び議論
第15回 論文執筆に向けたまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
ゼミレポートの内容：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な準備が求められる。自分の立てた問いに答えるために必要な内容を、十分に・丁寧に調べてまとめることが必要となる。
報告回の前回までにレジュメを完成させて、事前に全員に配布すること。
報告者以外の参加者は、あらかじめ配布レジュメを十分に読み込んでおき、報告者にとって有益な質問・意見を述べることを求められる。
演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

憲法専門演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「大学であなたは何を学びましたか？」と尋ねられて、何も答えられないようでは情けないです。「自分が学び、考えたこと」を自信を持って答えられるようになるために、演習をしっかりと活用して下さい。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習Ⅲでは、卒業論文の執筆に向けて、①テーマの設定と基本的構想の構築を行うとともに、②必要な文献をリストアップして執筆の準備作業に取り掛かって頂くこととする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・卒業論文執筆の方法
- 第2回 受講者による卒論テーマ・概要の発表①
- 第3回 受講者による卒論テーマ・概要の発表②
- 第4回 受講者による卒論テーマ・概要の発表③
- 第5回 受講者による卒論テーマ・概要の発表④
- 第6回 受講者による卒論テーマ・概要の発表⑤
- 第7回 受講者による卒論テーマ・概要の発表⑥
- 第8回 受講者による卒論テーマ・概要の発表⑦
- 第9回 受験者による文献リストの報告①
- 第10回 受験者による文献リストの報告②
- 第11回 受験者による文献リストの報告③
- 第12回 受験者による文献リストの報告④
- 第13回 受験者による文献リストの報告⑤
- 第14回 受験者による文献リストの報告⑥
- 第15回 受験者による文献リストの報告⑦

成績評価の方法 /Assessment Method

卒論テーマ・概要 60%
文献リストの報告 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の最後に「調べ・考え・書く」という力を身につけてほしい。

憲法専門演習III 【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「個別研究指導II」と併せて論文（20,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。「I」においては、研究テーマの決定及び論文の概要（全体構成）を完成させるところまでを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）
第2～5回 研究テーマの決定
第6～15回 研究報告・検討

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：40%
各回の議論への主体的参加状況：40%
論文概要（全体構成）の内容：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。本演習は「個別研究指導II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 植木 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習Ⅳでは、卒業論文(20000字以上)の執筆に取り組んでいただく。最初に卒業論文に関する報告を行って頂き、指導を受けたうえで、卒業論文の報告会を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 受講者による卒業論文の内容報告①
- 第3回 受講者による卒業論文の内容報告②
- 第4回 受講者による卒業論文の内容報告③
- 第5回 受講者による卒業論文の内容報告④
- 第6回 受講者による卒業論文の内容報告⑤
- 第7回 受講者による卒業論文の内容報告⑥
- 第8回 受講者による卒業論文の内容報告⑦
- 第9回 受講者による卒業論文の内容報告⑧
- 第10回 受講者による卒業論文の内容報告⑨
- 第11回 受講者による卒業論文の内容報告⑩
- 第12回 卒業論文報告会①
- 第13回 卒業論文報告会②
- 第14回 卒業論文報告会③
- 第15回 卒業論文報告会④

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文報告 20%
卒業論文 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生活の最後に「調べ・考え・書く」という体験をしてください。

憲法専門演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「個別研究指導Ⅰ」と併せて論文（20,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。
「Ⅱ」においては、「Ⅰ」で完成させた論文概要（全体構成）に基づいて、さらに研究を専門化、精緻化させながらゼミ論文を完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2～15回 研究報告・検討～論文作成

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：30%
各回の議論への主体的参加状況：30%
論文の内容：40%

※論文を完成させられなかった場合、原則として単位は認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。
本演習は「個別研究指導Ⅰ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい（「Ⅱ」のみで論文を完成させることはかなりの困難を伴う）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例・理論を素材に、各回の担当者が個別報告またはディベートを行った後、そのテーマについて参加者全員で議論します。参加者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 個別報告またはディベート
第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

個別報告またはディベートの担当者にはレジュメの作成が、それ以外の参加者には予習と積極的な発言が求められます。
欠席の場合には、必ず事前に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

国・公共団体の活動が問題となった裁判の判決について、報告者の報告に基づいて議論を行う。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①裁判所の判決の構造を理解する。
- ②裁判のなかで争点となった法的問題が何かを判断し、説明できる。
- ③争点となった法的問題に関する学説・判例の状況を、整理して説明できる。
- ④さまざまな知識を総合して、あるべき解決方法を提示することができる。
- ⑤他人の報告に対し有益なコメントをすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『行政判例百選Ⅰ〔第6版〕』(2012年)
- 『行政判例百選Ⅱ〔第6版〕』(2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、報告の順番の決定、レクチャー：判例の構造、法的問題とは何か
- 第2回 レクチャー：学説・判例の状況のまとめ方
- 第3回 判例についての報告、それに関する議論
- 第4回 判例についての報告、それに関する議論
- 第5回 判例についての報告、それに関する議論
- 第6回 判例についての報告、それに関する議論
- 第7回 判例についての報告、それに関する議論
- 第8回 判例についての報告、それに関する議論
- 第9回 判例についての報告、それに関する議論
- 第10回 判例についての報告、それに関する議論
- 第11回 判例についての報告、それに関する議論
- 第12回 判例についての報告、それに関する議論
- 第13回 判例についての報告、それに関する議論
- 第14回 判例についての報告、それに関する議論
- 第15回 判例についての報告、それに関する議論

行政法専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、報告担当でないときの議論への参加50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

行政法総論、行政争訟法、国家補償法の講義を必ず受講すること。
自分が報告を担当しない回についても、判決文を読み、講義の復習をして準備することが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政法総論、行政争訟法、国家補償法、判例研究

行政法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例・理論を素材に、各回の担当者が個別報告またはディベートを行った後、そのテーマについて参加者全員で議論します。参加者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～14回 個別報告またはディベート
第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

個別報告またはディベートの担当者にはレジュメの作成が、それ以外の参加者には予習と積極的な発言が求められます。
欠席の場合には、必ず事前に連絡してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習II【昼】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

国・公共団体の活動が問題となった裁判の判決について、報告者の報告に基づいて議論を行う。

この授業の主な到達目標は、以下の通り。

- ①裁判所の判決・判例評釈など裁判に関する文献を収集するスキルを身につける。
- ②裁判のなかで争点となった法的問題が何かを判断し、説明できる。
- ③争点となった法的問題に関する学説・判例の状況を整理して説明できる。
- ④さまざまな知識を総合して、あるべき解決方法を提示することができる。
- ⑤他人の報告に対し有益なコメントをすることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『行政判例百選Ⅰ〔第6版〕』(2012年)
- 『行政判例百選Ⅱ〔第6版〕』(2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、担当者の順番の決定
- 第2回 レクチャー：裁判所の判決の構造、法的問題とは何か
- 第3回 レクチャー：裁判所の判決に関する文献収集の方法
- 第4回 レクチャー：学説・判例の整理のしかた
- 第5回 判例についての報告、それに関する議論
- 第6回 判例についての報告、それに関する議論
- 第7回 判例についての報告、それに関する議論
- 第8回 判例についての報告、それに関する議論
- 第9回 判例についての報告、それに関する議論
- 第10回 判例についての報告、それに関する議論
- 第11回 判例についての報告、それに関する議論
- 第12回 判例についての報告、それに関する議論
- 第13回 判例についての報告、それに関する議論
- 第14回 判例についての報告、それに関する議論
- 第15回 判例についての報告、それに関する議論

※ただし、受講者の人数、実際の授業の進度に応じて、内容を変更することがある。

行政法専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、報告担当でないときの議論への参加50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

行政法総論、行政争訟法、国家補償法の授業を必ず受講すること。
自分が報告を担当しない回についても、判決文を読み、講義の復習をして準備することが必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政争訟法、国家補償法、行政救済法、判例研究

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

参加者が関心のある行政法分野の研究テーマについて、最終的に論文を執筆することを念頭に、研究指導を行います。論文執筆を通じて、参加者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2回 研究テーマの決定
第3～14回 研究指導
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

参加者が関心のある行政法分野の研究テーマについて、最終的に論文を執筆することを念頭に、研究指導を行います。論文執筆を通じて、参加者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
第2～10回 研究指導
第11～14回 中間報告会
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文50%、日常の授業への取組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法の基本的な判例の分析を通じて、法的問題解決能力を訓練します。
判例は、現実社会で生起する問題に法的に対応する際、第一に基準とされるものです。さらに、判例に表れた事例は、「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論」で学んだ理論がどのようにして適用されるのかを具体的に考えるための格好の素材を提供してくれます。ここでは、生ける法である判例を読み解く方法を学ぶことによって、法的思考の実践力を養うことを目指します。

教科書 /Textbooks

山口厚 / 佐伯仁志編『刑法判例百選II各論（第7版）』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 高橋則夫『刑法各論（第2版）』（成文堂、2013年）
- 山口厚『刑法各論（第2版）』（有斐閣、2010年）
- 安田拓人 / 島田聡一郎 / 和田俊憲『ひとりで学ぶ刑法』（有斐閣、2015年）
- 井田良他編『刑法事例演習教材（第2版）』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は二人一組になって、上記『刑法判例百選II各論』から判例の一つを選択し、事案・争点・判例の理由付けについて要点を報告します。
- ②それに付随して、各組それぞれ異なる2つの学説から、当該判例の立場を分析し説明を行います。
- ③以上の説明を受けて、他の受講生は、事案や判旨について疑問のある点を質問し、さらには自身がいずれの報告者の説明・学説がより説得的であったと考えるのかを明らかにした上で、自説の実質的な根拠と反対説の問題点について相互に議論を深めていきます。
- ④報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。報告後には、要旨をまとめたレポートを提出して下さい。

第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択、判例の読み方と事例の解き方の概説

第2回～第15回 テーマごとに報告（必要に応じて、回をまたいで検討を行う）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（30%）、報告後のレポート（30%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（40%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。

刑法専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本判例の研究」(Seminar in Criminal Law)

判例(裁判例)は、法規の内容を明らかにして、実社会を動かす力をもっています。この演習では、刑法総論および刑法各論の基本的な判例を考察して判例の分析法を学び、判例を扱う能力を育成することを目的とします。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ① 法学の基本的な知識の確認
 - ② 法学の基礎的な能力の修得(問題発見能力・論理的思考力・説得力)
 - ③ 法を支える基本的思考の理解
 - ④ 刑法学の基本問題の考察(刑法理論の体系的理解)

教科書 /Textbooks

- ① 六法(2016年版・平成28年版)
『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携して下さい(種類・出版社を問いません)。
- ② 刑法総論・刑法各論の基本書
著者を指定しません。各自の選択に委ねます。講義の予習・復習、および自習のため、いずれかのテキスト(基本書)を必携してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる資料を紹介します。

- 井田良『入門刑法学・総論』(有斐閣・2013.12)。
- 井田良『入門刑法学・各論』(有斐閣・2013.12)。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(有斐閣・2013.04)。
- 佐伯仁志「刑法各論の考え方・楽しみ方」『法学教室』355号(2010.04)~378号(2012.03)。
- 西田典之/山口厚ほか(編)『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(有斐閣・2007.10)。
- 阿部純二ほか(編)『刑法基本講座1巻~6巻』(法学書院・1992.10~1994.10)。
- 山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論(別冊ジュリスト220号)』7版(有斐閣・2014.07)。
- 山口厚/佐伯仁志(編)『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト221号)』7版(有斐閣・2014.06)。
- 曾根威彦/日高義博(編)『基本判例5 刑法総論』2版(法学書院・2006.07)。
- 曾根威彦/日高義博(編)『基本判例6 刑法総論』2版(法学書院・2006.07)。

刑法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 担当者は、担当したテーマについて研究レポートを作成して、提出してください。
 ② 担当者は、提出したレポートに基づいて、事例分析、争点整理、判例の概要、学説の概要を報告してください。
 ③ 担当者が、ディスカッションをリードして、妥当と考えられる結論を探求していきます。
- 1 回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
 - 2 回 判例とは何か？判例と傍論
 - 3 回 判例と下級審裁判例
 - 4 回 判例理論と学説、事実関係と判例の射程
 - 5 回 間接正犯と実行行為に関する判例 (1) 事実関係と訴訟の経緯
 - 6 回 間接正犯と実行行為に関する判例 (2) 判例理論の検討
 - 7 回 因果関係に関する判例 (1) 事実関係と訴訟の経緯
 - 8 回 因果関係に関する判例 (2) 判例理論の検討
 - 9 回 侵害の予期と急迫性・積極的加害意思 (1) 事実関係と訴訟の経緯
 - 10 回 侵害の予期と急迫性・積極的加害意思 (2) 判例理論の検討
 - 11 回 共謀共同正犯 (1) 事実関係と訴訟の経緯
 - 12 回 共謀共同正犯 (2) 判例理論の検討
 - 13 回 事後強盗罪と強盗致死傷罪における機会性 (1) 事実関係と訴訟の経緯
 - 14 回 事後強盗罪と強盗致死傷罪における機会性 (2) 判例理論の検討
 - 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
 提出されたレポート等 (30%)、演習における報告内容 (20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容 (50%) を総合的に評価します (カッコ内は評価の全体に占める割合です。)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。
 担当者はレポートを作成して、事前に配布してください。また、それ以外の者は摘要を作成して演習に臨んでください。演習後は、指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成してください。
 少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること (または履修中であること) (上掲「授業の概要」を参照してください。)。また、専門演習Iは、専門演習II、個別研究指導I (専門演習III) および個別研究指導II (専門演習IV) と連続して展開することを予定しています。これらの科目も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論 犯罪論

刑法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法の基本的な判例の分析を通じて、法的問題解決能力を訓練します。
判例は、現実社会で生起する問題に法的に対応する際、第一に基準とされるものです。さらに、判例に表れた事例は、「刑法犯罪論」と「刑法犯罪各論」で学んだ理論がどのようにして適用されるのかを具体的に考えるための格好の素材を提供してくれます。ここでは、生ける法である判例を読み解く方法を学ぶことによって、法的思考の実践力を養うことを目指します。

教科書 /Textbooks

山口厚 / 佐伯仁志編『刑法判例百選I総論【第7版】』（有斐閣、2014年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『講義刑法学・総論』（有斐閣、2008年）
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣、2013年）
- 安田拓人 / 島田聡一郎 / 和田俊憲『ひとりで学ぶ刑法』（有斐閣、2015年）
- 井田良他編『刑法事例演習教材（第2版）』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は二人一組になって、上記『刑法判例百選I総論』から判例の一つを選択し、事案・争点・判例の理由付けについて要点を報告します。
- ②それに付随して、各組それぞれ異なる2つの学説から、当該判例の立場を分析し説明を行います。
- ③以上の説明を受けて、他の受講生は、事案や判旨について疑問のある点を質問し、さらには自身がいずれの報告者の説明・学説がより説得的であったと考えるのかを明らかにした上で、自説の実質的な根拠と反対説の問題点について相互に議論を深めていきます。
- ④報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。報告後には、要旨をまとめたレポートを提出して下さい。

第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択、犯罪論体系の概説
第2回～第15回 テーマごとに報告（必要に応じて、回をまたいで検討を行う）

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（30%）、報告後のレポート（30%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（40%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。

刑法専門演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本問題の探求」(Seminar in Criminal Law)

この演習では、刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題（テーマ）についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。ただ判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ?」、「どうして?」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思えます。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ①法学の基本的な知識の確認
 - ②法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
 - ③法を支える基本的思考の理解
 - ④刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

教科書 /Textbooks

- ①六法（2016年版・平成28年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）。
- ②井田良 / 丸山雅夫『ケーススタディ刑法』4版（東京：日本評論社・2015.02）。
- ③刑法総論・刑法各論の基本書
著者を指定しません。各自の選択に委ねます。講義の予習・復習、および自習のため、いずれかのテキスト（基本書）を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる資料を紹介します。

- 井田良『入門刑法学・総論』（有斐閣・2013.12）。
- 井田良『入門刑法学・各論』（有斐閣・2013.12）。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣・2013.04）。
- 佐伯仁志『刑法各論の考え方・楽しみ方』『法学教室』355号(2010.04)～378号(2012.03)。
- 西田典之 / 山口厚ほか〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ-ズ）』（有斐閣・2007.10）。
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座1巻～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）。
- 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選I総論（別冊ジュリスト220号）』7版（有斐閣・2014.07）。
- 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。
- 曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例5 刑法総論』2版（法学書院・2006.07）。
- 曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例6 刑法総論』2版（法学書院・2006.07）。

刑法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 担当者は、担当したテーマについて研究レポートを作成して、提出してください。
 ② 担当者は、提出したレポートに基づいて、事例分析、争点整理、判例の概要、学説の概要を報告してください。
 ③ 担当者以外の者は、提出されたレポートに基づいて自説を提立し、説明してください。
 ④ 担当者が、ディスカッションをリードして、妥当と考えられる結論を探求していきます。
- 1 回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
 - 2 回 刑法と道徳
 - 3 回 罪刑法定主義
 - 4 回 責任主義
 - 5 回 結果無価値論と行為無価値論
 - 6 回 不真正不作为犯
 - 7 回 条件関係と因果関係
 - 8 回 客観的帰属
 - 9 回 故意
 - 10 回 具体的事実の錯誤
 - 11 回 抽象的事実の錯誤
 - 12 回 過失
 - 13 回 結果的加重犯
 - 14 回 正当防衛状況
 - 15 回 正当防衛の限界

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
 提出されたレポート等 (30%)、演習における報告内容 (20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容 (50%) を総合的に評価します (カッコ内は評価の全体に占める割合です。)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。
 担当者はレポートを作成して、事前に配布してください。また、それ以外の者は摘要を作成して演習に臨んでください。演習後は、指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成してください。
 少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること (または履修中であること)。また、専門演習IIは、専門演習I、個別研究指導I (専門演習III) および個別研究指導II (専門演習IV) と連続して展開することを予定しています。これらの科目も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論 犯罪論

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法総論および刑法各論の主要な論点について調査報告をしてもらい、受講生全員で議論を行います。その際には、継続科目である専門演習Ⅳにおいて受講者各自がリサーチペーパーを完成させるために、選択したテーマについて問題の所在を明らかにすることを主眼とし、加えて関連する文献の選択について手がかりを与えるようにします。

教科書 /Textbooks

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点』（有斐閣、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川端博 / 浅田和茂 / 山口厚 / 井田良編『理論刑法学の探求①～⑧』（成文堂、2008～2015年）
- 高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門』（日本評論社、2014年）
- 山口厚 / 井田良 / 佐伯仁志『理論刑法学の最前線』（岩波書店、2001年）
- 川端博 / 前田雅英 / 伊東研祐 / 山口厚『徹底討論刑法理論の展望』（成文堂、2000年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は、上記『刑法の争点』から総論と各論のそれぞれからテーマを選択し、報告を行います。
 - ②報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。
- 第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択、犯罪論体系の概説
第2回～第15回 テーマごとに報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（50%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本問題の探求」（Seminar in Criminal Law）

この演習では、刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題（テーマ）についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。ただ判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ?」、「どうして?」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思えます。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ①法学の基本的な知識の確認
 - ②法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
 - ③法を支える基本的思考の理解
 - ④刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

教科書 /Textbooks

- ①六法（2016年版・平成28年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携して下さい（種類・出版社を問いません。）。
- ②井田良 / 丸山雅夫『ケーススタディ刑法』4版（東京：日本評論社・2015.02）。
- ③刑法総論・刑法各論の基本書
著者を指定しません。各自の選択に委ねます。講義の予習・復習、および自習のため、いずれかのテキスト（基本書）を必携して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる資料を紹介します。

- 井田良『入門刑法学・総論』（有斐閣・2013.12）。
- 井田良『入門刑法学・各論』（有斐閣・2013.12）。
- 佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣・2013.04）。
- 佐伯仁志『刑法各論の考え方・楽しみ方』『法学教室』355号(2010.04)～378号(2012.03)。
- 西田典之 / 山口厚ほか〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ-ズ）』（有斐閣・2007.10）。
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座1巻～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）。
- 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選I総論（別冊ジュリスト220号）』7版（有斐閣・2014.07）。
- 山口厚 / 佐伯仁志〔編〕『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト221号）』7版（有斐閣・2014.06）。
- 曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例5 刑法総論』2版（法学書院・2006.07）。
- 曾根威彦 / 日高義博〔編〕『基本判例6 刑法総論』2版（法学書院・2006.07）。

刑法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 担当者は、担当したテーマについて研究レポートを作成して、提出してください。
 ② 担当者は、提出したレポートに基づいて、事例分析、争点整理、判例の概要、学説の概要を報告してください。
 ③ 担当者以外の者は、提出されたレポートに基づいて自説を提し、説明してください。
 ④ 担当者が、ディスカッションをリードして、妥当と考えられる結論を探求していきます。
- 1 回 ガイダンス (演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
 - 2 回 緊急避難
 - 3 回 責任能力
 - 4 回 違法性の錯誤
 - 5 回 違法性阻却事由の錯誤
 - 6 回 実行の着手
 - 7 回 不能犯
 - 8 回 中止犯
 - 9 回 正犯と共犯
 - 10 回 共同正犯
 - 11 回 共犯の従属性-共犯の処罰根拠
 - 12 回 従犯 (幫助犯)
 - 13 回 共犯の関連問題
 - 14 回 共犯と身分
 - 15 回 罪数論

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
 提出されたレポート等 (30%)、演習における報告内容 (20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容 (50%) を総合的に評価します (カッコ内は評価の全体に占める割合です。)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。
 担当者はレポートを作成して、事前に配布してください。また、それ以外の者は摘要を作成して演習に臨んでください。演習後は、指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を作成してください。
 少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること (または履修中であること)。また、個別研究指導I (専門演習Ⅲ) は、個別研究指導II (専門演習Ⅳ)、専門演習Iおよび専門演習IIと連続して展開することを予定しています。これらの科目も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論 犯罪論

刑法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、刑法総論および刑法各論の主要な論点について調査報告をしてもらい、受講生全員で議論を行います。その際には、受講者各自がリサーチペーパーを完成させるために、選択したテーマに関連する諸学説につきその要点を明らかにすることを主眼とします。

教科書 /Textbooks

西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点』（有斐閣、2007年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川端博 / 浅田和茂 / 山口厚 / 井田良編『理論刑法学の探求①～⑩』（成文堂、2008～2015年）
- 高橋則夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門』（日本評論社、2014年）
- 山口厚 / 井田良 / 佐伯仁志『理論刑法学の最前線』（岩波書店、2001年）
- 川端博 / 前田雅英 / 伊東研祐 / 山口厚『徹底討論刑法理論の展望』（成文堂、2000年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

演習の進め方

- ①報告者は、専門演習Ⅲで行った報告テーマに関連する主要な学説について報告します。
 - ②報告者は、レジュメないしはプレゼンテーションソフトで資料を作成し、事前に受講者全員に送付して下さい。
- 第1回 演習の進め方の説明、報告者の決定とテーマ選択、犯罪論体系の概説
第2回～第15回 テーマごとに報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（20%）、リサーチペーパー（40%）、演習中の積極的な発言ないしはその他の貢献（40%）を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」を既に履修済であることが望まれます。これらの科目をまだ修了していない場合、本演習と並行して受講して下さい。履修の仕方については、個別に相談に応じます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義科目にも増して、演習科目では受講者の主体的な取り組みが求められます。縁あって集ったメンバーですから、どのようにしたら受講者全員にとって有意義なフォーラムとなるのか、そのために自分に何ができるのか、私を含めてお互いに知恵を出し合い行動していきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ「刑法理論における重要問題の探求」

刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法に関する研究テーマを、判例・学説を整理しつつ、専門的、具体的かつ緻密に考察する。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおく。この講座は、論理的思考力および説得力を修得することを目的とする。

この演習では、受講者の関心に応じて論文（ゼミ論文）を執筆する。

教科書 /Textbooks

テキストを指定しない。各自が現在使用している基本書でよい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、研究テーマの設定など
- 2回 争点と問題の所在
- 3回 最高裁判例の検討
- 4回 最高裁判例の検討
- 5回 下級審裁判例の検討
- 6回 判例理論の総括
- 7回 学説の分析（1）
- 8回 学説の分析（2）
- 9回 論証の検討（1）
- 10回 論証の検討（2）
- 11回 個別研究論文の報告およびディスカッション（1）
- 12回 個別研究論文の報告およびディスカッション（2）
- 13回 個別研究論文の報告およびディスカッション（3）
- 14回 個別研究論文の報告およびディスカッション（4）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 30% 討論及び発言内容... 30% 論文（ゼミ論文）... 40%

※演習への参加状況（報告内容、討論及び発言内容）、レポート及び提出された論文（ゼミ論文）などにより、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

刑法専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

選定した研究テーマについて、レポートを作成する。報告者以外の者は摘要を作成して演習に臨むこと。提出されたレポートをもとにディスカッションを行い、検討を深める。ディスカッションと再検討の成果を、個別研究論文にフィードバックすることが求められる。個別研究指導Ⅱ(専門演習Ⅳ)は、個別研究指導Ⅰ(専門演習Ⅲ)、専門演習Ⅰおよび専門演習Ⅱと連続して展開することを予定している。これらの科目も併せて履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文(ゼミ論文)の執筆を目的としている。着実に研究を進める意欲と熱意のある者の履修を期待する。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 刑法各論 犯罪論

刑事訴訟法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。
報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。
ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席（50%）、議論への参加等、平常点（50%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合があります。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 (50%)、議論への参加等、平常点 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

キーワード /Keywords

刑事学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

今年度のテーマは、「刑事学（犯罪学・刑事司法政策）における調査研究方法を学ぶ」と「映画で学ぶ犯罪学」です。これから本格的に刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究を志す学生に対して、刑事学調査研究方法の基礎的知識の習得を目指すとともに、犯罪をモチーフとした映画を鑑賞しながら、「犯罪とは何か」について議論することを目的としています。

教科書 /Textbooks

桐生正幸編『基礎から学ぶ犯罪心理学研究法』福村出版（2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- E. バビー著（渡辺他訳）『社会調査法I&2』 培風館（2003年）
- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂(1998年)
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- 守山正・小林寿一編『ピギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）
- 朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
- ヴォルト&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）
- リリー、カレン、& ポール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』（金剛出版、2013年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教科書第1章 【犯罪学】【調査研究方法】
- 3回 教科書第2章（1）【データ収集】
- 4回 教科書第2章（2）【研究対象者】【研究倫理】
- 5回 映画鑑賞1
- 6回 教科書第3章（1）【研究方法】【観察法】【面接法】
- 7回 教科書第3章（2）【質問紙法】【実験法】
- 8回 教科書第4章（1）【研究結果】【統計的仮説検定】
- 9回 映画鑑賞2
- 10回 教科書第4章（2）【相関分析】【回帰分析】
- 11回 教科書第5章（1）【現代の犯罪】【いじめ】【少年犯罪】
- 12回 教科書第5章（2）「振り込め詐欺」
- 13回 映画鑑賞3
- 14回 教科書第6章 【研究例】【犯罪不安】【交通事犯】
- 15回 まとめ

刑事学専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 宿題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ゼミ開始前までに上記参考文献掲載の入門書の類は読み込んでおくこと。テキストとして指定した文献の指定された箇所を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。

専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

本ゼミでは例年ゼミ活動の一環として九州矯正管区内の矯正施設への参観を実施しています。本年度もゼミ学生と相談の上、実施する予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習II 【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本専門演習IIのテーマは、「現代社会における犯罪と刑罰を考える」です。専門演習Iで学んだ調査研究方法を踏まえて、刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究分野の中から、各ゼミ生が興味・関心をもっているテーマを自由に選択してもらい、それについて必要な文献調査、研究報告、論文作成をすることが目的です。加えて、適宜「映画で学ぶ犯罪学」をサブ・テーマとして映画鑑賞を実施する。

教科書 /Textbooks

守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
- 守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）
- 守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』成文堂（2008年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂（1998年）
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォルド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）
- リリー、カレン、& ポール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』（金剛出版、2013年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 フィールド調査（矯正施設参観）
- 2回 テーマ選択
- 3回 文献調査（1）【図書館】
- 4回 文献調査（2）【インターネット情報】
- 5回 映画鑑賞4
- 6回 調査設計（プロスペクテス提出）
- 7回 先行研究の検討（1）【邦語文献】
- 8回 先行研究の検討（2）【英語文献】
- 9回 映画鑑賞5
- 10回 先行研究の検討（3）【過去の研究と現在の研究との比較】
- 11回 中間報告（1）【研究テーマの正当化根拠】
- 12回 中間報告（2）【データ源】【データ分析】
- 13回 映画鑑賞6
- 14回 中間報告（3）【分析結果】
- 15回 レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 宿題...30% レポート...40%

刑事学専門演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

自ら選択したテーマについて、積極的に自習するなどして、主体的に研究を進めていくこと。授業終了後には指導教員からのコメントを踏まえ、必要であれば研究計画の修正を図るなど、次回までの授業につながるよう各自の研究内容の整理検討を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

すでに刑事法系科目（刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事司法政策）のすべてを履修済みがあるいは現在当該科目を履修中である学生を対象として、本演習では「経済格差（貧困）と犯罪・刑罰」との関係について考察します。ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）他、格差問題に関する専門書数冊を輪読します。刑事施設の参観も実施します。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書 /Textbooks

ジェフリー・ライマン/ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ：アメリカ刑事司法制度失敗の実態』（花伝社、2011）
ジョセフ・E・ステイグリッツ『世界の99%を貧困にする経済』（徳間書店、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）
○リリー、カレン、& ポール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』（金剛出版、2013年）
○トマ・ピケティ『21世紀の資本論』（みすず書房、2014年）
A・B・アトキンソン『不平等の経済学』（時潮社、1981年）
ロバート・ライシュ『格差と民主主義』（東洋経済新報社、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション～なぜ格差問題なのか。
- 2回 ステイグリッツ Chs. 1-2
- 3回 ステイグリッツ Chs. 3-4
- 4回 ステイグリッツ Chs. 5-6
- 5回 ステイグリッツ Chs. 7-8
- 6回 ステイグリッツ Chs. 9-10
- 7回 ライマン=レイトン Ch.1
- 8回 Ch.1 演習問題
- 9回 ライマン=レイトン Ch. 2
- 10回 Ch.2 演習問題
- 11回 ライマン=レイトン Ch. 3
- 12回 Ch. 3 演習問題
- 13回 ライマン=レイトン Ch. 4
- 14回 Ch. 4 演習問題
- 15回 ライマン=レイトン 結論

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

犯罪学および刑事司法政策Ⅰ及びⅡの講義科目、3年次「刑事学専門演習Ⅰ及びⅡ」を履修済みであることが望ましい。
「刑事学専門演習Ⅲ」は、「刑事学専門演習Ⅳ」と一体的・連携的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。
課題読書として指定されたテキストの該当箇所を毎回事前に読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習では、アメリカの代表的な犯罪学テキストであるLarry J. Siegel, Criminology 11th ed., 2012 を輪読します。原書テキストを講読することで、専門的知識や英語によるコミュニケーション力を身につけることを目指します。本年度、分析・検討する予定の犯罪学理論は、Social Process Theories: Socialization and Society (Siegel, Ch. 7, 2012:228-263)です。具体的には、社会的学習理論、社会的統制理論、ラベリング理論について考察します。刑事施設の参観も実施します。相談の上、ゼミ論文集の刊行を目指します。

教科書 /Textbooks

Larry J. Siegel, Criminology 11th ed., Belmont, CA: Wadsworth, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 守山正・小林寿一編『ピギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）
- 藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円
- 瀬川 晃『犯罪学』成文堂（1998年）
- G.B.ヴォルド＝T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』東大出版会（1990年）
- リリー、カレン、& ポール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』（金剛出版、2013年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（アメリカ犯罪学理論の分類について）
- 2回 Social Process Theories: Socialization and Society
- 3回 Socialization and Crime
- 4回 Family Relations and Crime
- 5回 Social Learning Theory
- 6回 Differential Association Theory
- 7回 Differential Reinforcement Theory
- 8回 Neutralization Theory
- 9回 Social Control Theory
- 10回 Self-Concept and Crime
- 11回 Social Bond Theory
- 12回 Social Reaction Theory
- 13回 Consequences of Labeling
- 14回 Evaluating Social Process Theories
- 15回 Public Policy Implications of Social Process

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

犯罪学および刑事司法政策I&IIを履修済みまたは履修中であることが望ましい。参考書として指定した犯罪学理論に関する邦語文献を事前に可能な限り、読むことを強く推奨します。
毎回、テキストの指定された箇所を事前に読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。
実際の判決文を一つ一つ丁寧に読み進めることを通じて、講義では触れられない詳細な法理論を身につける訓練をする。
また、判例研究以外にも、受講者の希望によって、一定のテーマに特化した報告という形態も考えられる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。
基本的に2回の演習で1つの判例・テーマを取り上げ、グループによる報告・検討を基礎に、全員で討論を行う。これを通じて、当該問題・課題に対する自らの見解をまとめあげる。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換
- 第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換
- 第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換
- 第8回 中間相互評価会
- 第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換
- 第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換
- 第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、討論への参加等、総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

2学期に開講する「社会保障法専門演習II」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになる。
各回のテーマ理解に必要な基本的事項は、予習・復習により理解の定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

社会保障法専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に社会保障法専門演習Iを受講した者を対象とし、引き続き社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換
- 第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換
- 第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換
- 第8回 中間相互評価会
- 第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換
- 第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換
- 第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換
- 第15回 今年度全体の総まとめと来年度の課題設定

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1学期に開講する「社会保障法専門演習I」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになります。
各回のテーマ理解に必要な基礎的事項については、予習・復習により定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会保障法専門演習II 【昼】

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

主として「社会保障法専門演習Ⅰ・Ⅱ」を昨年度以前に受講済みの者を対象とし、社会保障法分野において、自らの関心のある特定のテーマを設定し、それについての判例及び学術論文を輪読・討論する。最終的には、2学期終了時に一定のゼミ論文を作成・提出してもらう。そのための指導の一環として位置付けているので、その点を考慮した上、受講すること。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講者と相談の上決定する。

- 第1回 各自の問題関心の具体化
- 第2回～第3回 それぞれの問題関心に沿った学術文献を探す
- 第4回～第14回 各自持ち寄った文献を参加者全員で輪読し討論する。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講者と相談の上決定する。
各自が問題関心をしっかり持ち、論文執筆に向け努力を怠らないことが重要。
そのため、講義等を通じて指摘された事項について、各自予習・復習を行うとともに、自発的な授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

津田の担当する「個別研究指導Ⅰ」を受講済みの者を対象とし、1学期に引き続き、自らの関心のある特定のテーマについて、ゼミ論文を作成・提出するための指導を行う。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。

- 第1回 1学期および夏季休業期間中の総括
- 第2回～第14回 各受講者の論文指導
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。
ゼミへの参加・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講生と相談の上決定する。
ゼミ論執筆のため、各自予習・復習を怠らず、講義等を通じて指摘された事項についての授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

各自が労働問題の中から任意に選択したテーマについて、一定の成果物（レポートあるいは論文）を完成させること、これが、この演習の目的です。正社員と非正社員の処遇格差、過労死、雇用差別、賃下げや解雇といった現代的な労働問題について、各自が文献を調査、分析し、報告するという形で演習を進めます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業で扱うテーマは、各自の興味、関心に応じて設定します。あえて例示すると、以下のような進捗が考えられます。

- 第1回 男女雇用機会均等法
- 第2回 障害者雇用差別禁止法
- 第3回 正社員と非正社員の均衡処遇
- 第4回 解雇
- 第5回 有期労働契約
- 第6回 労働者派遣
- 第7回 労働時間
- 第8回 休日、休暇
- 第9回 過労死
- 第10回 配転
- 第11回 出向、転籍
- 第12回 成果主義賃金
- 第13回 就業規則による労働条件の変更
- 第14回 高年齢者の雇用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末に提出されるレポート（60%）と発言を通じた授業への参加度合い（40%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

労働法専門演習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

各自が労働問題の中から任意に選択したテーマについて、一定の成果物（レポートあるいは論文）を完成させること、これが、この演習の目的です。労働組合の存在意義、ストライキ、組合活動、労働協約などをめぐる現代的な労働問題について、各自が文献を調査、分析し、報告するという形で演習を進めます。

教科書 /Textbooks

とくになし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の進行は、各自の興味や関心に応じて選択されたテーマによりますが、あえて例示すると、以下のような進行が考えられます。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 労働組合の歴史
- 第3回 ストライキ
- 第4回 組合活動
- 第5回 団体交渉
- 第6回 支配介入と不利益取扱い
- 第7回 労働組合法上の労働者
- 第8回 労働協約による労働条件変更
- 第9回 労働組合による労働者の統制
- 第10回 コーポレートガバナンスと労働組合
- 第11回 公共部門の労使関係法
- 第12回 従業員代表制度
- 第13回 労働組合の存在意義
- 第14回 労使関係法の将来
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末に提出されるレポート（60%）と発言を通じた授業への参加度合い（40%）によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

労働法専門演習Ⅳ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。
また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

教科書 /Textbooks

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂，2009年） 1500円+税
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，係決め
- 第2回 リサーチの仕方
- 第3回 特定課題テーマの提示と調査
- 第4回 フリー・ディスカッション
- 第5回 学生が選定するグループ課題①
- 第6回 グループ準備（テーマ調査）
- 第7回 グループ準備（主張等の整理）
- 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第9回 発表等
- 第10回 学生が選定するグループ課題②
- 第11回 グループ準備（テーマ調査）
- 第12回 グループ準備（主張等の整理）
- 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成）
- 第14回 発表等
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習IIとセットで受講してください。
4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】 【社会人基礎力の涵養】

国際法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路をしようとしているのかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで〇〇の点に興味を持ったからですと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張って一緒に作って行きましょう。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス、役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
Group A: 自治体と国際法
Group B: 企業と国際法
Group C: 国際機関と国際法 など
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出（各グループ）
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」（全員）
- 第7回 同②「企業と国際法G」（全員）
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」（全員）
- 第9回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第10回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第11回 グループ作業（プレゼン準備）
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際法専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習Iとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【キャリアと国際法】

国際法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。
受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階

- ①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
- ②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階

- ①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
- ②先行研究の整理→文献報告
- ③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

予定

- 第1回 インTRODクシヨN【ゼミ論文作成の流れの理解】
- 第2回 問題意識の確認①【ゼミ論文のテーマに関する個別相談・指導】
- 第3回 問題意識の確認②【ゼミ論文のテーマの設定・報告会】
- 第4回 論文作成の可能性の探求【関連文献リストの作成・読み込みスケジュールの策定・報告会】
- 第5回 関連文献等の読み込みによる事実関係等の整理と問題の所在の明確化【個別相談・指導】
- 第6回 問題の所在の明確化【論文の意義の明確化・報告会】
- 第7回 先行研究の精読とレジюме作成，報告①【文献A】
- 第8回 先行研究の精読とレジюме作成，報告②【文献B】
- 第9回 先行研究の精読とレジюме作成，報告③【文献C】
- 第10回 先行研究の精読とレジюме作成，報告④【文献D】
- 第11回 先行研究の精読とレジюме作成，報告⑤【文献E】
- 第12回 関連文献の整理①【進捗状況の相談・指導：第1次】
- 第13回 関連文献の整理②【進捗状況の相談・指導：第2次】
- 第14回 ゼミ論文のアウトラインの構想【個別相談・指導】
- 第15回 ゼミ論文のアウトラインの報告会【章・節・項レベルの目次設定，「はじめに」の文章化】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。国際法専門演習Ⅳとセットで受講してください。なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】 【課題研究】

国際法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者の人数やニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第Ⅳ段階

- ①ゼミ論文アウトラインの確定
- ②ゼミ論文の中間報告

第Ⅴ段階

- ①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
- ②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階

ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

予定

- 第1回 インTRODクシヨン【ゼミ論文完成までの流れ】
- 第2回 アウトラインの確定【報告会】
- 第3回 中間報告に向けた進捗状況のチェック①【第1章，個別相談・指導】
- 第4回 中間報告に向けた進捗状況のチェック②【第2章，個別相談・指導】
- 第5回 中間報告に向けた進捗状況のチェック③【第3章，個別相談・指導】
- 第6回 中間報告と質疑応答①【担当A】
- 第7回 中間報告と質疑応答②【担当B】
- 第8回 中間報告と質疑応答③【担当C】
- 第9回 中間報告と質疑応答④【担当D】
- 第10回 中間報告と質疑応答⑤【担当E】
- 第11回 中間報告と質疑応答⑥【担当F】
- 第12回 初校の提出と相互チェック【添削指導】
- 第13回 二校の提出【添削指導】
- 第14回 最終校の提出
- 第15回 まとめ【論文集の作成】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。
アサインメントの実施状況...50% ゼミ論文...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていってもらう必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保してもらうことになります。受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。
国際法専門演習Ⅲとセットで受講してください。
なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あともう一踏ん張りです。卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】 【課題研究】 【ゼミ論文集】

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習I」では、親族法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。相続法上の問題は「民法演習II」で扱います。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 親族法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論ができるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選III親族・相続』有斐閣 2008年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 内田 貴『民法IV [補訂版] 親族・相続』有斐閣 2004年
- 大村敦志『家族法 [第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法 (第4版)』有斐閣 2000年
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジユメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。報告判例の解説や基本書を参照しながら事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

「親族法」、「相続法」だけでなく、「法律の読み方」、民法財産法の講義科目をすべて履修しておくこと、一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「債権法判決研究（民事判例研究報告および判例評釈執筆）」。本演習では、民法（財産法分野）、なかでも、債権法分野に関わる重要判決の分析を通じて、最高裁判所（または大審院）がその判決理由の中で示した（定立した）と考えられる「規範」の抽出および当該規範の「射程」等の検討を行う。ゼミ生諸君は、まず、この「専門演習I」において、判例研究報告、質疑応答、および教員による解説等を通じて、判決の読み方（判例〔規範〕の分析手法）の基礎・基本を徹底的に叩き込まれることになる。このような「法的思考（特に、法的三段論法に拠る判決の分析）の練磨」を通じて、判例評釈を執筆する基礎体力をまずは涵養してもらおう。

さらに、ゼミ生同士の白熱した？議論や教員との議論（「規範」の抽出をめぐる、また、債権法上の種々の諸制度に関する知識・理解に関して）を通じて、自身の見解（法的思考のプロセスおよび判断）を、他者に対して分かりやすく、説得力あるかたちで正確に発信する力（議論は当然のこと、判例評釈を執筆するという形においても。）も養われるであろう。ちなみに、今年度演習では、現在、国会において審議中である「民法の一部を改正する法律案」の概要についてもフォローできればと考えている。

よって、これらの【力】を向上させるためにも、報告・議論等への積極的参加が本演習における絶対的義務であることを申し述べておく。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康＝窪田充見（編）『民法判例百選II 債権 [第7版]（別冊ジュリスト224号）』（有斐閣、2015年）；定価（2,200円＋税）
 - ②最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましい。）
 - ③民法（債権各論または契約法）の基本書・体系書（受講生が普段使用しているものでよい。）
- ※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により若干左右されるので、あくまで「めやす」である。

第1回：ガイダンス（自己紹介、ゼミ役職等の決定）

第2回：「法的思考」の再確認①（【法的三段論法】の正確な理解の再確認 一最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として）

第3回：「法的思考」の再確認②一最大判 昭和41年4月27日 民集20巻4号870頁を素材として— および報告順・報告する最高裁（大審院）判決の決定（※教科書①掲載の判決から選択すること。）。

第4回：「民法の一部を改正する法律案」の検討①（契約総則規定を中心に）

第5回：「民法の一部を改正する法律案」の検討②（典型契約規定を中心に）

第6回：教員による「民事判例研究報告」および質疑・応答

第7回：ゼミ生（2016年度はさしあたり4名想定）Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第8回：ゼミ生Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（最高裁が判決理由において示した規範の射程等の分析および教員による補足）

第9回：ゼミ生Bによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第10回：ゼミ生Bによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（最高裁が判決理由において示した規範の射程等の分析および教員による補足）

第11回：ゼミ生Cによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第12回：ゼミ生Cによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（最高裁が判決理由において示した規範の射程等の分析および教員による補足）

第13回：ゼミ生Dによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）

第14回：ゼミ生Dによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（最高裁が判決理由において示した規範の射程等の分析および教員による補足）

第15回：まとめ（実務家〔弁護士〕をお招きし、要件事実〔論〕入門講義等を拝聴する予定。）

※8月初旬（予定）に、民事判例研究報告で扱った判決についての「判例評釈」を期末レポートとして提出してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

※演習における発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など……50%

※レポート（判例評釈）の内容……50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週予習として、「民法の一部を改正する法律案」のうち、5～10カ条ずつについて、現行規定との比較・検討をしてきてもらう。民事判例研究報告の準備等を入念に行うのは当然のことである。また、復習として、民事訴訟法の基本書・体系書（各自が普段使用しているものでよい。）を毎週数十頁ずつ読み直し、疑問点などをまとめ、ゼミの時間冒頭において披瀝してもらう。よって、民法（財産法）科目は当然のこと、「民事訴訟法総論・各論」も受講しておくこととゼミにおける復習にも資することとなるし、議論の内容の深みが増すものと想われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2016年度福本ゼミも、これまでの伝統を引き継ぎ、アットホームな雰囲気を守りつつも厳しいゼミでありたいと想っています。ゼミは、あくまでゼミ生が主役です。ゼミの議論の盛り上がりを大いに期待しています。

キーワード /Keywords

債権法判決研究、法的三段論法、判例評釈、民法の一部を改正する法律案

民法専門演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめくつては、「法務省案」（2015年3月31日）まで出されているところではあるが、学習という観点からは、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、その中の前の方の4分の1について考えることとしたい。常に、現行民法、基本方針、法務省案の三者を比較検討することが望まれる。この授業は、法律学科所定のいわゆるゼミ募集で選抜された者のみが受講資格を有する。この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。演習科目であるから、復習よりも、各自の担当箇所の予習が重要である。

教科書 /Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 民法典の対象と編別について、法律行為
- 3回 意思表示（錯誤まで）
- 4回 意思表示（詐欺以降）
- 5回 代理、授權
- 6回 表見代理、無権代理
- 7回 無効、取消、条件、期限
- 8回 期間、時効等
- 9回 債権・通則、契約の成立
- 10回 契約の無効及び取消、契約の内容
- 11回 債権の基本的効力
- 12回 強制履行、損害賠償
- 13回 解除
- 14回 受領遅滞、期間制限、事情変更
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の科目と同様、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習I【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

物権法・担保物権法の判例研究を行う（1学期は物権法，2学期は担保物権法が中心）。
取り扱う判例は、『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』に収録されているものの中から，受講者の希望等を踏まえて決定する。
毎回の授業においては，指定された判例について，受講者が判例百選の解説を各自で事前に読んできていることを前提に，その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して，判例評釈を読んでその内容を理解する力，判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』（有斐閣 平成27年） 本体2100円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 物権的請求権
- 第3回 物権変動の時期
- 第4回 民法177条の物権変動
- 第5回 民法177条の第三者
- 第6回 明認方法
- 第7回 即時取得
- 第8回 占有訴権
- 第9回 金銭所有権
- 第10回 留置権
- 第11回 先取特権の物上代位(1)【請負代金債権】
- 第12回 先取特権の物上代位(2)【一般債権者の差押え】
- 第13回 抵当権の物上代位(1)【賃料債権】
- 第14回 抵当権の物上代位(2)【債権譲渡との優劣】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は，受講者の希望や授業の進行状況等に応じて，一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中の議論に参加できるように、判例百選の解説を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。
物権法・担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で、授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究 判例百選

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習Ⅱ」は、相続法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 相続法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論が出来るようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 内田 貴『民法Ⅳ[補訂版]親族・相続』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法(第4版)』有斐閣 2000年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 大村敦志『家族法[第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

相続法は「民法専門演習I」で扱う親族法と密接に関連していますから、「家族法」だけでなく、「民法専門演習I」も履修しておくことをおすすめします。また、相続は包括的な財産の承継制度ですから、相続法について理解を深めるためには、民法財産法の知識が不可欠です。民法財産法の講義科目をすべて履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習II【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「債権法文献研究およびゼミ論文執筆」。本演習の目的・目標は、次の二つである。一つは、輪読形式による研究報告を通じて、ゼミ生全員で、「民法学（本演習では、特に契約法分野）の本格的体系書を一冊読破すること」である。この研究を通じて、ゼミ生諸君には、文献渉猟や問題点・課題の発見等といった専門分野のより高度なスキルを身につけてもらう。

もう一つの目的・目標は、「民法専門演習I」で培った債権法に関する重要判決（判例）・学説についての知見等を駆使し、ゼミ生諸君の本演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。さらに、他者（他のゼミ生、4年次ゼミ生および教員等）との議論を重ねることで、自身の見解（法的思考のプロセスおよび法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえよう。この「専門演習II」では、「書く力による発信＝ゼミ論文の執筆・添削指導」に重点を置く。

これら一連の営みを通じて、ゼミ生諸君には、4年次に履修することとなる必修科目「民法専門演習III・IV（福本担当クラス）」で執筆予定の「卒業論文」への「基礎固め」をしっかりと行ってもらいたい。

教科書 /Textbooks

- ①清水 元『プロGRESSIVE民法[債権各論I]』（成文堂、2012年）；定価（2,900円＋税）
 - ②最新版（年度）の六法（判例つき六法が望ましい。）
 - ③教科書①以外の民法（契約法）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているものでよい。）
- ※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習Ⅱ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により若干左右されるので、あくまで「めやす」である。

第1回：ガイダンス（ゼミ論文の研究テーマの設定および確認）

第2回：教科書①の輪読箇所の確認および報告順等の決定。

第3回：文献輪読①（以下、レジユメを作成の上、報告・議論）〔教科書①1～34頁【序論および契約の成立】〕およびゼミ論文指導（論文テーマの確定）

第4回：文献輪読②（教科書①35～68頁【契約の効力】）およびゼミ論文指導（仮目次作成）

第5回：文献輪読③（教科書①69～97頁【契約の解除から担保責任の手前まで】）およびゼミ論文指導（目次と導入部分執筆）

第6回：文献輪読④（教科書①97～134頁【売上の担保責任から贈与まで】）およびゼミ論文指導（導入部分の添削指導）

第7回：文献輪読⑤（教科書①135～168頁【消費貸借から賃貸借の終了まで】）およびゼミ論文指導（本体部分の執筆と添削）

第8回：文献輪読⑥（教科書①168～205頁【借地借家法制から使用貸借まで】）およびゼミ論文指導（全体部分の添削指導）

第9回：文献輪読⑦（教科書①206～241頁【雇用・請負・委任】）およびゼミ論文指導（中間報告レジユメの添削）

第10回：文献輪読⑧・完（教科書①242～285頁【寄託・組合・和解・終身定期金】）およびゼミ論文指導（仮原稿提出および添削）

第11回：（2016年度3年ゼミ生は、さしあたり4名を想定）ゼミ生Aの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第12回：ゼミ生Bの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第13回：ゼミ生Cの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第14回：ゼミ生Dの「ゼミ論文中間報告」および論文指導（添削のつづき）

第15回：まとめ（各ゼミ生の提出前原稿の確認）※実務家（弁護士）をお迎えしての「特別ゼミ」を予定。

※2017年2月初旬に、「ゼミ論文（10,000字程度）」を提出してもらう。なお、ゼミ論文の指導はゼミの時間内だけでは到底充分とはいえない。よって、自主ゼミやオフィス・アワーなども積極的に活用すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

※ゼミ中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、および報告内容（文献輪読）など……50%

※「ゼミ論文」の内容（論文執筆過程の評価も含む。）……50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習事項として、文献輪読で扱う教科書①を毎週読み進めておくことが肝要である。また、文献輪読報告の準備を入念に行うことは当然である。復習事項としては、文献輪読報告で出された疑問・質問などについて、文献等を調べ直しておくことが求められる。

なお、「ゼミ論文」については、添付ファイルで原稿（途中経過）をゼミの前々日までに教員に毎週送信することが求められる（予習事項）。

「専門演習」もⅡになると、もはや受け身の学習姿勢ではゼミにいる意味は全くなってしまう。この点、留意されたい。最後に、各自、「民法の一部を改正する法律案」の内容については分析を進めておくように！

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「2016年度福本ゼミ」も、常にアットホームな雰囲気になりたいと考えています。「厳しくも温かみのあるゼミ」でありたいと想っています。ゼミの主役はゼミ生。キラリと光る内容の「ゼミ論文」を大いに期待しています。

キーワード /Keywords

契約法文献研究、債権法、ゼミ論文

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめぐっては、「法務省案」(2015年3月31日)まで出されているが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』(商事法務、2009年)も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第二の4分の1の部分について考えることとしたい。現行民法、基本方針、法務省案の三者を常に比較検討することが望まれる。この授業は、法律学科所定のいわゆる「ゼミ募集」で選抜された者のみが受講資格を有する。この授業に参加することで、民法の考え方が養われる。演習科目であるから、復習よりも、担当箇所等についての予習が重要である。

教科書 /Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』(商事法務)は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 債権者代位権
- 3 詐害行為取消権
- 4 弁済・総則
- 5 弁済による代位、供託
- 6 相殺
- 7 更改、一人計算
- 8 免除、混同、債権時効の対象及び時効期間
- 9 債権時効障害
- 10 債権時効期間満了の効果
- 11 債権譲渡
- 12 債務引受、契約上の地位の移転
- 13 有価証券
- 14 多数の債権者
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記「授業の概要」の項目を参照のこと。他の法律科目と同様に、六法は、持参することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、物権法・担保物権法の判例研究を行う（1学期は物権法，2学期は担保物権法が中心）。
取り扱う判例は、『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』に収録されているものの中から、受講者の希望等を踏まえて決定する。
毎回の授業においては、指定された判例について、受講者が判例百選の解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。
この授業を通して、判例評釈を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第7版）』（有斐閣 平成27年） 本体2100円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 抵当権の効力の及ぶ範囲
- 第3回 抵当権に基づく妨害排除請求
- 第4回 法定地上権(1)【1番抵当権設定時に土地と建物の所有者が異なっていた場合】
- 第5回 法定地上権(2)【共同抵当建物の再築】
- 第6回 不動産の取得時効の完成と抵当権
- 第7回 譲渡担保の認定
- 第8回 譲渡担保権者の清算義務
- 第9回 不動産譲渡担保の実行
- 第10回 動産譲渡担保における占有改定
- 第11回 譲渡担保と動産先取特権の競合
- 第12回 集合動産の譲渡担保
- 第13回 集合債権の譲渡担保
- 第14回 所有権留保
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法専門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業中の議論に参加できるように、判例百選の解説を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。
物権法・担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で、授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究 判例百選

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習Ⅲ」では、親族法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。相続法上の問題は「民法演習Ⅳ」で扱います。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 親族法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論ができるようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子＝大村敦志編『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 内田 貴『民法Ⅳ[補訂版]親族・相続』有斐閣 2004年
- 大村敦志『家族法[第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 中川善之助＝泉 久雄『相続法(第4版)』有斐閣 2000年
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定(その1)
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定(その2)
- 11回 担当者報告及び討論(1)【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論(2)【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論(3)【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論(4)【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論(5)【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート(6,000字程度)……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジユメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

「親族法」、「相続法」だけでなく、「法律の読み方」、民法財産法の講義科目をすべて履修しておくこと、一層理解が深まると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「卒業論文執筆に向けて－『民法の一部を改正する法律案』の内容検討および中間論文の執筆－」

本演習の目的は2つである。一つは、民法・財産法、なかでも債権法分野を主たる考察対象とした研究論文（「専門演習Ⅲ」は中間論文）の執筆である。もう一つは、現在、国会において審議中（可決・成立の公算が高い。）である「民法の一部を改正する法律案」について、その概要を「条文新旧対照比較」のかたちで検討することである。この検討は、債権法研究を行い、「卒業論文」を執筆する上で半ば必須といえよう。本演習では、「民法専門演習Ⅳ（必修）」で扱われる「卒業論文」執筆のための最低限の基礎的作業を行うに過ぎない。よって、当然のことだが、ゼミ生各自、足りないと思う部分については、積極的に資料収集、判例研究、および文献研究等を行ってもらう。3年次の「民法専門演習Ⅰ・Ⅱ」以上に、「忍耐と根気」が要求される科目ある。したがって、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。また、本演習では、上記「民法改正法案」の検討報告を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上も目指す。

教科書 /Textbooks

※指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※中間論文執筆に当たって参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、渉猟する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・スケジュールは、受講人数等の諸事情により若干変更する場合がある。よって、一応のめやすである。

- 第1回：ガイダンス（卒業論文の構想発表）※3年次の研究テーマから変更する者は、事前に教員まで相談しておくこと。
- 第2回：「民法の一部を改正する法律案」の検討箇所・報告順等の決定、および中間論文執筆指導開始（個別指導なので計画を立てて、こまめに研究室に向き、論文指導を受けること。）
- 第3回：民法改正作業の経緯（いわゆる『債権法改正の基本方針』から『民法改正法案』まで）（教員による講義）
- 第4回：「民法の一部を改正する法律案」の検討①（レジュメを作成の上、報告・議論。以下、同じ。）【改正法案1条～98条の2まで】
- 第5回：「民法の一部を改正する法律案」の検討②【改正法案99条～174条まで】
- 第6回：「民法の一部を改正する法律案」の検討③【改正法案399条～472条の4まで】
- 第7回：「民法の一部を改正する法律案」の検討④【改正法案473条～520条の20まで】
- 第8回：「民法の一部を改正する法律案」の検討⑤【改正法案521条～554条まで】
- 第9回：「民法の一部を改正する法律案」の検討⑥【改正法案555条～642条まで】
- 第10回：中間論文プレ報告会（※各自、報告15分程度、質疑応答15分程度予定）および添削指導。
- 第11回：「民法の一部を改正する法律案」の検討⑦【改正法案643条～666条まで】
- 第12回：「民法の一部を改正する法律案」の検討⑧【改正法案667条～696条まで】
- 第13回：「民法の一部を改正する法律案」の検討⑨【改正法案697条～708条まで】
- 第14回：「民法の一部を改正する法律案」の検討⑩・完【改正法案709条～724条の2まで】
- 第15回：まとめ（中間論文報告会；報告時間30分とする。）

民法専門演習Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※ゼミ中の発言・報告内容（「民法の一部を改正する法律案」の検討内容の質の高さ）、議論への参加の度合い……50%
- ※2回行う予定の「中間論文報告会」での報告内容……20%
- ※中間論文の内容（8月初旬提出・8,000字程度）……30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習事項として、「民法改正法案」報告資料の作成および中間論文執筆にあたり、教員が事前に指示した文献・資料等を必ず調べてくること。復習事項としては、添削された中間論文の原稿を書きなおしてこること。これらの作業をコツコツとこなしていくことが重要である。よって、これらの作業を怠る者に単位は付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

じっくり腰を据えて、「卒業論文」の骨組みを創り上げていきましょう！そして、眼前に迫っている民法改正の動向にも注視しよう！

キーワード /Keywords

卒業中間論文、「民法の一部を改正する法律案」

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめくつては、「法務省案」(2015年3月31日)まで出ているところではあるが、学習という観点からは『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』(商事法務、2009年)も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第三の4分の1の部分について考えることとしたい。適宜、現行民法、基本方針、法務省案の三者を比較検討することが望まれる。

この科目の履修は、所定の法律学科ゼミ募集において、担当者から出席可と言われた者に限る。
この講義に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書 /Textbooks

なし。但し、上記の『債権法改正の基本方針』は、購入すると、理解しやすい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 多数の債務者
- 3 一般の保証
- 4 連帯保証、根保証
- 5 売買の意義と成立
- 6 売主の義務
- 7 売買の場合の各種担保責任
- 8 買主の義務
- 9 特殊の売買、交換、贈与の意義と成立
- 10 贈与の効力
- 11 特殊の贈与
- 12 賃貸借の意義と成立、第三者との関係
- 13 賃貸人の義務、賃借人の義務
- 14 賃貸借の終了、使用貸借
- 15 まとめ、レポートの提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもあり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の報告をしていることを前提に、レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法専門演習Ⅲ【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。
但し、他の科目と同様に、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講者が各自関心を持っている物権法・担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例研究の方法、報告の割り当て
- 第3回～第14回 判例研究(報告担当者による報告、質疑応答)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(報告の内容、質疑応答への参加状況などを総合的に評価) ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者は、割り当てられた授業日に確実に報告ができるように、責任を持って準備を行うこと。
物権法・担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究 報告

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。そこで、家族法の判例や事例問題を各自で分担して研究発表する形でゼミを行ないます。個々の規定や制度の検討を通じて、民法の理想とする家族像、家族関係のあるべき姿を一緒に考えていただきたいと思います。

この「民法専門演習Ⅳ」は、相続法上の問題を演習で取り扱うテーマとします。

到達目標は以下の通りです。

- ・ 相続法上の重要論点を知り、論点解明に必要な判例や学説を主体的に検索収集、分析整理することができるようになっていただきます。
- ・ 問題解決に向けた説得力のある立論が出来るようになっていただきます。

教科書 /Textbooks

水野紀子 = 大村敦志編『民法判例百選Ⅲ親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 有地 亨『新版家族法概論 補訂版』法律文化社 2005年
- 内田 貴『民法Ⅳ [補訂版] 親族・相続』有斐閣 2004年
- 中川善之助 = 泉 久雄『相続法 (第4版)』有斐閣 2000年
- 泉 久雄『親族法』有斐閣 1997年
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年
- 大村敦志『家族法 [第2版補訂版]』有斐閣 2004年
- 二宮周平『家族法 第3版』新世社 2009年
- 我妻 栄『親族法』有斐閣 1951年

民法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ゼミ運営方針の説明
- 2回 報告内容・担当者の決定（その1）
- 3回 判例検索・文献検索の方法
- 4回 判例の読み方、まとめ方 - ポイントの検討
- 5回 担当者報告及び討論（1）【基本文献】
- 6回 担当者報告及び討論（2）【関連文献】
- 7回 担当者報告及び討論（3）【大審院及び最高裁判例】
- 8回 担当者報告及び討論（4）【下級審裁判例】
- 9回 担当者報告及び討論（5）【判例研究】
- 10回 報告内容・担当者の決定（その2）
- 11回 担当者報告及び討論（1）【基本文献】
- 12回 担当者報告及び討論（2）【関連文献】
- 13回 担当者報告及び討論（3）【大審院及び最高裁判例】
- 14回 担当者報告及び討論（4）【下級審裁判例】
- 15回 担当者報告及び討論（5）【判例研究】 ・ まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み……20% 最終レポート（6、000字程度）……80%で成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者にはレジユメ、資料を作成配布していただきます。報告者以外の方も討論に積極的に参加するために必要な事前準備をしていただきます。報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考書を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

相続法は「民法専門演習Ⅲ」で扱う親族法と密接に関連していますから、「家族法」だけでなく、「民法専門演習Ⅲ」も履修しておくことをすすめます。また、相続は包括的な財産の承継制度ですから、相続法について理解を深めるためには、民法財産法の知識が不可欠です。民法財産法の講義科目をすべて履修しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミ論文集を作成して研究の成果をまとめます。論文集掲載に向けて、研究に主体的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「『卒業論文』執筆」。本演習では、民法（財産法）、なかでも債権法分野を主たる考察対象とした研究論文の執筆を、受講生の研究進捗状況等に応じて個別に指導する。言うまでもないが、研究論文執筆には、「受け身」でなく、「能動的」な姿勢が強く求められる。この点、特に留意されたい。

指導内容としては、参照すべき文献・裁判（判決）例などの指示・検討および論文添削である。中途半端な気持ちでの履修は一切認めないので注意すること。

なお、本演習では、法的問題点の抽出、文献収集・渉猟の力を高め、また、論文課題・分析基軸の設定を通じた課題発見・分析力等の向上、そして、2回の論文報告会を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上をも目指すものとする。

教科書 /Textbooks

※使用しない。卒業論文執筆に必要な文献・資料等については、各自購入するなり、図書館から借りる等すること。また、教員も必要な文献等のコピーを指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、収集・渉猟する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、受講人数等の諸事情により変更する場合がある。したがって、一応のめやすに過ぎない。なお、受講生が1~2名の場合、3年ゼミ「民法専門演習Ⅰ・Ⅱ」にも参加してもらおう予定である。

第1回：ガイダンス：論文題目・目次（概要）確認。 ※大幅な変更を考えている者は必ず開講前に相談すること。

第2回：論文指導①（仮目次の作成・指導）

第3回：論文指導②（目次の確定・分析基軸のブラッシュ・アップ）

第4回：論文指導③（導入部分の執筆・添削指導）

第5回：論文指導④（導入部分の手直しに対する再指導）

第6回：論文指導⑤（導入部分の完成および本体部分の執筆に当たっての文献渉猟アドバイス）

第7回：論文指導⑥（本体部分の添削・指導）

第8回：論文指導⑦（本体部分の添削・指導および第1回卒論報告会に向けたレジュメ作成の指導）

第9回：（予定）第1回卒業論文中間報告会（報告30分程度、質疑・応答60分程度予定）

第10回：論文指導⑧（本体部分の手直し等）

第11回：論文指導⑨（本体部分の添削・指導および第2回卒論報告会に向けたレジュメ作成の指導）

第12回：（予定）第2回卒業論文中間報告会（報告45分程度、指導45分程度予定）

第13回：論文指導⑩（結論部分の添削・指導）

※なお、実務家（弁護士）をお招きしての「特別論文指導」も予定している。

第14回：論文指導⑪・完（結論部分の最終確認。脚注等、細部の添削）。

第15回：まとめ（各論考講評および製本作業についての説明をもってまとめとする。）

※2017年2月上旬：卒業論文提出。 * 論文の体裁等については、初回ガイダンスの際に説明する。

民法専門演習Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※卒業論文完成までの研究姿勢(指導内容を反映させようとして執筆を進めたかどうか。).....50%
- ※計2回実施予定の「卒業論文中間報告会」における報告内容.....20%
- ※「卒業論文(20,000字程度)」の内容.....30%

【注意】論文未提出者には、原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習事項として、論文指導の際、教員が次回指導時までには調べておくことを指示した文献・資料等を必ず渉猟・咀嚼し、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆を進め、途中経過を逐次メール等(添付ファイルで原稿を送信すること。)で教員に報告すること。これら一連の作業を着実にこなしていくことが論文完成につながる。また、復習事項としては、添削された原稿をしっかりと直してくることである。これらの作業を疎かにする者には一切指導は行わない。よって、単位も付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より4年生ゼミが必修となったことで、本演習における「卒業論文」の位置づけは、従前以上に重要なものとなった。卒業論文を真摯に執筆しようとする受講生には、教員も最大限のサポートをさせていただきます。是非、一生の宝物になる論文を書き上げよう。ゼミ生諸君の奮励努力を期待する。

キーワード /Keywords

卒業論文、債権法

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている債権法改正について考える。債権法改正をめぐっては、「法務省案」(2015年3月31日)まで出ているところではあるが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』(商事法務、2009年)も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、最後の4分の1の部分について考えることとしたい。適宜、現行民法、基本方針、法務省案の三者を比較検討することが望まれる。

そして、受講生が関心を持ったテーマについての小論文執筆も予定している。いわゆる卒論については、小論文を卒論にまで高めたいという希望者がいれば、一定の指導を行う。無理に卒論を書く必要はない。

この科目の履修は、所定の法律学科ゼミ募集で担当者から出席可と言われた者に限る。

この講義に参加することで、民法の考え方が養われる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 消費貸借
- 3 ファイナンス・リース
- 4 役務提供
- 5 請負
- 6 委任
- 7 寄託
- 8 雇用
- 9 組合
- 10 終身定期金、和解
- 11 第三者のためにする契約
- 12 継続的契約等、法律に基づく債権
- 13 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表の準備(資料収集など)
- 14 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表と検討
- 15 まとめ、レポート(小論文)の提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもあり得る。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に所定の報告をやっていることを前提に、レポート(小論文).....100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、受講者が各自関心を持っている物権法・担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。毎回の授業は、担当者による判例研究の成果の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス、報告の割り当て
第2回～第14回 判例研究(報告担当者による報告、質疑応答)
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(報告の内容、質疑応答への参加状況などを総合的に評価)…100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告担当者は、割り当てられた授業日に確実に報告ができるように、責任を持って準備を行うこと。
物権法・担保物権法の講義科目を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究 報告

民事訴訟法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。
原則として、グループで報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告グループから報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

初回の授業時に使用テキストを受講生と話し合いの上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告グループの決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回～14回 順次、個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各授業時間開始までに、報告課題について、教科書やその他の文献で事前学習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での授業ですので、積極的に発言してください。また、報告前には、各グループで報告内容について、調査、分析の上、十分な準備をしてください。

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、グループで報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告グループから報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Iで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、グループ報告
- 3回～14回 順次、グループ報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する発展的な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Ⅲで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、グループ報告
- 3回～14回 順次、グループ報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する発展な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。
原則として、個人で報告してもらいます。
毎回、一つのテーマについて、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。民事訴訟法専門演習Ⅳで使用した教科書を使用する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業の時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、グループ報告
- 3回～14回 順次、グループ報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に、報告テーマについて、教科書やその他の文献で予習をしておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

企業と企業との間の取引、ならびに、企業と一般消費者との取引に関する法的問題を取り扱った文献や判例の分析・検討を行います。
ゼミ参加者がみずから選択した文献あるいは判例について、ゼミ内で報告討論することによって、企業法上の問題点や課題を発見したり、それらに取り組む楽しさを味わうこと、そして、企業法上のテーマに関するプレゼンテーションやディスカッションの能力を高めることが目標となります。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。
第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨（レジюме）作成の方法についての説明、報告順番の決定。
第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
(1)判例研究の場合：
担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
その後、担当者は、当該判例の位置づけ（射程距離）などについて、問題提起を行います。
それを受けて参加者全員で議論します。
(2)文献紹介の場合：
担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度50%
無断欠席はゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- ・ 報告担当者は、報告発表の要旨=レジюмеを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前のテーブルの上に提出しておくことが望ましい。
- ・ 2のレジюмеの事前準備がなされた場合、報告者以外のゼミ参加者についても、上記コピーを事前に受領して目を通すことにより、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加することが求められます。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。
予習・復習その他の授業外学習にも取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

企業と企業との間の取引、ならびに、企業と一般消費者との取引に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討を行います。本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択した文献・判例について、報告・討論する能力を高めると共に、期末にレポートを作成することが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する。
 第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。
 第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べる。
 研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
 担当判例の決定、報告要旨（レジюме）作成の方法についての説明、報告順番の決定。
 第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
 (1)判例研究の場合：
 担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告します。
 その後、担当者は、当該判例の位置づけ（射程距離）などについて、問題提起を行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。
 (2)文献紹介の場合：
 担当者が、当該文献の概要について一通り報告します。
 その後、担当者は、当該文献の論旨展開のあり方についての評価・批評などを行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%・ディスカッションへの参加度40%、レポート作成10%
無断欠席はゼミ放棄とみなします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業法専門演習II【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1, 原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- 2, 報告担当者は、報告発表の要旨=レジユメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前のテーブルの上に提出しておくことが望ましい。
- 3, 2のレジユメの事前準備がなされた場合、報告者以外のゼミ参加者についても、上記コピーを事前に受領して目を通すことにより、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加することが求められます
- 4, 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。
予習・復習その他の授業外学習にも取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例の分析を通じて、企業取引法・金融取引法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましいです。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。
- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上決定します。
- ・ 報告者には事前にレジюмеを作成して受講者に配布することが求められるほか、受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。
予習・復習その他の授業外学習にも取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例の分析を通じて、企業取引法・金融取引法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましいです。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。
- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上決定します。
- ・ 報告者には事前にレジユメを作成して受講者に配布することが求められるほか、受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する最近の論点の検討を通じて、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法Ⅰ・Ⅱを履修済みであることが望ましい。
予習・復習その他の授業外学習にも取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史

LAW210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたうえでそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）、2800円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史[第2版]』（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- 三島淑臣『法思想史[新版]』（青林書院、1993年）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想① ~ J・ロックの自然権論
- 第3回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想② ~ 近代的自然法論
- 第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想③ ~ 古典的自然法論(トマス・アクィナスなど)
- 第5回 法思想史とは(中間考察) ~ 「法典論争」など
- 第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想④ ~ ケルゼンの純粋法学
- 第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想⑤ ~ ハートの法の概念
- 第8回 法と正義① J・ロールズの功利主義批判
- 第9回 法と正義② J・ロールズの正義論 ~ 正義の二原理
- 第10回 法と正義③ R・ノージックのリバタリアニズム ~ J・ロールズとの関連から
- 第11回 法と正義④ R・ノージックのリバタリアニズム ~ J・ロックとの関連から
- 第12回 法と正義⑤ R・ドゥオーキンの権利論
- 第13回 法と正義⑥ R・ドゥオーキン(裁判と法解釈)
- 第14回 法と正義⑦ 共同体主義 ~ アリストテレスとの関連から
- 第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前には、テキストの該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。
「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論

外国法【昼】

担当者名 /Instructor 森谷 克之 / Katsuyuki Moriya / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	外国法における課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える外国法に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国法

LAW212M

授業の概要 /Course Description

二大法体系のひとつとして、大陸法との対比として論じられる英米法とはいかなる法体系なのかを、イギリス、コモン・ローの契約法および不法行為法の発展を通じて学んでいきます。
契約法においては、simple contract が不法行為法から発展した過程を考察し、不法行為法では、不法行為の法的責任の根拠の変遷を考察します。

教科書 /Textbooks

なし、必要な資料は、講義において配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○別冊ジュリスト 英米判例百選

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 契約の成立1【約束：当事者の意思の合致、】
- 2回 契約の成立2【意思の合致だけでは約束は法的拘束力を持たない】
- 3回 契約の成立3【約束の法的拘束力の根拠】
- 4回 契約の成立4【約因とは何か】
- 5回 約因法理生成1【金銭債務訴訟と捺印契約訴訟】
- 6回 約因法理生成2【assumpsitの登場】
- 7回 約因法理生成3【Slade's Case】
- 8回 約因法理生成4【約因法理】
- 9回 約因法理生成5【simple contractの定義】
- 10回 不法行為【責任の根拠】
- 11回 不法行為【ネグリジエンス】
- 12回 不法行為【トレスパス】
- 13回 不法行為【ニューサンス】
- 14回 不法行為【過失責任主義の再検討】
- 15回 まとめ

講義内容については変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・60% 講義への取り組み40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください（下記のメッセージ欄も参照のこと）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

配布資料をよく読み、講義とあわせて理解してください。
配布資料は定期試験時に必要となりますので、熟読の上大切に保管してください。

キーワード /Keywords

英米法 コモン・ロー 契約 約因

日本法制史【昼】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本法制史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本法制史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、それらを検討する中で、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、歴史的な日本法の考え方や制度を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本法制史

LAW312M

授業の概要 /Course Description

本講義は、わが国における「法」のあり方、すなわち成文の法規・法典と呼ぶべきものだけでなく、それぞれの時代において「罪」や「制裁」、さらに広く法をめぐって観念される「権利」なるものがどのように考えられていたかについて、古代から近現代に至るまでのそれぞれの時代における国家や社会のあり方にも意識を置きつつ見通していく。またあわせて、諸外国法のわが国に与えた影響や、それらの法と我が国の法との比較にも積極的に触れていく。

教科書 /Textbooks

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』(青林書院・2010年)
※基本的にレジュメ(資料)と板書によって講義を進め、適宜上記テキストを参照する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』(山川出版社・2001年)(図書館蔵書:○)
川口由彦『日本近代法制史[第2版]』(新世社・2014年)(図書館蔵書:○)
※このほか、講義中に適宜紹介していく。

日本法制史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス (この講義について)
- 2 古代(1)【「法」の起源】
- 3 古代(2)【律令法】
- 4 古代(3)【公家朝廷法】
- 5 中世(1)【中世の土地と国家】
- 6 中世(2)【鎌倉幕府の法】
- 7 中世(3)【鎌倉幕府の訴訟とその手続】
- 8 中世(4)【室町期の法と裁判】
- 9 中世(5)【戦国期の法と裁判】
- 10 近世(1)【江戸幕府の法源と統治組織】
- 11 近世(2)【土地制度】
- 12 近世(3)【親族・相続法】
- 13 近世(4)【刑事法】
- 14 近世(5)【裁判制度】
- 15 前近代法から近代法へ
- 16 幕末～明治期の西欧法の受容
- 17 中央権力機構の形成と法
- 18 近代司法制度
- 19 近代裁判制度
- 20 明治憲法の形成
- 21 明治憲法体制の展開
- 22 刑事法(1)【近代刑法の形成】
- 23 刑事法(2)【明治時代の罪と罰】
- 24 陪審法制
- 25 訴訟法制の近代化
- 26 民事法(1)【民法典の編纂・民法典論争】
- 27 民事法(2)【土地法制・財産法制】
- 28 社会法制の形成と展開
- 29 近代法から現代の法へ
- 30 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行う。

1. 平常の学習状況 (進行により、理解度を調べるためコメントカードを用いて小テストを行うことがある) (全体の20%)
2. 講義全体の内容についての期末テスト (全体の80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

【事前学習】それぞれの授業テーマごとに事前に参考書等を通読するとともに、それぞれの時代の方のあり方に各自で大体のイメージを持っていただきたい

【事後学習】講義を踏まえ、事前学習で得た法のイメージがどのように変化したかを整理するとともに現代法のあり方との比較検討を行っていただきたい

【注意事項】

- ・ 受講のマナーを守るよう心がけること。場合によっては、減点の対象とする。
- ・ 質問・相談はオフィスアワー等で随時受け付ける。eメールで問い合わせる場合は、ウェブメール(Hotmailやgmail等)あるいは大学メールアカウント等を利用し、件名欄に用件を簡潔に明記すること(携帯キャリアのメールの利用はこちらからの返信の際にエラーが発生する可能性があるため、使用を控えること)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高等学校において日本史Bを履修していない者は、同科目の教科書(出版社は問わない)の制度史・政治史に関する部分を通読した上で講義に臨んでいただきたい。

キーワード /Keywords

法制史 / 法史学 / 古代法 / 中世法 / 近世法 / 近代法 / 裁判 / 権利

法社会学【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学

LAW211M

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、広い意味での法現象を観察・分析し、言語化する学問です。みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするならば、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用い一つ考察していくのが大きな特徴です。

「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」（＝別様でもありえた／ありえる視点）を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシブに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになりそうです。

もし私たちの社会が単純明快に見えたとすれば（ちなみに「実は裏で○×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え／追いつめ考えてみる。そんな知的／時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授／暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『圏外に立つ法 / 理論』、ナカニシヤ出版、2012年。
そのほかは講義中に指示します。

法社会学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」】という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 社会秩序の根拠は何か(1)法学における【秩序問題】
- 6回 社会秩序の根拠は何か(2)社会学における【秩序問題】
- 7回 現代社会における法の機能(1)【法機能】の多元化
- 8回 現代社会における法の機能(2)【現代法化論】の両義性
- 9回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題の「かたち」】
- 10回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 11回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 12回 現代法化社会を考える(1)法と【権力】
- 13回 現代法化社会を考える(2)法と【リスク】
- 14回 現代法化社会を考える(3)法と【主体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の定期試験(70%)と毎講義ごとのレスポンスペーパー(30%)により評価します(より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いつけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。
初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください(この場合の自己決定には自己責任が伴います)。なお、補助資料(プリント)を配布することがありますが、再配布(増刷)はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそくいません(蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます)。(唯一の)正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思います。

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法哲学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法哲学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法哲学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学

LAW310M

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）、2800円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）
- 三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）
- 田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣、1997年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
- レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ～ 概要説明
- 第2回 法と道徳① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道徳② ハート・フラー論争
- 第4回 法と道徳③ 悪法論 ～ ドイツの戦後処理をめぐって
- 第5回 法と道徳④ ハート・デブリン論争 ～ 法による道徳の強制
- 第6回 法と道徳⑤ 理論史1 ～ カント
- 第7回 法と道徳⑥ 理論史2 ～ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ～ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ～ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ～ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ～ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ～ ハーバーマースと法化
- 第13回 法と生命 ～ 安楽死・尊厳死
- 第14回 法と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

法哲学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義前には、テキストの該当箇所を読み予習しておくこと。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と道徳 法と強制 ケルゼン ハート

比較法文化論 【昼】

担当者名 篠森 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較法文化論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法文化を比較する上での課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、法文化間の比較をすることにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較法文化論

LAW313M

授業の概要 /Course Description

日本の民法典は、1898（明治31）年の施行以来、何度も改正を受けており、現在は債権法の改正作業が進行中です。それにもかかわらず、その根幹部分は、今なお施行当時の民法典（いわゆる「明治民法」）のものを、ほぼ維持しています。明治民法は、近代西ヨーロッパ諸国（特にドイツ、フランス）の民法典の強い影響のもとで編纂されたため、「比較法の所産」と評されています。民法の講義で、先生方がドイツやフランスの民法の規定を引き合いに出すことが多いのは、そうした方が日本の民法の理解をいっそう深められるからなのです。ドイツ、フランスの各民法典は、古代ローマ法の伝統を基礎として、それぞれの社会状況の中で成立し、展開してきました。したがって、日本の民法典は、ドイツ、フランス両国の民法典を通じて、ローマ法の影響下にあるということが出来ます。

この講義では、わが国の民法上の諸問題を、現在のドイツ、フランスの状況と比較し、さらにその淵源でローマ法にも注意を向けながら検討します。この作業を通じて、民法が単なる技術の集積ではなく、歴史の所産であり、文化現象でもあることを確認する機会としたいと願っています。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。講義資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田慶吉『日本民法典の史的素描』（創文社、1954年）（○）
原田慶吉『ローマ法（改訂版）』（有斐閣、1955年）（○）
石部雅亮＝笹倉秀夫『法の歴史と思想—法文化の根柢にあるもの』（放送大学教育振興会、1995年）
ウルリッヒ・マンテ（田中実＝瀧澤栄治訳）『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008年）
木庭顕『ローマ法案内—現代の法律家のために』（羽鳥書店、2010年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「比較法文化論」とはなにか 【比較法】【西洋法制史】【法解釈学】
- 2回 日本民法典の成立 【条約改正】【旧民法】【法典調査会】【明治民法】
- 3回 日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（日本） 【相続】【遺言】
- 4回 日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（ドイツ・フランス） 【ドイツ民法典】【フランス民法典】
- 5回 日本民法の現代的問題：受遺者選定委託遺言（ローマ） 【ローマ法】
- 6回 ローマ法史概説 【ユスティニアヌス帝】【ローマ法大全】【学説彙纂】【法の継受】
- 7回 日本民法の現代的問題：遺産の管理（日本） 【遺産管理】【遺言執行】
- 8回 日本民法の現代的問題：遺産の管理（ドイツ・フランス）
- 9回 日本民法の現代的問題：遺産の管理（ローマ） 【信託遺贈】
- 10回 ローマ遺言法と遺言実務 【バピルス学】【碑文学】
- 11回 ローマ私法概説：売買 【売買】【問答契約】【握取行為】
- 12回 ローマ私法概説：遺言 【銅衡遺言】
- 13回 ローマ私法概説：不法行為 【不法行為】
- 14回 ローマ私法概説：事務管理 【事務管理】
- 15回 筆記試験

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（60%）、筆記試験（40%）

比較法文化論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

六法は必ず持参してください。また、講義のテーマに対応する民法の教科書が手許にあると便利です。
予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「比較法文化論」という講義名は、格調の高い、非常に有意義なものです。しかし、みなさんが講義名から講義内容をイメージしづらい面があるのは否定できません。みなさんには、「ちょっとかわった民法の講義を聞いてみよう」というつもりで話を聞きに来てほしいと思います。民法の基礎から解説するので、民法に苦手意識をもつ人も大いに歓迎します。民法を少し深く勉強したいと思っている人、民法上の諸問題について論文やレポートを書きたいと思っている人には、特に受講をすすめます。

キーワード /Keywords

民法 比較法 西洋法制史 ローマ法 法継受 ローマ法大全

紛争処理論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争処理論に関する理論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 紛争処理上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える紛争処理上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

紛争処理論

LAW311M

授業の概要 /Course Description

紛争処理論は、法社会学の一分野です。よって、みなさんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視角から、広義の法現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは法社会学と共通です。そのうえで、本講義は、法に期待される重要な機能である民事紛争処理というテーマに照準をあわせ、それを法社会的に考察していきます。

いうまでもなく、裁判をはじめとする司法システムには、日々さまざまな種類の紛争が持ち込まれます。その意味で司法は、それら多様な紛争を事案として受け入れ、法的な判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において - - いわゆる法的三段論法をはじめとする - - 法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて（こそ）、紛争は「解決」へと至る、といったストーリーは、（とりわけ法学にとってみれば）それほど疑われる余地はない＝疑ってはいけない？のかもかもしれません。しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っているハズの個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面をもっているのではないのでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落としたりする場面を生じさせるのではないのでしょうか。

本講義は、こうした問題関心に基づき、まずは、紛争の多主体性・主観性・連続性を視野化することで、紛争の把握や解決が実はとても困難であることを提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、裁判をはじめとする民事の紛争処理手続は、いかなる対応が可能なのかについて、法解釈学とは異なる視角から考えてゆきます。その際、中心に置かれるのは紛争当事者の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である司法の中で、紛争と向きあい折り合っていく可能性を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。

以上から示唆されるように、本講義は、紛争を直ちに固定化・対象化し、迅速かつオートマティックに効率よく処理していく技法（スキル） - - ましてやそれがリーガルマインドだなんて！ - - の体得に向けられるのではなく、ある意味でそれとは正反対の思考、すなわち、紛争のもつダイナミズムを直視した上で、それいかにして向き合っていくのかについて考えることとなります（よって本講義は、紛争を管理・解決する為の「ノウハウ」や「技術」、ひいては「正しい方法」→そういうものが実際にアレバの話ですが→などを求める期待には全く応えられません）。紛争事案に法を「あてはめる」のではなく、紛争当事者にとっての解決とは何か、その場合法や専門家は何をなすうのか、といった「問い」と併走する講義です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○江口厚仁 / 林田幸広 / 吉岡剛彦編、『圏外からの法 / 理論』、ナカニシヤ出版、2012年。
そのほかの参考文献については講義中に指示します。

紛争処理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方等について説明します
- 2回 紛争概念の再構成（1）：【紛争の多主体性】…紛争主体は「甲と乙」だけか？
- 3回 紛争概念の再構成（2）：【紛争の主観性】…命はカネにかえられる？
- 4回 紛争概念の再構成（3）：【紛争の連続性】…「判決+執行」で本当に紛争は終わるか？
- 5回 紛争概念の再構成（4）：【紛争解決の困難性】…法的解決 / 生活実態との乖離
- 6回 法 = 権利とは何か？（1）：西欧継受の法 = 権利…権利による【近代化】
- 7回 法 = 権利とは何か？（2）：権利観念の氾濫と拡散…【法の三類型モデル】
- 8回 法 = 権利とは何か？（3）：当事者同士の【共同体】…【権利の言説】
- 9回 法専門職の臨界（1）：弁護士偏在の理由と変化…需要の掘り起こしと【公設事務所】
- 10回 法専門職の臨界（2）：弁護士像（モデル）の変遷…社会正義とビジネスを超えて？
- 11回 法専門職の臨界（3）：弁護士と当事者のかかわり…【関係】と【協働】
- 12回 当事者主体の紛争処理に向けて（1）：【ADR】の多層性
- 13回 当事者主体の紛争処理に向けて（2）：【専門知】のあやうさ
- 14回 当事者主体の紛争処理に向けて（3）【メデイエーション論】の可能性
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験（70%）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30%）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

皆さんが普段学んでいる法解釈学的思考が、実際の紛争現場に対していかなる作用を果たしているのか、そこに問題は無いのか、ということを常に念頭においておくこと。

事前に配布する資料をかならず通読しておくこと。

本講義は民事の紛争処理過程について考察しますが、法社会学同様、法解釈学的視点とは違った角度からの講義です。この点注意してください（「法社会学とはいかなる学問領域なのか」についての総論めいたお話は法社会学で扱っていますので、法社会学を受講している方が、よりスムーズに本講義に入ってゆけると思われます）。なお、同一プリントの再配布（増刷）はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「法は何のためにあるのか」 - - 少なくとも民事の紛争に限って言えば、法は、紛争を抱えた当事者たちのためにあるべきでしょう。本講義は、この「素朴な命題」を愚直に受け止め、話をすすめていきます。なお、本講義は—法社会学と同様—（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もってお伝えしておきます）。むしろ正解や情報の暗記を苦手とする（=そのこと自体に摸いたる疑問を抱く）方のほうがひょっとしたら向いているのかもしれない。憶えるのではなく考え / 批判すること、その用意がある方を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのつながりにしていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店・2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社・2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権総論】
- 第4回 人権論② 【戦後人権判例の軌跡】
- 第5回 統治機構論① 【国民主権・権力分立】
- 第6回 統治機構論② 【日本の選挙制度】
- 第7回 統治機構論③ 【日本の政治制度①-国会の地位・権能】
- 第8回 統治機構論④ 【日本の政治制度②-議院の権能、内閣制度】
- 第9回 統治機構論⑤ 【日本の司法制度】
- 第10回 地方自治論 【地方自治の本旨・条例制定権】
- 第11回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第12回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第13回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第14回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第15回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		
<small>※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。</small>			
			憲法人権論
			LAW220M

授業の概要 /Course Description

憲法学の中の、人権論と呼ばれる領域を学ぶ。
人権という概念をめぐる思想史、体系論などの総論を踏まえた上で、類型化された憲法上の権利の検討へと進んでいく。特に原理論的考察を重視する。
それらを通じて、人権が憲法上の権利として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）
- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権思想史-人権と憲法上の権利
- 第2回 憲法上の権利の類型
- 第3回 権利の享有主体
- 第4回 制約原理-公共の福祉
- 第5回 幸福追求権
- 第6回 平等権
- 第7回 思想・良心の自由と表現の自由①
- 第8回 思想・良心の自由と表現の自由②
- 第9回 信教の自由①
- 第10回 信教の自由②-政教分離原則
- 第11回 職業選択の自由と財産権
- 第12回 受益権
- 第13回 社会権①
- 第14回 社会権②
- 第15回 参政権

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書を指定しているので、次回講義の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

憲法人権論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論

LAW221M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法が規定する、国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。国民主権、民主主義、権力分立といった基本概念を把握した上で、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治機構の全体構造や相互関係を理解することを目指す。また、現実の政治動向などへの関心も喚起するような内容としたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）
適宜、資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜『憲法（第6版）』（岩波書店、2015年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社、2014年）
- 安念潤司編著『論点日本国憲法（第2版）』（東京法令出版、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣(国の行政組織)① -内閣と行政権
- 第5回 内閣(国の行政組織)② -議院内閣制
- 第6回 内閣(国の行政組織)③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣(国の行政組織)④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

憲法機構論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論

LAW320M

授業の概要 /Course Description

日本国憲法81条は、裁判所が特に国家による行為の合憲性を審査する違憲審査制の存在を規定している。しかし、我が国における違憲審査は、刑事・民事・行政の具体的事件に付随して行われることとされているため、いわゆる「憲法訴訟」に関する理解・運用のためには訴訟法的な角度からの検討を行うことが必須となる。そのため、本講義は、特に「憲法人権論」で学習した内容を基盤にしたうえで、日本の憲法訴訟を実体法と訴訟法の両面から考察するものである。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○長谷部恭男他編『憲法判例百選I・II(第6版)』(有斐閣・2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法訴訟論総論① - 憲法訴訟の意義 / 司法権の範囲と限界
- 第2回 憲法訴訟論総論② - 違憲審査制
- 第3回 憲法訴訟論総論③ - 憲法判断の方法
- 第4回 刑事訴訟における憲法判断① - 法令・適用の合憲性
- 第5回 刑事訴訟における憲法判断② - 憲法適合的な法令解釈
- 第6回 刑事訴訟における憲法判断③ - 裁判制度・捜査公判手続の違憲性
- 第7回 民事訴訟における憲法判断① - 民事実体法・手続法の違憲性
- 第8回 民事訴訟における憲法判断② - 法律行為・事実行為に関する憲法判断
- 第9回 行政訴訟における憲法判断① - 抗告訴訟の訴訟要件
- 第10回 行政訴訟における憲法判断② - 抗告訴訟における法令審査
- 第11回 行政訴訟における憲法判断③ - 抗告訴訟における裁量審査
- 第12回 行政訴訟における憲法判断④ - 客観訴訟における憲法判断
- 第13回 国賠請求訴訟における憲法判断① - 公務員の加害行為の違法性
- 第14回 国賠請求訴訟における憲法判断② - 立法行為の国賠法上の違法性
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は「応用科目」であり、特に「憲法人権論」に関する知識・理解が前提となって講義が進行します。そのため、本講義では受講者に対して一定程度の予習(「憲法人権論」の復習)を求めます。具体的に必要な予習範囲に関しては講義内で適宜アナウンスいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

憲法訴訟論 【昼】

キーワード /Keywords

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方自治体が行う活動を法的にコントロールするさまざまな法律の総称です。現代社会において行政は、あらゆる場面で市民生活に介入しており、それに伴って行政法も我々の日常生活に密接に関連しています。本講義では、このような行政法について、基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度を学習し、行政の法的仕組みを検討します。そのうえで受講者が、行政活動についての基本概念および判例を理解し、具体的な事例にそれらを用いることができるようになることを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政契約
- 第14回 行政指導
- 第15回 行政計画
- 第16回 行政の義務履行確保(1)【行政上の強制執行】
- 第17回 行政の義務履行確保(2)【行政罰】
- 第18回 即時強制と行政調査
- 第19回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第20回 行政裁量(2)【裁量の所在】
- 第21回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第22回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第23回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第24回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第25回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第26回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第27回 行政情報(3)【個人情報保護制度】
- 第28回 前半のまとめ(前半の講義を振り返り、要点を復習します)
- 第29回 公法と私法
- 第30回 後半のまとめ(後半の講義を振り返り、要点を復習します)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

最新の小型六法(種類は問いません)を持参してください。
毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

国や地方自治体が法に反した活動（違法な活動）を行ったときに、それを是正し、国民の権利や自由を守る手段が行政争訟制度です。この授業では、行政争訟制度を有効に活用するために不可欠な、基本的なルールを学びます。

この授業での到達目標は、つぎの通りです。

- ①行政争訟の種類・その提起の条件を理解する。
- ②どのような場合にどのような行政争訟を用いるべきかを判断することができる。
- ③行政争訟制度の発達が法治行政の原理・国民の権利の保護に大きく影響を与えることを理解する。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『行政判例百選II（第6版）』（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 行政争訟の種類、行政訴訟の歴史
- 第2回 行政訴訟概論：行政不服申立てとの関係・種類
- 第3回 取消訴訟の提起の条件①：処分性【概論】
- 第4回 取消訴訟の提起の条件①：処分性【近年の判例】
- 第5回 取消訴訟の提起の条件②：原告適格【概論】
- 第6回 取消訴訟の提起の条件②：原告適格【近年の判例】
- 第7回 取消訴訟の提起の条件③：客観的訴えの利益・主張の制限
- 第8回 取消訴訟の審理・判決の効力
- 第9回 無効等確認訴訟・不作為の違法確認訴訟
- 第10回 義務付け訴訟・差止訴訟
- 第11回 仮の救済
- 第12回 民衆訴訟・機関訴訟
- 第13回 行政不服申立て：種類
- 第14回 行政不服申立て：審理・裁決
- 第15回 まとめ（復習）

行政争訟法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90%、小テスト10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「行政法総論」を履修していることを前提に授業を行います。
各回の授業までに、あらかじめ、各回のテーマについて、行政法の本（ガイダンスで紹介する）を読んでおくよう努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法 行政訴訟 行政不服申立て 行政事件訴訟法 行政不服審査法

国家補償法【昼】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 国家補償法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える国家補償法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国家補償法

LAW321M

授業の概要 /Course Description

国・公共団体の活動によって損害を被った個人は、国・公共団体に対して、その損害を償うよう求めることができます。このことを保障するのが国家補償制度です。

この授業では、国家補償制度の基本的なしくみを学びます。

具体的には、この授業の到達目標は、つぎのとおりです。

- ① 国家賠償、損失補償を請求するための基本的な条件を理解する。
- ② 具体的な事案を前に、損害賠償請求を、どの条文によって求めることができるか、また請求が認められる可能性があるかどうかを判断できる。
- ③ 国家補償制度が現代の社会的変化に応じて変化してきたことを理解する。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『行政判例百選II〔第6版〕』（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、国家補償制度の概論
- 第2回 国家賠償制度の歴史、国家賠償責任の本質
- 第3回 国家賠償法1条（公権力の行使に関する責任）の適用範囲
- 第4回 国家賠償法1条責任の成立要件①伝統的枠組み
- 第5回 国家賠償法1条責任の成立要件②近年における枠組みの変化
- 第6回 国家賠償法1条責任：規制権限の不行使による責任、立法者の責任
- 第7回 国家賠償法1条責任の復習（判例を使った復習）
- 第8回 国家補償法2条（营造物の設置・管理に関する責任）の適用範囲
- 第9回 国家賠償法2条責任の成立要件：基本的枠組み
- 第10回 国家賠償法2条責任の成立要件：判例の状況
- 第11回 国家賠償法2条責任の復習（判例を使った復習）
- 第12回 損失補償制度の概要、損失補償の要件
- 第13回 損失補償の内容
- 第14回 国家賠償と損失補償の谷間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90%、小テスト10%

国家補償法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「行政法総論」を履修していることを前提に授業を行います。
授業前に、各回のテーマについて、行政法の本（ガイダンスのときに紹介する）を読んでおくよう努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法、行政救済法、国家賠償、損失補償

地方自治法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える地方自治法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治法

LAW223M

授業の概要 /Course Description

「地方自治」は本来われわれの生活に身近な存在である。授業においては、まず地方自治に関する法制度の原理と仕組みの概要を把握することがねらいである。さらに国と地方公共団体との役割分担と相互関係、それらを前提とした諸問題の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点から関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

中川義朗編 『これからの地方自治を考える』（法律文化社、2010年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也 『地方自治法概説【第5版】』（有斐閣、2013年）

磯部力ほか編 『地方自治判例百選[第4版]』（有斐閣、2013年）

地方自治法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 地方自治の基礎理論 (1) わが国における地方制度の沿革	第16回 住民の権利義務 (3) 参加権
第 2回 地方自治の基礎理論 (2) 地方自治の意義、地方自治に関する法源	第17回 住民の権利義務 (4) 公の施設利用権
第 3回 地方自治の基礎理論 (3) 自治権の本質、地方自治制度の基本枠組み	第18回 国と地方公共団体との関係 (1) 相互関係の在り方、関与の在り方
第 4回 地方公共団体の種類 (1) 普通地方公共団体、特別地方公共団体	第19回 国と地方公共団体との関係 (2) 係争処理の仕組み
第 5回 地方公共団体の種類 (2) 基礎的地方公共団体、広域の地方公共団体 大都市制度、市町村合併、道州制	第20回 国と地方公共団体との関係 (3) 事務配分と財源配分
第 6回 地方公共団体の事務 (1) 地方公共団体の事務の区分	第21回 国と地方公共団体との関係 (4) 地方公共団体の財政、税源、補助金等
第 7回 地方公共団体の事務 (2) 事務配分のあり方	第22回 情報公開制度 (1) 情報公開制度の概要
第 8回 地方公共団体の権能 (1) 自治のための権能	第23回 情報公開制度 (2) 情報公開制度の諸問題
第 9回 地方公共団体の権能 (2) 自治行政権とその統制原理	第24回 個人情報保護制度 (1) 個人情報保護制度の概要
第10回 地方公共団体の権能 (3) 自治立法権の意義と限界	第25回 個人情報保護制度 (2) 個人情報保護制度の諸問題
第11回 地方公共団体の機関 (1) 地方議会	第26回 住民監査請求 (1) 住民監査請求の制度
第12回 地方公共団体の機関 (2) 執行機関、補助機関	第27回 住民監査請求 (2) 住民監査請求と住民訴訟
第13回 地方紅葉団体の機関 (3) 長と議会との関係	第28回 住民訴訟 (1) 住民訴訟の意義と要件
第14回 住民の権利義務 (1) 住民の参政権	第29回 住民訴訟 (2) 住民訴訟における諸問題
第15回 住民の権利義務 (2) 直接請求権	第30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

憲法学(統治機構論)および行政法総論を履修していることが望ましい。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法

LAW322M

授業の概要 /Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例により構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にはどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。
授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

宇賀克也 『新・情報公開法逐条解説[第6版]』（有斐閣、2014年）
同 『個人情報保護法の逐条解説[第4版]』（有斐閣、2013年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著 『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集 『個人情報保護法の解説<<改訂版>>』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編 『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回 情報公開の意義 情報公開とは何か	第10回 個人情報保護制度の憲法上の基礎 個人の尊厳とプライバシー
第 2回 情報公開制度の憲法上の基礎 知る権利、国民主権	第11回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（1） 個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第 3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（1） 情報・行政文書の意義	第12回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（2） 個人情報の収集、管理、利用
第 4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（2） 個人情報の不開示とプライバシー保護	第13回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（3） 開示請求、非開示情報、訂正等請求
第 5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（3） 法人等情報及び意思形成過程情報の不開示	第14回 個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（4） 不服申立て、審査会による審査
第 6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（4） 事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示	第15回 まとめ
第 7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（5） 部分開示、応答拒否、裁量的開示	
第 8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み（6） 開示手続、不服申立て、審査会による審査	
第 9回 個人情報保護の意義 個人情報保護とは何か	

情報公開・個人情報保護法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80% レポート(課題) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」(Criminal Law, General Theory)

この講義が対象とする「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する、法理論と犯罪の一般的な成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する法領域である。この意味で、犯罪と刑罰に関する法(刑事法)の起点となる科目である。これに対して、「刑法各論」(刑法犯罪各論I・II)は、殺人罪や窃盗罪といった、個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する法領域である。

具体的事例をもとに講義を展開して、刑法の基本原則・基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、論理的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。学習支援フォルダから、各自がダウンロードしてください。

初回の講義において、テキストや参考書について説明する。

①六法(2016年版・平成28年版)

『ポケット六法』(有斐閣)や『デイリー六法』(三省堂)、『法学六法』(信山社出版)といった「最新の」六法を必携のこと(種類・出版社を問わない)。

②刑法総論の基本書(基本的には、受講者の任意に委ねます。)

井田良『入門刑法学・総論(法学教室Library)』(有斐閣・2013.12)。

または / および

山中敬一『刑法概説I総論』(成文堂・2008.10)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』5版(有斐閣・2013.12)。

○井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣・2008.12)。

○井田良『入門刑法学・各論(法学教室Library)』(有斐閣・2013.12)。

○山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10)。

○佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』(有斐閣・2013.04)。

曾根威彦 / 日高義博(編)『基本判例(5)刑法総論』2版(法学書院・2006.07)。

曾根威彦 / 日高義博(編)『基本判例(6)刑法各論』2版(法学書院・2006.07)。

山口厚 / 佐伯仁志(編)『刑法判例百選I総論(別冊ジュリスト220号)』7版(有斐閣・2014.07)。

山口厚 / 佐伯仁志(編)『刑法判例百選II各論(別冊ジュリスト221号)』7版(有斐閣・2014.08)。

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) レジユメを配布する。
 (2) テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、疑問点、よく解らない個所にマーキングをし、できれば講義該当箇所の記載内容を要約して広義に臨んでほしい。
 ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。
- 1回 ガイダンス・犯罪論の基本構造
 - 2回 犯罪の本質(新旧学派の争い)
 - 3回 刑罰論(応報刑論、予防刑論、規範的一般予防論)
 - 4回 罪刑法定主義(1)意義と根拠
 - 5回 罪刑法定主義(2)派生原則
 - 6回 違法論の基礎(違法性の本質)
 - 7回 責任論の基礎(責任原理と責任能力)
 - 8回 行為と構成要件
 - 9回 不作為犯
 - 10回 条件関係
 - 11回 法的因果関係
 - 12回 故意(故意の種類、事実認識の程度、未必の故意)
 - 13回 事実の錯誤(1)具体的事実の錯誤
 - 14回 事実の錯誤(2)抽象的事実の錯誤
 - 15回 過失犯の理論(過失の意義と種類)
 - 16回 正当防衛(1)正当防衛状況
 - 17回 正当防衛(2)正当防衛行為の限界
 - 18回 緊急避難
 - 19回 被害者の承諾
 - 20回 原因において自由な行為
 - 21回 違法性の意識と違法性の錯誤
 - 22回 正当化事由の錯誤(誤想防衛)
 - 23回 未遂罪と予備罪(実行の着手)、実行行為と不能犯
 - 24回 中止犯
 - 25回 共犯論の基礎(正犯と共犯)・間接正犯
 - 26回 共同正犯の意義と処罰根拠
 - 27回 共同正犯の諸問題(共謀共同正犯・承継的共同正犯)
 - 28回 共犯の従属性・共犯の処罰根拠
 - 29回 教唆犯・幫助犯
 - 30回 罪数論・科刑論(犯罪の個数と犯罪の競合)

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...30%、期末試験...70%
 この他に随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジユメを配布する。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)と復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行うようにしよう。
 この科目を受講した後に、「刑法犯罪各論I」および「刑法犯罪各論II」を受講することを強く推奨する。また、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」を、さらに関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論 犯罪論

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

刑法各論では、殺人罪や窃盗罪など各犯罪類型の基本的性格と処罰の射程について学習します。「刑法犯罪論」で学んだ刑典「第一編総則」の理解を前提に、ここでは刑典「第二編各則」に規定された各条文を丁寧に分解した上で、それぞれの要件の規範的意義を明らかにすることが課題となります。犯罪の一般的な成立要件との関係でいえば、構成要件該当性の判断が中心となります。本講義では、基本的な判例と各犯罪類型の解釈・適用の方法を学ぶことによって、具体的な犯罪の成否について論理的に結論を導けるようになることを目指します。そのとき解釈の指針となるのは、各刑罰規定が保護しようとしている法益（保護法益）です。刑法犯罪各論Iでは、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産犯を除く）と社会的法益に対する罪を取り上げます。

教科書 /Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねますが、講義初回に参考書も含めて説明します。
参考までに、高橋則夫『刑法各論（第2版）』（成文堂、2014年12月）を推奨します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論（新・論点講義シリーズ2）（第2版）』（弘文堂、2013年4月）
- 川端博『レクチャー刑法各論（第3版）』（法学書院、2013年3月）
- 山口厚『刑法各論（第2版）』（有斐閣、2010年3月）
- 山口厚・佐伯仁志編『刑法判例百選II各論（第7版）』（有斐閣、2014年8月）
- 井田良他編『刑法事例演習教材（第2版）』（有斐閣、2014年12月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法各論の体系、刑法における生命の保護
 - 第2回 生命に対する罪（1）【殺人罪、自殺関与罪、同意殺人罪】
 - 第3回 生命に対する罪（2）【墮胎罪、遺棄罪（遺棄概念と遺棄罪の類型）】
 - 第4回 身体に対する罪（1）【暴行罪と傷害罪（暴行行為の性質、傷害概念）、傷害致死罪】
 - 第5回 身体に対する罪（2）【同時傷害の特例、危険運転致死傷罪、過失致死傷罪】
 - 第6回 自由に対する罪（1）【脅迫罪、強要罪、逮捕監禁罪】
 - 第7回 自由に対する罪（2）【略取・誘拐罪、強制わいせつ罪、強姦罪】
 - 第8回 私生活の平穏に対する罪【住居侵入罪、秘密侵害罪】
 - 第9回 名誉・信用に対する罪（1）【名誉毀損罪、侮辱罪】
 - 第10回 名誉・信用に対する罪（2）【信用毀損罪、業務妨害罪】
 - 第11回 公共危険罪（1）【放火罪と失火罪（「公共の危険」と焼損の概念）】
 - 第12回 公共危険罪（2）【放火罪と失火罪（現住建造物と非現住建造物）】
 - 第13回 公共の信用に対する罪（1）【文書偽造罪（文書概念、偽造概念）】
 - 第14回 公共の信用に対する罪（2）【通貨偽造罪、有価証券偽造罪】
 - 第15回 風俗に対する罪【わいせつ罪、重婚罪、賭博罪、死体損壊遺棄罪】
- ※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

刑法犯罪各論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間考査(30分)と期末試験(80分)によって評価します。各試験の形式と割合については、講義の際に別途説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。成文法主義を採る日本において、法解釈の出発点は条文であり、そのことは、刑法総論にも増して刑法各論に妥当します。具体的事例に即して、個々の犯罪の成否を自ら判断できるように訓練することを主眼とするので、ノート作成の創意工夫をはじめ受講者の主体的な取り組みが期待され、授業内外での質問も歓迎されます。なお、事例を解決するためには、当然に刑法総論の理解が前提とされるため、講義科目「刑法犯罪論」の復習にも並行して取り組むことが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法各論では、多様な事実の中から行為を選び出し、何罪の構成要件該当性が認められるかを判断する法解釈の実践的な方法を体験することになります。今後あらゆる法分野の問題に応用可能な法解釈の基本的な「型」を、ここでしっかり体得して下さい。

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

刑法各論では、殺人罪や窃盗罪など各犯罪類型の基本的性格と処罰の射程について学習します。刑法総論で学んだ刑典「第一編総則」の理解を前提に、ここでは刑典「第二編各則」に規定された各条文を丁寧に分解した上で、それぞれの要件の規範的意義を明らかにすることが課題となります。犯罪の一般的な成立要件との関係でいうと、構成要件該当性の判断が中心となります。本講義では、基本的な判例と各犯罪類型の解釈・適用の方法を学ぶことによって、具体的な犯罪の成否について論理的に結論を導けるようになることを目指します。そのとき解釈の指針となるのは、各刑罰規定が保護しようとしている法益（保護法益）です。刑法犯罪各論IIでは、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産犯と社会的法益に対する罪を取り上げます。

教科書 /Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねますが、講義初回に参考書も含めて説明します。
参考までに、高橋則夫『刑法各論（第2版）』（成文堂、2014年12月）を推奨します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論（新・論点講義シリーズ2）（第2版）』（弘文堂、2013年4月）
- 川端博『レクチャー刑法各論（第3版）』（法学書院、2013年3月）
- 山口厚『刑法各論（第2版）』（有斐閣、2010年3月）
- 山口厚・佐伯仁志編『刑法判例百選II各論（第7版）』（有斐閣、2014年8月）
- 井田良他編『刑法事例演習教材（第2版）』（有斐閣、2014年12月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 財産犯の体系、財産犯の保護法益
 - 第2回 窃盗罪（1）【窃盗罪の基本構造、占有の概念】
 - 第3回 窃盗罪（2）【不法領得の意思、不動産侵奪罪、親族相盗例】
 - 第4回 毀棄隠匿罪
 - 第5回 強盗罪（1）【強盗罪の基本構造】
 - 第6回 強盗罪（2）【事後強盗罪、強盗致傷罪】
 - 第7回 恐喝罪
 - 第8回 詐欺罪（1）【詐欺罪の基本構造、財産的損害の有無】
 - 第9回 詐欺罪（2）【訴訟詐欺、クレジットカード詐欺、電子計算機使用詐欺】
 - 第10回 横領罪・背任罪
 - 第11回 盗品等関与罪
 - 第12回 国家の作用に対する罪（1）【公務執行妨害罪、逃走罪、犯人蔵匿罪、証拠隠滅罪】
 - 第13回 国家の作用に対する罪（2）【偽証罪、虚偽告訴罪、職権濫用罪】
 - 第14回 国家の作用に対する罪（3）【賄賂罪】
 - 第15回 補説：国際刑法上の中核犯罪
- ※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

刑法犯罪各論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間考査(30分)と期末試験(80分)によって評価します。各試験の形式と割合については、講義の際に別途説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。成文法主義を採る日本において、法解釈の出発点は条文であり、そのことは、刑法総論にも増して刑法各論に妥当します。具体的事例に即して、個々の犯罪の成否を自ら判断できるように訓練することを主眼とするので、ノート作成の創意工夫をはじめ受講者の主体的な取り組みが期待され、授業内外での質問も歓迎されます。なお、事例を解決するためには、当然に刑法総論の理解が前提とされるため、講義科目「刑法犯罪論」の復習にも並行して取り組むことが望まれます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法各論では、多様な事実の中から行為を選び出し、何罪の構成要件該当性が認められるかを判断する法解釈の実践的な方法を体験することになります。今後あらゆる法分野の問題に応用可能な法解釈の基本的な「型」を、ここでしっかり体得して下さい。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法総論

LAW231M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて概説する。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法（第2版）』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。以上の教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第9版）」（有斐閣、2011年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
- 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
- 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
- 第4回 捜査総説
- 第5回 令状主義と強制処分法定主義
- 第6回 捜査の端緒
- 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
- 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
- 第9回 逮捕
- 第10回 無令状捜索・差押
- 第11回 勾留
- 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
- 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
- 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
- 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法学に関する議論の理解が前提となる部分が多く、憲法を履修していることが望ましいです。また、刑法上の概念が問題となる場面もあるので、刑法の履修が済んでいる、または平行して履修するとよいでしょう。

刑事訴訟法総論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

刑事訴訟法各論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法各論

LAW331M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に公判の開始（公訴提起）から、裁判の終結（確定判決）までを中心に概説する。法学的思考方法を身につけ、未知の問題にも原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

渡辺直行『入門刑事訴訟法（第2版）』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。以上の教科書以外にも、各自の判断で使いやすいものを選択することを認める。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選（第9版）」（有斐閣、2011年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
- 第2回 審判対象論
- 第3回 訴因の特定・変更
- 第4回 訴訟条件
- 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
- 第6回 裁判員制度
- 第7回 被害者参加
- 第8回 公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
- 第9回 証拠裁判主義
- 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
- 第11回 違法収集証拠排除法則
- 第12回 自白法則
- 第13回 伝聞法則
- 第14回 裁判
- 第15回 上訴、再審

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法、刑法の知識が必要となる場面があります。これらの講義を履修済み、平行して履修するのがよいでしょう。また、刑事訴訟法総論で学んだ知識（捜査の終了まで）が前提となります。復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

犯罪学【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1学期 (ペア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	犯罪学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪学上の諸問題について、自らの関心を高める。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

犯罪学

LAW232M

授業の概要 /Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書 /Textbooks

守山正・小林寿一編『ビギナーズ犯罪学』（成文堂、2016年4月出版予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円
- 瀬川 晃『犯罪学』（成文堂、1998年）
- G.B.ヴォルド＝T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』（東大出版会、1990年）
- 宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』（青林書院、1995年）
- ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』（花伝社、2011年）
- リリー、カレン、& ポール『犯罪学 理論的背景と帰結 第5版』（金剛出版、2013年）

犯罪学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(犯罪学の学習方法についての助言・指導)
- 2回 犯罪学とは何か【刑事学、犯罪学、刑事政策、刑事司法政策】
- 3回 犯罪の定義【不法行為、非行、異常行動、逸脱行動】
- 4回 犯罪学の調査研究方法論(その1)【サーベイ・リサーチ、コーホート調査、公式統計調査、実験、直接観察、面接法】
- 5回 犯罪学の調査研究方法論(その2)【公式犯罪統計、被害化調査、自己報告調査、暗数】
- 6回 犯罪学における理論の役割とは何か【理論、パラダイム、パースペクティブ】
- 7回 古典主義犯罪学
- 8回 実証主義犯罪学
- 9回 批判的犯罪学
- 10回 三大パラダイムの相互比較
- 11回 シカゴ学派
- 12回 異質の接触理論
- 13回 社会的学習理論
- 14回 アノミー理論
- 15回 一般的緊張理論(GST)と制度的アノミー理論(IAT)
- 16回 非行副次文化理論
- 17回 異質的機会理論
- 18回 ラベリング理論
- 19回 コンフリクト理論
- 20回 社会統制理論
- 21回 セルフ・コントロール理論
- 22回 被害者学理論(被害者特性論、被害者誘発仮説、状況的アプローチ)
- 23回 ライフスタイル・モデル
- 24回 犯罪の経済学理論(合理的選択理論)
- 25回 ルーティン・アクティビティ理論
- 26回 発達論的犯罪学(ライフコース犯罪学)
- 27回 各種犯罪の現状とその原因論的説明(その1)【暴力犯罪(殺人・強盗)】
- 28回 各種犯罪の現状とその原因論的説明(その2)【財産犯罪(窃盗)】
- 29回 各種犯罪の現状とその原因論的説明(その3)【性犯罪(強姦)】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」をあわせて受講すればわかりやすい。授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策 I

LAW332M

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版】』（成文堂、2016年4月刊行予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ① 朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
- ② 国家公安委員会・警察庁編『平成27年度 警察白書』（ぎょうせい、2014年）
- ③ 法務省法務総合研究所編『平成27年度 犯罪白書』（日経印刷、2015年）
- ④ 内閣府『平成27年版 犯罪被害者白書』（印刷通販、2015年）
- ⑤ ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』花伝社（2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割（1）【警察】【微罪処分】【教科書 第6講 85-88頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割（2）【検察】【裁判】【起訴猶予】【執行猶予】教科書 第6講 88-94頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割（3）【矯正保護】【少年司法機関】【】【教科書 第6講 95-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日（実務家による特別講義予定）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

刑事司法政策I【昼】

履修上の注意 /Remarks

「犯罪学」「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。
刑事法関連科目のうち「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
刑事司法の実務家による特別講義を予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策Ⅱ【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策Ⅱ

LAW333M

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状、原因及び刑事政策的対応について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策【第3版】』（成文堂、2016年4月刊行予定）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年3月出版予定）
- 法務省法務総合研究所編『平成27年度 犯罪白書』（日経印刷、2015年）
- ジェフリー・ライマン＝ポール・レイトン『金持ちはますます金持ちに貧乏人は刑務所へ』花伝社（2011年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【矯正処遇】【改善指導】【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【刑務作業】【刑事施設視察委員会】【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇(1) 【保護観察】【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 社会内処遇(2) 【仮釈放】【教科書 第14講224-243頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 実務家による特別講義予定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

刑事司法政策II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「犯罪学」「刑事司法政策I」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。
刑事法関連科目のうち、「刑法」「刑事訴訟法」をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
実務家による特別講義を一回予定しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

21世紀になって日本社会の構造的転換が進み、それに伴って雇用不安や貧困の拡大傾向が続いています。現代社会の転換期にあつて、労働者の保護と国民の生活保障を担う社会法の役割は、ますます重要なものとなっています。この講義では、現代社会の基礎秩序を規律する市民法にたいして、それを修正・補完して現代社会生活の福利を増進することを目的とする現代社会法の全容を学びます。

【学習目標】

1. 市民法的基础規律と社会法の関係について学ぶ。
2. 社会法の理念と現実的目的について学ぶ。
3. 社会法の体系、法的性格について学ぶ。
4. 社会法の沿革と資本主義社会の発展との関係について学ぶ。
5. 社会法の中心的部門である労働法と社会保障法および衛生法について、それぞれの部門の法原則とそれを具体化する実定法規律の概要を学ぶ。

教科書 /Textbooks

パワーポイント資料をテキストとして配布します。
なお、適宜下記参考書（柴田滋著「社会法総論」）を参照して講義を行います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【講義で随時参照する参考書】

柴田滋著「社会法総論-社会法の基本法理とその現代的展開」 大学教育出版 ISBN978-4-86429-346-4 2800円

【自習用として推奨する参考書】

浜村彰他著「ベーシック労働法」 有斐閣 ISBN978-4-641-22046-1 1900円

河野正輝・江口隆裕編「レクチャー社会保障法」 法律文化社 ISBN 978-4-589-03649-0 2900円

社会法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回講義案内、福祉国家の転換と国民の生存権の現状
- 第2回社会法の意義と体系
- 第3回社会法の形成
- 第4回戦後社会法の発展
- 第5回社会法の理念
- 第6回社会法の背景と目的
- 第7回社会法の諸部門
- 第8回社会法の諸原則
- 第9回社会法の法的性格
- 第10回労働法の概要I - 締約自由の制限、内容決定の自由の制限
- 第11回労働法の概要II - 雇用主の優越的権利の制限、労働者の集团的権利
- 第12回社会保障法の概要I - 社会保険法
- 第13回社会保障法の概要II - 社会手当法、公的扶助法
- 第14回社会保障法の概要III - 社会福祉サービス法
- 第15回衛生法の概要

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習（比重30%）、および定期試験（比重70%）によって評価します。
定期試験は記述式試験（配布資料、講義用参考書持込み可）を予定しています。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自由・平等で幸福な社会生活を支えるためにどのような実定法が存在し、また、どのような実定法が必要とされているかという問題意識を持って学習に臨んでいただければ、講義もわかりやすいと思います。

キーワード /Keywords

近代法の根本的法理、工場法と救貧法、労働者保険法、社会権、労働法、社会保障法、衛生法、教育法、労使対等、労使自治、社会的扶養、労働法の強行直律効、受給権の一身専属性、個人の尊厳と権利擁護

社会サービス法【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、障害者総合支援法の制定や介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インタロダクション～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保障① ～医療供給体制～
- 第3回 医療保障② ～医療保険の保険関係（保険者・被保険者）～
- 第4回 医療保障③ ～保険医療の仕組み～
- 第5回 医療保障④ ～医療保険の保険給付①～
- 第6回 医療保障⑤ ～医療保険の財政①～
- 第7回 医療保障⑥ ～医療保険の財政②、高齢者医療～
- 第8回 社会福祉① ～社会福祉の法体系とその展開～
- 第9回 社会福祉② ～社会福祉の給付方式～
- 第10回 社会福祉③ ～サービス利用の法律関係～
- 第11回 社会福祉④ ～福祉サービスの提供体制～
- 第12回 社会福祉⑤ ～権利擁護システム～
- 第13回 社会福祉⑥ ～不服申立制度～
- 第14回 質問事項に対する講義（医療・福祉）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験...100%）。

社会サービス法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法

LAW243M

授業の概要 /Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、芸能ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。

ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

- 第1回 インTRODクシヨN～「所得保障法」とは？
- 第2回 年金保険① ～公的年金保険の構造～
- 第3回 年金保険② ～公的年金保険の保険関係～
- 第4回 年金保険③ ～公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）～
- 第5回 年金保険④ ～公的年金保険の保険給付②（遺族給付）～
- 第6回 年金保険⑤ ～公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）～
- 第7回 年金保険⑥ ～公的年金保険の財政及び不服申立～
- 第8回 年金保険⑦ ～公的年金制度と私的年金制度～
- 第9回 公的扶助① ～我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）～
- 第10回 公的扶助② ～生活保護制度の基本原則②（生保4条）～
- 第11回 公的扶助③ ～生活保護実施に関する4つの原則～
- 第12回 公的扶助④ ～保護の種類と方法～
- 第13回 公的扶助⑤ ～保護の実施機関とプロセス～
- 第14回 公的扶助⑥ ～不服申立制度～
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

所得保障法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての体系的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、個別的労働関係法に焦点を当てます。個別的労働関係法は、労働組合（労働者集団）と使用者の関係を規制する集团的労働関係法と異なり、労働契約の成立、展開、終了にかかわる個別の労働者と使用者の関係を規制するものです。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働基準法や労働契約法をはじめとした個別的労働関係法の基本事項に関する知識を身に付けること、個別的労働関係における現代的諸課題に関する基本的な分析の視点を養うこと、これらを通じて雇用社会に対する関心を高めること、にあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「就労」の意義と労働法の役割
- 2回 労働契約関係の成立
- 3回 労働条件決定の法的仕組み
- 4回 労働時間規制
- 5回 休暇、休日、休業
- 6回 健康と安全
- 7回 懲戒処分
- 8回 人事異動
- 9回 労働条件の変更
- 10回 労働契約の終了
- 11回 期間の意義と定年制
- 12回 労働者派遣の法規制
- 13回 雇用差別禁止法
- 14回 企業組織の変動と労働関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

雇用関係法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

レジューメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して授業に持参するようにして下さい。
労使関係法とセットで履修することが望ましいです。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法の体系は、一般的には、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法の三つの分野に区分して理解されます。本講義は、以上のうち、集団的労働関係法に焦点を当てます。集団的労働関係法は、労働組合と使用者の関係を規律する労働組合法を中心とするものですが、労働組合の組織率の低下により、そのあり方が問われています。本講義の目的は、多くの人が企業社会の中で遭遇するであろう具体的な問題を通じて、労働組合法を中心とする集団的労働関係法の基本事項を身に付けるとともに、集団的労働関係法の将来像を模索することを通じて、雇用社会への関心を高めるところにあります。

教科書 /Textbooks

石橋洋・古川陽二・唐津博・有田謙司編『ニューレクチャー労働法』（成文堂、2016年）を使用予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野和夫『労働法 第10版』（弘文堂、2012年）
土田道夫『労働法概説 第2版』（弘文堂、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 労使関係法の意義と目的
- 2回 労働組合の歴史と機能
- 3回 団体交渉の仕組みとその主体
- 4回 団体交渉の目的と態様
- 5回 争議行為
- 6回 組合活動
- 7回 労働協約
- 8回 不当労働行為制度（1）【不利益取扱いと支配介入】
- 9回 不当労働行為制度（2）【制度の趣旨とその主体】
- 10回 労働組合による労働者の統制
- 11回 労働組合の衰退と合同労組
- 12回 公共部門の労使関係法
- 13回 従業員代表制度
- 14回 労使関係法の将来
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

レジュメは学習支援フォルダにアップします。各自で印刷して講義に持参するようにして下さい。
雇用関係法とセットで履修することが望ましいです。
授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要です。

労使関係法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

仕事は、多くの人にかかわる活動です。将来、どのように働きたいか、日本人にはどのような働き方があっているかを考えて講義に臨んでいただきたいと思います。

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

我が国の経済システムは、市場主義の経済である。そこでは、自由・公正な「競争」により経済効率の向上が図られるのである。ところが現実には、高度寡占化、政府規制、カルテル（談合）、不公正な取引方法等により「競争」が制限され、市場機能が十分発揮されない状況にあり、いかにして「競争」を維持・促進するかがますます重要な課題となってきた。そのような状況を背景として、「競争理念」の実現を法目的とし、経済憲法ともいわれている独占禁止法について学ぶ。この法律は、自由を促進するといいつながら、他方、過度の自由を規制するものである。したがってこの授業では、自由と規制の線引きをどのような切り口で、どのような論理過程で考えればよいかを多数の事例を通して学ぶこととなる。

「競争」の意義・メリットを理解すれば、この法律が大企業、中小企業、一般消費者という経済のプレーヤーの全てに強く支持されている理由がわかってくる。学生諸君には、この法律を学ぶことによって、「競争」の意義・メリットをよく理解し、実社会において、カルテルなどで競争を回避することなく、自信を持って自由闊達に経済活動ができるようになることを期待しています。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（プリントを製本したもの。生協で販売します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

波光巖・栗田誠『解説 独占禁止法』 青林書院 2015年 税込価格 6,264円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義の進め方。競争の意義・効果
- 2回 独占禁止法の目的・構成・沿革
- 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
- 4回 “ 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
- 5回 “ 【事業者団体によるカルテル】
- 6回 私的独占 【排除による独占】【支配による独占】【自然独占】
- 7回 不公正な取引方法 【公正競争阻害性】【一般指定】【特殊指定】
- 8回 “ 【取引拒絶（ボイコット）】【差別的取扱い】【不当廉売】
- 9回 “ 【排他的取引】【再販売価格の高速】【事業活動の不当拘束】
- 10回 “ 【不当な顧客誘引・取引強制】【優越的地位の不当利用】【取引妨害】
- 11回 国際取引と独占禁止法 【国際カルテル】【並行輸入】
- 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
- 13回 “ 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的状态】
- 14回 独占禁止法の運用手続 【排除措置命令】【課徴金納付命令】
- 15回 “ 【不服審査手続】 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。日常の授業への取り組み... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

独占禁止法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。したがって、事例の図解を予め勉強してきてください。「競争」の意義・効果を経済学的に理解するには、「産業組織論」の受講を勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、現実の経済社会で頻繁に出てくる事項が多い。したがって、身近な問題として興味を持って勉強して欲しい。

キーワード /Keywords

独占力（市場支配力） 私的独占 カルテル 談合 不当廉売 流通系列化 特約店制度
再販売価格維持制度 優越的地位の濫用 合併 持株会社 公正取引委員会 排除措置命令 課徴金納付命令

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

山口大学作成「知的財産権法テキスト」 教室で配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、毎時間実施する小テスト(小レポート)計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えてください。
著作権の基礎知識は下記WEBサイト上の学習用ビデオを事前に視聴してください。
<http://www.kim-lab.info/domescon/2015video/cp/cp.html>

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権者の権利

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 下村 英嗣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

環境法は、環境基本法を頂点とした環境問題にかかわる法律群・法体系の総称である。環境法の対象領域は、各種の公害の防除、開発事業の環境影響評価、循環型社会の形成、自然保護や文化財保護、化学物質の管理・規制など多岐にわたる。循環型社会や持続可能な社会、環境にやさしい社会を家とするならば、環境法は、その家の柱、骨組みといえよう。

この講義では、環境基本法の規定を中心に環境法全般に共通する理念や原則、手法を学んだ上で、重要な国内環境問題を事例として取り上げ、個別の環境法に関する内容・特質・問題・判例・学説を概説する。授業は、1つないし少数の個別環境法を詳細に講義するのではなく、現代社会が直面する環境問題に関連する個別環境法を幅広く取り上げる。また、環境法の理解を深め、特徴をとらえやすくするため、比較法的観点も取り入れて講義を行う。

講義で取り上げる具体的な環境問題や個別環境法は、後述の「授業計画・内容」を参照すること。

教科書 /Textbooks

北村喜宣『環境法』(有斐閣、2015年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①『ベーシック環境六法』(第一法規)
- ②北村喜宣『環境法(第3版)』(弘文堂、2015年)

- ①は講義時にできる限り持参してください。
- ②は発展的に学習したい人向けです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概要(環境と法律)、環境法の史的展開
- 第2回 環境法の理念・原則
- 第3回 環境法の手法①(環境基準と規制基準)
- 第4回 環境法の手法②(規制的手法のモデル) / 小テスト(30分)
- 第5回 大気汚染防止法の概要(固定発生源と移動発生源の排出規制)
- 第6回 水質汚濁防止法の概要(健康と生活環境の保護)
- 第7回 化学物質管理と情報利活用(情報公開と自主的管理促進)
- 第8回 被害者救済制度(公害、アスベスト) / 小テスト(30分)
- 第9回 土壌汚染対策法(汚染土壌の浄化制度)
- 第10回 廃棄物処理法①(廃棄物の定義)
- 第11回 廃棄物処理法②(適正処理の確保：業と施設の許可制)
- 第12回 リサイクル関連法(容器包装、家電、自動車のリサイクル) / 小テスト(30分)
- 第13回 環境影響評価法(開発事業の事前審査)
- 第14回 自然保護関連法(土地利用規制、生物多様性保護)
- 第15回 エネルギー問題と環境法(原発事故の影響) / 小テスト(30分)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回・・・100% (1回あたり25%)

環境法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ①教科書に書いていない内容を講義することもあるため、受講時は、しっかりと話を聞き、ノートを取る。
- ②講義で取り上げた環境法の条文を六法等でチェックすること。
- ③予習として教科書を一読しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方通行の講義にならないよう、受講生と対話しながら(問題を投げかけながら)講義を進めたいと思っています。

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法における現代的問題の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法の現代的展開

LAW343M

授業の概要 /Course Description

社会法は、資本主義の課題に対処するため、民法法を修正・補完して、労働者と生活者の尊厳ある生活を保障する法であって、戦後福祉国家を特徴づける法部門であるといえます。我が国の社会法も戦後系統的に整備されてきましたが、しかし、今日、社会構造のおおきな転換期にあつて、雇用不安や貧困が拡大傾向を続け、社会法の解決すべき課題も拡大・変容しています。これに伴って現代社会法は、その基本法理から見直しを迫られているといえます。

この講義では、社会法の基本法理に関する従来からの諸学説を参照にして、社会法の理念、現実的目的、民法法との関係、諸原則など、社会法の基本法理の現代的展開を学び、あわせて労働法と社会保障法の近年の改革動向について、それぞれの理念と目的の観点から考察し、公平で効果的な社会法の在り方を展望する講義を行います。

具体的には、以下の学習目標に即して講義を行います。

1. 現代労働関係の本質に関する諸学説の展開を参照にして、現代の労働関係に内在する課題と労働法の役割を理解する。
2. 資本主義的配分を支える基礎的法規範について学び、その正当性に関して現代展開されている諸学説を参照にして、現代社会に必然的な貧困問題と社会保障法による再配分の役割を理解する。
3. 社会法の理念と現実的目的に関する諸学説の展開を参照にして、社会法の理念と目的の現代的変容を理解する。
4. 労働法と社会保障法の近年の改革動向を学び、それぞれの法理念と立法原則の観点に立つて、その現代的課題を考える。

教科書 /Textbooks

柴田滋著 「社会法総論-社会法の基本法理とその現代的展開」 大学教育出版 ISBN978-4-86429-346-4 2800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、ジツツハイマー著・榎崎二郎他訳「労働法原理第二版」など(その他はテキストに案内しています)

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 市民法の基礎的規律
- 第1回 講義案内、社会権と社会法、法の三つの側面
- 第2回 資本主義の基礎秩序
- 第3回 市民法原則
- 第4回 民法典と雇用契約
- 第5回 市民法的労働関係法I - 雇用主の生産物所有権
- 第6回 市民法的労働関係法II - 雇用主の企業支配権
- 第7回 市民法的労働関係法III - 労働契約
- 第8回 生活資料配分の市民法秩序
- 第二部 社会法の基本法理
- 第9回 社会法の定義と部門、労働法の基本法理
- 第10回 社会保障法の基本法理
- 第11回 社会法原理
- 第12回 市場原理主義と社会法
- 第13回 転換期の社会法
- 第14回 労働法の到達点と課題
- 第15回 社会保障法の改革動向と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習（比重30%）、および定期試験（比重70%）によって評価します。
定期試験は記述式試験（テキスト等持込み可）で行う予定です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不安定雇用、格差と貧困の拡大を抑止することは、今日の喫緊の課題となっています。身近にみることのできる生活上の諸問題に注目しながら、この講義のテーマについて学習を進めていってほしいと思います。

キーワード /Keywords

人格権不可譲、債権契約としての労働契約、契約外の労働関係規範、現代配分的正義論、市場原理主義的社会政策
「民法典の欠欠」、自由権と社会権、市民法的自由、社会的扶養、社会的連帯

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法 I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の国内的効力と国内適用
- 第5回 まとめ

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効
- 第10回 まとめ

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第11回 国際責任
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。
「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、2009年） 1500円+税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

- 第2回 国家と承認制度：国家承認・政府承認
- 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務
- 第5回 まとめ

第II部「国際法主体としての個人」

- 第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定
- 第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援
- 第8回 国際犯罪
- 第9回 国際刑事裁判所(ICC)
- 第10回 まとめ

第III部「陸・海・空と国際法」

- 第11回 陸と国際法：領土取得の権原・領域主権
- 第12回 海と国際法：海上交通
- 第13回 海と国際法：海洋資源
- 第14回 空と国際法
- 第15回 まとめ

国際法II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題①②および学期末試験で評価します。

課題①...16.7% 課題②...16.7% 学期末試験...66.6%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を前提とした講義を展開します。

詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】 【承認】 【国家の基本的権利・義務】 【領域】 【個人】 【管轄権の競合と調整】 【国際法によるコントロール】

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。

国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

教科書 /Textbooks

使用しません（レジュメを配布しますが、授業時に口頭や板書等で適宜補足する場合があります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第3版）』（有斐閣、2012年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 7回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

※順番を入れ替えることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 30% 期末試験... 70%

※出席点はありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前準備は特に不要。復習すべき要点を授業中に指摘する。
受講に際しては六法が必要です。
法律学科以外の学生は、「法の適用に関する通則法」をコピーでもよいから準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

他の受講生の受講機会を阻害するような私語には（もしあれば）厳しく対処します。

キーワード /Keywords

国際結婚、国際家族法、国際財産法、国際民事紛争の解決

国際取引法【昼】

担当者名 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法

LAW350M

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』（中央経済社・1996）
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』（日本国際問題研究所・1997）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】【コモンロー】【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：OECD賄賂禁止条約、輸出管理ワッセナー取り決め、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約（国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など）や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・パートナーシップの異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】
- 9回 OECD多国籍企業ガイドライン
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回 GATTからWTOへ：WTO、TPPなど国際機関・協定
- 13回 WTOの組織、諸協定
- 14回 紛争解決のメカニズム
- 15回 OECD、IBRD、IMFなどの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義修了次第、試験となる日程なので、特に毎日復習をすること。

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 /Instructor 川本 充 / KAWAMOTO, Mitsuru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 集中 /Concentration 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法

LAW351M

授業の概要 /Course Description

今日、我々が暮らしている社会は、科学技術の発展により、人、モノ、カネ、情報が、かつてない程、国境を越えて、移動している。そのため、人々の暮らしも、国境を越えて、より高いレベルで、相互依存的となり、グローバル化し、巨大な利益をもたらしている。しかし、一方で、富の格差、開発途上国の人口爆発と先進諸国における人口減少、気候変動（温暖化）、生物多様性の破壊、水不足、衛生などの地球環境問題の悪化や、地域の武力紛争、民族問題、人権侵害、テロリズムなどの社会問題は、依然として深刻なままである。このように、複雑で、多様で、不安定な現代社会において、法は、いかにして形成され、機能し、その役割を果たしているのだろうか。また、どのような問題が存在しているのか。そして、どのような変化が生じているのだろうか。この「現代国際関係法論」の講義は、このような問題意識に基づいて、国際法について理解を深めていくことを目的としている。

「国際法」は、第一義的には、国家間関係を規律するルール、原則、概念のシステムである。そして、その国際法は、次第に、その対象範囲を、国家だけではなく、国際機構、個人、といった多様な主体にまで拡大してきた。国際法は、第二次世界大戦の経験为契机として、急速に発展してきており、今日では、国際社会だけではなく、国内社会にまで影響力をもつものとなってきている。我々が、今日の国際社会をより正確に把握し、理解するためには、国際政治経済についての理解はもちろんながら、国際関係を枠組み、世界秩序を形成する国際法についての理解もまた、極めて重要な一要素となっていると言っても過言ではない。

そこで、本講義「現代国際関係法論」は、前半では、そのような国際法について、まず、「国際法とは何か」という基本概念について紹介し、説明する。と同時に、国際法と国内法の違いや、国際法そのものの法的性質についても取り上げる予定である。そして、そのような国際法が、どのように、形成され、今日のものへと発展してきたかについて、歴史的側面からも概観する。また、国際法の性質については、法学的にも、政治学的にも、理解する必要があるため、国際法学と国際政治学の学際的議論についても紹介する。そして、国際法についての学際的理解を深めた上で、「国際法における国家」、「国際法における国際機構」、「国際法における非国家主体」について整理し、基本的理解を深めていくこととしたい。

また、講義の後半では、今日の国際社会の諸問題について取り上げ、国際法が、これらグローバルな諸問題（グローバルイシューと呼ばれるもの）に、どのように対応し、問題の解決や秩序の形成に貢献しているのか、考え、理解を深めていく機会としたい。講義で取り上げる主なグローバルイシューは、地球環境問題で、特に、オゾン層破壊問題、気候変動問題、生物多様性問題を中心として取り上げ、加えて、人権と環境、貿易と環境、海洋等の問題についても触れていく予定にしている。

本講義では、講義をダイナミックに展開することを目指したいと考えているため、履修者との対話も重視しつつ、国際法、国際環境法への理解を深めていく予定である。

教科書 /Textbooks

授業で配布するレジュメ、文献・資料、条約集

現代国際関係法【昼】

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 石野耕也・磯崎博司・岩間徹・白杵知史編『国際環境事件案内-事件で学ぶ環境法の現状と課題-』信山社、2001年(蔵書なし)
 磯崎博司『国際環境法-持続可能な地球社会の国際法-』(蔵書あり)
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年(蔵書あり)
 Shirley V. Scott, International Law in World Politics: An Introduction, Lynne Rienner Publishers, Inc, 2010. (蔵書なし / 申請済み)
 地球環境法研究会『地球環境条約集』中央法規、2003年(蔵書あり)
 パトリシア・バーニー・アラン・ボイル(池島大作・富岡仁・吉田脩訳)『国際環境法』慶應義塾大学出版会、2007年(蔵書あり)
 松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂、2010年(蔵書あり)
 Marie-Clair Cordonier Segger and Ashfaq Khalfan, Sustainable Development Law: Principles, Practices, & Prospects, Oxford University Press, 2004. (蔵書なし)
 横田洋三編、『国際社会と法-国際法・国際人権法・国際経済法-』、有斐閣、2014年(蔵書なし)
 横田洋三編著『国際機構論』(上)(下)、国際書院、2006年(蔵書なし)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義全体の説明)
 国際法の内容、国際法の史的展開①(国際法とは何か/国際法と国内法の違い)
 第2回 国際法の内容、史的展開②(国際法はどう発展してきたか)
 第3回 国際社会の法と政治(自然法主義、実定法主義、現実主義、自由主義などの国際法観)
 第4回 国際法における国家(主権、国家の成立要件、国家責任)
 第5回 国際法における政府間国際機構(政府間国際機構とは、国連とは)
 第6回 国際法における非国家主体(非政府主体、個人)
 第7回 地球環境問題と国際法①: 国際法は地球環境を守るか?(地球環境法・政策の形成と国際ガバナンス構築の展開)
 第8回 地球環境問題と国際法②: 国際環境法の構造(規制、遵守、履行、紛争解決)
 第9回 地球環境問題と国際法③: オゾン層破壊問題と国際法(オゾン層保護条約とモントリオール議定書)
 第10回 地球環境問題と国際法④: 気候変動問題と国際法①(国連気候変動枠組条約と京都議定書、パリ協定)
 第11回 地球環境問題と国際法⑤: 気候変動問題と国際法①(国連気候変動枠組条約と京都議定書、パリ協定)
 第12回 地球環境問題と国際法⑥: 生物多様性問題と国際法①(ラムサール条約、世界遺産条約、ワシントン条約、生物多様性条約、カルタヘナ議定書、名古屋議定書等)
 第13回 地球環境問題と国際法⑦: 生物多様性問題と国際法②(ラムサール条約、世界遺産条約、ワシントン条約、生物多様性条約、カルタヘナ議定書、名古屋議定書等)
 第14回 地球環境問題と国際法⑧: 地球環境を管理する諸条約とそれらが抱える諸課題について(貿易と環境、有害廃棄物移動の国際的管理、人権と環境、海洋環境ガバナンス、南極レジーム)
 第15回 最終試験
 最終試験(持ち込み可: 条約集、手作りノート)

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験(50%)、日常の授業への取り組み(50%)に基づいて総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目の講義で、講義の全体説明・注意事項を行いますので、必ず出席するようにして下さい。
- ・ 教科書に加えて、自身で、新聞やインターネットを通じて、デスクトップリサーチを行い、学友と情報交換などをお勧めします。(内閣府、外務省、国連広報センター等のホームページなど)
- ・ 講義では、できる限り、皆さんの意見や考えなどを聞き、知識や理解を深めていけたらと考えています。
- ・ 『地球環境条約集』もしくは『国際環境条約集』のいずれかを持参するようにして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学、政治学、国際関係学などの基礎知識を必ずしも必要とするものではありませんが、法学部の二宮正人先生(国際法担当)の国際法の講義に、加えて、国際政治、国際関係論、国際機構論、国際経済論、地球環境論、平和と人権、国際協力論、環境法、地球環境政策論といった関連科目を受講していると、より一層関心を持って授業に参加できると思います。また、「平和とは何か?」、「より良い地球社会を実現するには、一体どうしたらいいのか?」、といった疑問、「世界はいったいどうのようにつくられているのか?」といった疑問をもっている方などにとっては、本講義は、自分自身の何らかの答えを導き出すために有益であるだろうと考えます。そして、将来、政府機関、国連、非政府組織などの国際機関や国際的企業、メディアなど、グローバルな社会で働きたいという意思のある方などには、本講義は、国際社会をより良く理解する、有益な機会となると考えています。もちろん、国際法そのものに関心のある方にも有益であると考えます。

キーワード /Keywords

国際法、国際関係法、国際関係、国際社会、国際機構、グローバルガバナンス、地球環境、持続可能な開発

民法総則【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW180M

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目である。民法だけでなく、すべての法律科目の基本となる科目であるため、法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれる。この講義は、1年生のほとんどが履修することが予想されるため、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明する。この科目を学習することで、法的な分析と論理的な思考により課題を解決する判断力を身につけ、法と社会とのつながりを再確認することができる。毎回、次回に扱うであろう箇所を指示するので、その箇所について図書館蔵書などで予習をすることが望まれ、加えて、授業終了後に、授業で講じた内容を再確認するための復習をすることも望まれる。

教科書 /Textbooks

一般に書店で売られている書籍は教科書として使用しない予定である。詳細は、4月初旬に指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法とは、民法には何が書いてあるか、2, 市民法の基本原理、法令用語
- 2回(週) 3, 【意思能力】、4, 【未成年者】
- 3回(週) 5, 【成年被後見人】他、6, 【無効】と【取消】
- 4回(週) 7, 【法人】概説、8, 法人の理事の行為
- 5回(週) 9, 【物】、10, 【法律行為】概説、慣習
- 6回(週) 11, 法律行為の有効要件、12, 【公序良俗】
- 7回(週) 13, 【心裡留保】、14, 【虚偽表示】
- 8回(週) 15, 【錯誤】、16, 【詐欺・強迫】
- 9回(週) 17, 不動産登記との関係、18, 意思表示の到達
- 10回(週) 19, 【代理】、20, 【無権代理】概説
- 11回(週) 21, 無権代理と相続、22, 【表見代理】
- 12回(週) 23, 【条件】、【期限】、24, 【期間】
- 13回(週) 25, 【時効】概説、26, 【取得時効】
- 14回(週) 27, 取得時効と登記、28, 【消滅時効】
- 15回(週) 29, 【除斥期間】、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 % の予定(詳細は6月中に掲示する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法総則【昼】

履修上の注意 /Remarks

六法（最新版）は必ず持参すること。有斐閣の『ポケット六法』が最も信頼でき、お勧めである。
俗に言う「レジユメ」等は、一切、配布しない。板書も、極力、行わない。本当に学びたいのであれば、担当者が講じたことを、自分の手でひたすらノートに筆記すること。
授業中の写真撮影や録音は厳禁である。
さらに、上記「授業の概要」の項目を参照のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

民法総則

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、担保物権を除いた部分（物権総則、占有権、所有権、用益物権）について、判例・学説の解説を中心に講義を行う。全15回の講義を通して、物権法に関する基本的な法解釈の能力を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第3版補訂）』（有斐閣Sシリーズ 平成22年） 本体1900円＋税
このほか、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 総則・物権（第7版）』（有斐閣 平成27年） 本体2100円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習を行う必要はないが、授業終了後は必ず復習を行い、理解を定着させること。
民法総則の講義科目を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように、必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

物権法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業終了前に質問時間を設けるので、分からないことは放置せず、積極的に質問して欲しい。

キーワード /Keywords

民法 物権

債権総論 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論

LAW263M

授業の概要 /Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生している。(例えば、スーパーで買い物をした場合など)。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について講じる。債権総論分野の諸問題・諸課題について学習することで、法的な分析や論理的思考に基づいて、解決方法を提示することができるようにならねばならない。また、債権総論分野の諸問題を学習することで、民法と(現代)社会とのつながりも再確認できるはずである。
近時、債権法の改正が私法の専門家の間で話題となっており、法務省案が出されるに至っている(2015年3月31日)。これは近々、可決されることが予想されており、これを学ばないわけにはいかない。しかし、施行は3年くらい先と予想されているため、現行民法をきちんと学ぶことも重要である。両にらみで学ぶ必要がある。
この科目は、そもそも履修しなくても十分、卒業できる専門科目であるので、非常にハイレベルな講義とする。万が一、この科目を履修したいならば、下記の教科書を購入すること。

教科書 /Textbooks

潮見佳男『プラクティス民法 債権総論(第4版)』(信山社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, 民法典の債権編の概観、2, 債権とは何か(物権との違い)
- 2回(週) 3, 債権に基づく妨害排除請求の可否、4, 債務と責任
- 3回(週) 5, 種類債権、6, 利息債権
- 4回(週) 7, 履行の強制、8, 債務不履行(履行遅滞)
- 5回(週) 9, 債務不履行(履行不能)、10, 債務不履行(不完全履行)、安全配慮義務
- 6回(週) 11, 債務不履行の現代的問題(範囲の拡張等)、12, 損害賠償の範囲
- 7回(週) 13, 損害賠償の調整、14, 受領遅滞
- 8回(週) 15, 債権者代位権、16, 債権者代位権の転用
- 9回(週) 17, 詐害行為取消権の法的性質・要件、18, その効果
- 10回(週) 19, 債権の消滅一般、弁済、20, 債権の準占有者に対する弁済
- 11回(週) 21, 相殺の要件、22, 差押えと相殺
- 12回(週) 23, 債権の譲渡性、24, 債権譲渡の対抗要件
- 13回(週) 25, 異議を留めない承諾、26, 多数当事者の債権関係
- 14回(週) 27, 連帯債務、28, 保証債務
- 15回(週) 29, 債権法改正のその他の議論、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

持ち込み一切不可の定期試験(60分).....100% の予定

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

債権総論【昼】

履修上の注意 /Remarks

俗に言うレジユメ等は、一切、配布しないし、板書もしないので、とにかく自分で、ノートや教科書に担当者が話したことを書くべきである。「民法総則」及び「物権法」が履修済である方が、理解しやすい。また、「債権各論」、「担保物権法」、家族法（親族・相続）も併せて学習することを勧める。
受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正

債権各論【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 債権各論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 債権各論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権各論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権各論

LAW262M

授業の概要 /Course Description

わが国の民法典は、その第三編 債権 第二章～第五章（民法521条～724条）において、「債権の発生原因」である、①契約、②事務管理、③不当利得、および④不法行為に関する諸規定を設けている。本講義のねらいは、これら①～④の法制度の基本構造およびこれらの法制度を定める重要条文に関わる解釈（論）について、要点を絞った解説を加えることで、「債権の発生原因」であるこれらの法制度が現代社会において、どのような機能を実際に果たしているかについて、理解を深めてもらうことにある。とりわけ、我々の日常生活の一部を形成している「契約（たとえば、コンビニでお菓子を1袋買ったということは、お菓子1袋についての売買契約が締結され、そこから発生する債務（お菓子1袋の引渡しと代金の支払い）が履行されたということになる。）」および現代社会において不可避免的に発生する「不法行為（たとえば、交通事故が代表例。）」の解説（判例〔最高裁判所や大審院がその判決理由の中で定立した規範〕・学説の解析）に重点を置く。

なお、現在、わが国では「民法の一部を改正する法律案」が国会において審議中である。本法案は、今度中に可決される見通しが高い（ただし、「施行」段階までにおそらく達しないであろう）。よって、本講義では、適宜、「民法の一部を改正する法律案」の概略にも言及する予定である。だが、あくまでも、「現行法」の解釈（論）にしっかりと軸足を置いて講義を進めたい。

教科書 /Textbooks

①堀田泰司ほか（編著）『債権法各論 [スタンダード民法シリーズIV]』（嵯峨野書院、※2016年4月頃刊行予定）

※定価は、3,000円（+税）前後の予定。

②中田裕康＝窪田充見（編）『民法判例百選II 債権 [第7版]（別冊ジュリスト224号）』（有斐閣、2015年）；定価（2,200円+税）

③最新版（年度）の小型六法

※上記「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、講義の際に配布するレジユメの【文献案内】欄で紹介する。

債権各論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※レジュメを配布するが、教科書等での予・復習は必須である。レジュメはあくまで補助教材であることに注意すること。

第1回：序論（債権各論で学ぶこと、債権の発生原因としての契約、事務管理、不当利得、および不法行為）

第2回：契約総論①；序説（契約の意義・社会的機能、契約自由の原則とその制限、契約の種類・分類）

第3回：契約総論②；契約締結上の過失、申込みと承諾の合致、事情変更の原則（法理）

第4回：契約総論③；同時履行の抗弁（権）

第5回：契約総論④；同時履行の抗弁（権）に関連する最高裁判決の検討

第6回：契約総論⑤；危険負担（存続上の牽連性、債務者主義と債権者主義）

第7回：契約総論⑥；危険負担（債権者主義危険負担の問題点など）

※なお、時間があれば、適宜、「民法の一部を改正する法律案」の内容についても略説を加える予定。

第8回：契約総論⑦；第三者のためにする契約

第9回：契約総論⑧；契約の解除（意義、要件）

第10回：契約総論⑨・完；契約の解除（要件のつづき、効果）

第11回：契約各論①；契約の分類の復習、贈与、交換

※「契約各論」部分については、講義の進捗状況との関係で、基本事項の予習を前提とした「論点講義」に切り替える可能性があることを付言しておく。

第12回：契約各論②；売買（意義・成立要件、予約、手付）

第13回：契約各論③；売買（担保責任概説）

第14回：契約各論④；売買（瑕疵担保責任・詳論）

第15回：契約各論⑤；消費貸借（民法上の規定を中心に）

第16回：契約各論⑥；消費貸借（利息制限法など特別法、業法を中心に）、使用貸借

第17回：契約各論⑦；賃貸借（民法上の規定を中心に）

第18回：契約各論⑧；賃貸借（借地借家法概説）

第19回：契約各論⑨；請負

第20回：契約各論⑩；委任、雇用

第21回：契約各論⑪・完；寄託、組合、終身定期金、和解

第22回：法定債権関係入門；事務管理を中心に

第23回：法定債権関係①；不当利得（給付利得、侵害利得、非債弁済）

第24回：法定債権関係②；不当利得（不法原因給付、転用物訴権）

第25回：法定債権関係③；不法行為（不法行為制度の目的、一般的不法行為の要件〔序論〕）

第26回：法定債権関係④；不法行為（一般的不法行為の要件のまとめ、不法行為の効果〔序論〕）

第27回：法定債権関係⑤；不法行為（一般的不法行為の要件のまとめ、不法行為の効果〔序論〕）

第28回：法定債権関係⑥；不法行為（不法行為の効果～損害賠償の範囲を中心に～、過失相殺など）

第29回：法定債権関係⑦；不法行為（特殊的不法行為：使用者責任、工作物責任、共同不法行為など）

第30回：法定債権関係⑧・完；不法行為（特殊的不法行為の残りの部分）および「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

※期末定期試験の成績【80分間・論述式】……70%

※レポート…30%【4,000字程度】

【注意！】いわゆる「一夜漬け」の類による単位取得は100%不可能と心得よ。「法的思考」を常に働かせること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「予習・復習」を常に心がけること。予習事項としては、教科書①の頁をあらかじめ指示（レジュメ記載）するので、次の講義時までには熟読してくること。復習事項としては、レジュメ記載の「復習」コーナーに掲載した簡単な一行問題を解いてくること。

なお、「民法総則」を履修済みであれば、本講義の理解はより確実なものとなろう。さらに、「物権法」も併せて履修すれば、本講義の理解が一層深まるであろう。逆に、「民法総則」をまったく学習していない場合、本講義の理解はきわめて困難なものとなろう。よって、自学習でもよいから、「民法総則」の内容全般をフォローしておくことを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オフィス・アワー等を利用して、積極的に質問をして下さい。また、教科書（基本書）選びも勉強の内。上記指定教科書以外にも、図書館蔵書や書店等で、「債権各論」の様々な文献を紐解いてみよう！

キーワード /Keywords

債権の発生原因、契約、事務管理、不当利得、不法行為、「民法の一部を改正する法律案」

親族法 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 2007年 3,000円
水野紀子他編著『民法判例百選III親族・相続』有斐閣 2015年 2,286円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 泉久雄『親族法』有斐閣 1997年 3,500円
- 泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 2005年 2,625円
- 窪田充見『家族法』有斐閣 2011年 4,000円
- 中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 2000年 6,000円
- 有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 2005年 3,800円
- 二宮周平『家族法(第3版)』新世社 2009年 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
- 3回 婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
- 4回 婚姻制度③【婚姻の効果】
- 5回 離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
- 6回 離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
- 7回 離婚制度③【離婚の一般的效果】【親権者決定】【面会交流】
- 8回 離婚制度④【離婚の財産的效果】【財産分与】
- 9回 親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
- 10回 親子制度②【養子】
- 11回 親子制度③【親権】【後見】
- 12回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 13回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【相続財産】
- 14回 法定相続制度②【単純承認】【相続放棄】【遺産分割】
- 15回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 定期試験... 80%

親族法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義に臨む際は、事前に教科書の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。
「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」「債権各論」を履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法総論

LAW286M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する基本的な知識について解説する。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- ① 民事訴訟法の基本的構造を理解するために必要な専門的知識を修得できる。
- ② 民事訴訟法についての原則、重要単語を理解することができるようになる。
- ③ 民事裁判についての手続構造を理解することができるようになる。
- ④ 修得した知識により、簡易裁判所で民事裁判を自ら提起できるようになる。

教科書 /Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民事訴訟法総論【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献等を利用しての授業の予習、配布プリントを利用しての復習をかかさないようにすること。
民法の知識を修得していることが望ましい。
民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的かつ自主的な学習を期待します。

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法各論

LAW267M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する重要な問題（重要な判例があるもの、学説が対立しているもの）について学習します。
民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度です。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- ① 民事訴訟法についての法的な問題点を見出すことができるようになる。
- ② 問題解決に必要な判例・学説を分析、整理できるようになる。
- ③ 具体的な解決方法について、自ら考えることができるようになる。
- ④ 学習した知識を将来の社会生活で実践できるようになる。

教科書 /Textbooks

石川明編「みぢかな民事訴訟法」（不磨書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------|--------------------------|
| 1回 | 当事者について | 【当事者】 |
| 2回 | 代理人について | 【法定代理人】、【任意代理人】 |
| 3回 | 裁判所について | 【管轄】、【民事裁判権】 |
| 4回 | 訴えの提起I | 【訴えの種類】 |
| 5回 | 訴えの提起II | 【二重起訴】 |
| 6回 | 口頭弁論I | 【訴訟要件】、【処分権主義】 |
| 7回 | 口頭弁論II | 【弁論主義】、【主要事実】 |
| 8回 | 訴訟行為I | 【訴訟上の合意】、 |
| 9回 | 訴訟行為II | 【訴訟行為の性質、効果】 |
| 10回 | 証拠I | 【自白】 |
| 11回 | 証拠II | 【違法収集証拠】 |
| 12回 | 判決I | 【既判力の時的限界】、【口頭弁論終結後の承継人】 |
| 13回 | 判決II | 【既判力の客観的範囲】、【訴訟の終了】 |
| 14回 | 上訴 | 【上訴の利益】 |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民事訴訟法各論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「民事訴訟法総論」を履修しておくこと。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要である。
- ・ 授業の進行状況等により、授業スケジュールが前後することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倒産処理法制度の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える倒産処理法制度上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倒産処理法

LAW382M

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人間の利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義を受講することにより、倒産処理の中心となる破産法についての知識を得ることができます。

この授業の主な到達目標は以下のとおりです。

- 1 倒産処理の基本的な法的手続構造を理解できるようになる。
- 2 倒産処理についての専門用語が理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第9版]』 (法学書院) 2014年 2808円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使I 【否認権】
- 9回 否認権の行使II
- 10回 取戻権の行使 【取戻権】
- 11回 双務契約の処理 【売買契約】
- 12回 賃貸借契約、雇用契約等の処理 【賃貸借契約】、【雇用契約】
- 13回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 14回 民事再生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自主的にテキストを使った予習、講義ノートを使った復習をしてください。
進行状況等により、講義スケジュールが前後することがあります。

倒産処理法 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事執行法【昼】

担当者名 /Instructor 堀野 出 / HORINO Izuru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事執行法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事執行法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事執行法

LAW363M

授業の概要 /Course Description

民法等の法に定められている権利が存在している場合であっても、義務者（債務者）が義務の履行を拒むことがある。このような場合において権利の実現をはかるには、法的手続にもとづいてされなければならないが、その手続を定めているのが民事執行法である。すでに学習した民事訴訟法（民事訴訟手続）は、民事執行法（民事執行手続）からみれば、強制的実現がなされる権利を確定する目的・性質を有する手続である。

本授業は、権利の強制的実現・救済を図る民事執行手続の概要と個別的な重要問題を概説するものである。

なお、民事訴訟・民事執行による確定的な権利の実現・救済に対して、民事保全法は緊急を要する場合の仮の（暫定的な）権利の救済（仮差押え・仮処分）を定めるものであるが、これについても、余裕があるかぎりでも言及し解説する予定である。

教科書 /Textbooks

中野貞一郎『民事執行・保全入門（補訂版）』 有斐閣 2013年 ¥2,100

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

上原敏夫・長谷部由起子・山本和彦『民事執行・保全判例百選（第2版）』 有斐閣 2012年 ¥2,200

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事執行手続の意義と概要 -民事訴訟手続との関係-
- 第2回 強制執行の要件 -債務名義と執行文-
- 第3回 執行に対する救済 -請求異議訴訟を中心に-
- 第4回 執行力の範囲
- 第5回 責任財産と第三者異議訴訟
- 第6回 金銭執行総論・不動産執行(1)【差押え】
- 第7回 不動産執行(2)【換価(強制競売・強制管理)】
- 第8回 不動産執行(3)【配当手続】・動産執行
- 第9回 債権執行(1)【差押え】
- 第10回 債権執行(2)【換価(取立て・転付)と配当】
- 第11回 非金銭執行
- 第12回 担保権の実行手続(1)【抵当権の実行を中心に】
- 第13回 担保権の実行手続(2)【物上代位権の実行】
- 第14回 民事保全(1)【民事保全の概要・仮差押え】
- 第15回 民事保全(2)【仮処分】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、小テスト等：20%、日常の授業への取り組み：10%の割合によって成績評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民事執行法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

民事訴訟法総論・各論、民法（債権総論、担保物権法）を履修済みであるか、並行して履修していることが望ましい。
予習・復習その他正規の授業時間以外の学習にも主体的に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民事執行法のような手続法には、小難しくて無味乾燥な印象を持たれるかもしれませんが。講義でも専門的な用語を用いて説明することになりますが、その用語の意味さえ理解できていれば、それほど難しい内容ではありませんので、その点に留意しつつ受講してください。

キーワード /Keywords

債務名義、執行文、請求異議の訴え、第三者異議の訴え、差押え、強制競売、取立訴訟、転付命令

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』という法体系の中から、特に、「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関する重要な法律問題（課題）をいくつか取り上げ、これらにつき法解釈論上ならびに立法論上の解説を行うことです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

以上を通して、現代型企業ビジネスが抱えている問題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることが最終目標となります。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度・順番が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 民法に対する商法の特徴は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 第3回 企業活動と消費者(1) 【普通取引約款の利用】
- 第4回 商人とは何か【固有の商人】【擬製商人】【会社】
- 第5回 商行為とは何か【絶対的商行為】【相対的商行為】【附屬的商行為】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(1) 【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(2) 商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(3) 不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール(4) 名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度【フランチャイズ】【ショッピングモール】
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(1) 【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(2) 【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題(3) 【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業活動と法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1, 本講義が対象とする「商法」は, 私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を, ビジネス世界により適合するように, 補完・修正したものです。従って, 民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか, または, 並行して受講する場合は, 本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
- 2, 配布される資料は, 必ず, ファイリングした上で, 前回以前に受領したものも持参の上, 講義を受けるようにしてください。配布済レジюмеや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。
- 3, 欠席した場合には, 教員研究室前に置かれている残余分レジюмеを受領しておいてください。
- 4, 授業中に配布されるレジюмеには予習すべき教科書の箇所や復習問題, レポート提出課題などが掲載されていますので, よく読んで, 主体的な予習・復習を心がけて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法I

LAW270M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督、経営者の義務・責任等に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の設立
- 6回 株式と株主の権利
- 7回 株式会社の機関(1)【株主総会】
- 8回 株式会社の機関(2)【取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(3)【代表取締役】
- 10回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】【社外取締役】
- 11回 株式会社の機関(5)【指名委員会等設置会社】【監査等委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(6)【善管注意義務と忠実義務】【役員報酬】
- 13回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(8)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。
受講期間を通して予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会社法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会社法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会社法Ⅱ

LAW271M

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を理解することを目的とします。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の発行】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【株式発行の瑕疵】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【株式の譲渡】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【自己株式】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【新株予約権発行の瑕疵】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】【資本金・準備金の減少】
- 11回 株式会社の解散・清算
- 12回 株式会社の組織再編(1)【概要】【合併】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【事業譲渡】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【株式交換】【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。
受講期間を通して予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅰ

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。
また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。
火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。
また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

教科書 /Textbooks

初回講義時に指示します。
六法については、最新版であることが望ましいです。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の理解の度合い等により進度順番が変わる可能性につきご了承ください。
(【 】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務(1)告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務(2)告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務(3)告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務(4)事例研究とまとめ
- 第9回 保険契約における事情変更・失効
- 第10回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第11回 損害保険契約 【保険代位】
- 第12回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第13回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第14回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、授業の理解度を把握するために不定期に実施する小テスト等の結果20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業取引法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- 1, 配布される資料は、以後の講義のために事前に配付されるのが通例です。従って、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領した資料レジユメについても持参の上、講義を受けるようにしてください。
- 2, 欠席した場合、配付済レジユメ等は講義担当者の研究室横の棚にスタックされています。各自の責任において入手するようにしてください(残余部数には限りがあります)。配布済レジユメや裁判例プリントなどを持参しないで受講すると授業の理解度が著しく低くなります。
- 3, 授業中に配布されるレジユメには予習すべき教科書の箇所や復習問題、レポート提出課題などが掲載されていますので、よく読んで、主体的な予習・復習を心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
- 2, また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠償保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅱ

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただいだけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍見他「商法III - 手形・小切手〔第4版〕」（有斐閣Sシリーズ・2011年）2,100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」（新世社・2005年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法務研究会・2003年）。
- ②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

企業取引法II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である（手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（できれば最新の）六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券 企業決済 企業金融

証券市場と法 【昼】

担当者名 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融商品取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	金融商品取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場と法

LAW370M

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落にとどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。近年でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件であった。続いてギリシャ国債等のデフォルト危機は、EUばかりでなく、世界経済全体を揺さぶった。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題（粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等）を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分（第1回～第4回）の後、情報開示（第5回～第9回）、市場規制（第10回～第11回）および投資勧誘規制（第12回～第15回）まで、全体で4部構成である。

教科書 /Textbooks

栗原脩「金融商品取引法入門」（金融財政事情研究会・2013年）2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦郎「金融商品取引法入門（第4版）」（商事法務研究会・2015年）、河本一郎＝大武泰南他「新・金融商品取引法読本」（有斐閣・2014年）、松尾直彦「金融商品取引法（第3版）」（商事法務研究会・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の暴落で大損した人あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引法】
- 第2回 金融商品とは何か? (1) 【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か? (2) 【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1) 【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2) 【内部統制システム、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた! 【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた! 【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか? (1) 【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか? (2) 【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか? 【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしているか? (1) 【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしているか? (2) 【説明義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしているか? (3) 【金融庁、証券取引等監視委員会】

証券市場と法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を受ける前に教科書・講義レジュメを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみること（プロセス）が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である（金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...）。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、（金融商品取引法は毎年のように改正されるので）最新の六法（但し、コンパクトなものでよい）を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュリティイゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 証券市場 適合性原則 説明義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法の現代的展開

LAW371M

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱い、特許法領域については職務発明等の知財管理で要点となる部分のみを扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

判決文を木村研究室ホームページから配信します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣別冊ジュリスト「著作権判例百選」
鹿毛文司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ～複製権、上演権及び演奏権、上映権、公衆送信権、口述権、展示権、頒布権
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ～譲渡権、貸与権、翻訳権・翻案権等、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
11. 音楽産業と契約実務
12. 映画産業と契約実務
13. 放送事業と契約実務
14. 商標権侵害・不正競争行為
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価は、毎時間実施する小テスト(小レポート)計15回分の累積で行う。出席は成績評価の欠格要件とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業法の現代的展開 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>
単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
メールアドレス kimlab01@gmail.com
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 出水 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

日本国も含め、いわゆる「先進国」の圧倒的多数は、自由民主主義 (Liberal Democracy) に分類される政治体制です。この講義では、自由民主主義における政治について、みなさんが主体的に関われるようになるための、前提知識を身につけてもらいます。またグローバル化の影響の下、国境を前提とした政治の理解が、変わらざるをえない現状についても、説明を加え、これからの政治を考える視点を身につけてもらいます。講義は、一般的な講義形式で、パワーポイントスライドを利用しながらおこないます。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定しません。
ただ、レポートには課題図書が設定されます。きちんと入手できるよう、余裕をもって、お知らせします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の参考とした図書、参照すべき図書については、講義のなかで、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：私たちは、なぜ政治から逃れられないのか？
- 第2回 政治を考える前提としての私たちのあり方 (1) 【共同性】 【有限性】 【後発的近代化】
- 第3回 政治を考える前提としての私たちのあり方 (2) 【権力】
- 第4回 古代ギリシアの遺産：都市国家と政体論 【古典デモクラシー】 【政体論】 【有機体モデル】
- 第5回 古代ローマの遺産：帝国モデルの起源 【帝国】 【普遍世界】 【市民権】 【共和政】
- 第6回 「主権」と「個人」の登場 【主権】
- 第7回 自由主義の起源：市民革命と近代憲法 【古典的自由主義】 【機械論モデル】 【国民国家】
- 第8回 社会主義の挑戦 【社会主義】 【政党】
- 第9回 総力戦体制と自由民主主義の形成 【大衆政党】 【民主主義】
- 第10回 冷戦と自由民主主義 【福祉国家】 【利益過程】 【大衆政党】
- 第11回 新自由主義の挑戦 【新自由主義】
- 第12回 グローバル化の政治的意義 【グローバル化】 【ICTの影響】
- 第13回 グローバルジャスティスは可能か？ (1) 【ローカル化】 【グローバルジャスティス】 【主権国家のゆらぎ】
- 第14回 グローバルジャスティスは可能か？ (2) 【ローカル化】 【グローバルジャスティス】 【主権国家のゆらぎ】
- 第15回 まとめにかえて：「消費者」から「主権者」へ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義カード (30%)、最終試験 (70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政治学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

高校程度の世界史の知識があることが望まれます。高校で世界史を履修しなかった人は、世界史を西洋中心であらかじめ自習しておいてください。
また、各回についても、その都度、予習として世界史の該当時期について知識を確認しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関する体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成25年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） ：簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	食と農～健康の源＝自らの食を見直そう	【食農】
第8回	上水道 : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第9回	下水処理をめぐって～下水処理の原理	【水質汚濁】
第10回	大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？	【大気汚染】
第11回	大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定	【CO2計測】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々＝ エコツーリズムに関わろう！	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

都市環境論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勤めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全是楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ

日本政治論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論

PLS110M

授業の概要 /Course Description

数年前までは崩壊寸前だった自民党が、今や無類の「強さ」を誇っているのはなぜなのだろう。逆に、歴史的な政権交代を果たした民主党（現・民進党）が未だ復調できないのはなぜなのだろう。一定の期待を受けているにも関わらず、維新の会が分裂を繰り返すのはなぜなのだろう。本講義では、こうした日本政治のパズルを解く鍵として、「イデオロギー」の役割に着目します。一般的に「右派と左派」「保守と革新」で表現されるイデオロギーは、いわば「政治を見るモノサシ」を意味します。イデオロギーは、政治家と世論が相互に影響し合いながら、時代に応じてその意味を変化させるのです。本講義では、「イデオロギーの変遷」の視点から戦後日本政治の構造とそれが形作られてきた社会的背景との関係を概説します。そのため、本講義では①戦後日本のイデオロギー概念の変遷、②戦後日本では政治家と有権者はいかなる対応関係を有していたのかを説明します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

蒲島郁夫・竹中佳彦(2012)『イデオロギー』東京大学出版会。
石川真澄・山口二郎(2010)『戦後政治史 第三版』岩波新書。
山田真裕(2016)『政治参加と民主政治』東京大学出版会。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 政治を見る「ものさし」：【イデオロギー】【保革】【日本国憲法】
- 3回 日米安保とイデオロギー 【占領政策】【日米安保】【55年体制】
- 4回 高度経済成長とイデオロギー 【経済政策】【学生運動】【もはや戦後ではない】
- 5回 革新自治体とイデオロギー 【革新勢力】【市民の台頭】
- 6回 多様化する政党とイデオロギー 【公明党】【環境権】【包括政党】【福祉政策】
- 7回 新自由主義とイデオロギー 【第二次臨調】【サッチャリズム】【小さな政府】
- 8回 ポスト冷戦とイデオロギー 【脱イデオロギー】【非自民政権】【政治腐敗】
- 9回 バブル崩壊とイデオロギー 【失われた20年】【選挙制度改革】【無党派層】
- 10回 萌芽する「改革」イデオロギー 【小泉改革】【自民党の集票構造】【規制緩和】
- 11回 政権交代とイデオロギー 【古い自民党】【民主党】【みんなの党】
- 12回 「回帰する保守」と自民党 【アベノミクス】【憲法改正】【不安定化するアジア】
- 13回 「リベラル」へ進む民進党 【野党共闘】【アベ政治を許さない!】【格差是正】
- 14回 「改革」を旗印とする維新の会 【おおさか維新の会】【地方分権】【既得権益】
- 15回 市民の中のイデオロギー 【SEALDs】【労働組合】【日本会議】【右傾化】

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 期末試験：85% ・ 日常授業への取り組み：15%

日本政治論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。
「日本政治論」は、具体的な日本の政治過程や構造の紹介を重点的に取り扱います。こうした実際の現象に関する理論的な位置付けについては「政治過程論」で詳しく説明しますので、併せて受講することが望ましいです。
また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の性格の大部分は、どのような生活を送ってきたかに依存すると言われます。(私を含む)みなさんの中で「今の自分は完璧で性格を変える必要はない!」と胸を張っていえる人はそれほど多くないと思います。しかしそれでも、よりよくなるように前に進んでいくものです。日本政治も同じです。今の日本政治の性格も、「これまでの政治」の何を反省し、どのような過ちを繰り返しているのかを知らずして理解することはできないはずです。本講義を通じて、ぜひ一緒に日本政治の「性格診断」を試みましょう。

キーワード /Keywords

日本政治・イデオロギー・自民党・民進党・維新の会

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学

PA0100M

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣
- 真淵勝 (2009) 『行政学』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
- 5回 行政学史①【官僚制の理論】
- 6回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
- 7回 行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
- 8回 行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
- 9回 行政統制①【行政の責任】【FF論争】
- 10回 行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
- 11回 行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
- 12回 行政統制④【政治的任命職】
- 13回 行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
- 14回 「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
- 15回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政、国家、ガバナンス、公務員制度、民主主義

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 本年から『北九州NPOハンドブック』第6版の作成を本格的に始めますので、興味のある方はぜひご参加ください。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック [第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(1)
- 11回 第5回講演会
- 12回 環境NPO(2)
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 15回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行について説明しますので必ずご参加ください。
それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジюме等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

政策構想論 【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論

PLC110M

授業の概要 /Course Description

政策構想とは、社会の諸問題に政策を通じて適切に対処するために、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」を構想することです。履修者が自分自身の価値観に立って自分自身の政策構想を作り上げるための基礎力を身に付けることが、最終的な授業の目的です。授業では、まず、政策と価値はどのように関わっているのかを学びます。その上で、現代の政策の価値理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策構想が可能かを考えていきます。なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムなどの価値理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策構想とは何か
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策構想
- 第4回 デモクラシーと政策構想
- 第5回 功利主義と政策構想
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 コミュニタリアニズムの基礎理論 【負荷なき自己と共同体】
- 第13回 日本の格差：正規・非正規雇用
- 第14回 格差問題への政策構想
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

政策構想論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 秦 正樹 / HATA Masaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論	PLS210M
-------	---------

授業の概要 /Course Description

政治家が政党に所属したり、あるいは離党したりするのはなぜなのか。有権者はなぜ、投票に行く（行かない）のか。マスメディアが特定の政治家を批評するのはなぜなのか。本講義では、こうした諸アクターが「政治」を動かす際の意思決定のメカニズムについて説明します。具体的には、①「scienceとしての政治学」の視点から政治文化や政治制度の重要性について説明した上で、②諸アクターの政治的な意思決定のメカニズムについて検討します。また本講義を通じて、民主主義が成立するための条件に関する理解を深めることを目指します。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せず、毎回、レジュメを作成し配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木寺元編 (2016) 『政治学入門』弘文堂。
砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩』有斐閣ストウディア。
久米郁男 (2013) 『原因を推論する：政治学方法論のすゝめ』有斐閣。
砂原庸介 (2015) 『民主主義の条件』東洋経済新報社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【民主主義】【規範理論】【実証】
- 2回 Scienceとしての政治学(1) 【因果関係】【相関関係】【変数】【反証可能性】
- 3回 Scienceとしての政治学(2) 【3つのI】【文化】【合理的選択】
- 4回 政治制度(1) 【選挙制度】【デュベルジェの法則】
- 5回 政治制度(2) 【大統領制】【議院内閣制】【議会の類型】
- 6回 政治家と政党(1)【再選・昇進・政策】【議員行動】【集合行為問題】
- 7回 政治家と政党(2)【ダウンズモデル】【政党システム】【離党と新党】
- 8回 政官関係【政治主導】【官僚主導】【本人—代理人理論】【エージェンシー・スラック】
- 9回 政治文化【政治的社会化】【政治意識】【ソーシャルキャピタル】
- 10回 政治参加と選挙(1)【投票参加】【投票外参加】【投票義務感】
- 11回 政治参加と選挙(2)【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 12回 政治参加と選挙(3) 【圧力団体】【コーポラティズム】【NPO / NGO】
- 13回 マス・メディア(1)【強力効果論】【限定効果論】【プライミング理論】
- 14回 マス・メディア(2)【ソフトニュース】【SNS】【テレポリティクス】
- 15回 まとめ 【選挙制度改革】【18歳投票権】【シルバーデモクラシー】

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 期末試験：85% ・ 日常授業への取り組み：15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政治過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「政治学」をすでに履修している場合、本講義の理解がより深いものになります。
「政治過程論」は、政治学におけるモデルやメカニズムの紹介を重点的に取り扱います。これらのモデルが日本政治においていかなる意味を持つかについては「日本政治論」で詳しく説明しますので、併せて受講することが望ましいです。
また、予習や復習、授業時間以外でも各自が主体的に学習に取り組むようにしてください。とくに新聞やテレビなどで政治のニュースに積極的に触れるように心がけましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政治学は「いろいろな意見をうまくまとめる方法」を教えてくれる学問分野です。シラバスを見て難しそうと感じる人もいるかもしれませんが、授業計画の「政治」の部分をあなたが所属する集団（たとえばクラブやサークルなど）に置き換えてみると、授業で扱う内容もずっと身近に感じるのではないでしょうか。「政治」と聞いて食わず嫌いにならず、ぜひ一緒に勉強してみましょう！

キーワード /Keywords

民主主義の条件・政治制度・政治文化・実証政治学

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第9回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。
確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉国家論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

年金や医療のしくみについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

西洋政治史 【昼】

担当者名 /Instructor 西 貴倫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

授業の概要 /Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国の政治的経験を概観する。
具体的には、市民が政治の主体となる民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら、通時的に検討していく。

教科書 /Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊（2,000円＋税）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊（1,080円＋税）。
- 篠原一『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊（3,200円＋税）。
- P・ピアソン著、粕谷祐子監訳『ポリテイクス・イン・タイム—歴史・制度・社会分析』ポリテイクス・サイエンス・クラシックス5、勁草書房、2010年4月刊（3,600円＋税）。

その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主権国家の形成
- 第3回 自由化と民主化（1）—英国の経験
- 第4回 自由化と民主化（2）—米仏の経験
- 第5回 自由化と民主化（3）—独伊の経験
- 第6回 産業発展と階級対立
- 第7回 社会政策と帝国主義
- 第8回 第一次大戦と大衆動員
- 第9回 オルタナティブの模索（1）— Kommunismus
- 第10回 オルタナティブの模索（2）— Faschismus
- 第11回 第二次世界大戦と米ソ冷戦
- 第12回 冷戦下の西洋（1）—西側の経験
- 第13回 冷戦下の西洋（2）—東側の経験
- 第14回 欧州統合—脱主権国家の試み？
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験（100％）でおこなう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

西洋政治史 【昼】

履修上の注意 /Remarks

各回の受講にあたっては、教科書の該当箇所を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。
初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増している。本講義は、都市の経済的側面を軸としながらも、近年の都市論の動向を踏まえ、地域経済の視点や経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市政策との関係性にも言及したい。

講義では、まず、現代の都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深める。次に、地域経済が活性化するとはいくどのようなことか、域内産業の特性との関連で見ていく。さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げる。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
- 中筋直哉[2013]『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房
- 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論
- 小長谷一之[2005]『都市経済再生のまちづくり』古今書院
適宜講義の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか？
6. 都市空間の形成
7. 都市の成長と衰退① - 都市の構造、郊外化
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化のしくみ① - 域外マネーの獲得
10. 地域経済活性化のしくみ② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート（毎回実施します）60%、期末試験40%

都市経済論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業開始までに学習支援フォルダにレジユメをアップしておきますので、プリントして事前学習をしておいてください。授業終了後は、レジユメに基づき反復学習を行ってください。
- ・ 遅刻、私語、飲食など他の受講生の迷惑になる行為は厳禁とし、状況次第で退室を命じます。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」を専門としています。「地方創生」の理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略性の洞察は不可欠です。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにしたい。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えている。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 ダストレスチヨークと障害者
- 5回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 6回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 7回 子どもの貧困（3）・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 8回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 9回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策
- 10回 循環型社会（1）・・・リサイクルは環境に優しいのか？
- 11回 循環型社会（2）・・・ペットボトルのリサイクル
- 12回 介護保険（1）・・・導入
- 13回 介護保険（2）・・・現状分析
- 14回 介護保険（3）・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険（4）・・・介護保険の改革

公共政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加すること。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うこと。
本年度は授業内容を変更（例えば、「循環型社会」を「人間関係資本」、「日本版CCRC」、「下流老人」等の問題に変更）する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加していただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので必ず授業に出席するようにしていただきたい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、（日本版CCRC）

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講

PLS213M

授業の概要 /Course Description

政策は、社会問題に対する解決策として定義されます。政策に関する知識、政策についての研究の進め方、政策をめぐる議論のあり方を理解し習得することは、社会が直面する問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かすことができません。そこで、本講義は、政策が必要とされる要因、政策を取り巻く環境や政策の捉え方の変化等を概説することから始めます。そのうえで、政策について研究するのは如何なる活動なのかに焦点を当てます。最後に、現代社会において議論が有する重要性を描出し、政策に関する議論のあり方に論及します。本講義の到達目標は、政策に関する基礎的な概念等を理解することと、社会問題を発見し、その問題に対する解決策を考案・評価するために欠かせない社会科学的視点を習得することです。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第一回授業で紹介・説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01. イントロダクション—政策とは？政策分析とは？
02. 政策について考える①—問題解決策としての政策
03. 政策について考える②—政策を取り巻く環境
04. 政策について考える③—政策をめぐる新たな展開
05. 政策について考える④—政策と市民
06. 政策研究について考える①—政策研究の科学性
07. 政策研究について考える②—政策研究のプロセス
08. 政策研究について考える③—政策研究における計量分析と事例研究
09. 政策研究について考える④—政策研究における演繹的・数理的考察
10. 政策研究について考える⑤—政策研究における規範的・哲学的考察
11. 政策研究について考える⑥—政策研究と政策決定
12. 政策研究について考える⑦—政策研究と知識活用
13. 政策議論について考える①—現代社会における議論
14. 政策議論について考える②—議論の構造
15. 総括

※ 受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

政策理論特講 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(A) レポート試験.....30%

(B) 授業内ディスカッションへの積極的参加.....70%

※ 「レポート試験」では、社会問題やその問題に対する政策的対応等について進められている諸研究を、本講義で提供された知識や社会科学的思想を活用して、比較し評価することが求められます。

※ 「ディスカッションへの積極的参加」では、単に授業に出席するだけでなく、授業内に行われるディスカッションに対して積極的に貢献（発言等）をすることが求められます。

※ 詳細については授業中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会が直面する問題やその問題への解決策をめぐる議論に、常に目を向けることを心掛けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論と Issue Network・ 制度論と合理的決定： Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、 無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、 政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係] について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

ポスター発表-30%、本のレポート-20%、 期末試験-50%
(レポートの未提出者・ 発表をしていない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前課題・ 事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、社会的ダイレンマ、
公共政策、政策問題、政策の決定、実施、政策調整、終了、
利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

現代政治思想 【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想

PLS212M

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語る時、それは常に、いかに政治と社会はあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。

この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

教科書 /Textbooks

『現代政治理論（新版）』（川崎修・杉田敦 編、有斐閣）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治とは何か
- 第2回 権力とは何か（1） 【権力の種類】
- 第3回 権力とは何か（2） 【意図と権力】 【構造と権力】
- 第4回 リベラリズムの基礎（1） 【自然権】 【功利主義】 【人格発展】
- 第5回 リベラリズムの基礎（2） 【適者生存】 【ニュー・リベラリズム】
- 第6回 リベラリズムの発展と批判 【福祉国家】
- 第7回 自由とは何か（1） 【二つの自由】 【自律】
- 第8回 自由とは何か（2） 【共同体】 【共和主義】
- 第9回 自由とは何か（3） 【権力と自由】
- 第10回 平等と正義（1） 【ロールズの正義論】
- 第11回 平等と正義（2） 【リベタリアニズム】
- 第12回 平等と正義（3） 【コミュニタリアニズム】
- 第13回 平等と正義（4） 【資源の平等】
- 第14回 平等と正義（5） 【潜在能力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代日本政治の基礎にある価値観とは「どのようなものであるか」、また、「どのようなものであるべきなのか」、本授業においてともに考えていくことができれば幸いです。

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生みなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の世界【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【機関委任事務のしくみ】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【主務大臣の包括的指揮監督権】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 合併の価値は①【自治体の規模論】
- 8回 合併の価値は②【市町村合併】
- 9回 合併の価値は③【自治体内分権】
- 10回 縮小する地方財政の中で①【地方財政の基礎編】
- 11回 縮小する地方財政の中で②【地方債】
- 12回 縮小する地方財政の中で③【財政と住民参加】
- 13回 地域のかたち、自治のかたち①【原発と地方自治】【依存財源】
- 14回 地域のかたち、自治のかたち②【自治体病院】
- 15回 地域のかたち、自治のかたち③【地域活性化と地方自治】【アニメ聖地巡礼】【ツーリズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

地方自治論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

都市経営論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が議論される中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップなど、今後の都市経営の方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 吉田民雄[2003]『都市政府のマネジメント』中央経済社
 - 宮脇淳[2012]『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
- 講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市経営
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 地方自治体の諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化 - NPMの展開
10. ガバナンスとパートナーシップ
11. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
12. 企業と社会の関わり - 企業の社会的責任と協働
13. まちづくり事業による地域創造
14. 公共空間のリ・デザイン
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート（毎回実施します）60%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

都市経営論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業開始までに学習支援フォルダにレジユメをアップしておきますので、プリントして事前学習をしておいてください。授業終了後は、レジユメに基づき反復学習を行ってください。
- ・ 遅刻、私語、飲食など他の受講生の迷惑になる行為は厳禁とし、状況次第で退室を命じます。
- ・ 授業計画は進捗状況等に応じて変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと、協働によるまちづくり事業の実際をわかりやすく解説します。関連講座である都市政策論とあわせて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の波によって、めまぐるしく変化している現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されています。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

教科書 /Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
- * 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
- * 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
- * Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起	
第2回 開発概念の検討～歴史的推移と「持続可能な開発（SD）」の定義	【持続可能な開発（SD）】
第3回 成長概念と貧困概念～貧困線をめぐって	【貧困概念】
第4回 アマルティア・センと社会・人間開発	【アマルティア・セン】
第5回 人口問題～中国の1人っ子政策と先進国の少子化対策	【一人っ子政策】
第6回 都市産業問題～インフォーマルセクターの存在	【インフォーマルセクター】
第7回 居住問題～スラム・スクオッタ居住区	【スクオッタ居住区】
第8回 資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）	【資源配分】
第9回 環境問題～森林破壊、海洋汚染など	【森林破壊】
第10回 環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に	【廃棄物管理問題】
第11回 保健・医療問題～感染症、下痢を中心に	【感染症】
第12回 途上国での農漁村での農業・漁業の在り方	【農業・漁業】
第13回 途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とODA	【ODA】
第14回 台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より	【NGO】
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 60 %

途上国開発論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々なテレビ番組を視聴してください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようになっています。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。

キーワード /Keywords

開発途上国、アマルティ・セン、環境問題、持続可能な開発目標 (SDGs)

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論

PLC310M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにある。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにしていただきたい。

講義では、まず、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討する。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにした。

次に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価やその問題点を検討し、今後日本の行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにしたい。

教科書 /Textbooks

教科書は用いない。ほぼ、毎回プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）

龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）

安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）

古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで』（日本加除出版株式会社、2004年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入-「評価」とは何か？
- 第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
- 第3回 実際に評価してみよう！（演習形式で）
- 第4回 セオリー評価（ロジック・モデル）
- 第5回 より複雑なロジック・モデルについて
- 第6回 プロセス評価
- 第7回 前半のまとめ-ロジック・モデル再考（NPOとの関連も含めて）
- 第8回 「行政評価」とは何か-最近15年の動向・潮流を中心に
- 第9回 先進事例の検討（三重県など）
- 第10回 「事務事業評価表」の批判的な考察
- 第11回 「評価結果」の評価
- 第12回 評価者が必要なものとは何か？
- 第13回 評価システムを支える外部評価制度？（1）-全国市区の外部評価の実態
- 第14回 評価システムを支える外部評価制度？（2）-外部評価がもたらすもの
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験40%、レポート30%、授業貢献度...30% 授業に出席しない学生には単位は与えないのでそのつもりで履修すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政策評価論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

配布するプリント教材の復習を必ず行うこと。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加すること。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意されたい。

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究、政策調査論などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトカム、行政評価、業績測定 (パフォーマンス・メジャーメント)

政党政治論 【昼】

担当者名 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

*政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論

PLS211M

授業の概要 /Course Description

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の組織運営③政党と有権者の関係、の3点を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は（良くも悪くも）政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です（それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません）。全体の授業回のうち、前半では理論や分析概念を中心に、後半では事例や応用を中心に進めていきます。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙（新版）』有斐閣
- 待鳥聡史（2015）『政党システムと政党組織』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 概論1：イントロダクションと科目の位置づけ
2. 概論2：【デモクラシーと政党】【歴史的展開】
3. 政党システム論1：【政党システム概論】【有効政党数】
4. 政党システム論2：【政党システムの規定要因】【政党位置の計測】
5. 政党組織論1：【集権と分権】【党内組織と政策形成】
6. 政党組織論2：【党内人事・プライマリー】【国家と政党（政党助成金）】
7. 政党と選挙1：【投票モデル】【選挙制度との連関】
8. 政党と選挙2：【組織と有権者】【Presidentialization】
9. 政党政治論応用1：【ウェストミンスター型】【コンセンサス型】
10. 政党政治論応用2：【新党台頭】【政党組織・政党システムの変質】
11. 東アジアの政党政治：【国家間比較】【日本の時代間・地域間比較】
12. 欧州の政党政治1：【政党政治史概略】【西欧国家間比較】
13. 欧州の政党政治2：【政党政治史概略】【東欧国家間比較】
14. 英米圏の政党政治史：【イギリス政党政治】【アメリカ政党政治】
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 期末試験：80%
- ・ 日常授業への取り組み（自主小レポートを予定）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

政党政治論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修上の注意や追加参考資料については第1回授業でアナウンスします。
- ・ 政治過程論を履修済 (or受講中) であるほうが理解が深まるでしょう。
- ・ 授業各回の最後に、次回内容の予習箇所を指示します。復習用として授業内資料を配布するので各自で入手してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 政党政治論は、政治学のなかでも科学的・計量的な分析が早くから蓄積されてきた分野の一つです。そのため、授業中は頻繁に数字 (時には数式) が出てきますが、高度な数学的知識は必要ありませんので、驚かずに学んでください。むしろ、その「現代政治を明確に分析できる」強さや面白さを楽しんでください。

キーワード /Keywords

政党・選挙・比較政治学・実証政治学

都市政策論【昼】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化の進展や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在している。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状を概観した後、経済政策、地域コミュニティ政策、安全安心政策、環境政策、文化政策などの様々な政策分野の政策展開の実際を学んでいく。都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史の変遷や多層性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石原武政・西村幸夫編[2010]『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
 - 藤井正他[2014]『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
 - 中筋直哉[2013]『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房
- 講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法
5. 経済産業政策
6. 政策法務の実践
7. 社会保障政策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 都市空間と社会資本整備
11. 環境創造と持続可能性
12. 都市文化政策と文化創造
13. インバウンドと観光まちづくり
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席レポート(毎回実施します)60%、期末試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

都市政策論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業開始までに学習支援フォルダにレジユメをアップしておきますので、プリントして事前学習しておいてください。授業終了後は、レジユメに基づき反復学習を行ってください。
- ・ 遅刻、私語、飲食など他の受講生の迷惑になる行為は厳禁とし、状況次第で退室を命じます。
- ・ 授業計画は進捗状況に応じて変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。関連講座である都市経営論とあわせて受講されることをお勧めします。

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 児童虐待
- 第10回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

福祉サービスについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

福祉政策論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、そして環境との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動、放射能の大気汚染）について理解し原因を分析する。

環境政策に関する専門知識の取得と政策形成能力の向上。

- ① 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ② 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ③ エネルギーと生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ④ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 ¥840）

環境政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 日本の環境問題と歴史
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1; 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2; 有料化、road pricing等
- 8回 発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 地球温暖化とエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 まとめ(試験などの質問)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 - 30%、レポート - 20%、期末試験 - 50%
(レポートの未提出者は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前課題・事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な~ぜ~!!
あなたは、どう思う?

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域エネルギーと原子力、
グローバルな要素、ローカル要素。

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論

PLC222M

授業の概要 /Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバリゼーションの中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域研究に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んで調査研究を繰り返すようになりました。ゆえに、本授業では、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

本授業では、以上のことから、バングラデシュと韓国の社会文化に関する知識の吸収はもとより、公正・平等・信頼といった価値観の形成を目標とし、真の国際理解ができる人を目指してもらいます。また、両国に興味を持つことによって、直接出かけるという実践力・行動力が現れることも期待しています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年

* バク・ジョンヒユン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、2008年、840円

* 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円

* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む
- 第2回 韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く
【スタディツアー】
- 第3回 統計数値、絵本を通しての両国の生活・文化の比較説明～グループ討論 【統計数値】 【絵本】
- 第4回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一場面「クラシック」を通して(1) 【映画部分鑑賞】
- 第5回 韓国の1960～70年代の政治・社会と現在～映画の一場面「クラシック」を通して(2) 【映画部分鑑賞】
- 第6回 韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る 【バングラデシュ人労働者】
- 第7回 韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁 【多文化家族】
- 第8回 韓国の現代史 【現代史】
- 第9回 韓国の宗教と文化 【価値教育】
- 第10回 韓国社会の国際化(留学事情、学歴社会)＝他国との比較 【国際化】
- 第11回 バングラデシュの都市社会(中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童) 【雑業層】
- 第12回 バングラデシュの農村社会～イスラーム教の紹介を含む 【イスラーム】
- 第13回 バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論 【コミュニティ】
- 第14回 それでも、バングラデシュ! 小ネタ集～教員の仰天体験を通して? 【参与観察】
- 第15回 まとめ ～ 途上国に行く気になったか ～ グループ討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢...30% 小課題の提出 ... 20% 試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施
上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き(映画鑑賞では泣きません)、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。
1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しててください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしい。片やバングラデシュへの道は厳しいが、チャレンジしてほしい。

キーワード /Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解

地域統合論 【昼】

担当者名 未定 (五月女後任)
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

授業の概要 /Course Description

この講義では、地域統合のあり方や可能性について東アジアを題材として検討します。とくに、統合の原動力となる理念とそれが登場する背景、アジア太平洋戦争以前と以後における東アジア地域統合の試み、東アジアの地域統合の現状と課題などについて、政治的、歴史的に概観します。
以上を通じて、21世紀における地域統合のあり方や「東アジア共同体」の展望を自分なりに模索するために必要な知識の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本吉宣、羽場久美子、押村高編著『国際政治から考える東アジア共同体』ミネルヴァ書房、2012年、3200円+税
梅森直之、平川幸子、三牧聖子編著『歴史の中のアジア地域統合』勁草書房、2012年、3800円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 主権国家について
- 第3回 地域統合論の登場-EUを事例として
- 第4回 アジアにおける地域主義の諸類型
- 第5回 東アジア国際政治史(1)-1930年代
- 第6回 東アジア国際政治史(2)-1940年代
- 第7回 戦前期東アジア地域統合の試み(1)-「東亜新秩序」
- 第8回 戦前期東アジア地域統合の試み(2)-「大東亜共栄圏」
- 第9回 戦前期東アジア地域統合の「理念」と「現実」
- 第10回 戦後アジアにおける地域統合の試み
- 第11回 東アジア地域統合とアメリカ
- 第12回 東アジア地域統合と中国
- 第13回 東アジア地域統合と日本
- 第14回 「東アジア共同体」を展望するために
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業の取り組み・・・10% 期末試験・・・90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は原則として計画通りに進めていく予定ですが、学生の関心、修学状況にも配慮しながら、適宜対応します。
授業後は、その回の要点を自分なりにまとめるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④単身世帯の急増、といった問題は避けて通れない最重要課題であるといつてよい。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④移住政策、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含め考えていくことにしたい。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になる。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通じて考えていただきたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジユメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 海道清信『コンパクトシティ - 持続可能な社会の都市像を求めて』（学芸出版社、2001年）
- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農村漁村文化協会、2005年）
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）
- 大西隆ほか『集落再生-「限界集落」のゆくえ』（ぎょうせい、2011年）
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?』（ちくま書房、2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」条例
- 7回 限界集落（3）-限界集落の再生、「集落支援員制度」等の検討
- 8回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 9回 北九州市の局地的高齢化
- 10回 限界コミュニティとコミュニティ再生
- 11回 北九州市における超高齢コミュニティとその対策
- 12回 フードデザート、買い物難民（買い物弱者）を考える
- 13回 移住政策
- 14回 小さな自治体は消滅するのか？-島根県海士町から考える
- 15回 移住1%戦略-地方は消滅しない！！

自治体政策研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加すること。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講者調整の関係から第1回目の講義にはなるべく参加するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

キーワード /Keywords

人口減少社会、高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、社会の担い手

公共経営論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論

PA0212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%
毎回、出席をとります。欠席1回につき、学期末試験の得点から3点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- * 図書館や学校、道路に関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。
- * 2015年度より、レポートではなく、筆記試験によって成績評価しています。
- * 私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

キーワード /Keywords

特になし。

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論

PLS215M

授業の概要 /Course Description

政治全体を社会の問題解決のための大きなシステムと考えた時、人々が政治システムに対して様々な態度をとるのはなぜでしょうか。欧米諸国では多くの人々が民主主義を通じて政治システムに積極的に関わりますが、日本ではそうではありません。このような人々の態度を決めるものの一つに、政治文化を考えることができます。この授業では、「政治に参加しよう」という意識の根底にある「ものの見方・考え方」とはどのようなものかを、民主主義を発展させた欧米諸国と日本の思想的比較を通じて、考えていきます。そして、政治文化が現実政治に果たす役割を理解し、日本の民主主義政治の将来について深く考える力を養うことを目指します。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治システムと政治文化
- 第2回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（1）【グレゴリウス改革】
- 第3回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（2）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
- 第4回 「特殊」の発展
- 第5回 ルネサンス・国家理性・主権
- 第6回 宗教改革の時代
- 第7回 ホッブズの社会契約論
- 第8回 ロックの社会契約論
- 第9回 文化芸術の発展とルソー
- 第10回 ルソーの社会契約論
- 第11回 フランス革命後の展開と保守主義
- 第12回 江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
- 第13回 丸山真男の超国家主義論
- 第14回 丸山真男の古層論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業前に、該当回パワーポイントを通読しておくこと。また授業後には書き込みを行ったパワーポイントをもとに復習すること。

政治文化論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義社会が真つ当に成立し、それが安定的に運用されるためにはどのような政治文化が必要になるのでしょうか。この授業では、「リベラル」・「保守」・「国家」など、政治を動かすさまざまな要素が発生、展開してきた過程を追いながら、日本の民主主義文化とはどのようなものであるべきか、ともに考えたいと思います。

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論

PA0310M

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

教科書 /Textbooks

真山達志編著『ローカルガバメント論—地方行政のルネサンス』ミネルヴァ書房、2012年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革：総論】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革：フラット化、人事評価】
- 6回 職員改革①【人材育成】【政策形成】
- 7回 職員改革②【ネットワークのマネジメント】
- 8回 公共サービスの質と民間化①【グレーゾーン】
- 9回 公共サービスの質と民間化②【民間移管】【サービスの質】
- 10回 行政と住民の関係改革①【地域自治組織】【自治体内分権】
- 11回 行政と住民の関係改革②【コミュニティ運営協議会】【行政の支援】
- 12回 府県間関係改革①【都道府県と市町村】
- 13回 府県間関係改革②【市町村と市町村】
- 14回 議会と行政【議会改革】
- 15回 議会と行政【議会の政策形成】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので安心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います(もちろん、2年生でも受講は可能です)。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。

キーワード /Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講

PAD214M

授業の概要 /Course Description

今年度は、「歴史政策学の試み」というテーマで講義をしたいと考えています。歴史政策学とは、「過去に生じた事象から類似した事象、類似性を見出し、その類似性と、現在の事象との異同一同質と異質一を腑分けし、そこから未来を予測し、あるべき政策を選択するという方法」です。今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察しながら、デモクラシーのグローバル化について考えてみます。また、「ワイマル民主主義の崩壊とナチズムの台頭」を手がかりに、文化的ベシミズムと政治の問題について考えて見ます。さらに、遅れて近代化したドイツと日本双方の「ポスト・モダン」を取り上げながら、ポスト・モダンと政治の問題を考察し、今後の新しい政治について検討してみます。

教科書 /Textbooks

中道寿一『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）（○）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

たとえば、

アーネスト・メイ『歴史の教訓』岩波現代文庫、2004年（○）、
S・P・ハンチントン『第三の波』三嶺書房、1995年（○）など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は以下の通りです。

- 第1回 序・・・歴史政策学とは何か【歴史】【政策学】【政治文化】【政治的社会化】
- 第2回 デモクラシーのグローバル化【東欧革命】【民主化】【市民社会】
- 第3回 政治文化と政治変動【政治文化】【政治変動】
- 第4回 まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
- 第5回 民主主義体制の崩壊について【民主主義体制】【権威主義体制】【体制変動】
- 第6回 ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
- 第7回 政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
- 第8回 議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
- 第9回 まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
- 第10回 ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
- 第11回 文化的絶望の政治について【文化ベシミズム】【ラガルド】【ラングベーン】【メラー】
- 第12回 まとめ（グループ討論、グループ発表を含む）
- 第13回 ポストモダンの政治（日本）【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
- 第14回 ポストモダンの政治（ドイツ）【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
- 第15回 終わりに・・・新しい政治を求めて【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】【環境倫理学】【コモンズの原理】

応用政策特講 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
講義への積極的取組... 30%
小テスト... 10%
試験... 60%
(レポート：任意 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。
レジュメを多く配布するので、すべてを一つにファイルし、毎回の講義に持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3～4回の講義の後、3～4人のグループに別れ、共通のテーマについて議論し、その内容を発表する、という方法をとりますので、講義に積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しみましょう

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 壬生 裕子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論

PAD210M

授業の概要 /Course Description

世の中には大学、サークル、企業、自治会・町内会、NPO、そしてこの授業で扱う地方自治体や中央省庁といったさまざまな組織があり、誰もがいくつかの組織に所属し、さまざまな組織から影響を受けて生活しています。この授業では、地方自治体や中央省庁といった行政組織に関する理解を深めるとともに、効果的な政策を立案し、執行できるような組織をつくるためにはどのようなことが必要かを検討します。これまでの研究で積み上げられてきた組織論の基礎を学んだうえで、とくに地方自治体に着目し、組織とそこで働く人材のマネジメントのあり方について、みんなで考えていきましょう。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業ではレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論：補訂版』有斐閣
田尾雅夫(2015)『公共マネジメント—組織論で読み解く地方公務員』有斐閣
その他、授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 組織とはどのようなものか
- 3回 組織論の展開① 科学的管理法～人間関係論
- 4回 組織論の展開② 現代組織論
- 5回 組織のデザイン
- 6回 行政組織の特徴① 民間企業との比較
- 7回 行政組織の特徴② 北九州市を例に
- 8回 地方自治体のマネジメント① 官僚制・ヒエラルキー
- 9回 地方自治体のマネジメント② 組織目標の設定と管理
- 10回 地方自治体のマネジメント③ 組織改革
- 11回 公務員とは
- 12回 公務員に必要な能力
- 13回 公務員のモチベーション
- 14回 公務員の研修と評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト40%、レポート40%、授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

行政組織論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

受講者数や講義の進行により、上記スケジュールを変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では、グループディスカッションの機会を設けます。積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論

PLC213M

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易・経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下どのような経済政策を実行し、そしてその経済政策が今度は国際システムや自国・他国経済にどのような影響を及ぼすのかを検証する。まず資本・貿易・経済の国際化がどのような経済環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいくつもの制約を課するかを分析する。そしてその制約下、各国政府がいくつもの経済政策を施行し、その経済政策が自国・他国経済にどのような影響を与えるのかを検証する。

ここでいう「経済政策」とは、広い意味での経済政策で、具体的には雇用、経済成長、福祉、財政、教育、貿易、金融、通貨などの政策を含む。このクラスは、言葉を変えて言えば、「国際化された経済から、先進諸国はどのような影響を受け、それに各国政府がどのように対応し、どのような政策を実行するか。また、その政策が各国の社会経済（社会や人々の生活、企業など）にどのような影響を与えるのか」についてのクラスである。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2011. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 5th ed. New York: Pearson Longman.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

対外政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人は、しりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 国際政治経済とは何か
3. Political Economy of International Trade Cooperation
4. Society-Centered Approach to Trade Politics
5. State-Centered Approach to Trade Politics
6. International Monetary System
7. International Monetary Arrangements
8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy
10. Catch-Up and Review
11. Catch-Up and Review
12. International Finance
13. Import Substitution Industrialization
14. Market Reform
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究、論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

比較政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較政策論

PLC210M

授業の概要 /Course Description

このクラスは、先進諸国が様々な政策分野で、どのような政策を実行し、政策がどのような結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は、経済、教育、労働、福祉、規制、財政、貿易、産業、競争、金融、家族政策など。違う政策が、国の経済パフォーマンスや人々の福祉に、どのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、どのような政策のセットが経済成長、雇用、平等、幸福などを達成する際に望ましいかを考察する。言葉を変えて言うと、人々や社会を幸せで豊かなものにするには、どのような政策が有効か、望ましいかを理論とデータを使って考える際に、その分析の基礎となる分析的枠組みを学ぶ。また、これらの政策の相違は、諸国の政治経済体制の種類に呼応していることを学ぶ。

これらのサブジェクトの学習により、比較政治経済、比較福祉政策、比較政治学の基礎知識を得る。

教科書 /Textbooks

Jessica R. Adolino and Charles H. Blake. 2007. Comparing Public Policies: Issues and Choices in Six Industrialized Countries. Washington, D.C.: CQ Press.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

比較政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。ただし、本気で一生懸命勉強すれば、授業についてこれると思いますので、本クラスのサブジェクトに関心がある人はしりごみしないで受講してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ
2. 政策決定のモデル
3. 政策決定の理論I (経済)
4. 政策決定の理論II (政治)
5. 政策の規定要因 - 制度・アクターI (経済)
6. 政策の規定要因 - 制度・アクターII (政治)
7. 先進各国の政治システム
8. 社会・福祉政策
9. Catch-up
10. 財政政策
11. 教育政策
12. 税政策
13. Catch-up and review
14. 国際化の中の政策決定
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1) テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2) 研究論文あるいは期末総合テストが60% (どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日まで読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1) オリジナルな研究論文にする、(2) 理論や説明の論理的整合性、(3) 理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同じレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

国際機構論I【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論I

IRL312M

授業の概要 /Course Description

現代世界では、少なくとも数百にのぼる国際機構が活動している。これらの機構は、国家や私たちの生活にとっていかなる意味をもつのか。この講義では、第1に、代表的な国際機構である国際連合に焦点を当てて、その設立、目的、任務、制度、活動状況、国家との関係、課題等を学習する。

第2に、国際連合のような普遍的機構の先駆といえる国際連盟等にも着目することによって、国際機構の法体系と意思決定方式がいかなる史的展開をみえてきたのかを考察する。

教科書 /Textbooks

『国際条約集2016年度版』有斐閣、2016年。

条約集は複数の出版社から出ているので間違わないように注意すること。

なお、2015年度2学期の国際関係学科開講科目「国際人権論」の履修者にかぎり、同2015年度版を使用できる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○明石康『国際連合 軌跡と展望』岩波書店、2006年。

○高坂正義『国際政治』岩波書店、1966年。

○篠原初枝『国際連盟』中央公論新社、2010年。

○最上敏樹『国際機構論 第2版』東京大学出版会、2006年。

○渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。

ほか適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 はじめに

第2回 国際機構の定義と理論

第3回 国際機構の歴史

第4回 国際連盟(1) 設立の背景と組織

第5回 国際連盟(2) 活動

第6回 国際連合(1) 設立の背景

第7回 国際連合(2) 組織

第8回 国際連合(3) 活動

第9回 国際政治と国際機構(1) 国連安保理：概論

第10回 国際政治と国際機構(2) 国連安保理：ケース・スタディ

第11回 国際政治と国際機構(3) 国連PKO：概論

第12回 国際政治と国際機構(4) 国連PKO：ケース・スタディ

第13回 国際政治と国際機構(5) 国連と日本：概論

第14回 国際政治と国際機構(6) 国連と日本：ケース・スタディ

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(5回)30%、期末試験70%

国際機構論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。教科書の指定箇所を事前に読んだうえで出席することが求められます。ページ数のある教科書のため、附箋と色ペンを用意すると便利です。

以下に該当する人は受講できません。教科書を持参していない人、教科書を忘れた人、遅刻した人、途中退室する人、予習をしていない人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論II

IRL313M

授業の概要 /Course Description

地理的に近接する諸国が独自の国際機構（地域的国際機構）を設立する動きは、現代世界における特質となっている。ヨーロッパ連合（EU）、東南アジア諸国連合（ASEAN）、北アメリカ自由貿易協定（NAFTA）、南部共同市場（MERCOSUR）、アラブ連盟、アフリカ連合（AU）、南アジア地域協力連合（SAARC）等は、活動目的や分野が異なれど、そのような動きの代表的なものである。このような動きは、日本が位置する東アジアないし環太平洋の地域でも例外ではなくなりつつある。講義では、第1に、このような動きの先駆となったEUに焦点を当てて、その設立、組織、活動状況を多面的に学びたい。第2に、地域的機構をもつ含意を、現代の日本を取り巻く状況から探究する。

教科書 /Textbooks

辰巳浅嗣編著『EU 欧州統合の現在 第3版』創元社、2012年。
初版および第2版とは内容が異なる。第3版を準備すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 庄司克宏『欧州連合』岩波書店、2006年。
- 中村民雄『EUとは何か』信山社、2015年。
- 鷲江義勝編著『リスボン条約による欧州統合の新展開』ミネルヴァ書房、2009年。
ほか適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 地域的国際機構の定義と理論
- 第3回 国際関係の中の地域的国際機構
- 第4回 テキスト「プロローグ」
- 第5回 テキスト第1章（ヨーロッパ共同体の設立）
- 第6回 テキスト第1章（EUの歴史）
- 第7回 テキスト第2章（EUの組織）
- 第8回 テキスト第2章（EUの政策決定）
- 第9回 テキスト第3章（EUの共通政策）
- 第10回 テキスト第3章（EUの人権保護等）
- 第11回 テキスト第4章（EUの対外関係）
- 第12回 テキスト「エピローグ」
- 第13回 地域的国際機構とアジア太平洋（1）これまでの経緯
- 第14回 地域的国際機構とアジア太平洋（2）今後の展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（5回）30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用する。事前に指定箇所を読んだうえで出席すること。
以下の該当者は受講できません。教科書を持参しない人、忘れた人、遅刻した人、途中退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論I

IRL211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ 下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序(NIEO)】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 これまでの振り返りと中間テスト
- 第10回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第11回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第12回 新興国の台頭と秩序の揺らぎ【南南協力】【BRICS】【北京コンセンサス】
- 第13回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第14回 日本のODAの仕組み、理念【開発協力大綱】、【自助努力】
- 第15回 開発協力の今日的課題

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論I【昼】

履修上の注意 /Remarks

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。事後学習としては、各回の授業でその日学んだ内容に関する課題をイントラの学習支援フォルダに掲載するので、翌週までに課題を解いておくこと。

また、日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習し専門的知識を身につけます。また、国際社会が新たな脅威に対してどのように対応しているのか、その際にどのような課題があるのかについても学習します。後半部分では紛争再発予防における開発の役割に焦点を当てます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。
- リンダ・ポルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 冷戦の終結と新しい戦争
- 第2回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース①【ユーゴ崩壊の過程】
- 第3回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース②【ユーゴ崩壊の要因】
- 第4回 国家の破綻と崩壊 1 - ユーゴスラヴィアのケース③【ビデオ】【ディスカッション】
- 第5回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース①【ルワンダ内戦の経緯】
- 第6回 国家の破綻と崩壊 2 - ルワンダのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第7回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース①【ソマリア内戦の経緯】
- 第8回 国家の破綻と崩壊 3 - ソマリアのケース②【ビデオ】【ディスカッション】
- 第9回 P K Oの変容と限界
- 第10回 「人道的介入」から「保護する責任」論へ
- 第11回 平和構築アプローチ
- 第12回 紛争後復興における開発の役割
- 第13回 Do No Harm原則①【平和へと向かう力、戦争に向かう力】
- 第14回 Do No Harm原則②【援助が持つ物質的影響、倫理的メッセージ】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 30% 学期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際協力論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

事前にイントラ上の学習支援フォルダに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、配布される論文等のリストから関連文献を読むようにすること。

また、JICAのホームページから『課題別指針 平和構築』（2009年）をダウンロードして読んでおくと、講義の後半部分の理解に役立ちます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論

IRL213M

授業の概要 /Course Description

人間の権利には、どのようなものがあるのか。それをいかに保護するのか。あるいは、なぜ保護する必要があるのか。現代世界においては、各々の国家が個別にこれらの問いに答えればよいというわけでは必ずしもない。
講義では、主に国際政治学と国際法学の観点から、人権に関する規範と制度が国際連合においてどのように形成されているのかを考察し、その課題を探究する。

教科書 /Textbooks

『国際条約集2016年版』有斐閣、2016年。
複数の出版社が条約集を出しているが、授業では有斐閣のものを用いる。2015年版以前のものはいない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法』第3版、日本評論社、2009年。
 - トーマス・バーゲンソル『国際人権法入門』東信堂、1999年。
 - 畑博行・水上千之編『』第4版、有信堂高文社、2006年。
 - 山本直『EU人権政策』成文堂、2011年。
- ほか授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 人権概念の創出
- 第3回 国際社会と人権保護：19世紀まで
- 第4回 国際社会と人権保護：国際連盟の時代
- 第5回 国際連合における人権の規範と制度（国連憲章）
- 第6回 国際連合における人権の規範と制度（世界人権宣言）
- 第7回 国際連合における人権の規範と制度（社会権規約と自由権規約）
- 第8回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）概観
- 第9回 国際連合における人権の規範と制度（各種の人権条約）ケース・スタディ
- 第10回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）概観
- 第11回 国際連合における人権の規範と制度（人権理事会）ケース・スタディ
- 第12回 国際刑事裁判所の設立と活動
- 第13回 現代アジアと人権：人権外交と価値観
- 第14回 現代アジアと人権：近年の情勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（5回）30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際人権論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教科書をほぼ毎回使用します。事前に指定された箇所を読んだうえで出席する必要があります。
ページ数のある教科書ですので、附箋と色ペンを用意すると便利です。
以下の該当者は受講できません。教科書を持参していない人、忘れた人、遅刻した人、早期退室する人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 紛争に関連する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論

IRL214M

授業の概要 /Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを簡潔にみていくが、その際、「覇権」と「分析レベル」をキーワードにしていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史上上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに、関連文献を紹介するが、全体に関わるものとして、以下の文献を挙げておく。

- K.ウォルツ（渡邊昭夫・岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家—国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
- J.ゴールドステイン（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
- G.モデルスキー（浦野起央・信夫隆司 訳）『世界システムの動態—世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。
- 篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
- J.ナイ（田中明彦・村田晃嗣 訳）『国際紛争—理論と歴史』第9版、有斐閣、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際紛争を考えるための視角：【「分析レベル」】、【覇権】
- 第3回 三十年戦争【主権国家】：【ウェストファリア体制】
- 第4回 覇権と国際紛争（1）—スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
- 第5回 覇権と国際紛争（2）—パックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
- 第6回 日清戦争と日露戦争：【帝国主義】
- 第7回 第一次世界大戦：【三国同盟】、【三国協商】
- 第8回 第二次世界大戦：【連合国】、【枢軸国】
- 第9回 冷戦と核戦略：【相互確証破壊】
- 第10回 冷戦期の国際紛争（1）—二つのドイツ：【ベルリン封鎖】
- 第11回 冷戦期の国際紛争（2）—中国と台湾：【台湾海峡危機】
- 第12回 冷戦期の国際紛争（3）—朝鮮半島：【朝鮮戦争】
- 第13回 冷戦期の国際紛争（4）—中東①：【パレスチナ問題】
- 第14回 冷戦期の国際紛争（5）—中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
- 第15回 冷戦後の国際紛争—9.11テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争：【テロリズム】、【「新しい戦争」】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 小テスト...30%

国際紛争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

各テーマのレジユメが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおすことが求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校などで世界史などを履修したことがない学生でも、十分についていけるよう説明をするので、あとは各自がどれだけ発展的な学習（講義で紹介した文献の消化）に結びつけていけるのか、ということが課題となる。

キーワード /Keywords

上記の授業計画を参照。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められている。障害者総合支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。

- ①障害者総合支援法の成立過程と法の具体的内容の解説する。
- ②障がい者の権利保障とは何かについての検討する。
- ③また障がいのある人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。
- ④さらにはこれまでタブー視されてきた障がい者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立とは何か】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【障害者総合支援法の概要と課題】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【地域生活】
- 5回 障害者施策の現状と課題④ 【ケアマネジメント】
- 6回 権利擁護システム① 【成年後見制度】 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム② 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【就労支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【恋愛・性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

履修上の注意 /Remarks

その都度配布する講義レジュメ・資料および参考文献の講読

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2016年版
須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の福祉需要
- 第3回 高齢者の介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 介護の概念や対象【介護の概念と範囲】
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念】
- 第8回 介護の概念や対象【介護の対象】
- 第9回 介護予防【介護予防の必要性】
- 第10回 介護予防【介護予防プランの実際】
- 第11回 介護過程
- 第12回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第13回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第14回 終末期ケア
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等及び福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2016年版
須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険法の概要
- 第3回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第4回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第5回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第6回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第7回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第8回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第9回 介護保険法におけるネットワーキングと実際
- 第10回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第11回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法1【老人福祉法、高齢者の居住の安定確保に関する法律】
- 第13回 高齢者福祉制度と関連法2【高齢者虐待防止法、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律等】
- 第14回 高齢者福祉制度と関連法3【高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済 (有斐閣ストウディア)』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 14回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（12回）...40%、課題...10%、期末試験...50%

公共経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際経済論を学ぶ上で必要な「基礎概念」と「基本理論」をできる限り平易に説明することを目的としている。特に、経済のグローバル化が急速に進んでいる状況下、海外との経済取引（貿易や資本取引-国際金融&国際投資-）と日本経済について分析していくことが重要となる。ここでは、国際経済論を日本経済を基軸にして考察する。

また講義では、「国際経済の動きと今後の展望」について、具体的な統計データを示しながら分かりやすく解説していく予定である。

本講義を受けることで、「国際経済の動き」を日本経済の視点から理解することができ、また「日本経済が抱える課題」を国際経済の動向と結び付けて解明することが出来るようになる。

< 本講義の到達目標 >

1. 国際経済の動向と諸課題を理解するための「基礎概念」と「基礎理論」を身につける。
2. 国際経済の新しい動きと日本経済の課題について、解説できること。
3. 国際資本の流れ-国際金融の視点-から日本経済を分析できること。

* 日本経済新聞を読むようになればなお良い。

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社
- (2) 末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション-経済のグローバル化と日本経済の動向-
- 第2回 国際経済の現状 (I) : 国際経済の新潮流-グローバル経済化と新興経済諸国 (BRICs) -
【東西冷戦の終焉】 【資源大国】 【国際資本】
- 第3回 国際経済の現状 (II) : アメリカ経済の動向と今後-その変遷と戦略-
【レーガノミクス】 【クリントノミクス】 【IT革命】 【ニュー・エコノミー】 【ドル基軸通貨】 【双子の赤字】
- 第4回 国際経済の現状 (III) : 欧州連合 (EU)と通貨統合 (統一通貨ユーロ) 【欧州連合】 【ユーロ】
- 第5回 国際経済と日本経済 (I) : 戦後の日本経済の変遷とその特徴
【経済の民主化政策】 【政府主導の成長政策】 【高度経済成長】 【オイルショック】 【バブル崩壊と低成長】
- 第6回 国際経済と日本経済 (II) : 外需 (輸出) 主導型の経済成長と円高デフレ - ション
【ブラザ合意】 【円高不況】 【経常収支の黒字】 【外貨準備高】
- 第7回 国際経済と日本経済 (III) : 国際金融市場の動きと日本経済
【ジャパン・マネー】 【オイル・マネー】 【国際資本】
- 第8回 国際貿易の基礎理論 (I) -基本構造 (メカニズム) と基本理念- 【国際分業】 【交易条件】
- 第9回 国際貿易の基礎理論 (II) -自由貿易と比較優位 (生産費) の理論-
【リカード】 【比較生産費】 【ヘクシャー=オーリンの理論】 【国際競争力】
- 第10回 貿易政策の基礎分析 (I) : 貿易摩擦と保護政策 【日米貿易摩擦】 【市場開放】 【非関税障壁】
- 第11回 貿易政策の基礎分析 (II) : 保護政策の具体的手段とその効果 【関税政策】 【数量割当政策】
- 第12回 戦後の国際貿易制度: GATT&WTO、及びFTA (EPA)
- 第13回 TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) と日本経済 【関税撤廃】 【市場開放】 【高コスト構造の是正】
- 第14回 グローバル経済化と直接投資-日本経済の問題点: 対外直接投資と対内直接投資-
【対外純資産】 【産業の空洞化】 【産業構造の変化】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験・・・ 80%
- (2) 日常の授業への取り組み・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1) 日本経済や世界経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2) 授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料etcをよく読んでおいて下さい。

キーワード /Keywords

グローバル経済 BRICs 資源大国 国際資本 基軸通貨 ドル ユーロ 円高 経常収支 資本収支
外貨準備 国際分業 比較優位 交易条件 国際競争力 関税障壁 市場開放
対外債権 対外債務 対外純資産 対外直接投資 対内直接投資 産業の空洞化

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor 末永 勝昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

国際経済論IIは、世界の様々な国々・地域の経済動向について学び、国際経済の動き（趨勢）を的確に把握すると同時に、国の対外的な経済活動、すなわち「貿易や資本取引」（国際金融&国際投資）、「企業の国際的な事業展開」（多国籍企業の動向、外資系企業の活動）等々を学ぶ分野である。

本講義では、I学期の「国際経済論I」の講義内容を前提に、国際経済の動きをよりの確・理論的に理解するために外国為替市場を通じた国際的経済取引（貿易や資本取引）のメカニズムについて解説していく。なお、国際経済論では、海外との経済取引を前提とした一国全体の経済問題が対象となるので、「国際収支表」「国際収支の諸概念」等々のマクロ経済指標（統計データ）の動きについても適宜解説していく予定である。

< 国際経済論IIの基本的視点 - 授業の流れ -

* 授業展開における基本視点 → 下記のように、「通貨」の視点からも国際経済の現状&将来を分析していきます。

1. 世界の三大通貨 → 基軸通貨（国際通貨）：「米ドル」（\$）、欧州連合（EU）における統一通貨：「ユーロ」（€）、日本通貨：「円」（¥）& 英国通貨：「ポンド」（£）
2. その他の注目通貨 → 中国通貨：「人民元」、スイスの通貨：「スイスフラン」etc

教科書 /Textbooks

末永勝昭著 『国際マクロ経済学』 税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (1)伊藤元重著 『ゼミナール国際経済入門』 日本経済新聞社：○
- (2)末永勝昭著 『マクロ経済学』 税務経理協会

国際経済論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：世界経済と資金の流れ
- 第2回 国際収支表と国際収支の諸概念 【経常収支】 【資本収支】 【外貨準備】
- 第3回 国際収支と日・米経済関係（I）：世界経済の不均衡問題 【経常赤字と財政赤字】 【双子の赤字】
【資本収支の黒字】 【債権大国：アメリカ】
- 第4回 国際収支と日・米経済関係（II）：資本輸出国日本 【経常収支の黒字】 【資本輸出】 【対外投資】
【資本収支の赤字】 【債権大国：日本】
- 第5回 経常収支と「貯蓄・投資のマクロ・バランス」 【貯蓄超過】 【財政収支赤字】 【経常収支黒字】
- 第6回 国際通貨制度とその変遷 【金本位制度】 【管理通貨制度】 【IMF 体制】
- 第7回 外国為替取引と為替レート 【円建て】 【ドル建て】
- 第8回 外国為替制度：固定相場制度 【平価】 【為替介入】 【固定レート】
- 第9回 外国為替制度：変動為替相場（フロート）制度 【市場レート】 【円高】 【円安】
- 第10回 変動為替相場制度と為替介入（I） 【管理フロート制】 【通貨当局】 【為替介入】 【外貨準備高】
- 第11回 変動為替相場制度と為替介入（II） 【FB：政府短期証券】 【外国為替資金特別会計】
- 第12回 外国為替レートとマクロ経済政策の効果 【財政政策】 【金融政策】 【金利の動き】 【為替変動】
【不胎化介入】 【非不胎化介入】
- 第13回 固定相場制と変動相場制度：経済政策の効果分析 【IS曲線】 【LM曲線】 【BP曲線】
- 第14回 グローバル経済化と自由な国際資本移動 【マンデル＝フレミング・モデル】 【資本移動】
- 第15回 まとめ -世界経済の動向と今後の展望-

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 学期末試験 80%
- (2) 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 遅刻や途中退席、授業中の私語は禁止します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- (1)世界経済や日本経済の動向を記載した新聞記事や雑誌記事etcを読んでおくと、この授業がより効果的なものになるでしょう。
- (2)授業を受けるにあたっては、教科書や授業中に配布する資料をよく読んでおいて下さい。
- (3)日本経済新聞を読むようになって下さい。

キーワード /Keywords

経常収支 資本収支 外貨準備高 総需要と総供給 マクロ均衡と不均衡 輸出超過 輸入超過 内需・外需
国際通貨制度 基軸通貨（国際通貨） MF 体制 円建レート ドル建レート 市場レート 円高・円安 通貨当局 管理
フロート制 外為特会 FB・政府短期証券 平価 為替介入 不胎化介入 非不胎化介入 マクロ経済政策 財政政
策 金融政策 国際資本移動

経済地理学I【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる問題を発見し、その解決をはかることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

竹内淳彦、小田宏信編『日本経済地理読本(第9版)』東洋経済新報社、2014年
その他、講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済地理学とは【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 地域構造論【産業構造】、【産業配置】、【地域構造】
- 3回 産業構造の変化と地域構造【産業構造】、【主導産業】、【地域構造】
- 4回 立地論の考え方、農業立地論【立地論】、【チューネン】
- 5回 1～4回の復習とまとめ
- 6回 工業立地論【輸送費】、【労働費】、【産業集積】
- 7回 工業立地の実際(1)・・・基礎素材型産業【規模の経済】、【市場分割型立地】
- 8回 工業立地の実際(2)・・・加工組立型産業【集積の経済】、【工程分業型立地】
- 9回 日本工業の地域的構成【工場配置】、【産業政策】、【立地政策】
- 10回 5～9回の復習とまとめ
- 11回 地域間人口移動【人口減少】、【人口移動】
- 12回 日本の経済地理(1)・・・中心地域【三大都市圏】、【中枢管理機能】
- 13回 日本の経済地理(2)・・・周辺地域【過疎問題】、【農林水産業】
- 14回 日本の経済地理(3)・・・中間地域【高速交通体系】、【インフラ】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学IIや地域経済I・IIなどを受講すると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 /Instructor 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】、【都市】、【地域】、【地域政策】
- 2回 商業立地論 【商業集積】、【モータリゼーション】、【ライフスタイル】
- 3回 中心地論 【クリスタラー】、【中心地】
- 4回 都市システム論 【都市】、【プレッド】、【情報】
- 5回 世界都市論とプロダクトサイクル論 【世界都市】、【中心と周辺】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 戦後の日本経済 【高度経済成長】、【円高】、【産業空洞化】
- 8回 日本の国土計画(1)・・・一全総・二全総 【全総】、【拠点開発方式】
- 9回 日本の国土計画(2)・・・三全総 【定住圏構想】、【テクノポリス】
- 10回 日本の国土計画(3)・・・四全総 【中枢管理機能】、【東京一極集中】
- 11回 日本の国土計画(4)・・・最近の国土計画 【グランドデザイン】、【国土形成計画】
- 12回 6～11回の復習とまとめ
- 13回 先進国の地域構造(1)・・・アメリカ、イギリス、ドイツ 【集中と分散】、【南北問題】、【地域開発】
- 14回 先進国の地域構造(2)・・・フランス、イタリア、韓国 【集中と分散】、【南北問題】、【地域開発】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

金融論I【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本の金融に関する基礎知識を習得する。
- ②金融制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③習得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 プルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。
レジユメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論II 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

「金融論」で学習した基礎理論を応用し、バブル崩壊後の日本の銀行システムの問題点について学習する。本講義では、不良債権処理問題やBIS規制導入による銀行経営の変化について、研究者による研究内容を紹介しながら、日本の金融システムの長所・短所を理解することを目的とする。また、近年問題となっている郵政民営化やサブプライムローン問題も取り上げ解説する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融に関する問題について、専門知識に基づいた議論ができる。
- ②現実の経済情勢の的確な分析に基づき、解決策を考えることができる。
- ③経済・社会に関する知識を用い、社会に貢献する意欲を身につける。

教科書 /Textbooks

無し

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 オーバーバンキング【日本の資金循環】
- 3回 オーバーバンキング【オーバーバンキングが経済に及ぼす影響】
- 4回 不良債権処理問題【不良債権処理方法】
- 5回 不良債権問題【不良債権処理が遅れた理由】
- 6回 BIS規制と会計操作【BIS規制と不良債権処理】
- 7回 BIS規制と会計操作【公表自己資本比率の問題点】
- 8回 BIS規制と会計操作【BIS規制と公的資金資金注入】
- 9回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済の問題点】
- 10回 オーバーバンキングとデフレ【デフレ経済と不良債権】
- 11回 郵政民営化【郵政民営化がなぜ必要であったか】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化の問題点】
- 13回 郵政民営化【郵政民営化と金融政策】
- 14回 サブプライム問題【サブプライム問題とは】
- 15回 サブプライム問題【証券化の問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

1学期の「金融論I」で金融制度の基礎知識を学習しておくこと、講義内容が理解しやすい。
レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと。
毎回、前回の講義内容の復習をして臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことが出来る者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が、現代においてどのように成り立ち、運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

教科書 /Textbooks

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード(山本安次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)
三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ-経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【現代社会における組織】
- 第2回 組織社会 【社会の純粹理論】【財産中心から組織中心へ】【自由とは何か】
- 第3回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】【有効性と能率】
- 第4回 管理とは何か 【管理過程】【意思決定論】
- 第5回 現代組織の諸特徴① 【官僚制】【支配の3類型】
- 第6回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】【科学的管理】
- 第7回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理の現在】【官僚制の抑圧性】
- 第8回 第2回～7回のまとめ
- 第9回 組織構造① 【権限の原則】【権限と権威】
- 第10回 組織構造② 【ライン組織】【コンテインジェンシー理論】
- 第11回 組織構造③ 【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第12回 動機づけ理論① 【金銭による動機づけ】【人間関係】
- 第13回 動機づけ理論② 【欲求階層説】【自己実現】【X-Y理論】【動機づけ-衛生理論】【達成動機】
- 第14回 現代組織と意思決定 【コンフリクト】【統合】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50% 中間テスト...30% 小レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「マネジメント論基礎」「企業論基礎」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

経営組織論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【組織の三要素】 【官僚制】 【環境適応】 【随伴的結果】 【自由と責任】

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一、『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
Stephen A.Ross,Randolph W.Westerfie,『コーポレートファイナンスの原理【第9版】』，きんざい（2012年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回 コーポレート・ファイナンスの世界(1)【期待リターン，リスク（標準偏差）】
- 3回 コーポレート・ファイナンスの世界(2)【証券，発行市場，流通市場】
- 4回 コーポレート・ファイナンスの世界(3)【ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(1)【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株】
- 7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達(2)【ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(1)【普通社債，フロント債】
- 9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達(2)【転換社債，MSCB】
- 10回 配当の基礎知識(1)【配当政策，配当性向，配当利回り】
- 11回 配当の基礎知識(2)【自社株買い戻し，株式分割】
- 12回 コーポレート・ガバナンス(1)【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード】
- 13回 コーポレート・ガバナンス(2)【取締役会制度，執行役員制度，大株主】
- 14回 コーポレート・ガバナンス(3)【敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート（課題）・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業ファイナンスI【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「経営統計」・「簿記論I」・「簿記論II」・「経済学入門A」を履修していることが望ましい。
・ 授業外学習について
(1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので、必ず参照し準備すること。
(2)授業終了後には、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹，『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸，『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年）
石野雄一，『ざっくり分かるファイナンス』，光文社（2007年）
大津広一，『ファイナンスと事業数値化力』，日本経済新聞社（2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 企業ファイナンスIの復習
- 2回 現在価値計算(1)【現在価値 (PV)，将来価値 (FV)，安全利子率】
- 3回 現在価値計算(2)【リスクプレミアム，投資信託】
- 4回 株式価値・負債価値と企業価値(1)【金融商品，利付債，割引債，クーポン】
- 5回 株式価値・負債価値と企業価値(2)【配当割引モデル (DDM)】
- 6回 株式価値・負債価値と企業価値(3)【企業価値，株式価値，負債価値】
- 7回 資本コスト(1)【資本コスト，最低要求収益率】
- 8回 資本コスト(2)【加重平均資本コスト】
- 9回 資本コスト(3)【マーケット・ポートフォリオ，資本資産評価モデル (CAPM)， β (ベータ)】
- 10回 投資決定の基礎理論(1)【投資決定，割引キャッシュフロー (DCF) 法，正味現在価値 (NPV)】
- 11回 投資決定の基礎理論(2)【内部収益率 (IRR)，回収期間法】
- 12回 資本構成の基礎理論(1)【レバレッジ効果，MM理論，裁定取引】
- 13回 資本構成の基礎理論(2)【法人税，倒産コスト】
- 14回 資本構成の基礎理論(3)【トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・90% レポート(課題)・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

企業ファイナンスII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回「電卓」を持参すること。
この講義を受講する場合は、「企業論基礎」・「企業ファイナンスI」・「経営統計」・「経済学入門A」・「簿記論I」・「簿記論II」を履修していることが望ましい。
・ 授業外学習について
(1)事前に講義資料等を学習支援フォルダに挙げているので、必ず参照し準備すること。
(2)授業終了後には、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[新版]』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PPM】、【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 産業進化とイノベーション【技術】【市場】【オープン・クローズ】
- 第12回 ビジネスシステム戦略【ビジネスシステム】、【設計と情報・資源】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部制組織】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】、【知識創造】
- 第14回 経営戦略と組織3-事例研究-【組織文化】【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80%）と学期中の小レポートの結果（20%）によります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

経営戦略論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

財務会計論I【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計（仮題）』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【経済活動】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【商品、サービス、売上原価】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 貨幣評価の公準について【定量化、定性化】
- 13回 経済の変化と財務データ【財務情報、非財務情報】
- 14回 新しい会計の展望【投資家、ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計論I【昼】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。
「事前・事後学習」
事前に、『学習支援フォルダ』のレジюмеや、教科書を読むことをすすめる。
事後に、講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

特になし

『学習支援フォルダ』にレジユメをUPしておくので毎回印刷して持参すること

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計論II【昼】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。
「事前・事後学習」
事前に、『学習支援フォルダ』のレジюмеや、教科書を読むことをすすめる。
事後に、講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本年度、財務会計論Iの講義内容に続き、一部、講義内容を変更することも考えている。その際は、配布プリントで行うこととする。

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	会計監査の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	会計監査の諸問題を解決するための方法を考え、監査一巡の手続きについて、それらを理論的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	会計監査に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	会計監査に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会計監査論

ACC216M

授業の概要 /Course Description

この講義では、独立した公認会計士（監査法人）が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の資本市場への関わりについて考察する。税理士、会計士試験受験志望者にとっては、これまで学んできた会計関連科目のまとめ、あるいは会計学を学ぶ意味をあらためて再確認することにもなる。しかしながら、本講義では公認会計士が社会に対して担う責任の拡がりについて幅広く考察する。過去に会計科目を学んだことのない人であっても、関心があれば積極的に受講されたい（簿記の知識が無くても授業内容は理解できる。履修者にとっては、意外と面白い科目になるに違いない）。講義時間中においては、監査に関わりのある社会的な視点や、会計不正事件をも広く紹介し、履修者に関心を持ってもらう。本講義の到達目標は、受講後、修了者が、時に新聞やマスコミを通じて報道される、監査に関わりある論点を理解し、また会計関連資格取得希望者にとっては、会計監査論のフレームワーク全体に展望を得ることにある。ところで「監査論」は国家試験たる公認会計士試験の一試験科目である。会計士志望の履修者は、本科目の履修によって、難関国家資格にチャレンジする意欲につながれば幸いと考える。

教科書 /Textbooks

未定（初回オリエンテーション時に指定する。生協には事前に入荷依頼をする）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

未定（教室にて別途指示をすることがある）。他に、教室でほぼ毎回、プリントを配布する。それと、各回授業後、本学イントラネット内（マネジメント研究科任章）の「学習支援ホルダー」に復習のチェック問題等を挙げるので、積極的に利用すること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内は各回の授業内容に関わるキーワード：（授業内容の順番は大きく変わることがある。指定する教科書が未定にて、下記は参考に過ぎない）。

- 第1回 : オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 第2回 : 会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 第3回 : 「一般に公正妥当と認められた監査基準」について【GAAS】
- 第4回 : 「監査基準書」とその体系について【SAS】【実務指針】
- 第5回 : 監査契約と監査計画について【監査計画】
- 第6回 : 内部統制について【内部統制】
- 第7回 : 監査リスクについて【監査リスク】
- 第8回 : 監査一巡の手続について【運用テスト】【実証テスト】
- 第9回 : 監査報告書の意義とその種類について【監査報告書】
- 第10回 : 企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 第11回 : 四半期レビュー報告書と保証水準について【レビュー】【保証水準】
- 第12回 : 企業改革法（SOX）とJ-SOXについて【金融商品取引法】【内部統制ルール】
- 第13回 : 過去の学期末試験の内容のレビュー【定期試験の傾向と対策指導】
- 第14回 : 利益調整の動機と、粉飾決算について【粉飾決算】
- 第15回 : まとめと展望【批判会計学としての会計監査論】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の結果 凡そ70%、レポート 凡そ20%、その他積極性等 凡そ10%、あわせて100%で評価する。

会計監査論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

定期試験以外にレポートも課す。復習ができるよう、教室にては毎回の授業の内容をしっかりとメモしておく必要がある。なお期末の定期試験は、普段の出席率の良い人が得点しやすくなるよう、講義した内容の全体からまんべんなく出題する。

簿記会計の知識があれば良いが、しかし履修科目の前提としては求めない。講義中には「たとえ話」を多く交えるので、事前知識がなくても誰でも十分に理解できるはずである。

授業外学習：(事前学習)初回講義時に知らせる講義予定に従って、教科書の定められた章を読んでおくこと。(事後学習)各回教室で学んだ用語や概念を、あとでレポートにまとめて提出できるよう、復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目はいわゆる「山カケ」で単位がとれる科目ではない(各回出席しないと、期末定期試験でさほど得点できないであろう)。履修の動機付けをしっかり持った学生の受講を希望する。

キーワード /Keywords

財務諸表、公認会計士、SOX法、金融商品取引法、内部統制、ディスクロージャー、粉飾決算、他。

国際貿易論I【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

現在の日本では、国際貿易と関係なく暮らすことはできない。朝食として、コメ、パン、お味噌汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するには、トラクター等を使うが、輸入する原油が必要である。パンの原料の多くは輸入する小麦である。味噌や豆腐の原料の多くは、輸入大豆である。牛乳や卵やベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのためには輸入するトウモロコシからなる配合飼料が必要である。つまり、朝食を食べるときにも、貿易は関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考えを持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のレベルのものは使わないように努力する。

この講義の目的は、国際経済関連のニュースに興味を持つようになり、ニュースを自分なりに判断できるようになることである。

テーマ：自由貿易と保護貿易

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

水戸康夫『(仮題) 海外子会社』創成社(2016年出版予定)
その他の国際貿易に関わる一般的な参考書は、最初の講義時に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 貿易理論を学ぶべき理由【保護貿易のメリット・デメリット】
- 第3回 保護貿易主義者の主張【自由貿易理論における仮定への批判】
- 第4回 自由貿易の歴史【英仏戦争、第2次世界大戦】
- 第5回 重商主義の問題点【ヒュームの理論】
- 第6回 絶対優位【A.スミス、2国2財1生産要素モデル】
- 第7回 比較優位【D.リカード、2国2財1生産要素モデル】
- 第8回 比較優位成立の確認【数値例を通じて】
- 第9回 貿易利益1【計算を通じて】
- 第10回 貿易利益2【図を用いて】
- 第11回 ヘクシャー=オリーン理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第12回 リプチンスキー理論【2国2財2生産要素モデル】
- 第13回 要素価格均等化定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第14回 ストルパー=サムエルソン定理【2国2財2生産要素モデル】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 学期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出席は重視している。

キーワード /Keywords

自由貿易 保護貿易 TPP 比較優位

国際貿易論II 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

各国政府は自由貿易をめざすべきであるが、自由貿易が実現しているとはいえない状況にある。自由貿易が実現していない理由については、国際貿易論Iにおいて講義している。自由貿易が実現しないとすれば、自由貿易未実現による国際経済の不効率を改善するものとして、対外直接投資が求められることになる。では、自由貿易を補完・代替するものである対外直接投資とはどのような特徴を持つのであろうか。

対外直接投資の結果として、海外子会社とともに海外孫会社の増加が見られる。海外子会社や海外孫会社の増加は、日本に何をもたらすのであろうか。その意味することともに、なぜ増加しているのかなども紹介する。

この講義の目的は、国際経済関連および海外に進出する日本企業にかかわるニュースに関心を持ち、ニュースに対して自分なりの判断ができるようになることである。

テーマ：海外子会社と海外孫会社

教科書 /Textbooks

水戸康夫『(仮題)海外子会社』創成社、2016年出版予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 直接投資理論を紹介1【直接投資】
- 3回 直接投資理論を紹介2【直接投資】
- 4回 対外直接投資概説【直接投資】
- 5回 中国における海外子会社と海外孫会社【中国】
- 6回 ASEAN4における海外子会社と海外孫会社【ASEAN4】
- 7回 アジANIESにおける海外子会社と海外孫会社【アジANIES】
- 8回 ヨーロッパにおける海外子会社と海外孫会社【ヨーロッパ】
- 9回 アメリカにおける海外子会社と海外孫会社【アメリカ】
- 10回 組織モデル【組織】
- 11回 海外子会社の役割【海外子会社】
- 12回 富士ゼロックス事例【事例】
- 13回 チャーター逸脱事例【事例】
- 14回 ポスト・トランスナショナル組織【組織】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20% 期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教科書はあらかじめ読んでいることを前提に講義を行なう。

キーワード /Keywords

海外子会社 海外孫会社 直接投資理論

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
 - 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
 - 3回 国際収支表 【フロー統計】
 - 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
 - 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
 - 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
 - 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
 - 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
 - 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
 - 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
 - 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
 - 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
 - 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
 - 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
 - 15回 まとめと総復習 【24時間ディールング】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。さらに、事前・事後の自主学習として、プリントの中の各授業内容に該当する箇所を講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットで用語検索する習慣を身につけることを奨励する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード。
- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
 - 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
 - 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
 - 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
 - 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
 - 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
 - 7回 欧州通貨統合の構造的な問題 【安定成長協定】
 - 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
 - 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
 - 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
 - 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
 - 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
 - 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーテンス政策】
 - 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
 - 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。さらに、事前・事後の自主学習として、プリントの中の各授業内容に該当する箇所を講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索する習慣を身につけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
経済現象だけでなく、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。
もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田章 『ゲーム理論入門』有斐閣アルマ、2014年。
渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論（経済学）とゲーム理論【背景の理解】
- 2回 戦略形【利得表と均衡概念、支配戦略と均衡概念と応用】
- 3回 戦略形【逐次削除均衡と応用】
- 4回 戦略形【オークション】
- 5回 戦略形【ナッシュ均衡と応用】
- 6回 戦略形【ナッシュ均衡と応用_数量競争と価格競争】
- 7回 戦略形【混合戦略】
- 8回 戦略形【混合戦略と応用】
- 9回 展開形【時間構造】【後方帰納法】
- 10回 展開形【コミットメント】【戦略形との融合】
- 11回 展開形【交渉ゲーム】【経済学環境】
- 12回 取引ゲーム【直接取引、仲介人の存在、販売店市場】
- 13回 交渉ゲーム：公理論的アプローチ
- 14回 交渉ゲーム：戦略的アプローチ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)
復習をして講義に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. 2000. Introduction to Industrial Organization. MIT Press.
Peter Davis and Eliana Garces. 2010. Quantitative Techniques for Competition and Antitrust Analysis. Princeton Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2回 独占【余剰分析】
- 3回 独占【特許・自然独占】
- 4回 独占【価格差別】
- 5回 独占【独占禁止法と日本経済】
- 6回 寡占【余剰とカルテルの不安定性】
- 7回 寡占【無限繰り返しゲーム：カルテルの安定性】
- 8回 寡占【無限繰り返しゲーム：一般化】
- 9回 競争政策：独占禁止法教室【公正取引委員会】
- 10回 競争政策：【クールノーの極限定理と過剰参入定理】
- 11回 産業政策【イノベーションと日本経済】
- 12回 ネットワーク外部性
- 13回 ネットワーク外部性：進化ゲーム
- 14回 ネットワーク外部性：進化的に安定な戦略
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

産業組織論I・ミクロ経済学・統計学の知識を前提とする。(他学部受講生も同様)
前回の講義の復習をして講義に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 /Instructor 野方 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	証券市場の仕組みの理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

この授業では、証券と証券市場の仕組み・役割といった基礎的事項を学ぶ。株価や債券の価格等の理論的な側面も学ぶが、証券取引所での取引の仕組みや債券市場の仕組み、日本の市場の現況のような制度、実務的側面等についても触れる予定である。なお、計算問題を解くために電卓をもってくること。

教科書 /Textbooks

テキストは指定せず、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大村敬一・俊野雅司(2014)『証券論』有斐閣
釜江廣志[編](2015)『入門証券市場論 [第3版補訂]』有斐閣
小林孝雄・芹田敏夫(2009)『新・証券市場論I』日本経済新聞出版社
伊藤敬介・萩島誠治・諏訪部貴嗣(2009)『新・証券市場論II』日本経済新聞出版社
そのほかの参考テキストについては授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 証券市場論の全体像、授業の進め方(ガイダンス)
2. 証券市場と金融市場
3. 企業の資金調達と証券
4. 株式会社の誕生と株式市場
5. 株価の形成、株式市場における取引の仕組み
6. 債券の種類、債券価格と利回り
7. 債券発行方法、海外と日本の債券市場
8. ポートフォリオ理論
9. 証券市場の経済理論
10. 証券業の活動
 11. 先物・先渡取引
 12. スワップ
 13. オプション
 14. 証券化
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90%、小テスト・レポート10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

証券市場論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業外学習
- 事前学習：授業開始前までに、予めこちらで指定する資料やテキストの内容を読んでくること。また、前回の授業内容も反復しておくこと。
- 事後学習：授業終了後には、授業内容を復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。

本講義では、わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていく。そして中小企業の実態を説明し、関連施策等の知識を身につけることを目標にする。

教科書 /Textbooks

発売中の中小企業庁編「2015年版中小企業白書」日経印刷

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】【問屋制下請】【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 " (解説)
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理I
 - 第13回 " II
 - 第14回 " III
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
授業取り組み度合・50% 期末レポート・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自主学習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方財政論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

地方財政論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理論【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。本講義では、担当教員も執筆者として参加している上林(2015)を教科書として用いるので、必ずこの本を準備するとともに、予習と復習を行なってください。教科書の内容は全15回で網羅できるとは思いますが、講義の順序は教科書の配列とは少し変えています。

教科書 /Textbooks

上林憲雄編(2015)『ベーシック+ 人的資源管理』中央経済社。(2,592円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。
八代充史(2014)『人的資源管理論(第2版)』中央経済社。
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。
Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂)
その他、有用な参考書については講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人的資源管理論へのプロローグ
 - 2回 人的資源管理入門【企業経営】【人的資源】
 - 3回 モチベーション理論【やる気】【モチベーション】
 - 4回 リーダーシップとコミットメント【リーダーシップ】【コミットメント】
 - 5回 組織構造論【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【採用】【異動】
 - 7回 人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 昇進管理【昇進】【出世】
 - 9回 賃金制度【属人給】【仕事給】
 - 10回 労使関係論【企業別組合】【団体交渉】
 - 11回 国際人的資源管理【多国籍企業】【海外派遣者】
 - 12回 人的資源管理学説の変遷(1)【科学的管理法】【人間関係論】
 - 13回 人的資源管理学説の変遷(2)【行動科学】【戦略人事】
 - 14回 人的資源管理と組織能力の連関【組織能力】【ダイナミック・ケープビリティ】
 - 15回 近年における人的資源管理の動向、総まとめ【ダイバーシティ】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
ただし出席を不定期にとり、単位認定の参考資料とする。

人的資源管理論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- (1) 「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといでしょう。
- (2) また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが期待されます。ちなみに教科書を持参しない学生が最近増えていますが、図表などを参照するので必ず持参してください。
- (3) 各回の最後に練習問題を配布しますので、これをもとに事後学習を行ってください。
- (4) 教科書は昨年度使用した本と異なります。
- (5) 大学生には言わなくても分かるとは思いますが、私語はしないこと、無断で遅刻・退出不をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないでしょう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずで。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれませんが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえましょう。

なお組織構造や経営戦略に関する内容が含まれているので、経営組織論や経営戦略論の受講も推奨します。とくに第14回の内容は、戦略論に詳しくないと理解できないと思います。

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

The objective of the course are:(1) to help you develop an understanding of basic economic concepts that underline the business management, and (2) to help you develop your economic vocabularies in English.

このクラスは英語で行います。

教科書 /Textbooks

Essentials of Economics 6th edition N. Gregory Mankiw South-Western cenage learning 2011

ただし、書き込みしない場合は貸し出しまたはused bookで対応することも可能です。しっかり自分の財産としたい方は購入をお勧めします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー入門経済学
アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書
池上彰のやさしい経済学

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

week1 Ten principles of economics
week2 Thinking like a economist
week3 Interdependence and the gains from trade
week4 Supply and Demand
week5 Consumers, producers, and the efficiency of markets
week6 Measuring a nation's income
week7 International Trade
week8 Mid-term examination
week9 Production and growth
week10 The cost of production
week11 The firm in competitive markets
week12 Measuring cost of living
week13 Basic tool of finance
week14 The monetary system
week15 Money growth and inflation: Abenomics

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

(1)Class participation	20%
(2)Class presentation	20%
(3)Mid-quizzes	30%
(3)Final test	30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

All lessons are basically conducted in English.

Students can use lecture slides on "Gakushu Shien" of the university website for pre-class preparation and post-class follow up.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Foreign Students are the most welcome, you learned about Japanese Economy as well.

内容は易しいですので特に前知識は必要ありませんが、日本語で経済関係の基礎を学んだことがある学生はより理解が深まると思われる。

キーワード /Keywords

GDP, Inflation, comparative advantage, opportunity cost, market force, GDP deflator, present value, future value, put, call, Black-Sholes, derivative, purchasing power parity, interest rate parity, fixed and float exchange rate, currency crisis, capital flight

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、教員を志願する者が、教職の意義や教員の役割や職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）等に関する基本的な知識を修得し、「現在の教員には何が求められているのか」ということについて理解し、教職に就くことについての自己の意欲や性格を熟考し、「教員としての適格性を持つためにどのような努力をしなければよいのか」ということを考察すること等を援助・指導・助言する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし(授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の「意義」	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の「役割」	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の「職務内容」	【教員の職務】【生徒指導】
6回 「キャリア教育」と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の「使命」	【教育の論理】【生活の論理】
8回 教員の「資質」と「適格性」	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の「役割」	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の「役割」	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の「役割」	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」教育における教員の「役割」	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」の指導における教員の「役割」	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 「教員に何が求められるか」	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係 :教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②:日本の教育思想
- 7回 教育史①:西洋教育史
- 8回 教育史②:日本教育史
- 9回 家庭教育の変遷と課題:社会化
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:教材・方法
- 13回 仕事と教育:進路形成
- 14回 国際化と教育:言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジユメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP (下記) より「生徒指導提要」の第3章部分 (p.43-81) を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科学、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 「中学校学習指導要領解説 社会編」(平成20年9月・文部科学省) 167円+税
- ・ 他にも講義内で資料を適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科学の理論と実践』 学文社 2007 1900円+税
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：地理的分野の目標とその取り扱い
 - 第4回：歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第5回：公的分野の目標と内容とその取り扱い
 - 第6回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第7回：社会科学の授業づくり グループワークについて
 - 第8回：社会科学の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 「地誌作成」について
 - 第10回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第11回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第12回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第13回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第14回：社会科学教師に求められる資質・能力
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・課題レポート・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科学教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科学教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
 (1) 学習指導要領に基づき、現在の社会科学教育の位置づけを理解する。
 (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
 (3) 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
 (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
 上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版（平成25年）定価167円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 インTRODクシヨン
- 第 2回 学習指導案の作成
- 第 3回 模擬授業（地理的分野①）【世界地理・総論】
- 第 4回 模擬授業（地理的分野②）【世界地理・各論】
- 第 5回 模擬授業（地理的分野③）【日本地理・総論】
- 第 6回 模擬授業（地理的分野④）【世界地理・各論】
- 第 7回 模擬授業（歴史的分野①）【原始・古代】
- 第 8回 模擬授業（歴史的分野②）【古代・中世】
- 第 9回 模擬授業（歴史的分野③）【中世・近世】
- 第 10回 模擬授業（歴史的分野④）【近世・近現代】
- 第 11回 模擬授業（公民的分野①）【憲法】
- 第 12回 模擬授業（公民的分野②）【政治】
- 第 13回 模擬授業（公民的分野③）【経済】
- 第 14回 模擬授業（公民的分野④）【現代社会】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学習指導要領に掲げる事項に即し、学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における各教科等を含む全ての領域の道徳教育の理論と、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、道徳教育の実践的な指導法について学習する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年、244円）、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年、588円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1回 「学校教育」における道徳教育の構造 | 【道徳科】【学校教育の全領域】 |
| 2回 「各教科」と道徳教育 | 【陶冶と訓育】【学校教育活動全体を通じて行う指導】 |
| 3回 「特別活動」と道徳教育 | 【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】 |
| 4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 | 【横断的・総合的な学習】【活動】 |
| 5回 道徳教育の目標と内容 | 【道徳の時間の指導内容】【全体計画】 |
| 6回 「道徳の時間」の計画と指導 | 【指導方法】 |
| 7回 「学習指導案」の内容と作成 | 【学習指導案】【指導技術】 |
| 8回 「道徳の時間」の「教材研究」① | 「モラルジレンマ」 【ジレンマ教材】【対立・葛藤】 |
| 9回 「道徳の時間」の「教材研究」② | 「役割演技」 【動作化】【ロール・プレイ】 |
| 10回 「道徳の時間」の「教材研究」③ | 「アサーション」 【主張】 |
| 11回 「道徳の時間」の「教材研究」④ | 「エンカウンター」 【出会い】【構成的グループエンカウンター】 |
| 12回 「道徳の時間」の「教材研究」⑤ | 「作文」 【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】 |
| 13回 「道徳の時間」の「教材研究」⑥ | 「体験」 【自然体験】【社会体験】 |
| 14回 「道徳の時間」の「模擬授業」 | 【道徳教育の評価】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実際
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実際
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 15回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。
テキストの該当箇所については毎回の授業の前に読んでおくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別活動論 【昼】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の学校教育においては、将来の高度情報社会に生きる児童・生徒に必要な資質を養う教育の必要性が指摘されている。本授業では、そうした教育を含む教育の方法及び技術についての教員の力量を高めるために、学習指導案の作成や教材研究等をも組み入れて、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての基本的な知識を獲得し、その原則と実践的なスキルを習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし (授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】 【比喻・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】 【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
5回 「情報機器」及び「教材の活用」	【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】 【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】 【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】 【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】 【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】 【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】 【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】 【学習活動】 【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】 【説明】 【指示】 【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】 【自己評価】
15回 「模擬授業」 - 各教科指導に向けて -	【実践的な指導】 【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や障害等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理 (テキスト第1章他)
- 3回 教育課程(教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動)と生徒指導 (テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等 (テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携 (テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 発達に課題をもつ子ども (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 いじめ問題への対応 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難を抱える生徒テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒・進路指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 春日井敏行・伊藤美奈子 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
- 文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション -教育相談の意義(生徒指導提要 第4章)
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト第1章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第11章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第13章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第13章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第14章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第15章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第17章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第19章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育相談【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術等を習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【指導目標】【学習指導案】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】【導入】【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】【説明】【指示・助言】【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 教育実習に向けての課題の整理	【教育に求められる資質と教育実習の課題】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 兎玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、近年子どもたちの学力を構成する一要素として注目される「学習意欲」や子どもの「学び」、それらを育む学習教育環境（教育測定・評価、教師、カリキュラム、学級集団など）に関して、発達心理学、認知心理学、社会心理学などに触れながら理解を深めていく。

とくに子どもの「学び」に関わる理論や実践例を、代表的な研究者の考え方を取り上げながら学習することを通して、「心理学的視点を踏まえながら、教育の諸事象に関する考え方を持てること」を目標とする。

講義を中心としながら、日常的な具体例を通して実際の関わり方を考えることのできる機会を設けていく。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業では毎時、参考資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時、情報を提供する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：なぜ教育心理学を学ぶのか 教育を心理学で考える
 - 第3回：記憶に関する理論 認知心理学の理論
 - 第4回：学習とは何か 教えて考えさせるということ
 - 第5回：学習の理論 学習心理学・発達心理学の理論
 - 第6回：子どもの発達を考える 発達心理学の理論
 - 第7回：学習意欲とは何か 学習意欲の構造論から
 - 第8回：子どもをいかに評価するか 学習意欲の観点から
 - 第9回：「学力」について考える 学習意欲と態度
 - 第10回：教育測定・評価（1） 評価の尺度について
 - 第11回：教育測定・評価（2） 教師の視点と生徒の視点
 - 第12回：学校カウンセリング スクールカウンセラーの役割
 - 第13回：学校・学級の心理的諸問題（発達につまづきのある子どもたち）
 - 第14回：学習の方法と意欲 学習方略の理論
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 講義内での活動への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 20%
- 講義でのミニレポート・・・ 30%
- 最終試験・・・ 50%

なお出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しております。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 作田 誠一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から教育に関わる諸現象を多角的に考察することで、教育制度や教育問題（いじめや非行等）を客観的に検討し、理解することが本講のテーマである。

- ・教育社会学および社会学の理論の基礎的な知見を学び、社会や教育の常識を問い直す。
- ・教育に関わる諸問題を多角的に考察することで、新たな知見を得る。
- ・教育に関わる諸制度の変遷や社会的な変動等を踏まえて、学校社会について理解する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。資料等については、授業中に適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- I.イリッチ,東洋・小沢周三訳,1977,『脱学校の社会』東京創元社
P.ブルデュー・J.-C,パスロン,宮島喬訳,1991,『再生産』藤原書店
P.ウィリス,山田潤・熊沢誠訳,1996,『ハマータウンの野郎ども』筑摩書房
E.デュルケム,麻生誠・山村健訳,2010,『道徳教育論』講談社
広田照幸・伊藤茂樹,2010,『教育問題はなぜまちがって語られるのか?』日本図書センター
酒井朗・多賀太・中村高康編著,2012,『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
第2回：教育社会学の対象と方法
第3回：子どもの社会化と家族・学校
第4回：学校という組織
第5回：学校社会と生徒文化
第6回：学校社会と教師文化
第7回：文化的再生産論にみる学校社会
第8回：少年非行と逸脱理論(1) -アノミー論と文化的接触理論
第9回：少年非行と逸脱理論(2) -コンフリクト理論とラベリング論
第10回：日本における少年非行の歴史とその特徴
第11回：いじめ現象の構造とその特徴
第12回：近代化とメリトクラシーの諸問題
第13回：グローバリゼーションと教育
第14回：情報化社会と教育
第15回：再帰的近代化における生徒の意識とその特徴
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、日常の授業への取り組み30%、小レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習に関しては、教育に関わる新聞記事や参考図書等の文献に目を通して置くこと。復習においては、授業内容についてもう一度まとめてその内容の習得に努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会化 近代教育制度 学校文化 文化的再生産 教育改革

人権教育論【昼】

担当者名 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 私の人権教育の創造をめざして
- 1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」
- 第1回 「もののけ姫」(導入)
- 製作の時代背景と人権確立の潮流
 - 物語の登場人物からのメッセージ
- 第2回 中世(平安～鎌倉～室町)
- 仏教の伝来とケガレ観
 - 社会や文化のしくみと差別意識の起こり
- 第3回 近世(安土桃山～江戸)
- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
 - 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化
- 第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)
- 近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)
- 第5回 近代(明治～)
- 「解放令」とその意義
 - 近代化と差別の再生産へのしくみ
- 第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び
- 教科書無償の取り組みと親たちの願い
- 2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」
- 第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)
- 第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)
- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
 - 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
 - 全国学力テスト結果の分析と課題
- 第9回 人間関係づくり
- 「なかまづくり」の原点と実践例
 - 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ
- 第10回 教育環境・雰囲気づくり
- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)
- 第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ
- 人権教育の技能・スキル・態度
 - 金子みすず「東京大学入試問題」
- 第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く
- 教育現場の「具体的な実例」から考える
- 第13回 「体罰」と人権
- 文部科学省の調査
 - 教育現場の「体罰の実例」から考える
- 第14回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ」問題の現状を認識する
 - 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題
- 第15回 「いじめ」問題と人権
- 「いじめ対策防止法」
 - 「いじめ対策の留意点8カ条」(法務省委託研究・有識者検討委員会)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(30%)及び学期末のレポートによる評価(70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、教員免許を取得するにあたって必要な教育方法・技術、教材と教具、指導方法を学び、授業の実践的指導力の基礎を養うことを目標とする。また近年の著しいICT(情報通信技術)の進展を踏まえ、PCやWebを活用した教材作成の方法・技術の修得の基礎についても概観する。さらに、模擬授業の実施及び評価等を通して、教育の方法と技術の実践的活用能力の基礎を育成し、各教科等の指導に最小限必要な資質について学ぶことを主なねらいとする。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

指定しない。必要な資料を適宜授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 平成20年3月告示 東山書房 244円
高等学校学習指導要領 平成21年3月告示 東山書房 588円
平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化2000円
小川哲生他著 教育方法の理論と実践 明星大学出版部 1500円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
1. オリエンテーション【本授業の内容・進行・評価方法】
 2. 授業と教育方法【教育方法】
 3. 授業と教育技術【教育技術】
 4. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順【授業設計】
 5. 授業過程の分析と改善【授業過程】
 6. 授業実施の技術【授業技術】
 7. 授業の評価【授業評価】
 8. 教育における情報化社会の影響【情報化社会】
 9. 教育におけるICT(情報通信技術)の活用【ICT】
 10. 学習指導案の作成【学習指導案】
 11. 教材研究【教育メディアとその活用】
 12. 模擬授業【模擬授業】
 13. テストと学習内容の評価【テスト】
 14. 授業実践能力の改善と向上【教育の方法と技術の実践能力】
 15. 現代の教育課題と講義のまとめ【現代の教育課題】

成績評価の方法 /Assessment Method

教材研究課題(20%)、模擬授業(30%)、試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教材研究、模擬授業等に関する課題の提出は必須の課題となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制の成立（1889年）から崩壊（1945年）までの日本政治の歩みを概説します。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

歴史と政治【夜】

履修上の注意 /Remarks

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回最後の10-15分は指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特になし。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 近代以降の家族・親族関係の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼にもとづく時間・空間認識

第11回 宗教と家族・コミュニティ

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、順序を入れ替えて補講を行う。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など 40%、期末テスト 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や提出課題の未提出者、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
【必要な授業外学習について】
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に出席していても、テストやレポートで評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最近の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生みだす本能(上)・(下)』ステイヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。
毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する（特に提出する必要はない）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、フッサール現象学からフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明しつつ、生活世界の変容とその問題点を確認したあと、21世紀の今日でもなお哲学的思索の糧となりうる「古代」の分析に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- フッサール『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』（細谷恒夫・木田元訳）、中公文庫、1995年。
 - ハイデガー『存在と時間（一～四）』（熊野純彦訳）、岩波文庫、2013年。
 - ホルクハイマー/アドルノ『啓蒙の弁証法—哲学的断想』（徳永恂訳）、岩波文庫、2007年。
 - ハンナ・アーレント『イェルサレムのアイヒマン』（大久保和郎訳）、みすず書房、1969年。
 - ハンナ・アーレント『人間の条件』（志水速雄訳）、ちくま学芸文庫、1994年。
- その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 近代の勃興【ガリレイと科学革命】
- 3回 生活世界の概念（1）【フッサールの科学批判】
- 4回 生活世界の概念（2）【ハイデガーの世界論】
- 5回 生活世界の変容（1）【近代産業社会】
- 6回 生活世界の変容（2）【戦争の美学】
- 7回 生活世界の変容（3）【政治の美学】
- 8回 確認テスト
- 9回 生活世界の変容（4）【全体主義と思考能力・前半】
- 10回 生活世界の変容（5）【全体主義と思考能力・後半】
- 11回 生活世界の二元性【アーレントの近代批判】
- 12回 古代世界の公共空間（1）【ホメロス】
- 13回 古代世界の公共空間（2）【古代文明と戦争】
- 14回 古代世界の公共空間（3）【アテナイ民主政】
- 15回 古代世界の公共空間（4）【古代ギリシャの公と私】

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...45% 学期末試験...55%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

生活世界の哲学【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

【事前・事後学習の内容】授業の前に、前回授業の内容を見直しておくこと。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。スライドの内容はもちろんのこと、担当者が口頭で述べた内容についても、こまめにノートを取る習慣を身につけてほしい。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。

キーワード /Keywords

科学技術 生活世界 活動 ポリス

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考案することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合って適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置、出力装置、解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU、メモリ、記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション、文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換、パケット交換、LAN、IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン、Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権、コンテンツのデジタル化、クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

情報社会への招待【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。
e-Learningサイト「北方Moodle」を使って、授業の資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、北方Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ

教養基礎演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養基礎演習 I
			GES101F

授業の概要 /Course Description

このクラスのテーマは、「バレーボールを科学する！技術編」です。
「映像情報および公式情報に基づくゲームの見直し作業」を通じて得られた知見をもとに、戦術理解の深化をキーワードに、大学生の武器である「頭（頭脳）」を使って「バレーボール」と真正面から向き合うための基礎知識・技術を習得してもらおうと思っています。バレーボールで試合に勝つためには、連続失点を少なくすること、連続得点を多くすることを考えたチーム作りが必要になりますが、今回、ここでは「連続得点をとる」をキーワードに、基本的な戦術の理解とともに映像等を基にしたデータ分析の基礎的な手法を学んでいきます。
作業は、座学と調査・実習を組み合わせながら、グループで行うことを予定しています。このプロセスを通じ、①情報を収集する力、②データを分析する力、③問題（ポイント）を発見する力、④自分の考えを人に伝達する力、⑤考えを異にする人と討論し、説得する力を、みなさんには身につけ、高めてほしいと思います。

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

教科書 /Textbooks

テキスト等はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書等は、初回の授業時に、紹介します。
授業の理解に必要な資料等は、適宜、配布します。

教養基礎演習I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，受講者の確定
 第2回 バレーボールとアナリストの役割，公式記録の見方
- 【連続得点をとるための分析軸I：サービス⇒レセプション（サービスによって先手を取る）】
 第3回 戦術理解I：レセプションフォーメーション&サービス
 第4回 ゲーム映像からの分析I①：フォーメーションのチェック
 第5回 ゲーム映像からの分析I②：ローテーションごとに結果を整理（レセプションの評価）
 第6回 分析結果の発表I：サービスの狙い目はどこか
- 【連続得点をとるための分析軸II：レセプション⇒アタック（相手チームの攻撃パターンを知る）】
 第7回 戦術理解II：アタックフォーメーション
 第8回 ゲーム映像からの分析II①：レセプション⇒攻撃（軌跡化）
 第9回 ゲーム映像からの分析II②：レセプション⇒攻撃（選手ごとの特徴）
 第10回 分析結果の発表II：どのような特徴がレセプションからの攻撃に見られるか
- 【連続得点をとるための分析軸III：ディグ⇒アタック（拾って攻撃につなげる）】
 第11回 戦術理解III A：ブロックシステム，フロアディフェンスフォーメーション
 第12回 ケーススタディIII A：チーム事情に応じたシステムを考えよう
 第13回 戦術理解III B：アタック&ブロックフォローフォーメーション
 第14回 ケーススタディIII B：高さを理解した攻撃を考えよう（2つの最高到達点の比較から）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。
 具体的には、受講意識、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。総合的知識・理解については、分析に必要な理論や技術を習得し使いこなすことができるかどうか、人間の行動パターンを数値化してとらえることの意義を理解できているかどうかの観点から評価します。課題発見・分析・解決力については、実際のゲーム映像を分析することで、対象チームや選手個人の特徴を抽出するとともに、試合に勝つために必要なオリジナルの分析結果（解決案）を導き出すことができるかどうかの観点から評価します。生涯学習力については、競技としてのバレーボールとのかかわり方や授業や課題への取り組み姿勢といった観点から評価します。コミュニケーション力については、グループ作業へのかかわり方やプレゼンの状況といった観点から評価します。
 ゼミへの参加と観点評価...100%（4つの観点・各25%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

生涯学習力との関係で、今年度は、（財）日本バレーボール協会に有効に登録されているチーム/組織のメンバーのみを受講の対象とします。（選手登録、スタッフ登録いずれも可。1年生で登録予定の方も可。大学チーム、クラブチームは問いません。）

サブゼミなどのため、正規の授業時間外にも時間を取ってもらうことになります。
 受講申請にあたってはこの点に注意してください。
 最大でも12人を予定しています。
 欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、グループでの作業に深刻な影響を与えることになります。参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バレーボールが真に好きで、競技接点を持っており、得られた知見を、現在、そして将来にわたって、活かしてくれる人を募集します。
 あなたの『バレーボール力』をさらに伸ばしてみませんか。

キーワード /Keywords

バレーボール アナリスト データ分析 各スキル・エリアの記号化 スキル評価の基準

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられています。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察します。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、グループワーク等を通じて体験し、先行研究や日頃の問題意識に基づく研究計画をポスターにまとめ、ポスターツアーでの質疑応答を通じ、それをさらに深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。必要に応じてハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス, グループ分け
2. 自己紹介, 聴くスキル
3. 集団討議 (グループワーク)
4. 集団の心理
5. 伝えるスキル1「メンタルモデル・わかりやすい説明」
6. 伝えるスキル2「アサーション, S-BAR」
7. 集団討議 (グループワーク)
8. レポート・ポスター課題・研究法説明
9. レポート・ポスター作成
10. レポート・ポスター作成
11. レポート・ポスター作成
12. ポスターツアー1
13. ポスターツアー2
14. ポスターツアー3
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

グループレポート(20%) + PTグループポイント(20%) + PT個人ポイント(20%) + 試験(40%) - 【平常点(減算式)】
※ PTとはポスターツアーを指し、グループで作り上げるものです。詳細は講義中に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【夜】

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目です。
課題レポートおよびポスター作成のために、グループごとに時間外での調べ学習や打ち合わせなどの時間外学習が必須となります。

以下のルールに反した場合、平常点を減算とします。単純な欠席は平常点の減算対象となりません。

1. 私語，内職，意図的な睡眠 → 5点マイナス
2. グループワークやレポート作成に参加しない → 40点マイナス
3. グループミニレポートを提出しない場合，あるいは白紙であった場合 → グループ全員5点マイナス

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、ポスターツアーなどグループワークを中心としたアクティブラーニング形式です。

☆アクティブラーニングとは...

教員による一方向性な講義形式とは異なり、学修者の能動的な学修を取り入れた講義（文部科学省，2012）

講師は、学生が主体的・能動的に学習に取り組めるように授業方法を設計します。

学生は【見たり聞いたりノートをとったりする以上の活動】【学生自身が活動し、その活動について思考することで学ぶ】ことが必要です。

※グループワークに参加する意思のない方/スケジュール上参加が難しい方には履修をお勧めしません。

キーワード /Keywords

認知心理学、社会心理学、実験、調査、グループワーク、アクティブラーニング

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

障がい学【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回：障害の捉え方【障害の種類と区別】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉症とは【自閉症】
- 第6回：文化モデル的作品DVDの視聴【文化モデル的作品】
- 第7回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第8回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第9回：日本の福祉制度現状【法的現状】
- 第10回：日本の福祉制度の現状【制度的現状】
- 第11回：日本の福祉制度の現状【雇用問題を事例として】
- 第12回：日本の福祉制度の課題【福祉制度の課題】
- 第13回：共生社会へ向けての課題【共生社会】
- 第14回：自己への問いとしての障がい学【自己への問い】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事後学習の内容と事前学習の内容を指示する(特に提出する必要はない)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。
主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析①
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析②
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代社会と倫理との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の倫理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の倫理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と倫理
			PHR002F

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』（山内友三郎・塚崎智監訳）、昭和堂、1999年。
- ピーター・シンガー『あなたが救える命』（児玉聡・石川涼子訳）、勁草書房、2014年。
- 加藤尚武・飯田巨之編『バイオエシックスの基礎』、東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』、勁草書房、2011年。
- 安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか—要説・倫理学原論』、世界思想社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値（4）【不完全義務】
- 7回 現代における人命の価値（5）【自己意識】
- 8回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題（2）【差別と区別】
- 10回 現代における差別の問題（3）【優生学】
- 11回 現代における差別の問題（4）【ナチズム】
- 12回 現代における公平性の意義（1）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（2）【貧困問題】
- 14回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 15回 現代における公平性の意義（4）【食糧問題】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業予定の詳細と参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。

【事前・事後学習の内容】参考書に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、授業の前に簡単にでも目を通しておくことが望ましい。授業の後は、ノートおよび配布プリントをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中に一度配布したプリントは原則として二度と付与しない。病気・就活・実習など、やむを得ない事情による欠席の場合は、必ず証明書付きの理由書を提出すること。卒業予定の4年生に対しても、他と同じく厳しい採点態度で臨む。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 貧困 公平性

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
永田 公彦 / グローバル人材育成推進室, 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身についている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション-グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易保護】
- 3回 地域貿易協定【FTA】【TPP】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 多国籍企業の所有戦略【所有形態】【経営支配】
- 9回 多国籍企業の経営現地化【グローバル型】【人事現地化】
- 10回 輸入品の流通構造と企業戦略【SCM】【商品調達】
- 11回 地域産業と内なる国際化の実情【外国人労働者】
- 12回 人と情報のボーダレス化【多国籍組織】【ダイバーシティ】【世界同時情報共有】【ネットワークング】
- 13回 グローバル文化と異文化マネジメント【グローバルノマド】【グローバル人事】
- 14回 バブルと国際金融危機(1)【バブル】【不良債権】
- 15回 バブルと国際金融危機(2)【リーマンショック】【証券化】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

グローバル化する経済【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本 IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
○五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【デタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバル化】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【マーシャル・プラン】【封じ込め戦略】【日本の経済復興】
11. 脱植民地化と社会主義経済の苦闘【東欧の共産化】【経済の政治化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ベトナム戦争】【ニクソン・ショック】【日米経済摩擦】
13. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
14. 世界金融危機と日本経済【国際金融規制】【貿易収支】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史の読み方 I
			HIS004F

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後には講義中に配布した史料プリントを読み返しておくこと。

歴史の読み方I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 / Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の見方の多様性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	史料や文献を講読することを通じて、歴史の中に問題を発見・分析する能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	史料や文献を講読することを通じて、幅広い歴史の見方を涵養するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		歴史の読み方II HIS005 F	

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された児玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『児玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房、3000円税別）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山殉難七士事件～佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 児玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに予め教科書の該当箇所を目を通しておくこと。授業終了後には講義ノートを参照しながら教科書を再読すること。

歴史の読み方II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	世界史を同時代史として、グローバルに理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	世界史を同時代史として、グローバルに認識できる能力を涵養することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	世界史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			そのとき世界は
			HIS002 F

授業の概要 /Course Description

皆さんの祖父・祖母の世代の人々がどのような時代を生きたか、日本とミャンマーの状況を対比させながら考えていく。対象となるのは、1930年代から現代。日本の状況に関しては、小林先生に担当していただき、内容を充実させる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション。
- 第2回：ミャンマー概説1（風土、文化）。
- 第3回：ミャンマー概説2（社会）。
- 第4回：1930年代の日本（小林先生担当）。
- 第5回：1930年代のミャンマー。
- 第6回：1930年農民大反乱。
- 第7回：第2次世界大戦と日本（小林先生担当）。
- 第8回：第2次世界大戦とミャンマー。
- 第9回：1980年代の日本（小林先生担当）
- 第10回：1980年代のミャンマー
- 第11回：民主化運動。
- 第12回：現代の日本（小林先生担当）
- 第13回：現代のミャンマー。
- 第14回：民主化のゆくえ。
- 第15回：まとめ。
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本についても随時取り上げるが、中心はミャンマーにある講義内容である点をあらかじめ理解したうえで受講のこと。
事前・事後に簡単な課題を課すので、各自で調べてみること（ただし提出する必要はない）。

そのとき世界は【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「祖父母の生きた時代」「日本とミャンマーの比較」

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史上著名な人物を通じて、歴史の流れを理解するために必要な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史上重要な人物を特定し、その人物が果たした歴史的役割を見出す能力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身の回りの歴史と著名人物に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		
			人物と時代の歴史
			HIS001 F

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
 なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
 二人の教員が、イギリス・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。
 まず、新村は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道 (Bushido) が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰 (アイヌや南方諸島に残る) や弥生信仰に代わって、聖徳太子 (厩戸皇子) は仏教を大和 (やまと) の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。
 さらに、大英帝国の後を継いで100年にわたり世界を支配してきたアメリカ合衆国の歴代大統領のなかから、初代ワシントン大統領、第3代ジェファソン大統領、第7代ジャクソン大統領、第16代リンカン大統領、第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領について講義します。
 次に山崎は、スコットランドを紹介したのち、日本の近代化に貢献したスコットランド人のトーマス・グラバーと雇われ外国人の果たした役割について述べる。次にスコットランドが生んだ偉大な経済学者であるアダム・スミスの『国富論』について述べる。市場原理と自由競争を唱えたアダム・スミスの考えはグローバル化時代の今日でも十分有効であると考えられるからである。
 第2に私が二年間在籍したことのあるケンブリッジ大学を案内する。その後「ケインズ革命」で有名なメーヤード・ケインズその人物と理論を紹介する。世界恐慌に苦しんだ世界経済を救済するために考え出したケインズ政策について解説し、安倍首相までもがアベノミクスで活用している実態を明らかにする。
 第3にロンドンの大英博物館を紹介した後、『資本論』を大英博物館で書き上げカール・マルクスを紹介する。グローバル化の結果世界中で格差問題が起こっているが、140年前にすでに資本主義の発達と窮乏化に取り組んだマルクスの眼には狂いがなかったと言えよう。今日の資本主義のアキレス腱をマルクス理論で解明する。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。(新村)
口述講義 (山崎)

人物と時代の歴史【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書

新渡戸稲造『武士道』(BUSHIDO)

○藤沢周平『漆の実のみのる国』(文春文庫)

○中村彰彦『保科正之』(中公新書)

『歴代アメリカ大統領』(プティック社)

山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで—』(ミネルヴァ書房、2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、イギリスの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする。

(新村)

第1回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】

第2回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と 儒教的経営

第3回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之

第4回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】(1)

第5回 聖徳太子(厩戸皇子)と【飛鳥・奈良時代】

第6回 アメリカ大統領I(初代ワシントン大統領、3代ジェファーソン大統領、7代ジャクソン大統領、16代リンカン大統領)【独立戦争・建国・南北戦争時代】

第7回 アメリカ大統領II(第26代セオドル・ルーズベルト大統領、第32代フランクリン・ルーズベルト大統領、第35代J・F・ケネディ大統領、第44代バラク・フセイン・Obama大統領)【第一次・第二次世界大戦・ベトナム戦争・中東戦争・アフガン・湾岸戦争】

(山崎)

第8回 イギリスとはどんな国か

第9回 薩長の討幕運動を後ろから支援したトーマス・グラバー

第10回 明治維新後のトーマスグラバーと岩崎弥太郎

第11回 なぜスコットランド民謡が「蛍の光」になったのか—雇われ外国人たちを中心に

第12回 経済学の父、アダム・スミス『と国富論』とはどんな本か

第13回 ケンブリッジ大学とメーヤードケインズの『一般理論』

第14回 大英博物館とカール・マルクスの『資本論』

第15回 まとめ—レポート提出の要件、提出締切日などの説明—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 寺田 千栄子 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類】
- 第4回 メンタルヘルスに関する基礎知識(3)【よくある誤解】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第6回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第7回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第8回 精神と行動の異変(2)【精神疾患①】
- 第9回 精神と行動の異変(3)【精神疾患②】
- 第10回 精神と行動の異変(4)【子どものころから現れやすい問題】
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

【事前・事後学習】

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

メンタル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）について、精神病理や心理学、そして社会福祉学の観点から考えていく科目です。まずは自己分析を通して、自らの可能性を感じ、自己肯定感を高めるための方法について考えていただきます。さらに、実際の事例などを紹介しながら、生きづらさを感じ、メンタルヘルスが壊れるとはどういう事なのかを考えていきます。そして、何よりも「助けて」と言えることの大切さや、「お互い様」の中での支え合いで社会が作られているということを少しでも理解していただきたいです。

教科書 /Textbooks

なし。
適宜、紹介をします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大平 健 (1995) 『やさしさの精神病理』岩波書店
春日 武彦 (2004) 『援助者必携 はじめての精神科』医学書院
他、適宜紹介をします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、受講上の注意など。
- 2回 心理テキストに挑戦【自己分析】
- 3回 あるもの探し【ポジティブシンキング、ストレングス・パースペクティブ】
- 4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 7回 自己覚知②【ライフヒストリー】
- 8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 10回 事例検討①【非行】
- 11回 事例検討②【虐待】
- 12回 事例検討③【ホームレス】
- 13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 14回 事例検討⑤【障害】
- 15回 助けてと言える力【受援力、援助力】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題の提出状況.....50%
定期試験.....50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。授業終了後には、提出課題への取り組み、学んだ内容に関する実践的復習などを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私の専門は社会福祉学ですが、できるだけ受講生にとって、癒しの場であったり、笑いの場であったり、あるいはこれから生きていく上で、少しでも楽になるヒントをお伝えすることができれば幸いです。

キーワード /Keywords

精神保健、心理学、社会福祉学、

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障害の有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
 - 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
 - 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
 - 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
 - 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
 - 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
 - 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
 - 9回 ルール説明
 - 10回 審判法
 - 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
 - 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
 - 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
 - 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、傷害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際に相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する：

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算 Excel 2016対応」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、
積極的な授業参加（タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む）... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておく受講しやすい。
授業開始前までに予め教科書の内容をよく読み、授業終了後にはパソコン自習室や自宅のパソコン等で積極的に操作練習を行うこと。
タイピングは、普段から自主練習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピュータを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

情報表現【夜】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	情報の収集、加工、発信の各段階において、情報システムを適切に活用する技能を身に付けている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	収集した情報についての総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	他者と協調しながら協同学習を進め、相互理解を深めることの重要性を理解する。
		情報表現	INF230F

授業の概要 /Course Description

この授業では、情報収集、情報加工、情報発信の一連の過程を通じて、「見せる情報」と「聞かせる情報」それぞれに必要な能力を磨く。具体的には、以下のような項目を身につける：

- インターネットを利用したデータ収集、情報の信頼性の基礎
- 表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを利用したデータの可視化手法
- データの分析を通じた課題発見と論理的な思考のアウトプット手法
- グループ活動を通じた他者とのコミュニケーション能力

前半は個人的な能力の養成、後半はグループ活動を通じたコミュニケーション能力の養成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【ガイダンス】
- 2回 データの収集【検索エンジン】【情報の信頼性】
- 3回 データの加工【表計算の復習】【グラフ】【チャート】
- 4回 データの表現【レイアウト】【デザイン】
- 5回 論理的な思考法の基礎 1【課題発見】
- 6回 論理的な思考法の基礎 2【原因分析】【解決手段検討】
- 7回 プレゼンテーション作成演習
- 8回 個人発表
- 9回 個人発表とふりかえり
- 10回 グループによる発表テーマ設定
- 11回 グループによるスライド作成演習
- 12回 発表配布資料作成演習
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表と相互評価
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

情報表現【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

「データ処理」を受講してコンピュータの操作にある程度慣れておくと受講しやすくなる。また、授業中に作成したデータの保存用にUSBメモリを持参してもらいたい。
授業終了後には、必要に応じてパソコン自習室や自宅のパソコン等を用いて授業内容を反復すること。授業で課された課題や演習に取り組む際は、授業時間外を積極的に活用し、特に、グループ活動においては、グループメンバーとよく議論を重ねること。
情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

よく分からないことがある場合は、随時、質問して欲しい。また、この授業ではグループによる協同学習を導入している。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけて欲しい。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、マルチメディア、スライドデザイン

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのつながりにしていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第5版）』（岩波書店・2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第6版）』（新世社・2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義
- 第2回 憲法の展開
- 第3回 人権論① 【人権総論】
- 第4回 人権論② 【戦後人権判例の軌跡】
- 第5回 統治機構論① 【国民主権・権力分立】
- 第6回 統治機構論② 【日本の選挙制度】
- 第7回 統治機構論③ 【日本の政治制度①-国会の地位・権能】
- 第8回 統治機構論④ 【日本の政治制度②-議院の権能、内閣制度】
- 第9回 統治機構論⑤ 【日本の司法制度】
- 第10回 地方自治論 【地方自治の本旨・条例制定権】
- 第11回 平和主義論① 【憲法9条の制定・意義】
- 第12回 平和主義論② 【平和主義の現実と未来】
- 第13回 平和主義論③ 【憲法9条と裁判所】
- 第14回 憲法保障 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第15回 日本憲法史 【大日本帝国憲法の興亡】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもっていません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてほしいのは、環境問題や環境教育の原点とも言われる水俣病です。水俣病の問題がなぜいまだに解決を見ていないのか、歴史を紐解き、その中身をじっくり見る必要があります。また、ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 多田満『レイチエル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成25年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
- * 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
- * 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	「都市環境論」の授業内容とねらいの説明【環境意識】	
第2回	環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） ：簡単な環境意識度チェック	【ESD】
第3回	三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告と水俣について	【環境学習旅行】
第4回	水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証	【水俣病】
第5回	日本の環境政策の歴史と課題	【環境政策】
第6回	廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、3R	【廃棄物管理】
第7回	食と農～健康の源＝自らの食を見直そう	【食農】
第8回	上水道 : (アクティビティ=きき水比べ)	【おいしい水】
第9回	下水処理をめぐって～下水処理の原理	【水質汚濁】
第10回	大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？	【大気汚染】
第11回	大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定	【CO2計測】
第12回	北九州市の環境の現状	【北九州市】
第13回	途上国の都市環境問題	【途上国】
第14回	環境保全・環境教育に取り組む人々＝ エコツーリズムに関わろう！	【エコツーリズム】
第15回	まとめ	

都市環境論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

時々の小課題の実施

授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらいますので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境都市としての北九州」の同時受講も勧めておきます。

同時に。毎回、自主練習を行い、授業の内容を反復して、日常生活にいかしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全是楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D (持続可能な開発のための教育)、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ

公共政策論【夜】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにしたい。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えている。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。とりあえず以下のものをあげておく。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ』（東洋経済新報社、2012年）。

阿部彩『子どもの貧困-日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）

阿部彩『子どもの貧困II-解決策を考える』（岩波書店、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 ダストレスチヨークと障害者
- 5回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 6回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 7回 子どもの貧困（3）・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 8回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 9回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策
- 10回 循環型社会（1）・・・リサイクルは環境に優しいのか？
- 11回 循環型社会（2）・・・ペットボトルのリサイクル
- 12回 介護保険（1）・・・導入
- 13回 介護保険（2）・・・現状分析
- 14回 介護保険（3）・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険（4）・・・介護保険の改革

公共政策論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加すること。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うこと。
本年度は授業内容を変更（例えば、「循環型社会」を「人間関係資本」、「日本版CCRC」、「下流老人」等の問題に変更）する可能性があるため、第一回目の講義には必ず参加していただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞむので必ず授業に出席するようにしていただきたい。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、リサイクル、介護保険

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【夜】

担当者名 高崎 陽子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度	SOW222M
---------------------	---------

授業の概要 /Course Description

「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」では、障害の概念や福祉理念の変化の歴史とともに変遷をたどってきた障害者施策を概観することと併せて、「障害の有無によって分け隔てられることなく、国民が相互に人格と個性を尊重し合いながら安心して暮らせる地域社会の実現」を目的とした障害者総合支援法の内容を読み解くことによって、障害のある人の置かれている現状と課題を理解する。さらに「障害者虐待防止法」及び今年4月に施行される「障害者差別解消法」を学ぶことを通して、障害のある人への「合理的配慮」の意義と目的を理解する。その理解をもとに障害のある人が自らの力を発揮し可能性を広げて主体的に生きること、「こうありたい」という思いを実現するために支援する援助者に求められる視点とアプローチについて理解を深める。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」第5版
中央法規出版
その他適宜、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

その都度講義で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」で何を学ぶのか。
- 第2回 障害のある人を取り巻く社会情勢と生活実態
- 第3回 「障害」とはなにか。 「障害の概念と構造的理解」
- 第4回 障害福祉施策の変遷 「障害者権利条約に至るまでの歴史」
- 第5回 障害福祉に関する諸制度について 「法律における定義と制度利用との関連」
- 第6回 障害者総合支援法の理念と概要 「理念と目的、支給決定プロセス」
- 第7回 障害者総合支援法に定められた障害福祉サービスの内容
- 第8回 障害者総合支援法における相談支援の意義と生活支援
- 第9回 障害児に対する支援 「障害児福祉施策の経過と現状」
- 第10回 障害のある人の「働きたい」を支える 「就労支援」
- 第11回 障害のある人の権利を守ること① 「障害者虐待防止法に関連して」
- 第12回 障害のある人の権利を守ること② 「障害者差別解消法に関連して」
- 第13回 障害のある人が安心して地域で暮らせるための多職種との連携・ネットワーク
- 第14回 障害のある人への支援に必要な視点と基本姿勢
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：80% 日常の授業への取り組み：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テレビ・ラジオ、新聞等のメディアや書籍に取り上げられる障害者に関する情報を意識的に収集すること。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適切可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
関心・意欲・態度	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論1」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度1」の内容は授業内容に示した通りである。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2016年版
須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢
- 第2回 高齢者の福祉需要
- 第3回 高齢者の介護需要
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程1【高齢者保健福祉十ヶ年戦略まで】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程2【介護保険制度】
- 第6回 介護の概念や対象【介護の概念と範囲】
- 第7回 介護の概念や対象【介護の理念】
- 第8回 介護の概念や対象【介護の対象】
- 第9回 介護予防【介護予防の必要性】
- 第10回 介護予防【介護予防プランの実際】
- 第11回 介護過程
- 第12回 認知症ケア【認知症ケアの基本的考え方】
- 第13回 認知症ケア【認知症ケアの実際】
- 第14回 終末期ケア
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M

授業の概要 /Course Description

高老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待などを含む)について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤終末期ケアの在り方(人間観や倫理観を含む)について理解する。⑥相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。この内「老人福祉論2」及び「高齢者に対する支援と介護保険制度2」の内容は下記の授業内容に示した通りである。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職等及び福祉・介護に係る他の法制度について理解することができる。

教科書 /Textbooks

高齢者に対する支援と介護保険制度(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2016年版
須藤廣編著「看護と介護の社会学」 明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、介護保険制度成立の経緯
- 第2回 介護保険法の概要
- 第3回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【国、都道府県、市町村の役割】
- 第4回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会等の役割】
- 第5回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における公私の役割関係】
- 第6回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護支援専門員の役割】
- 第7回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護職員、訪問介護員等の役割】
- 第8回 介護保険法における専門職の役割と実際【介護認定審査会の委員、認定審査員の役割】
- 第9回 介護保険法におけるネットワーキングと実際
- 第10回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第11回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】
- 第12回 高齢者福祉制度と関連法1【老人福祉法、高齢者の居住の安定確保に関する法律】
- 第13回 高齢者福祉制度と関連法2【高齢者虐待防止法、高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律等】
- 第14回 高齢者福祉制度と関連法3【高齢者の医療の確保に関する法律】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

高齢者に対する支援と介護保険制度2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社（○）
・ J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】（復習）、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策（1）：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策（2）：【課税】
- 5回 市場と厚生（1）：【余剰】
- 6回 市場と厚生（2）：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用（1）：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用（2）：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1):【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2):【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3):【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開（1）：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開（2）：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと
- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること

キーワード /Keywords

経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II

ECN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ編』 東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子 『グラフィック ミクロ経済学』 新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳) 『スティグリッツ ミクロ経済学』 東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション: 経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学: 微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1): 消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2): 無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3): 【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4): 需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1): 企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2): 等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3): 【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1): 【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2): 「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておくこと
- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生証を持参すること

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 10回 GDP決定理論(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 11回 GDP決定理論(2) 【均衡GDP】
- 12回 GDP決定理論(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 13回 GDP決定理論(4) 【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5) 【外国貿易乗数】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズの短期マクロモデル (=45度線モデルやIS-LMモデル) を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、新古典派的な長期マクロモデルを学習し、物価や賃金が伸縮的に調整される経済において短期モデルで成立した諸結果がどのように変化するかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【有効需要原理】 【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【政府支出乗数】 【均衡予算乗数】 【デフレギャップ】
- 4回 45度線モデル(3) 【ケインズ政策の問題点】
- 5回 流動性選好理論(1) 【資産選択】 【貨幣と債券】 【流動性】
- 6回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】 【貨幣需要】 【均衡利率の決定】
- 7回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】 【公開市場操作】
- 8回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】 【コールレート】
- 9回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】 【LM曲線】
- 10回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】 【金融政策】
- 11回 新古典派マクロ経済学(1) 【伸縮価格モデル】 【貸付資金説】
- 12回 新古典派マクロ経済学(2) 【フィッシャー方程式】 【貨幣の中立性】
- 13回 新古典派マクロ経済学(3) 【経済成長】 【成長会計】
- 14回 新古典派マクロ経済学(4) 【新古典派成長モデル】 【収束】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論【夜】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは、企業は、他企業のひしめく市場の中で、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では、「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、2008年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。
沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。
C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【企業の営為と経営戦略】【経営戦略の3つのレベル】
- 第4回 全社戦略① 【専門戦略】【垂直統合戦略】【多角化戦略】
- 第5回 全社戦略② 【PPM】
- 第6回 事業戦略 【3つの基本戦略】
- 第7回 事業戦略 【製品の差別化】【事業システムの差別化】【市場創造】
- 第8回 中間テスト
- 第9回 職能戦略① 【VRIO】【コア・コンピタンス】
- 第10回 職能戦略② 【生産における競争優位】
- 第11回 職能戦略③ 【人事における競争優位】
- 第12回 職能戦略④ 【資金調達における競争優位】【ベンチャー】
- 第13回 職能戦略⑤ 【資金調達における競争優位】【株主戦略】
- 第14回 戦略の転換 【ドメイン】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト...50% 中間テスト...30% 小レポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを読み、事前に予習してください。
状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

意思決定 目的と環境 事業戦略 全社戦略

財務会計論I【夜】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

西澤健次『ホスピタリティと会計（仮題）』国元書房
配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【経済活動】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計 【商品、サービス、売上原価】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】
- 10回 収益・費用の認識・測定 【実現概念】
- 11回 原価と時価【有用性】
- 12回 貨幣評価の公準について【定量化、定性化】
- 13回 経済の変化と財務データ【財務情報、非財務情報】
- 14回 新しい会計の展望【投資家、ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財務会計論I【夜】

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。
「事前・事後学習」
事前に、『学習支援フォルダ』のレジюмеや、教科書を読むことをすすめる。
事後に、講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論I【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 / 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 貿易に関する経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 貿易に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの貿易に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論 I

ECN345M

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以来、数々の困難を乗り越えながら、貿易立国として発展反映を遂げてきたが、近年少子高齢化などの影響で国内の需要が伸び悩み、広く海外に需要を求めざるを得ない状況になっている。一方で、ビジネスのボーダレス化が加速度的に進んでいる。従い、このようなボーダレス社会に対応し活躍できる、智慧や交渉力・発想力を持った人財の育成が急務である。この講義では①国際貿易に関わる基礎的な智慧を学ぶ。②その智慧を活かし、国際貿易をめぐる歴史や現状の理解に努める。③貿易自由化の進展とその影響について学ぶ。④国際貿易における諸課題について、自分で考え、交渉や議論の出来る力を養う。⑤同時に、国際舞台で活躍する醍醐味や面白さを講義やDVD映像を通して、追体験する。担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験、人脈や智慧を駆使した現場感覚に満ちた実践的な講義を行うので、受講生諸君は旺盛な知的好奇心を持って、鋭意受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリント等を事前に配布する。
 国際貿易に関する最新の報道や情報のDVD等を視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志 「海外直接投資とアジアの貿易循環」 ふくろう出版 (2007年) ○
 小川雄平 「新版 貿易論を学ぶ人のために」 世界思想社
 藤井正嗣 「英語で学ぶMBAのシクス」 NHK出版 ISBN 978-4-14-039550-9

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction, 国際貿易とは
- 2回 国際貿易の流れ(輸出入、三国間)
- 3回 国際貿易の決済と外国為替
- 4回 日本の貿易と経済発展
- 5回 貿易摩擦の変遷と日本の対応
- 6回 日本の国際貿易の現状・課題と国際収支
- 7回 国際金融～IMF体制等
- 8回 戦後の貿易を巡る国際的枠組み
- 9回 '90年代以降のアジアとの生産分業と日本の貿易の進展
- 10回 FTA/EPA等の国際貿易の動き
- 11回 アジア太平洋地域の自由貿易体制 (TPP、FTAAPP等)
- 12回 経済のグローバル化のMeritとDemerit
- 13回 直接投資の増大とそれによる貿易拡大
- 14回 ボーダレスに活躍できる人財に求められる能力
- 15回 前期のまとめ

各講義の前半に、前回の講義の質疑・討論を行う。

国際貿易論I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・ 40%
課題・・・ 20%
期末レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず読み、内容を咀嚼すること。
講義中にも、自分自身で考え、積極的に質疑・討論に参加すること。
マスメディアやインターネット等の国際貿易に関する報道や情報に常に興味を持ち、それらを検証し、考え、活用する力を身に付けるよう努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合商社三井物産株式会社の国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国、カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務、そしてその後の教育・国際貢献活動等を通して学んだ智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、国際貿易での活躍の仕方について、当事者意識をもって学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性・違い、信用・信頼、互助共生、現場主義、発想の転換、経営理念、Critical thinking

国際貿易論II 【夜】

担当者名 /Instructor 山口 実 / YAMAGUCHI, Minoru / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	貿易に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	貿易に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの貿易に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの貿易に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際貿易論II

ECN346M

授業の概要 /Course Description

日本は明治維新以降、数々の困難を乗り越えながら貿易立国として発展繁栄してきたが、近年少子高齢化などの影響で国内の需要が伸び悩み、広く海外に活路を求めざるを得ない状況になっている。一方で、ビジネスのボーダレス化が加速度的に進んでいる。従い、このようなボーダレス社会に対応し活躍できる、智慧や交渉力・発想力を持った人材の育成が急務である。この講義では①国際貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考え、②日本経済の変化に応じた貿易の最新動向を学ぶ。③国際貿易の基礎知識を踏まえて、国際貿易を巡る歴史や現状を理解し、④その対応について受講生諸君が各自の考えを持ち、交渉や議論を進められる力を養って行く。また、⑤アジアに近い九州の特性を活かした貿易のあり方についても考える。国際貿易論IIでは、特に、国際貿易論Iで学んだ智慧を活かして、より実践的に諸課題について考える。担当講師の総合商社マンとしての20数年の国際貿易の経験、人脈、智慧を駆使した現場感覚に満ちた実践的な講義を行うので、受講生諸君は旺盛な知的好奇心を持って鋭意受講されたい。

教科書 /Textbooks

教材用のプリント等を事前に配布する。
国際貿易に関する最新の報道や情報のDVD等を視聴する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志 「海外直接投資とアジアの貿易循環」 ふくろう出版 (2007年) ○
小川雄平 「新版 貿易論を学ぶ人のために」 世界思想社
藤井正嗣 「英語で学ぶMBA^ -ツクス」 NHK出版 ISBN 978-4-14-039550-9

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction、前期のおさらい (日本が国際貿易で目指すもの)
- 2回 国際貿易における人、物、金の流れと課題
- 3回 日本の金融政策の現状と日本銀行の役割
- 4回 日中韓FTAと互恵関係
- 5回 TPP (環太平洋経済連携協定) 交渉の進展
- 6回 TPPの基本合意と問題点
- 7回 日米中韓の二国間FTA交渉
- 8回 その他の国や地域とのFTA/EPAの進展
- 9回 国際自由貿易協定の九州経済に対する影響
- 10回 国際貿易と外交政策
- 11回 東北アジアの発展とロジスティックス
- 12回 日本のエネルギー政策と国際貿易 (特に対中東・米国・中国・ロシア)
- 13回 環境・水事業・交通システムの輸出
- 14回 その他、今後の国際貿易における輸出有望製品・サービス
- 15回 後期まとめ

各講義の前半に、前回の講義の質疑・討論を行う。

国際貿易論II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の授業への取り組み(受講態度、議論などへの参加)・・・40%
課題・・・20%
期末レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず読み内容を咀嚼すること。
講義中にも、自分自身で考え、積極的に質疑・討論に参加すること。
マスメディアやインターネット等の国際貿易に関する報道や情報に常に興味を持ち、それらを検証し、考え、活用する力を身に付けるよう努めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合商社三井物産株式会社の国際ビジネスマンとしての20数年間の国際貿易担当・統括経験、10数年間の海外駐在(米国、カナダ、中東、インドネシア)と数十ヶ国での貿易交渉・実務、そしてその後の教育・国際貢献活動等を通して学んだ智慧を伝えますので、これからの日本の国際貿易のあり方、国際貿易での活躍の仕方について、当事者意識をもって学び、考え、行動して参りましょう。

キーワード /Keywords

多様性・違い、信用・信頼、互助共生、現場主義、発想の転換、経営理念、Critical Thinking

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

前期の授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政収支の現状そして基本的な経済学のフレームワークを使って財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。ミクロ経済学やマクロ経済学で勉強した内容もあると思いますが、財政学とくに政府の役割の観点からもう少し詳しく捉えていきます。経済学を勉強していない人にも教科書をベースに基本的な内容から説明していきます。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODakション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

財政学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないということを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II 【夜】

担当者名 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学Ⅱ

ECN362M

授業の概要 /Course Description

後期の授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学ではどのように議論されているのかを説明します。

教科書 /Textbooks

『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編
N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- 2) マクロ経済学
二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 3) 公共経済学
林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル① 財・サービス市場の均衡
- 5 IS-LMモデル② 貨幣市場の均衡
- 6 財政政策の効果とその有効性① (IS-LMモデルからの考察)
- 7 長期経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期経済モデル②企業による異時点間の最適化行動
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題)
- 10 財政赤字の問題点
- 11 財政赤字の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

財政学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) やむおえない事情により配布資料・プリントが受け取れなかった場合にのみ後日配布などの対応をしますが、練習問題や配布プリントの空欄箇所の答えを教えてくださいといった申し出には応じません。それ以外の講義内容に関する質問には応じます。
- 3) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できません。授業に出ないのであれば、テキストだけでなく参考文献も自力で十分に読み込まなくては試験に対応できないことを覚悟しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

教職論【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、教員を志願する者が、教職の意義や教員の役割や職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）等に関する基本的な知識を修得し、「現在の教員には何が求められているのか」ということについて理解し、教職に就くことについての自己の意欲や性格を熟考し、「教員としての適格性を持つためにどのような努力をしていけばよいのか」ということを考察すること等を援助・指導・助言する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし(授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

1回 学校教育と教職の「意義」	【学校教育】【教職】
2回 学校教育と教員の「役割」	【学校】【教育】【教員の役割】
3回 学校教育の「目的」	【教育目的論】
4回 学校教育の「内容」と「方法」	【教育課程】【教育課程の編成原理】
5回 教員の「職務内容」	【教員の職務】【生徒指導】
6回 「キャリア教育」と進路選択	【職業選択の基礎理論】【進路選択】
7回 教員の「使命」	【教育の論理】【生活の論理】
8回 教員の「資質」と「適格性」	【青少年の意識】【愛と要求】
9回 「自主的な問題解決」と教員の「役割」	【自主性】【生徒の意識】
10回 「いのちの教育」と教員の「役割」	【生と死の教育課程】
11回 「身体教育」と教員の「役割」	【健康管理】【食教育】【排便教育】
12回 「喫煙防止」教育における教員の「役割」	【未成年者喫煙防止法】
13回 「掃除」の指導における教員の「役割」	【学校掃除】【掃除の指導】
14回 「懲戒」と「体罰」の相違	【評価の種類】【体罰】
15回 「教員に何が求められるか」	【指導】【管理】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN:教育とは何か
- 2回 教育の関係:教育のモデル
- 3回 生涯にわたる発達と教育:生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題:思春期・青年期
- 5回 教育思想①:諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②:日本の教育思想
- 7回 教育史①:西洋教育史
- 8回 教育史②:日本教育史
- 9回 家庭教育の変遷と課題:社会化
- 10回 学校教育の機能:基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題:学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育:教材・方法
- 13回 仕事と教育:進路形成
- 14回 国際化と教育:言語・文化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかがわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

※ただし、文科省HP (下記) より「生徒指導提要」の第3章部分 (p.43-81) を印刷して用いてもよい。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法C【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

学習指導要領で取り扱われている中学校社会の各分野に関する知見を修得し、指導計画、社会科における資料活用、学習指導案の作成など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な技能と理論を学習する。それらを通して知識だけでなく、教師の持つべき責任感と使命感を養うことをねらいとする。

本授業は、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説する。また社会科、地理、歴史の分野に必要とされる具体的な技能や方法を扱う。中等教育における社会科、地理歴史科の特色を理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領解説 社会編』（平成20年9月 文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中等社会科の理論と実践』（二谷貞夫・和井田清司 編 学文社 2007）
他に授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション 教育の目的と社会科の役割
- 第 2 回 社会科教育の現状 学習指導要領と改訂のポイント
- 第 3 回 地理的分野の目標とその取り扱い
- 第 4 回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 5 回 公的分野の目標と内容とその取り扱い
- 第 6 回 社会科の授業づくり 教材研究
- 第 7 回 社会科の授業づくり グループワークについて
- 第 8 回 社会科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
- 第 9 回 社会科の授業づくり フィールドワークについて
- 第 10 回 社会科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
- 第 11 回 単元計画と学習指導案 1 指導案の作成と留意点
- 第 12 回 単元計画と学習指導案 2 年間計画と指導案作成
- 第 13 回 政治および宗教に関する事項の取扱い
- 第 14 回 社会科教師に求められる資質・能力
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習（グループワークや質疑などへの参加） 30%
ミニレポート（毎授業後に提出） 40%
学習指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ・ グループワークなどを行うので毎授業の積極的参加を望みます。
 - ・ 発表や簡単なレポート課題の提出があります。
- 授業までに、報告者以外も該当箇所を読んでおくこと。報告者への質疑などを考えておくことが望ましい。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法D 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教育法AおよびCで学習した理論的な知識と指導法の基礎をもとに、社会科のより実践的な指導力と、教科指導を中心とした教師としての総合的な指導力の習得をめざす。なお、模擬授業では担当教員の解説を毎時行う。講義の展開は以下のとおりである。

- ① 学習指導要領に基づき、中学校社会科の3分野に関する総合的で実践的な知識を修得する。
- ② 教材研究、資料精選、学習指導案作成など、社会科の授業実践に必要な基礎・基本的な技術を修得する。
- ③ 教科指導の実践を起点として教職全般への理解を深め、教育現場で必要とされる教師の資質を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『中学生の地理 世界のすがたと日本の国土』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 歴史的分野』（日本文芸出版 文科省検定済教科書）
 - 『中学校社会科地図』（帝国書院 文科省検定済教科書）
 - 『中学社会 公民 ともに生きる』（教育出版 文科省検定済教科書）
- ※各分野とも平成25年度版以降のものを用意すること

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『学習指導要領解説 社会編』（文部科学省 平成20年9月 平成26年1月一部改訂）
- 『詳説 日本史研究』（佐藤信ほか 山川出版社）
- 『新詳地理資料COMPLETE』（帝国書院）
- 『新詳 資料 地理の研究』（帝国書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義概要の説明 【授業とは何か】【社会科の特性】【“資格”と“資質”】【技術の前に…】
- 第2回 学習指導案の作成 【実践的な視点の指導案】【教材研究と指導】【指導と評価】
- 第3回 模擬授業・地理的分野① 【世界地理・総論】【世界地理の捉え方】
- 第4回 模擬授業・地理的分野② 【世界地理・各論】【州ごとの指導における着重点】
- 第5回 模擬授業・地理的分野③ 【日本地理・総論】【日本地理の捉え方】
- 第6回 模擬授業・地理的分野④ 【日本地理・各論】【地域ごとの指導における着重点】
- 第7回 模擬授業・歴史的分野① 【原始・古代】
- 第8回 模擬授業・歴史的分野② 【古代・中世】
- 第9回 模擬授業・歴史的分野③ 【中世・近世】
- 第10回 模擬授業・歴史的分野④ 【近世・近現代】
- 第11回 模擬授業・公民的分野① 【憲法】
- 第12回 模擬授業・公民的分野② 【政治】
- 第13回 模擬授業・公民的分野③ 【経済】
- 第14回 模擬授業・公民的分野④ 【現代社会】
- 第15回 まとめ、教育実習や採用試験に向けて 【教育現場】【生徒指導】【講師と教諭】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 40%、指導案作成と授業への参加度 40%、平素の受講姿勢 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

教科書については、文部科学省検定済教科書(中学校で実際に生徒が使用しているもの)を使用します。通常の書店では入手できませんので、ご注意ください。入手法については全国教科書供給協会のホームページで確認できます。また、学習指導要領は平成26年1月に一部改訂されました。製本済みのものを購入する場合はもちろん、文部科学省のホームページでダウンロードする場合も、一部改訂が反映されていることを必ず確認してください。授業の前週までに、模擬授業の指導案を作成し提出すること。また模擬授業者以外は、事前に指導案には目を通しておくこと。授業後は、模擬授業について内容や感想・意見を、担当者あてに提出できるようにすること。

社会科教育法D 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、模擬授業を通して学校教育の中核である「授業」の実践力を身につけることを目指しています。生徒が「分かる」「楽しい」「知りたい」と感じる授業は、教える側が「分かっている」「興味深い」「教えたい」と考えている授業ではないでしょうか。教材研究は大変な作業ですが、やりだすと非常に楽しい営みです。教壇に立ちたいと願う皆さんに、まず社会科の楽しさやおもしろさを感じてもらいたいと願っています。

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

公民科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について学習指導要領に基づいて解説し、公民科の教育課程における位置づけと役割について理解を深める。

学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今後求められる当該教科の実践指導のあり方について学び、また必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていく。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 『高等学校学習指導要領解説「公民編」』文部科学省 平成22年版 320円＋税
- 他にも講義内で適宜配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 1900円＋税
- 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 現代社会
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科の授業づくり 教材研究・開発
 - 第8回：公民科の授業づくり グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり フィールドワークについて
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：政治および宗教に関する事項の取扱い
 - 第15回：社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度 (グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
- 最終試験・・・30%
- 学習指導案作成・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- 課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
- 出席は7割以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 授業の中では、グループワークやディベートをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

- (1) 学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
- (2) 教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
- (3) 現代社会・政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
- (4) コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。

上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 授業の際に配布するレジュメ・資料等
- ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版（平成22年）定価336円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 谷田部玲生ほか『高等学校 現代社会』第一学習社（平成26年）定価610円
- ・ 伊東光晴ほか『高校 現代社会』実教出版（平成25年）定価610円
- ・ 三浦軍三ほか『高等学校 政治・経済』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 宮本憲一ほか『高校 政治・経済』実教出版（平成26年）定価450円
- ・ 越智貢ほか『高等学校 倫理』第一学習社（平成26年）定価450円
- ・ 矢内光一ほか『高校 倫理』実教出版（平成25年）定価450円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イントロダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 学習指導案作成上の留意点
- 第 6回 学習指導案の作成
- 第 7回 生徒の実態を踏まえた教材研究
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（現代社会の諸問題）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済・法）
- 第 12回 模擬授業（現代の諸課題と倫理）
- 第 13回 模擬授業（受験指導に焦点を当てる）
- 第 14回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

- ◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
- ◎授業後にコメント用紙（授業の感想や質問など）を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学習指導要領に掲げる事項に即し、学校教育（中学校・高等学校の教育；参考のために小学校の教育も含む）における各教科等を含む全ての領域の道徳教育の理論と、実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、道徳教育の実践的な指導法について学習する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省『中学校学習指導要領』（平成20年、244円）、文部科学省『高等学校学習指導要領』（平成21年、588円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1回 「学校教育」における道徳教育の構造 | 【道徳科】【学校教育の全領域】 |
| 2回 「各教科」と道徳教育 | 【陶冶と訓育】【学校教育活動全体を通じて行う指導】 |
| 3回 「特別活動」と道徳教育 | 【学級活動】【生徒会活動】【学校行事】 |
| 4回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 | 【横断的・総合的な学習】【活動】 |
| 5回 道徳教育の目標と内容 | 【道徳の時間の指導内容】【全体計画】 |
| 6回 「道徳の時間」の計画と指導 | 【指導方法】 |
| 7回 「学習指導案」の内容と作成 | 【学習指導案】【指導技術】 |
| 8回 「道徳の時間」の「教材研究」① | 「モラルジレンマ」 【ジレンマ教材】【対立・葛藤】 |
| 9回 「道徳の時間」の「教材研究」② | 「役割演技」 【動作化】【ロール・プレイ】 |
| 10回 「道徳の時間」の「教材研究」③ | 「アサーション」 【主張】 |
| 11回 「道徳の時間」の「教材研究」④ | 「エンカウンター」 【出会い】【構成的グループエンカウンター】 |
| 12回 「道徳の時間」の「教材研究」⑤ | 「作文」 【教育的リアリズム】【教育的ヒューマニズム】 |
| 13回 「道徳の時間」の「教材研究」⑥ | 「体験」 【自然体験】【社会体験】 |
| 14回 「道徳の時間」の「模擬授業」 | 【道徳教育の評価】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テストを含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画の作成方法を理解する。(特別活動の指導案の作成など)
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他)
- 3回 学級活動の実際 その1 中学校の実際
- 4回 学級活動の実際 その2 高等学校の実際
- 5回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 6回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他)
- 7回 学校行事の実際 - 合唱コンクールの取り組み
- 8回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 9回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 10回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 11回 生徒の実態を捉えた学級経営と学級経営案
- 12回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 13回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 14回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 15回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。
テキストの該当箇所については毎回の授業の前に読んでおくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画の作成、学級活動の実際

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の学校教育においては、将来の高度情報社会に生きる児童・生徒に必要な資質を養う教育の必要性が指摘されている。本授業では、そうした教育を含む教育の方法及び技術についての教員の力量を高めるために、学習指導案の作成や教材研究等をも組み入れて、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）についての基本的な知識を獲得し、その原則と実践的なスキルを習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし(授業中に適宜紹介する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

1回 「教育の方法」とは何か	【教育の方法の形態】【比喻・モデル】
2回 20世紀までの「教育の方法」の遺産	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「現代」の「教育の方法」	【連続と非連続】【現代化】
4回 「新しい時代」の教師の「指導技術」	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
5回 「情報機器」及び「教材の活用」	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
6回 「情報化社会」における生徒の指導	【情報化社会】【インターネット】
7回 「学習遅滞」の指導	【学習遅滞】【SHELLモデル】
8回 教師と生徒の「コミュニケーション」	【話す】【聞く】
9回 「学習規律」を育てる指導方法	【出席と参加】【学習規律】
10回 各教科指導の「具体的システム」	【学習指導要領】【学習のシステム】
11回 各教科指導の「構想」と「教材研究」	【授業の三角形モデル】【事前の教材解釈】
12回 各教科指導の「学習指導案」の作成	【指導】【学習活動】【指導上の留意点】
13回 各教科指導の「展開過程」における「指導技術」	【発問】【説明】【指示】【助言】
14回 各教科指導における「評価」	【授業評価】【自己評価】
15回 「模擬授業」-各教科指導に向けて-	【実践的な指導】【各教科の授業】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導に関する家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や障害等の何らかの要因による困難な課題を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
- 嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 (高文研)
- 文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
- 児美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
- キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 生徒指導の意義と原理 (テキスト第1章他)
- 3回 教育課程(教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動)と生徒指導 (テキスト第2章他)
- 4回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校1年生の実践報告
- 5回 学級活動・学校行事と生徒指導 - 中学校3年生の実践報告
- 6回 生徒指導に関する法制度等 (テキスト第7章他)
- 7回 生徒指導における家庭・地域・関係機関との連携 (テキスト第8章他)
- 8回 我が子の非行と向き合う親たちの会の方の講演
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 11回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 12回 個別の課題を抱える生徒への指導 その1 発達に課題をもつ子ども (テキスト 第6章II第1節他)
- 13回 個別の課題を抱える生徒への指導 その2 いじめ問題への対応 (テキスト 第6章II第6節他)
- 14回 個別の課題を抱える生徒への指導 その3 養育環境に困難を抱える生徒テキスト第6章10節他)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の目的は以下のとおりである。

1. 学校での教育相談の意義と課題、教育相談の領域(予防的・開発的教育相談、問題解決的教育相談)、教育相談の学校体制、他の専門職や関係諸機関との連携のあり方等についての基本的な理解を持つこと。
2. 教育相談の基本的な理念と技法(傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など)を修得すること。
3. 不登校やいじめなど、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて、検討していくこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- 春日井敏行・伊藤美奈子 「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房
- 文科省編 「生徒指導提要」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 広木克行 「教育相談」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
- 吉田圭吾 教師のための教育相談の技術 金子書房
- 日本学校教育相談学会 学校教育相談学ハンドブック ほんの森出版
- 一丸藤太郎・菅野信夫編著 学校教育相談 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「いじめと児童虐待の臨床教育学」 ミネルヴァ書房
- 楠 凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション -教育相談の意義(生徒指導提要 第4章)
- 2回 教育相談の担い手としての教師(テキスト第1章)
- 3回 子どもの発達課題と教育相談(テキスト 第11章)
- 4回 教育相談の基本的な理念について - 人間に内在する力への信頼、受容、共感的理解
- 5回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれた質問と直面化
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ体験
- 7回 子どもの「問題行動」と教育相談 その1 不登校問題など(テキスト 第11章)
- 8回 子どもの「問題行動」と教育相談 その2 摂食障害、性的問題行動など(テキスト 第11章)
- 9回 子どもの「問題行動」と教育相談 その3 薬物問題(外部講師 北九州ダルク施設長)
- 10回 特別支援教育と教育相談(テキスト 第14章)
- 11回 予防・開発的取り組みと教育相談(テキスト 第15章)
- 12回 保護者への支援と教育相談(テキスト 第17章)
- 13回 教育相談の学校体制とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどとの連携(テキスト第19章)
- 14回 今日のいじめ問題への理解と指導 - 文科省の通知(H25.10.15)内容と学生の体験報告を踏まえて
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%

なお、授業の出席が2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。

授業を欠席した場合には、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育相談【夜】

履修上の注意 /Remarks

テキストはできるだけ授業の前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談の理念と技法、予防・開発的教育相談、問題解決的教育相談

教育実習 1 【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前理解として、実習生として必要な心構え、学習指導及び生徒指導等の理論・知識・技術等を習得する。

（以下、平成26年度以降入学生）

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育実習1」オリエンテーション	【教育実習】【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】【教師の勤務】
3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】【学級経営】
4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】【学級経営】
5回 授業観察の方法	【授業観察の視点】【授業記録シート】
6回 人権と教育	【人権】【自尊感情】
7回 生徒の問題状況と生徒指導	【生徒指導】【生徒理解】
8回 学級経営・学級活動の進め方	【学級集団づくり】【学級通信】
9回 特別活動の学習指導案と模擬授業	【学習指導案】【模擬授業】
10回 教育実習における特別活動の指導	【特別活動】【指導事例】
11回 教材研究と授業構想	【教材研究】【学習指導案】
12回 模擬授業①(特別活動:授業展開)	【学習指導案】【指導目標】
13回 模擬授業②(特別活動:指導技術)	【授業構成】【指導技術】
14回 模擬授業③(各教科:授業展開)	【授業展開】【導入】【展開】
15回 模擬授業④(各教科:指導技術)	【発問】【説明】【指示・助言】【指導技術】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(50%) 提出物の評価(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の事前に指示されたことを準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 第 1 回 ; オリエンテーション | 【勤務】【連絡】 |
| 第 2 回 ; 中学校における教育実習 | 【中学生の特質】【中学生への支援】 |
| 第 3 回 ; 高等学校における教育実習 | 【高校生の特質】【高校生への支援】 |
| 第 4 回 ; 実習校実習① | 【教育実習指導】 |
| 第 5 回 ; 実習校実習② | 【教育実習指導】 |
| 第 6 回 ; 実習校実習③ | 【教育実習指導】 |
| 第 7 回 ; 実習校実習④ | 【教育実習指導】 |
| 第 8 回 ; 実習校実習⑤ | 【教育実習指導】 |
| 第 9 回 ; 実習校実習⑥ | 【教育実習指導】 |
| 第 10 回 ; 実習校実習⑦ | 【教育実習指導】 |
| 第 11 回 ; 実習校実習⑧ | 【教育実習指導】 |
| 第 12 回 ; 実習校実習⑨ | 【教育実習指導】 |
| 第 13 回 ; 実習校実習⑩ | 【教育実習指導】 |
| 第 14 回 ; 実習校実習⑪ | 【教育実習指導】 |
| 第 15 回 ; 教育実習反省会 | 【教師の資質】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションと自己評価シートに基づく課題の整理
- 2回 これからの教師に求められる資質とは (外部講師による講演)
- 3回 教師の使命感、責任感、教育的愛情とは(グループ討論)
- 4回 教員に求められる対人関係能力について
- 5回 生徒理解についての事例研究(グループ討論とプレゼンテーション)
- 6回 教育実習等の体験を踏まえた学級経営案の検討
- 7回 教科の授業のスキルアップその1 (わかりやすい話し方、板書の仕方等 (模擬授業及びグループ討論))
- 8回 教科の授業のスキルアップその2 (生徒の意欲を引き出す発問や質問の仕方等 (模擬授業及びグループ討論))
- 9回 教科の授業のスキルアップその3 (わかりやすい資料提示、情報機器の活用の仕方等 (模擬授業及びグループ討論))
- 10回 教科の授業のスキルアップその4 (効果的な一斉指導、個別指導、グループ学習等の進め方 (模擬授業及びグループ討論))
- 11回 保護者との信頼関係づくりの課題 (グループ討論)
- 12回 家庭・地域との連携・協力に向けての課題 (グループ討論)
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1 (教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2 (教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 教員として必要な資質・能力の到達点と課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 50%、期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉症スペクトラムについて
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育現場及び日常生活での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

私の人権教育の創造をめざして

1, 気づきと発見の部落史授業 「出会い直しと新たな発見」

第1回 「もののけ姫」(導入)

- 製作の時代背景と人権確立の潮流
- 物語の登場人物からのメッセージ

第2回 中世(平安～鎌倉～室町)

- 仏教の伝来とケガレ観
- 社会や文化のしくみと差別意識の起こり

第3回 近世(安土桃山～江戸)

- 身分統制令、身分の制度化、法制化への変遷
- 島原の乱と宗門改め帳・別帳通達と差別の強化

第4回 文学者の人権感覚に学ぶ(一茶・蕪村・芭蕉)

近代医学の夜明け(解体新書の腑分けの主人公)

第5回 近代(明治～)

- 「解放令」とその意義
- 近代化と差別の再生産へのしくみ

第6回 竹田の子守唄と少女たちの叫び

教科書無償の取り組みと親たちの願い

2, 文部科学省「人権教育の指導方法の在り方」 「継承・挑戦・創造」

第7回 同和教育の遺産と教訓に学ぶ(成果と手法の評価)

第8回 人権尊重の精神に立った学習活動の創造(学力と進路の保障)

- 人権が尊重される授業づくり「7つの視点」
- 自尊感情と学習理解力・人権意識の相関関係
- 全国学力テスト結果の分析と課題

第9回 人間関係づくり

- 「ながまづくり」の原点と実践例
- 金子みすず「わたしと小鳥と鈴と」からのメッセージ

第10回 教育環境・雰囲気づくり

- 学級の人権文化の創造(子どもの居場所づくり)

第11回 隠れたカリキュラム・空間的意識の大切さ

- 人権教育の技能・スキル・態度
- 金子みすず「東京大学入試問題」

第12回 ソーシャルスキル・アサーティブな表現を研く

- 教育現場の「具体的な実例」から考える

第13回 「体罰」と人権

- 文部科学省の調査
- 教育現場の「体罰の実例」から考える

第14回 「いじめ」問題と人権

- 「いじめ」問題の現状を認識する
- 「いじめ」の構図・しくみと解決への課題

第15回 「いじめ」問題と人権

- 「いじめ対策防止法」

人権教育論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価 (30%) 及び学期末のレポートによる評価 (70%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業の中で課題を出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords